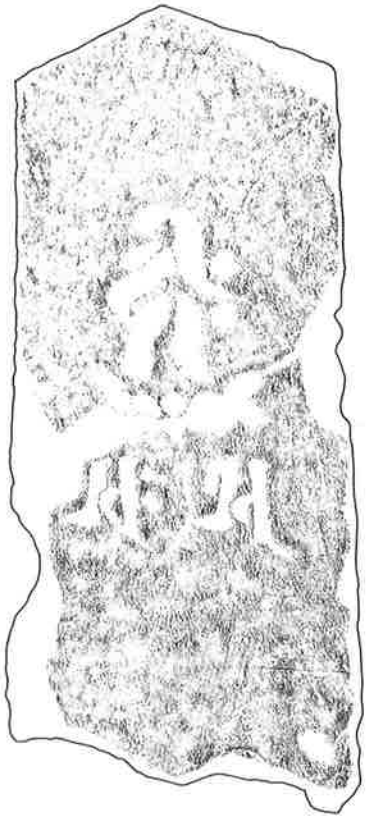
元総社蒼海遺跡群(5)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



板碑

2006. 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

1　元総社蒼海遺跡群(5)　遠景（南から）

2　元総社蒼海遺跡群(5)　全景（北から）

3　元総社蒼海遺跡群(5)　東区全景（北から）

4　元総社蒼海遺跡群(5)　墓域近景（北から）

5　元総社蒼海遺跡群(5)　東区　出土遺物

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山であります。その悠々と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡で知られるように旧石器時代から開けてきた地域で、いたるところで旧石器時代や縄文時代の遺跡が発見されています。

古代において前橋台地を中心に、800余りの古墳が築造されました。東国古墳文化の中心地として栄え、今でも９基もの国史跡指定となる古墳が存在します。

続く律令制の時代に入ると、総社古墳群から連綿と続く山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府など「クニ」の中枢施設が次々に造られ、政治・宗教・学問の中心として繁栄いたしました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東七名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

近代では、横浜港が開港されると、輸出の花形商品として生糸をもって一番乗りしたのが、前橋の糸商人でした。前橋は、藩をあげて蚕糸に力を注ぎ、我が国初の製糸の機械化に取り組みました。生糸により、横浜と前橋を結ぶシルクロードが開かれ、文化交流が始まりました。このように本市は、歴史溢れる豊かなまちです。

本報告書に掲載いたしました元総社蒼海遺跡群の発掘調査は区画整理事業に伴うもので、上野国府を解明する重要な目的があります。調査により、国府と推定される元総社町から群馬町の国分寺一帯まで集落が存在することが判明いたしました。これらは今後、分析が進めば、「国府のマチ」として解釈されるものと期待されます。

発掘調査にあたりましては、ご協力をいただきました元総社地区の方々、市区画整理第二課、調査に従事されました方々に厚く御礼申し上げます。

なお、本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成18年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　根岸　雅

例　　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社遺跡群発掘調査報告書である。

2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町1829－１ほか
発掘調査期間	平成17年９月25日～平成17年12月21日
整理・報告書作成期間	平成17年12月22日～平成18年３月３日
発掘・整理担当者	髙橋　亨・高坂麻子（発掘調査係員）

4．本書の原稿執筆・編集は髙橋・高坂が行った。

5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

青木昭二郎・伊藤修道・今井弘子・植木政俊・大島きく江・高橋公代・多田啓子・角田節子・角田昌幸・長澤幸枝・中林美智子・奈良啓子・橋本ちづる・細野進太郎・堀込とよ江・弥郡啓吾・山口淳子

6．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。

2．挿図に建設省国土地理院発行の１：200,000地形図（宇都宮、長野）、１：25,000地形図（前橋）、１：2,500前橋市現形図を使用した。

3．遺跡の略称は17Ａ130であり、トレンチ番号は11である。

4．遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

Ｈ…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　　Ｗ…溝跡　　Ｄ…土坑　　ＤＢ…土壙墓

Ｐ…ピット・貯蔵穴（住居内P_5を貯蔵穴とした。）

5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構　住居跡・溝跡・井戸跡・土坑・ピット…１：60、１：120　竈断面図…１：30　土壙墓…1：20
全体図…１：300

遺物　土器・鉄製品・銅銭…1/1、2/3、1/2、1/3、1/4　石製品・石造物…1/1、1/3、1/6　瓦…1/5

6．計測値については、（　　）は現存値、［　　］は復元値を表す。

7．セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。

◎ 非常に締まり・粘性あり、○ 締まり・粘性あり、△ 締まり・粘性ややあり、× 締まり・粘性なし

8．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図　焼　土…　灰…　粘土…　炭化物…

遺構断面図　構築面…

遺物実測図　須恵器断面…　炭化物（煤付着など）…　黒色処理…
灰釉・緑釉陶器断面…　灰釉陶器内面…　粘土付着…

9．主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As－Ｂ（浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108年）

Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）

Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）

As－Ｃ（浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半～中葉）

目　　次

序 …… i

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地 …… 1

2　歴史的環境 …… 1

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針 …… 6

2　調査経過 …… 6

Ⅳ　基本層序 …… 7

Ⅴ　遺構と遺物 …… 8

Ⅵ　自然科学分析 …… 33

Ⅶ　まとめ …… 95

図　　版

口絵　1　元総社蒼海遺跡群（5）　調査区遠景（南から）
2　元総社蒼海遺跡群（5）　調査区全景（北から）
3　元総社蒼海遺跡群（5）　東区全景（北から）
4　元総社蒼海遺跡群（5）　墓域近景（北から）
5　元総社蒼海遺跡群（5）　東区　出土遺物

ＰＬ．1　東区全景、東区東部全景
2　Ｈ－２・６～９号住居跡
3　Ｈ－９・11～14・18号住居跡
4　Ｈ－19・20・24号住居跡、１号周溝状遺構
5　Ｗ－１・４号溝跡、Ｄ－４・27号土坑、西区全景
6　墓域全景、ＤＢ－14号土壙墓
7　ＤＢ－９号土壙墓
8　ＤＢ－23・30号土壙墓
9　ＤＢ－34・37号土壙墓
10　ＤＢ－55号土壙墓
11　ＦＢ－１・２号火葬墓
12　出土土器（１）
13　出土土器（２）
14　出土土器（３）
15　出土土器（４）
16　出土土器（５）
17　出土土器（６）
18　出土土器（７）、石製品
19　石造物
20　板碑
21　鉄製品・銅銭（１）
22　銅銭（２）
23　銅銭（３）
24　銅銭（４）

挿　　図

Fig.　1　元総社蒼海遺跡群位置図
2　周辺遺跡図
3　西区　基本層序
4　東区　基本層序
5　Ｗ－４号溝跡・墳墓群分布図
6　元総社蒼海遺跡群グリッド設定図
7　西区全体図
8　東区全体図
9　Ｈ－１・２号住居跡
10　Ｈ－３・４号住居跡
11　Ｈ－５・６号住居跡
12　Ｈ－５～７号住居跡
13　Ｈ－８・９号住居跡
14　Ｈ－10～13号住居跡
15　Ｈ－14・16・17号住居跡
16　Ｈ－18～22号住居跡
17　Ｈ－23・24号住居跡
18　Ｗ－１～３号溝跡
19　Ｗ－１～３号溝跡
20　Ｗ－４号溝跡
21　Ｗ－５号溝跡
22　Ｗ－６号溝跡
23　Ｗ－７～９号溝跡、１号周溝状遺構
24　Ｄ－１～10・12号土坑
25　Ｄ－13～21号土坑
26　Ｄ－22～30号土坑
27　Ｄ－31～41号土坑、Ｐ－１・２号ピット
28　ＤＢ－１～４号土壙墓
29　ＤＢ－５～８号土壙墓
30　ＤＢ－９～11号土壙墓
31　ＤＢ－12～15・17・19・20号土壙墓
32　ＤＢ－16・18・23号土壙墓
33　ＤＢ－21・22・24～26号土壙墓
34　ＤＢ－27～29号土壙墓
35　ＤＢ－30～33号土壙墓
36　ＤＢ－34～37号土壙墓
37　ＤＢ－38～41・50号土壙墓
38　ＤＢ－42～44号土壙墓
39　ＤＢ－45～49号土壙墓
40　ＤＢ－51～55号土壙墓

Fig. 41 ＤＢ－56～58号土壙墓、ＦＢ－１・２号火葬墓
42 出土土器（１）
43 出土土器（２）
44 出土土器（３）
45 出土土器（４）
46 出土土器（５）
47 出土土器（６）
48 出土土器（７）、石造物（１）
49 石造物（２）
Fig. 50 石造物（３）
51 板碑
52 石製品・鉄製品（１）
53 鉄製品（２）・銅銭（１）
54 銅銭（２）
55 銅銭（３）
56 銅銭（４）
57 銅銭（５）
58 銅銭（６）

表

Tab. 1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧
2 住居跡一覧表
3 溝跡・周溝状遺構計測表
4 土坑・ピット計測表
5 土壙墓一覧表
6 土器観察表
Tab. 7 土器観察表
8 石製品観察表
9 五輪塔・蔵骨器観察表
10 板碑観察表
11 鉄製品観察表
12 銅銭観察表

Fig. 1　元総社蒼海遺跡群　位置図

Ⅰ　調査に至る経緯

平成17年９月５日付けで、前橋市長　高木　政夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　根岸　雅に対し、調査実施を通知し、調査団はこれを受諾した。

平成17年９月23日、調査依頼者である前橋市長　高木　政夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　根岸　雅との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、９月25日に現地での発掘調査を開始するに至った。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地（洪積台地）利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯（洪積低地）の４つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～５ｍを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3.6kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。また、調査地より西0.4kmには関越自動車道が南北に走る。さらに、南には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東約0.5kmには市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っており、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。

２　歴史的環境　　遺跡名の後の（　）付数字は、Fig.２及びTab.１の遺跡番号と対応する。

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東(15)・産業道路西遺跡(16)や上野国分僧寺・尼寺中間地域(20)が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少なく、当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡(18)、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域(20)や桜ヶ丘遺跡(33)、下東西遺跡(23)等に散見されるだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北側に位置する総社古墳群が挙げられる。古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳(12)、川原石を用いた積石塚である王山古墳(７)、前方部と後円部にそれぞれ石室

をもつ二段に築造された前方後円墳の総社二子山古墳(11)、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳(10)、県内の古墳の中でも最終末期のものと考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳(13)・蛇穴山古墳(8)がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡（放光寺)(4)がある。この寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、山王廃寺を上野地域を治めていた「上毛野氏(かみつけぬし)」の氏寺、総社古墳群を「上毛野氏」一族の埋葬地と考えられ、この地が「車評(くるまごおり)」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。また、水田跡は、総社閑泉明神北遺跡(54)や元総社明神遺跡(27)、元総社北川遺跡(68)等、牛池川付近から検出されており、この時代の生産域を想定する資料となっている。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府、国分寺(2)、国分尼寺(3)が建設されるなど、政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、本遺跡周辺に置かれたとされる。

この国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡(14)や、「國厨」・「曹司(ぞうし)」・「国」・「邑厨(むらくりや)」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡(48)、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元総社宅地遺跡(55)がある。また、大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡(30)と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡(27)の調査成果により、国府域の東外郭線が想定されるに至った。さらに、元総社小見内Ⅲ遺跡(61)及び元総社小見内Ⅳ遺跡(67)からは、国分尼寺の東南隅から国府に向かうと思われる溝跡が検出されている。一方、元総社小見内Ⅲ遺跡(61)からは官人の用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帯具）も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分寺(2)は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。国分尼寺(3)は昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ、伽藍配置が推定できるようになった。その後平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団が南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。また国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域(20)では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1km南の地点にN－64°－E方向の東山道（国府ルート)(5)があることが推定される。また、日高道(6)は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したルートを推定したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元(1429)年、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有する城として県内でも最古級に位置づけられ、さらに県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される本遺跡周辺の地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。この調査により、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

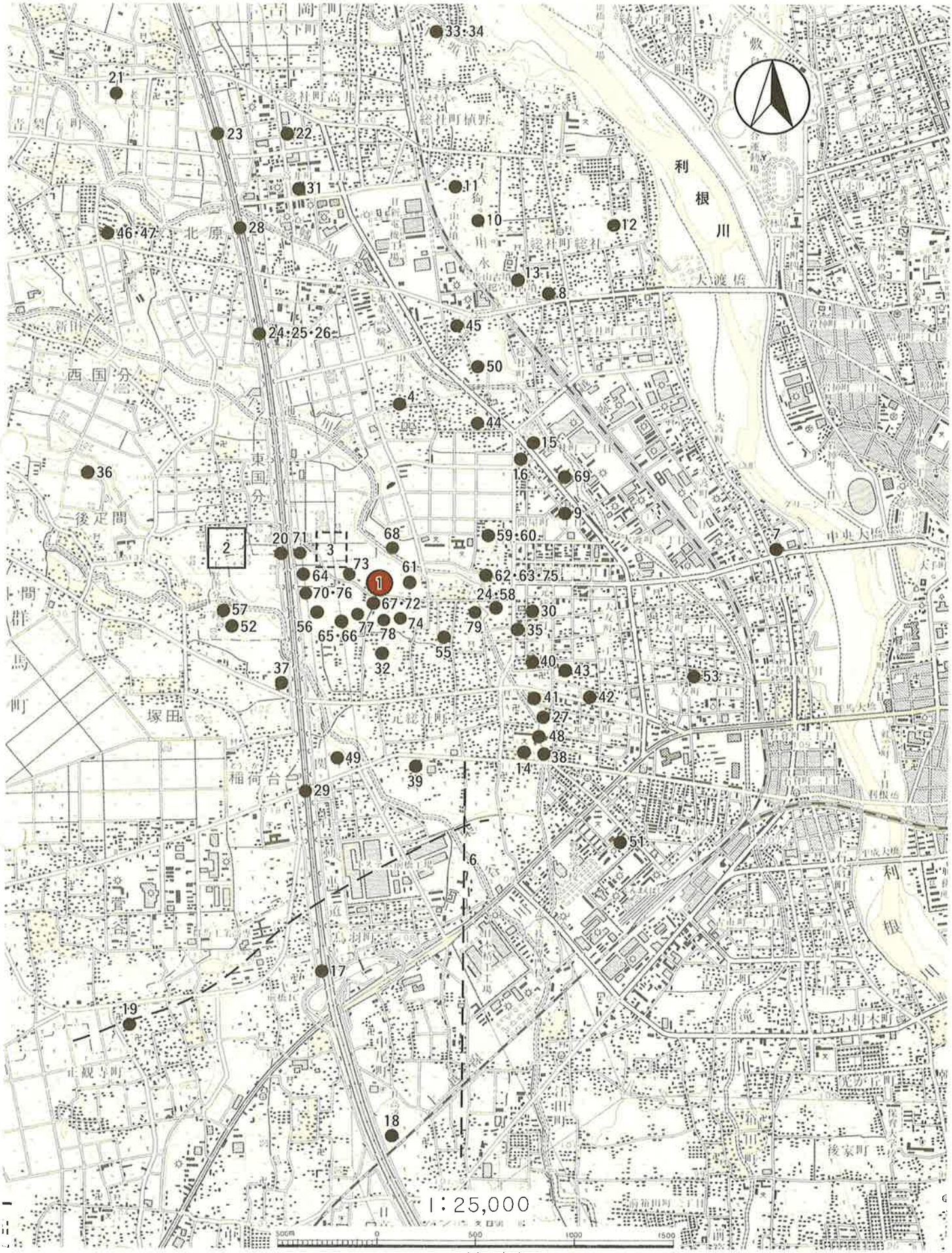


Fig. 2　周辺遺跡図

Tab.1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（５）	2005	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	古墳：塔心礎・根巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（６Ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（８Ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（６Ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（７Ｃ初）
11	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（６Ｃ末～７Ｃ初）
12	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（５Ｃ後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（７Ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具、平安：条里制水田跡
19	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域	1980～83（事業団）	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群・Ⅲ	1980	縄文：ピット、奈良・平安：住居跡、溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980～84	縄文：屋外埋甕、弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・柵列、中世：住居跡・溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
25	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
26	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
27	元総社明神遺跡Ⅰ～XⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形、中世：住居跡・溝跡・天目茶碗
28	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
29	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
30	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6.5～７m、下幅3.24m、深さ２m）
31	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983，88	奈良・平安：住居跡・溝跡
32	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
33	桜ヶ丘遺跡		弥生：住居跡
34	総社桜ヶ丘遺跡・Ⅱ遺跡	1985，87	奈良・平安：住居跡
35	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
36	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
37	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
38	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
39	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986，88	奈良・平安：住居跡
40	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986，95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
41	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
42	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
43	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
44	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
45	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
46	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
47	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
48	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・斎串・墨書土器、中世：溝跡
49	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989，95	古墳：住居跡、平安：住居跡
50	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
51	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
52	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
53	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
54	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
55	元総社宅地遺跡１～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡・五輪塔・椀類
56	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
57	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
58	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
59	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
60	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
61	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡、溝跡
62	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
63	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
64	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
65	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
66	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
67	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓・掘立柱建物跡・溝跡
68	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
69	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
70	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
71	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
72	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
73	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡、溝跡
74	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
75	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
76	元総社小見Ⅶ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
77	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
78	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑・金片・金粒、中世：溝跡・土壙墓
79	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡

＊調査年度の欄の（　）は調査開始年度を表す。
＊遺跡名の欄の（事業団）は（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は東区約1,019㎡、西区約720㎡の合計1,739㎡である。グリッド座標については、2000年の上野国分尼寺寺域確認調査から用いている４ｍピッチのものを継続して使用し、西から東へＸ105、Ｘ106、Ｘ107…、北から南へＹ110、Ｙ111、Ｙ112…となる。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

公共座標については、以下のとおりである。

・元総社蒼海遺跡群（５）　　測点　Ｘ117・Ｙ114

旧日本測地系	Ｘ＝＋43544.000	Ｙ＝－71732.000
世界測地系	Ｘ＝＋43898.906	Ｙ＝－72023.756

検出が予想される主な遺構は奈良・平安期の集落および中世の溝等であり、調査は①表土掘削（原則としてバックフォー0.7㎥使用）②遺構確認（主に鋤簾）③方眼杭等設置④遺構掘下⑤遺構精査⑥測量⑦全景写真撮影の順で行うことにした。このうちの遺構確認については、基本的にAs－Ｃ・Hr-FP軽石とAs－Ｂ軽石が混入する土層を手がかりにした。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として１/20、住居跡竈は１/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過

本遺跡の発掘調査は、９月５日に委託契約を締結、９月７日より現地調査を開始した。東区では重機による表土掘削の時点から多くの人骨が検出され、プラン確認の結果、東区の西部は多数の墓壙群であることが判明した。また、東区東部では古代の住居跡が重複して検出された。一方西区では集合住宅の基礎に壊されたためか遺構数は少なく、住居跡２軒等を確認したにとどまった。12月21日をもって本遺跡の調査を終了、その後埋め戻しを行った。なお、各調査面の詳細は土層の状況と併せて第Ⅳ章に記す。

東区は９月７日から調査を行った。東区からは合計90にものぼる数の人骨を検出した。その主な時代は中世と想定され、当地域が墓域であったことが明らかとなった。人骨は非常に脆いため、硬化剤（パラロイドＢ72、溶剤キシレン）を数回塗布し、硬化させた後に取り上げた。同時期の遺構として東区の西辺を南北に走る溝跡や、人骨の検出された区域の東に位置する方形の区画溝などが検出された。また、住居跡21軒を検出した。西区は11月30日から本格的な調査を開始した。精査の結果、住居跡２軒や方形の周溝状遺構を検出した。12月21日をもって本遺跡の調査を終了、その後埋め戻しと耕耘を行った。なお、出土した人骨は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団楢崎修一郎氏に鑑定を依頼、12月22日に同事業団に引き渡した。

両遺跡の整理、報告書作成作業は12月22日より文化財保護課で行い、３月10日までにすべての作業を終了した。

Ⅳ 基 本 層 序

本遺跡は東西方向に東・西区と展開している。遺構確認面は現耕作土とAs−B混土下のAs−C混土である。地山はローム層となる。地形的には北西から南東へと緩やかに下っている。

東 区

Ⅰ	現耕作土			
Ⅱ	10YR3/2	黒褐色土	◎×	As−B混土、As−C・Hr-FP10%含む
Ⅲ	10YR3/1	黒褐色土	○×	As−C・Hr-FP20%含む
Ⅳ	10YR2/1	黒色土	△×	As−C20%含む
Ⅴ	10YR3/3	暗褐色土	△×	地山漸移層、As−C１%含む
Ⅵ	10YR4/4	褐色土	○×	微砂、地山

西 区

Ⅰ	現耕作土			
Ⅱ	10YR4/2	灰黄褐色土	◎×	As−B30%、As−C・Hr-FP５%含む
Ⅲ	10YR4/3	にぶい黄褐色土	◎×	粗砂、As−B混土
Ⅳ	10YR3/4	暗褐色土	○○	As−C・Hr-FP15%含む
Ⅴ	10YR3/2	黒褐色土	○○	As−C20%含む
Ⅵ	10YR3/3	暗褐色土	△○	白色軽石（φ１㎜以下）２%含む
Ⅶ	10YR4/4	褐色土	△○	微砂、白色軽石（φ１～３㎜）２%含む
Ⅷ	10YR5/6	黄褐色土	○△	白色軽石（φ１㎜以下）１%含む

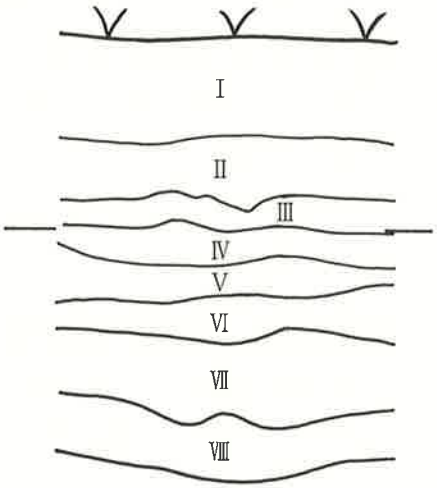


Fig. 3　西区基本層序

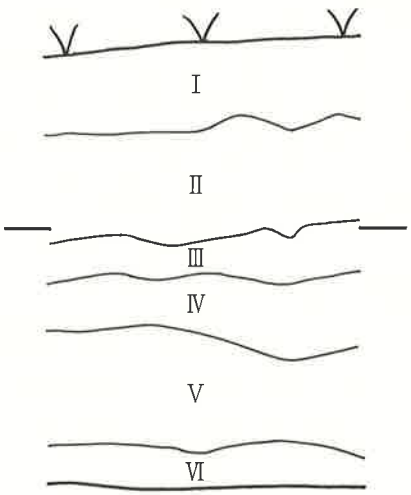
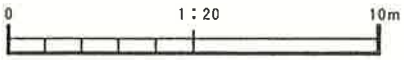


Fig. 4　東区基本層序



V　遺構と遺物

本遺跡で検出された遺構は、竪穴住居跡23軒、溝跡９条、周溝状遺構１基、土坑40基、ピット２基、土壙墓58基、火葬墓２基である。

東区は畑地であり、表土掘削時にAs−B混土層より人骨が検出されたため遺構確認は慎重に行った。その結果、住居跡・溝跡の他、多数の人骨・墓坑を検出した。西区はマンション跡地である。表土掘削の結果、北部分が攪乱を受けていたが、南部分からは住居跡や溝跡が検出された。以下は、各遺構の概要である。

（1）　竪穴住居跡

Ｈ−１号住居跡（Fig.　9）

位置　Ｘ128・129、Ｙ113グリッド　**主軸方向**　Ｎ−92°−Ｅ　**面積**　(0.48)㎡　**形状等**　(方形)。(大部分が調査区外のため全容は不明)。東西(0.78)ｍ、南北(0.98)ｍ、壁現高は51.5㎝を測る。　**床面**　平坦な床面。　**竈**　調査区外のため検出されず。　**時期**　埋土や出土遺物から６世紀半ば以降12世紀初頭以前と考えられる。　**遺物**　総数22点。

Ｈ−２号住居跡（Fig.　9、PL.２）

位置　Ｘ127〜129、Ｙ112・113グリッド　**主軸方向**　Ｎ−75°−Ｅ　**面積**　(9.67)㎡　**形状等**　東西軸の長方形。東西3.1ｍ、南北(4.12)ｍ、壁現高56㎝を測る。　**床面**　平坦な床面、竈前は堅緻。　**竈**　東壁中央から検出され、主軸方向(Ｎ−85°−Ｅ)であり、全長140㎝、最大幅86㎝、焚口部幅44㎝を測る。両袖に四面を削り出した凝灰岩を使用、袖はその上に粘土を張り固める。支脚には方柱状に切り出した凝灰岩を使用。　**貯蔵穴**　竈南より検出。　**時期**　埋土や出土遺物から８世紀前半と考えられる。　**遺物**　総数643点。そのうち土師坏４点、須恵坏３点、土師甕１点、須恵蓋１点、鉄製品２点、石製品３点を図示。

Ｈ−３号住居跡（Fig.　10）

位置　Ｘ121・122、Ｙ112・113グリッド　**主軸方向**　Ｎ−72°−Ｅ　**面積**　[14.29]㎡　**形状等**　(方形)。東西[3.34]ｍ、南北[3.88]ｍを測る。　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央から検出され、主軸方向(Ｎ−90°−Ｅ)であり、全長80㎝、最大幅68㎝、焚口部幅38㎝を測る。両袖には方形の袖石設置痕が残る。　**時期**　埋土や出土遺物から７世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数366点。そのうち土師坏１点、須恵坏１点を図示。

Ｈ−４号住居跡（Fig.　10）

位置　Ｘ128・129、Ｙ111・112グリッド　**主軸方向**　Ｎ−72°−Ｅ　**面積**　(4.39)㎡　**形状等**　方形。東西2.56ｍ、南北2.4ｍ、壁現高17㎝を測る。　**床面**　平坦な床面。　**竈**　焚口部・煙道部は調査区外のため未検出。　**時期**　埋土や出土遺物から７世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数１点。そのうち灰釉坏１点を図示。

Ｈ−５号住居跡（Fig.　11・12）

位置　Ｘ127・128、Ｙ111・112グリッド　**主軸方向**　Ｎ−115°−Ｗ　**面積**　[15.6]㎡　**形状等**　(方形)。東西[3.42]ｍ、南北[4.86]ｍ、壁現高43㎝を測る。　**床面**　平坦な床面。　**竈**　西壁中央から検出され、主軸方向(Ｎ−114°−Ｗ)であり、全長70㎝、最大幅70㎝、焚口部幅40㎝を測る。形状は五角形で、袖に粘土を張る。　**重複**

H－6と重複し、新旧は重複関係よりH－6→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数244点。そのうち土師坏2点を図示。

H－6号住居跡（Fig. 11・12、PL.2）

位置　X126～128、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－113°－W　**面積**　31.62㎡　**形状等**　方形。東西5.88m、南北5.9m、壁現高71cmを測る。　**床面**　平坦な床面、竈前は堅緻。　**竈**　西壁やや南から検出され、主軸方向(N－113°－W)であり、全長80cm、最大幅120cm、焚口部幅38cmを測る。両袖は地山の上に粘土を張る。支脚には小型の土師甕を使用。　**貯蔵穴**　竈南から検出。円形。　**重複**　H－5・7と重複し、新旧は切合関係より本遺構→H－7・H－5の順。　**時期**　埋土や出土遺物から7世紀前半と考えられる。　**遺物**　総数1,317点。そのうち土師坏13点、土師甕2点、石製品1点を図示。

H－7号住居跡（Fig. 12、PL.2）

位置　X126・127、Y112・113グリッド　**主軸方向**　N－74°－E　**面積**　11.90㎡　**形状等**　方形。東西4.14m、南北3.28m、壁現高46cmを測る。　**床面**　平坦な床面。竈前は堅緻。周溝あり。　**竈**　東壁やや南から検出され、主軸方向(N－72°－E)であり、全長150cm、最大幅100cm、焚口部幅50cmを測る。両袖に粘土、支脚石に方柱状に切り出した凝灰岩を使用。　**重複**　H－6と重複し、新旧はH－6→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から7世紀末～8世紀初頭と考えられる。　**遺物**　総数222点。そのうち土師坏2点、須恵高台椀1点、土師甕1点を図示。

H－8号住居跡（Fig. 13、PL.2）

位置　X124～126、Y112・113グリッド　**主軸方向**　N－74°－E　**面積**　[16.85]㎡　**形状等**　[南北軸の長方形]。東西[4.06]m、南北(4.5)m、壁現高43cmを測る。　**床面**　平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　H－9と重複し、新旧は本遺構→H－9の順。　**時期**　埋土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。　**遺物**　総数219点。そのうち土師甕1点を図示。　**備考**　東壁中央から壁で完全に閉鎖された状態で竈を検出、本遺構を立て替える以前のものと思われる。

H－9号住居跡（Fig. 13、PL.2・3）

位置　X124・125、Y112・113グリッド　**主軸方向**　N－76°－E　**面積**　(15.38)㎡　**形状等**　南北軸の長方形。東西3.74m、南北4.6m、壁現高39cmを測る。　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁やや南から検出され、主軸方向(N－75°－E)であり、全長104cm、最大幅84cm、焚口部幅40cmを測る。袖に薄く粘土を張る。　**重複**　H－8・21と重複し、新旧はH－8・21→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数604点。そのうち土師坏1点、瓦1点を図示。　**備考**　住居南辺から地山を利用した棚状の遺構を検出。

H－10号住居跡（Fig. 14）

位置　X117・118、Y112・113グリッド　**主軸方向**　N－74°－E　**面積**　[15.99]㎡　**形状等**　[方形]。東西4.2m、南北[4.3]m、壁現高25cmを測る。　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁中央から検出され、主軸方向(N－83°－E)であり、全長(74)cm、最大幅54cmを測る。大部分を削平されたため全容は不明だが、袖石の設置痕が残る。　**重複**　H－22と重複し、新旧はH－22→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から8世紀半ばと考えられる。　**遺物**　総数183点。そのうち土師坏1点、石製品1点を図示。

H－11号住居跡（Fig. 14、PL.3）

位置　X119・120、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－87°－E　**面積**　[14.71]㎡　**形状等**　（南北軸の長方形）。東西(3.54)m、南北(3.94)m、壁現高8㎝を測る。　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁やや北から検出され、主軸方向(N－87°－E)であり、全長74㎝、最大幅40㎝、焚口部幅20㎝を測る。上部構造は削平され、主軸方向(N－87°－E)であり、全長74㎝、最大幅40㎝、焚口部幅20㎝を測る。上部構造は削平されたため不明。　**重複**　H－12・13と重複し、新旧は本遺構→H－12→H－13の順。　**時期**　埋土や出土遺物から7世紀後半以前と考えられる。　**遺物**　総数25点。

H－12号住居跡（Fig. 14、PL.3）

位置　X119・120、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－78°－E　**面積**　[9.97]㎡　**形状等**　[南北軸の長方形]。東西2.78m、南北3.78m、壁現高13.5㎝を測る。　**床面**　平坦な床面。竈前は堅緻。　**竈**　東壁中央から検出され、主軸方向(N－85°－E)であり、全長86㎝、最大幅70㎝、焚口部幅30㎝を測る。左袖には凝灰岩を使用。　**重複**　H－11・13と重複し、新旧はH－11→本遺構→H－13の順。　**時期**　埋土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数58点。そのうち土師坏1点を図示。

H－13号住居跡（Fig. 14、PL.3）

位置　X119・120、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－80°－E　**面積**　[8.31]㎡　**形状等**　[東西軸の長方形]。東西3.52m、南北2.6m、壁現高18.5㎝を測る。　**床面**　平坦な床面。竈前は堅緻。　**竈**　東壁やや南から検出され、主軸方向(N－75°－E)であり、全長104㎝、最大幅84㎝、焚口部幅40㎝を測る。　**重複**　H－11・12と重複し、新旧はH－11→H－12→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から8世紀半ばと考えられる。　**遺物**　総数152点。そのうち土師坏4点、須恵坏3点を図示。

H－14号住居跡（Fig. 15、PL.3）

位置　X119・120、Y112・113グリッド　**主軸方向**　N－123°－E　**面積**　[8.40]㎡　**形状等**　[東西軸の長方形]。東西[3.6]m、南北2.62m、壁現高14㎝を測る。　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁やや北から検出され、主軸方向(N－120°－E)であり、全長90㎝、最大幅[44]㎝、焚口部幅26㎝を測る。上部は削平され不明。　**貯蔵穴**　竈南から検出。円形。　**時期**　埋土や出土遺物から8世紀初頭と考えられる。　**遺物**　総数137点。そのうち土師坏2点、須恵蓋2点、土師甕1点を図示。

H－15号住居跡　　**欠番**

H－16号住居跡（Fig. 15）

位置　X118、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－83°－E　**面積**　(8.94)㎡　**形状等**　（南北軸Bの長方形）。東西3.08m、南北3.36m、壁現高14㎝を測る。　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁やや南から検出され、主軸方向(N－77°－E)であり、全長84㎝、最大幅80㎝、焚口部幅44㎝を測る。　**重複**　H－17と重複し、新旧は本遺構→H－17の順。　**時期**　埋土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数163点。そのうち土師坏2点を図示。

H－17号住居跡（Fig. 15）

位置　X118、Y111グリッド　**竈**　竈のみ検出され、主軸方向(N－75°－E)であり、全長90㎝、最大幅[54]㎝、

焚口部幅18cmを測る。 **重複** H－16と重複し、新旧はH－16→本遺構の順。 **時期** 埋土や出土遺物から８世紀半後半以降12世紀初頭と考えられる。 **遺物** 総数163点。

H－18号住居跡（Fig. 16、PL.３）

位置 X117、Y111グリッド **主軸方向** N－80°－E **面積** (11.19)㎡ **形状等** (南北軸の長方形)。東西(2.24)m、南北(2.78)m、壁現高37cmを測る。 **床面** 平坦な床面。竈前は堅緻。 **竈** (東壁) から検出され、主軸方向(N－81°－E)であり、全長126cm、最大幅138cm、焚口部幅32cmを測る。煙道上部は攪乱のため不明。焚口部構築材に川原石を使用。 **重複** H－20と重複し、新旧は本遺構→H－20の順。 **時期** 埋土や出土遺物から８世紀半ばと考えられる。 **遺物** 総数284点。そのうち土師坏１点を図示。

H－19号住居跡（Fig. 16、PL.４）

位置 X116、Y110グリッド **主軸方向** N－56°－E **面積** (2.33)㎡ **形状等** (方形)。東西(2.4)m、南北(1.84)m、壁現高36cmを測る。 **床面** 平坦で堅緻。 **竈** 検出されず。 **時期** 埋土から６世紀後半～12世紀初頭以前と考えられる。 **遺物** なし。

H－20号住居跡（Fig. 16、PL.４）

位置 X116・117、Y111グリッド **主軸方向** N－95°－E **面積** (9.38)㎡ **形状等** (長方形)。東西(3.44)m、南北(1.76)m、壁現高35cmを測る。 **床面** 平坦な床面。 **竈** (東壁) から一部検出され、主軸方向(N－97°－E)であり、全長(54)cm、最大幅60cm、焚口部幅46cmを測る。 **重複** H－18と重複し、新旧はH－18→本遺構の順。 **時期** 埋土や出土遺物から９世紀前半と考えられる。 **遺物** 総数115点。そのうち土師甕３点を図示。

H－21号住居跡（Fig. 16）

位置 X124、Y112・113グリッド **主軸方向** N－64°－E **面積** (6.55)㎡ **形状等** (方形)。東西(1.48)m、南北(2.24)m、壁現高21cmを測る。 **床面** 平坦な床面。 **竈** 検出されず。 **重複** H－９と重複し、新旧は本遺構→H－９の順。 **時期** 埋土や出土遺物から７世紀後半と考えられる。 **遺物** 総数５点。そのうち土師坏１点を図示。

H－22号住居跡（Fig. 16）

位置 X118・119、Y112・113グリッド **主軸方向** N－62°－E **面積** [7.5]㎡ **形状等** [方形]。東西(3.22)m、南北(3.2)mを測る。 **床面** 平坦な床面。 **竈** 後世の遺構（W－４・土坑）に壊され検出せず。 **重複** H－10と重複し、新旧は本遺構→H－10の順。 **時期** 埋土や出土遺物から８世紀前半と考えられる。 **遺物** 総数86点。

H－23号住居跡（Fig. 17）

位置 X109、Y114グリッド **主軸方向** N－105°－E **面積** (4.46)㎡ **形状等** [方形]。東西(2.16)m、南北(2.8)mを測る。 **床面** 大部分が攪乱され不明。 **竈** (東壁) 南から検出され、主軸方向(N－104°－E)であり、全長(40)cm、最大幅(60)cmを測る。 **時期** 埋土から６世紀後半～12世紀初頭以前と考えられる。 **遺物** なし。

H－24号住居跡（Fig. 17、PL.4）

位置　X108・109、Y116グリッド　**主軸方向**　N－77°－E　**面積**　6.47㎡　**形状等**　方形。東西2.58m、南北2.7m、壁現高56.5cmを測る。　**床面**　地山を生かした平坦な床面。　**竈**　東壁やや南から検出され、主軸方向（N－86°－E）であり、全長78cm、最大幅100cm、焚口部幅26cmを測る。両袖に瓦を使用。　**貯蔵穴**　竈南から検出。円形。　**時期**　埋土や出土遺物から９世紀代と考えられる。　**遺物**　総数346点。そのうち瓦２点を図示。

（2）溝　　跡

W－１号溝跡（Fig. 18・19、PL.5）

位置　X113・114、Y110～116グリッド　**主軸方向**　N－20°－W　**形状等**　断面は逆台形。調査区を南北に走行。　**重複**　W－２・３と重複し、新旧関係は本遺構→W－２→W－３の順。　**時期**　埋土にAs－B（浅間山起源：１108年）を含むため、12世紀初頭以降と考えられる。　**遺物**　総数143点。そのうち土師坏１点、カワラケ１点を図示。

W－２号溝跡（Fig. 18・19）

位置　X113～117、Y110～116グリッド　**主軸方向**　N－15°－W　**形状等**　断面は逆台形。調査区を南北方向に走り、W－１とほぼ並行する。　**重複**　W－１・３と重複し、新旧関係はW－１→本遺構→W－３の順。　**時期**　埋土にAs－B軽石（浅間山起源：1108年）を含むため、12世紀初頭以降と考えられる。　**遺物**　総数91点。そのうち土師坏１点、須恵坏１点を図示。

W－３号溝跡（Fig. 18・19）

位置　X113～116、Y110～113グリッド　**主軸方向**　N－30°－E、N－28°－W　**形状等**　断面は逆台形。調査区を東西に走り、北部でW－１・W－２と直交、ほぼ直角に曲がり南部へ向かい並行する。　**重複**　W－１・２と重複し、新旧関係はW－１→W－２→本遺構の順。　**時期**　埋土にAs－B（浅間山起源：1108年）を含むため、12世紀初頭以降と考えられる。　**遺物**　総数77点。

W－４号溝跡（Fig. 20、PL.5）

位置　X119～123、Y110～115グリッド　**主軸方向**　N－0°－E　**形状等**　断面はV字形。ローム層を掘り込む。平面は東西南北に巡る周溝状を呈する。　**重複**　H－14・22と重複し、新旧はH－14・22→本遺構の順。**時期**　埋土にAs－B（浅間山起源：1108年）を含み、D－４を切り、墳墓群（14世紀後半～15世紀代）に切られることから、13世紀後半～14世紀半ばと考えられる。　**遺物**　総数121点。そのうち土師坏１点、カワラケ１点、鉄製品１点を図示。　**備考**　本遺構は元総社小見内Ⅲ遺跡（2000年調査）検出のW－１号溝跡に続く可能性が高く、方形に巡る堀状遺構であると推測される。小見内Ⅲ遺跡では溝の区画内における「小堂」存在の可能性が指摘されているが、本調査ではそのような遺構の検出には至らなかった。本遺構と墓域との関連についてはⅦ章に詳述するが、土壙墓は本遺構西側で集中的に検出されており、区画内での検出は少ない。また、土壙墓の内のいくつかは本遺構に乗るかたちで検出されている。このことから本遺構が埋没した後に土壙墓が構築されたと推測される。

W－５号溝跡（Fig. 21）

位置　X124～129、Y110～112グリッド　**主軸方向**　N－75°－E　**形状等**　断面はU字形。調査区を東西に走

行。　**重複**　H－5・6と重複し、新旧はH－5→H－6→本遺構の順。　**時期**　埋土にAs－B（浅間山起源：1108年）を含まず、それ以前に埋没したとみられ、古代と考えられる。　**遺物**　総数66点。

W－6号溝跡（Fig. 22）

位置　X117～120、Y115・116グリッド　**主軸方向**　N－106°－E　**形状等**　断面U字形。調査区を東西方向に走り、W－1・2とほぼ直交する。　**時期**　埋土に川砂を含むが、As－B（浅間山起源：1108年）も混じるか。詳細は不明。　**遺物**　総数10点。そのうちカワラケ1点を図示。

W－7号溝跡（Fig. 23）

位置　X116・117、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－1°－E　**形状等**　断面逆台形。調査区を南北に走行。**重複**　H－18・20、W－8と重複し、新旧はH－18→H－20→本遺構→W－8の順。　**時期**　埋土にAs－B（浅間山起源：1108年）を含むため、12世紀初頭以降と考えられる。　**遺物**　総数19点。そのうち銅銭2点を図示。

W－8号溝跡（Fig. 23）

位置　X116・117、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－15°－E　**形状等**　U字形。調査区を南北方向に走行。**重複**　H－18・20と重複し新旧はH－18→H－20→W－7→本遺構の順。　**時期**　埋土にAs－B（浅間山起源：1108年）を含むため、12世紀初頭以降と考えられる。　**遺物**　総数53点。そのうち土師坏1点を図示。

W－9号溝跡（Fig. 23）

位置　X107、Y116・117グリッド　**主軸方向**　N－0°－E　**形状等**　断面は逆台形。調査区を南北方向に走行。**時期**　不明。　**遺物**　総数2点。

（3）周溝状遺構

1号周溝状遺構（Fig. 23、PL.4）

位置　X107～110Y114～116グリッド　**主軸方向**　N－10°－W　**形状等**　断面はU字形、平面は正方形。**重複**　H－24と重複し、新旧はH－24→本遺構の順。　**時期**　住居との切合関係および埋土にAs－B（浅間山起源：1108年）を含むことから、12世紀初頭以降と考えられる。　**遺物**　総数298点。そのうち鉄製品2点を図示。**備考**　本遺構の北辺隅よりわずかながら馬歯を検出した。本遺構と類似する遺構が過年度調査により検出されている。（本遺構の南約100mに位置する元総社小見内Ⅳ遺跡・2001年調査検出の1号周溝状遺構）これらの遺構は祭祀遺構としての性格を有していたと推定される。

（4）土坑・ピット

土坑・ピットについては、Tab.4土坑・ピット計測表（P.23）を参照のこと。

（5）土　壙　墓

検出された土壙墓には、人骨が検出されたものとされなかったものがある。検出されなかったものについては、確認時の状況により土壙墓と判断した。

人骨は、全体に遺存の良好なものは少ない。胸部・脊椎部・腰部・手足の指部の遺存が悪いものが大半である。人骨についての所見は、楢崎修一郎氏（群馬県埋蔵文化財調査事業団）による。

土壙墓・火葬墓もしくは土壙墓と思われる土坑は総数60基を数え、溝跡から出土したものを含めると、合計90個体の人骨が出土している。これらのうちで良好な状態での人骨所見を得た。第Ⅵ章を参照されたい。

これらの土壙墓・人骨は東区の西部、W－1～3号溝跡と、W－4号溝跡の間を中心に検出された。土壙墓・人骨の中にはこれらの溝が埋まった後に構築されたと見受けられるものもある。さらに複数重複するものもあることから、この場所が「墓域」としてある程度永続的に存在していたと推測される。また、「墓域」の東に位置するW－4号溝跡は四辺をほぼ同じくする方形堀状を呈しており、この区画内における建物の存在が想定され、「墓域」と何らかの関係があったと考えられる。詳細は第Ⅶ章を参照されたい。

ＤＢ－１号土壙墓（Fig. 28）

位置　X115・116Y111・112グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明　**重複**　W－1～3と重複し、新旧関係はW－1～3→本遺構の順。　**時期**　埋土や重複関係から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数1点。　**備考**　胸部・脊椎部・指部の遺存が悪い。北西頭位右向屈葬。

ＤＢ－２号土壙墓（Fig. 28）

位置　X116Y112グリッド　**主軸方向**　N－10°－W　**形状等**　楕円形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数12点。そのうち銅銭2点を図示。　**備考**　頭部・胸部・脊椎部・指部の遺存が悪く、大腿部の一部のみを検出。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－３号土壙墓（Fig. 28）

位置　X116Y112グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明　**時期**　埋土や出土遺物から、14～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数4点。そのうち銅銭3点を図示。　**備考**　頭部・胸部・脊椎部・指部の遺存が悪い。北頭位屈葬と推定。

ＤＢ－４号土壙墓（Fig. 28）

位置　X117Y111グリッド　**主軸方向**　N－10°－W　**形状等**　隅丸長方形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数47点。　**備考**　頭部・胸部・脊椎部・指部の遺存が悪く、大腿部の一部のみの検出。

ＤＢ－５号土壙墓（Fig. 29）

位置　X117Y112グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数17点。　**備考**　わずかに骨片を検出するのみ。墓坑上に墓石と思われる石を配す。

ＤＢ－６号土壙墓（Fig. 29）

位置　X117Y112・113グリッド　**主軸方向**　N－55°－E　**形状等**　楕円形　**重複**　ＤＢ－51と重複し、新旧関係は本遺構→ＤＢ－51の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数25点。そのうち銅銭3点を図示。　**備考**　全体的に遺存が悪く、わずかに骨片を検出。

ＤＢ－７号土壙墓（Fig. 29）

位置　X118Y111グリッド　**主軸方向**　N－0°－E　**形状等**　楕円形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　なし。　**備考**　全体的に遺存が悪く、四肢骨の一部のみを検出。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－８号土壙墓（Fig. 29）

位置　X118Y112・113グリッド　**主軸方向**　［N－33°－W］　**形状等**　不明　**重複**　ＤＢ－９と重複し、新旧関係は本遺構→ＤＢ－９の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数55点。そのうちカワラケ１点、銅銭１点を図示。　**備考**　全体的に遺存が悪く、わずかに骨片を検出。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－９号土壙墓（Fig. 30、PL. 7）

位置　X118Y112・113グリッド　**主軸方向**　N－80°－E　**形状等**　楕円形　**重複**　ＤＢ－８と重複し、新旧関係はＢＤ－８→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数３点。そのうち板碑１点、銅銭１点を図示。　**備考**　脊椎部を除いて全体的に遺存は良好。東北東頭位右向屈葬。

ＤＢ－10号土壙墓（Fig. 30）

位置　X118Y113グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数13点。そのうち鉄製品１点を図示。　**備考**　頭部・胸部・脊椎部・指部の遺存が悪い。

ＤＢ－11号土壙墓（Fig. 30）

位置　X118Y113グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明　**重複**　ＤＢ－28と重複し、新旧関係はＤＢ－28→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数９点。そのうちカワラケ１点、銅銭６点を図示。　**備考**　全体的に遺存が悪く、わずかに骨片を検出する。北頭位右向屈葬。墓坑範囲は不明であるが、周辺に残る石は墓石と考えられる。

ＤＢ－12号土壙墓（Fig. 31）

位置　X117Y113グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明　**重複**　ＤＢ－13と重複するが、新旧関係は不明。**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数58点。そのうちカワラケ１点（墨書土器片）、鉄製品１点、銅銭７点を図示。　**備考**　胸部・脊椎部・足部・指部の遺存が悪い。周辺に残る石は墓石と考えられる。北西頭位右向屈葬。

ＤＢ－13号土壙墓（Fig. 31）

位置　X117Y113グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明　**重複**　ＤＢ－12と重複するが、新旧関係は不明。**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数１点。そのうち鉄製品１点を図示。　**備考**　全体的に遺存が悪く、頭部の一部のみを検出。北頭位右向屈葬。周辺に残る石は墓石と考えられる。

ＤＢ－14号土壙墓（Fig. 31、PL. 6）

位置　X118・119Y113グリッド　**主軸方向**　［N－19°－W］　**形状等**　［隅丸長方形］　**重複**　ＤＢ－55と重複

し、新旧関係はＤＢ－55→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。**遺物**　総数33点。そのうち銅銭６点を図示。　**備考**　胸部・脊椎部・指部の遺存が悪いが、頭部の状態は比較的良好。北頭位左向屈葬。墓坑は隅丸方形と推測されるが、人骨本体に比してやや大きい。

ＤＢ－15号土壙墓（Fig. 31）

位置　Ｘ118・119Ｙ114グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－36°－Ｗ）　**形状等**　［楕円形］　**重複**　ＤＢ－16・18・19と重複し、新旧関係はＤＢ－18→ＤＢ－16→本遺構・ＤＢ－19の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数１点。そのうちカワラケ１点を図示。　**備考**　脊椎部・指部を除き、遺存状態は比較的良好。北北西頭位右向屈葬。

ＤＢ－16号土壙墓（Fig. 32）

位置　Ｘ118・119Ｙ114グリッド　**主軸方向**　Ｎ－27°－Ｗ　**形状等**　［隅丸方形］　**重複**　ＤＢ－15・18・17と重複し、新旧関係はＤＢ－18→本遺構・ＤＢ－17→ＤＢ－15の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数２点。そのうちカワラケ１点を図示。　**備考**　複数の墓坑と切り合っているため、全体に遺存が悪く、大腿部のみを検出。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－17号土壙墓（Fig. 31）

位置　Ｘ118・119Ｙ114グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明　**重複**　ＤＢ－16・18と重複し、新旧関係はＤＢ－18→ＤＢ－16・本遺構の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。**遺物**　なし。　**備考**　複数の墓坑と切り合っているため、全体に遺存が悪く、歯と頭部の一部のみを検出。

ＤＢ－18号土壙墓（Fig. 32）

位置　Ｘ118・119Ｙ114グリッド　**主軸方向**　Ｎ－16°－Ｗ　**形状等**　楕円形　**重複**　ＤＢ－16・17と重複し、新旧関係は本遺構→ＤＢ－16・17の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数26点。そのうち銅銭４点を図示。　**備考**　脊椎部・指部を除き、遺存状態は比較的良好。北頭位左向屈葬。墓坑は複数重複する墓坑の中で最も深く、地山を掘り込んで構築される。

ＤＢ－19号土壙墓（Fig. 31）

位置　Ｘ118Ｙ114グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明　**重複**　ＤＢ－15・18と重複し、新旧関係はＤＢ－18→ＤＢ－15・本遺構の順である。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数９点。そのうちカワラケ１点、銅銭７点を図示。　**備考**　複数の墓坑と切り合っているため、全体的に遺存が悪く、頭部の一部のみを検出。北頭位屈葬。

ＤＢ－20号土壙墓（Fig. 31）

位置　Ｘ119Ｙ114グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明　**重複**　ＤＢ－19・21と重複するが、新旧関係は不明。時期　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数３点。そのうち銅銭３点を図示。　**備考**　複数の墓坑と切り合っているため、全体的に遺存が悪く、頭部の一部のみを検出。北頭位屈葬。

ＤＢ－21号土壙墓（Fig. 33）

位置　Ｘ119Ｙ114グリッド　**主軸方向**　［Ｎ－33°－Ｅ］　**形状等**　不明　**重複**　ＤＢ－22と重複するが、新旧関

係は不明。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数９点。そのうちカワラケ３点、銅銭６点を図示。　**備考**　脊椎部・腰部・指部を除き、遺存状態は比較的良好。北西頭位右向屈葬。

ＤＢ－22号土壙墓（Fig. 33）

位置　Ｘ119Ｙ114グリッド　**主軸方向**　**形状等**　不明　**重複**　ＤＢ－21と重複するが、新旧関係は不明である。**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　なし。　**備考**　複数の墓坑と切り合っているため、全体的に遺存が悪く、歯と頭部の一部のみを検出。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－23号土壙墓（Fig. 32、PL. 8）

位置　Ｘ119Ｙ111グリッド　**主軸方向**　Ｎ－０°－Ｅ　**形状等**　隅丸長方形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数28点。そのうちカワラケ２点、銅銭４点を図示。　**備考**　脊椎部・指部を除き、遺存状態は比較的良好。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－24号土壙墓（Fig. 33）

位置　Ｘ119Ｙ113グリッド　**主軸方向**　［Ｎ－12°－Ｗ］　**形状等**　［楕円形］　**重複**　Ｗ－４と重複し、新旧関係はＷ－４→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数９点。そのうち銅銭４点を図示。　**備考**　脊椎部・指部を除き、遺存状態は比較的良好。北北西頭位右向屈葬。

ＤＢ－25号土壙墓（Fig. 33）

位置　Ｘ118Ｙ114グリッド　**主軸方向**　Ｎ－２°－Ｗ　**形状等**　隅丸長方形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数12点。そのうちカワラケ１点、銅銭６点、板碑１点を図示。**備考**　脊椎部・指部・大腿部の遺存が悪く、頭部は下顎部がはずれた状態で、大腿部の骨は垂直に近い状態で検出されたことから、再葬墓の可能性あり。北北西頭位仰臥右向屈葬。

ＤＢ－26号土壙墓（Fig. 33）

位置　Ｘ119Ｙ113グリッド　**主軸方向**　Ｎ－２°－Ｗ　**形状等**　［楕円形］　**重複**　ＤＢ－36と重複し、新旧関係はＤＢ－36→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数30点。そのうち鉄製品１点、銅銭７点を図示。　**備考**　脊椎部・指部を除き、遺存状態は比較的良好。北北西頭位俯臥右向屈葬。

ＤＢ－27号土壙墓（Fig. 34）

位置　Ｘ119・120Ｙ112グリッド　**主軸方向**　Ｎ－０°－Ｅ　**形状等**　楕円形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数８点。そのうち銅銭６点を図示。　**備考**　全体的に遺存状態は比較的良好。北北西頭位俯臥屈葬。墓坑範囲内西側に偏って埋葬される。

ＤＢ－28号土壙墓（Fig. 34）

位置　Ｘ118Ｙ113グリッド　**主軸方向**　Ｎ－30°－Ｗ　**形状等**　楕円形　**重複**　ＤＢ－11と重複し、新旧関係はＤＢ－11→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数18点。そのうち五輪塔２点（火輪・水輪）、板碑１点を図示。　**備考**　脊椎部・腰部・大腿部・指部の遺存が悪く、頭部と大腿部の一部のみの検出。北北西頭位仰臥屈葬。

ＤＢ－29号土壙墓（Fig. 34）

位置　Ｘ117Ｙ114・115グリッド　**主軸方向**　Ｎ－20°－Ｗ　**形状等**　不定形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数７点。そのうち銅銭６点を図示。　**備考**　脊椎部・大腿部・指部の遺存が悪い。北北西頭位仰臥左向屈葬。

ＤＢ－30号土壙墓（Fig. 35、PL. 8）

位置　Ｘ117・118Ｙ111・112グリッド　**主軸方向**　［Ｎ－７°－Ｗ］　**形状等**　［楕円形］　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数３点。　**備考**　脊椎部を除き遺存状態は比較的良好。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－31号土壙墓（Fig. 35）

位置　Ｘ118Ｙ115グリッド　**主軸方向**　Ｎ－30°－Ｗ　**形状等**　楕円形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数６点。そのうち銅銭６点を図示。　**備考**　脊椎部・大腿部・指部の遺存が悪い。北北西頭位俯臥屈葬。

ＤＢ－32号土壙墓（Fig. 35）

位置　Ｘ118Ｙ113グリッド　**主軸方向**　Ｎ－15°－Ｗ　**形状等**　楕円形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数93点。そのうちカワラケ３点、銅銭６点、五輪塔（火輪）１点、板碑１点を図示。　**備考**　脊椎部・指部の遺存が悪く、埋葬状態に動かされた形跡があることから、再葬墓の可能性あり。北北西頭位右向屈葬。

ＤＢ－33号土壙墓（Fig. 35）

位置　Ｘ116Ｙ111グリッド　**主軸方向**　Ｎ－８°－Ｗ　**形状等**　［楕円形］　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数８点。そのうち銅銭３点を図示。　**備考**　指部を除き全体的に遺存状態は比較的良好。北北西頭位仰臥左向屈葬。

ＤＢ－34号土壙墓（Fig. 36、PL. 9）

位置　Ｘ119Ｙ113グリッド　**主軸方向**　Ｎ－０°－Ｅ　**形状等**　楕円形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数63点。そのうち銅銭７点を図示。　**備考**　頭頂部・脊椎部・指部を除き、遺存状態は比較的良好。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－35号土壙墓（Fig. 36）

位置　Ｘ118・119Ｙ115グリッド　**主軸方向**　Ｎ－０°－Ｅ　**形状等**　不定形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数６点。そのうち銅銭６点を図示。　**備考**　本遺構からは骨片等は検出されなかった。

ＤＢ－36号土壙墓（Fig. 36）

位置　Ｘ119Ｙ113グリッド　**主軸方向**　Ｎ－２°－Ｅ　**形状等**　円形　**重複**　ＤＢ－26と重複し、新旧関係は本遺構→ＤＢ－26の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数８点。そのうち銅銭８点を図示。　**備考**　頭部・脊椎部・大腿部・指部の遺存状態が悪い。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－37号土壙墓（Fig. 36、PL. 9）

位置　Ｘ117Ｙ112グリッド　**主軸方向**　Ｎ－25°－Ｗ　**形状等**　楕円形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数22点。そのうち鉄製品２点、銅銭８点を図示。　**備考**　頭部・脊椎部・指部の遺存が悪く、大腿部の一部のみを検出。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－38号土壙墓（Fig. 37）

位置　Ｘ117Ｙ113グリッド　**主軸方向**　［Ｎ－18°－Ｅ］　**形状等**　［楕円形］　**重複**　ＤＢ－49・50と重複し、新旧関係はＤＢ－50→本遺構→ＤＢ－49の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数15点。そのうちカワラケ３点、銅銭７点を図示。　**備考**　全体的に遺存状態が悪く、頭部の一部のみを検出。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－39号土壙墓（Fig. 37）

位置　Ｘ117Ｙ114グリッド　**主軸方向**　Ｎ－５°－Ｅ　**形状等**　隅丸長方形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　なし。　**備考**　本遺構からは骨片等は検出されなかった。

ＤＢ－40号土壙墓（Fig. 37）

位置　Ｘ117Ｙ112・113グリッド　**主軸方向**　Ｎ－39°－Ｅ　**形状等**　円形　**重複**　ＤＢ－６・51と重複し、新旧関係は本遺構→ＤＢ－６→ＤＢ－51の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数40点。そのうち鉄製品１点、銅銭６点、板碑１点を図示。　**備考**　全体的に遺存が悪く、頭部の一部と歯のみを検出。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－41号土壙墓（Fig. 37）

位置　Ｘ117Ｙ112グリッド　**主軸方向**　Ｎ－100°－Ｅ　**形状等**　楕円形　**重複**　ＤＢ－57と重複し、新旧関係はＤＢ－57→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数７点。そのうちカワラケ１点、板碑１点を図示。　**備考**　本遺構からは骨片等は検出されなかった。

ＤＢ－42号土壙墓（Fig. 38）

位置　Ｘ117Ｙ113グリッド　**主軸方向**　Ｎ－50°－Ｅ　**形状等**　楕円形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数６点。そのうち銅銭６点を図示。　**備考**　全体的に遺存が悪く、頭部の一部と歯のみを検出。

ＤＢ－43号土壙墓（Fig. 38）

位置　Ｘ118Ｙ114グリッド　**主軸方向**　Ｎ－17°－Ｗ　**形状等**　楕円形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数３点。そのうち銅銭３点を図示。　**備考**　頭部・脊椎部・指部の遺存が悪く、大腿部の一部のみの検出。北北西頭位左向屈葬。

ＤＢ－44号土壙墓（Fig. 38）

位置　Ｘ118Ｙ114グリッド　**主軸方向**　Ｎ－53°－Ｅ　**形状等**　楕円形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数22点。そのうちカワラケ１点、銅銭６点、五輪塔１点（地輪）、宝篋印塔１点（相輪）を図示。　**備考**　脊椎部・指部の遺存状態が悪く、頭部・上腕部の一部・大腿部のみを検出。西頭位左向屈葬。

ＤＢ－45号土壙墓（Fig. 39）

位置　X117Y114グリッド　**主軸方向**　N－18°－W　**形状等**　楕円形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数８点。そのうち銅銭４点を図示。　**備考**　全体的に遺存が悪く、頭部・大腿部の一部のみを検出。北西頭位屈葬と推定。

ＤＢ－46号土壙墓（Fig. 39）

位置　X118Y114グリッド　**主軸方向**　N－３°－W　**形状等**　隅丸長方形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数３点。そのうち銅銭３点を図示。　**備考**　本遺構からは骨片は検出されなかった。

ＤＢ－47号土壙墓（Fig. 39）

位置　X119Y114グリッド　**主軸方向**　N－２°－E　**形状等**　隅丸長方形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数３点。そのうち銅銭２点を図示。　**備考**　本遺構からは骨片は検出されなかった。

ＤＢ－48号土壙墓（Fig. 39）

位置　X119Y113・114グリッド　**主軸方向**　N－８°－W　**形状等**　［隅丸長方形］　**重複**　W－４と重複し、新旧関係はW－４→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数５点。そのうち銅銭３点を図示。　**備考**　胸部・指部を除き、遺存状態は比較的良好。北北西頭位右向屈葬。

ＤＢ－49号土壙墓（Fig. 39）

位置　X117Y113グリッド　**主軸方向**　N－22°－W　**形状等**　楕円形　**重複**　ＤＢ－38と重複し、新旧関係はＤＢ－38→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数５点。そのうち銅銭３点を図示。　**備考**　胸部・指部を除き、遺存状態は比較的良好。北頭位俯臥左向屈葬。

ＤＢ－50号土壙墓（Fig. 37）

位置　X117Y113・114グリッド　**主軸方向**　N－４°－E　**形状等**　［楕円形］　**重複**　ＤＢ－39と重複し、新旧関係は本遺構→ＤＢ－38の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数１点。そのうちカワラケ１点を図示。　**備考**　全体に遺存が悪く、頭部の一部のみを検出。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－51号土壙墓（Fig. 40）

位置　X117Y113グリッド　**主軸方向**　［N－18°－E］　**形状等**　［楕円形］　**重複**　ＤＢ－６・52と重複し、新旧関係は、ＤＢ－６・52→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数31点。そのうち銅銭１点を図示。　**備考**　胸部・指部を除き、遺存状態は比較的良好。北北西頭位右向屈葬。

ＤＢ－52号土壙墓（Fig. 40）

位置　X117Y113グリッド　**主軸方向**　N－15°－E　**形状等**　［楕円形］　**重複**　ＤＢ－６・51と重複し、新旧関係はＤＢ－51→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数10点。　**備考**　全体に遺存が悪く、歯・四肢骨の一部のみを検出。

ＤＢ－53号土壙墓（Fig. 40）

位置　X118Y114グリッド　**主軸方向**　N－1°－W　**形状等**　不明　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数６点。そのうちカワラケ２点、銅銭３点を図示。　**備考**　全体に遺存が悪く、四肢骨の一部のみを検出。

ＤＢ－54号土壙墓（Fig. 40）

位置　X119・120Y113グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数12点。そのうちカワラケ２点を図示。　**備考**　全体に遺存が悪く、頭部のみを検出。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－55号土壙墓（Fig. 40、PL.10）

位置　X118Y113グリッド　**主軸方向**　N－12°－W　**形状等**　楕円形　**重複**　ＤＢ－14と重複し、新旧関係はＤＢ－14→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数９点。そのうち銅銭６点、五輪塔３点（火輪２・地輪１点）を図示。　**備考**　全体に遺存が悪く、頭部・四肢骨の一部のみを検出。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－56号土壙墓（Fig. 41）

位置　X118Y113グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数１点。　**備考**　本遺構からは骨片は検出されなかった。また、墓坑範囲も不明。周辺に配された石は墓石と推測される。

ＤＢ－57号土壙墓（Fig. 41）

位置　X117・118Y112グリッド　**主軸方向**　N－28°－W　**形状等**　［楕円形］　**重複**　ＤＢ－41と重複し、新旧関係は本遺構→ＤＢ－41の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数54点。そのうちカワラケ５点、板碑１点を図示。　**備考**　全体に遺存が悪く、歯のみを検出。北頭位右向屈葬。

ＤＢ－58号土壙墓（Fig. 41）

位置　X117・118Y114グリッド　**主軸方向**　N－2°－E　**形状等**　楕円形　時期　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　なし。　**備考**　本遺構からは骨片は検出されなかった。

（6）　火　葬　墓

ＦＢ－１号土壙墓（Fig. 41、PL.11）

位置　X119Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－1°－E　**形状等**　楕円形　**重複**　W－４と重複し、新旧関係はW－４→本遺構の順。　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数21点。そのうち銅銭３点を図示。　**備考**　顕著な被熱域は墓坑中央部で、灰の分布域とほぼ共通する。人骨も主に中央部より検出されており、各部分に重複するものが見受けられないことから、１個体を火葬したものと推測される。この点から、本遺構は数次にわたるものではなく、単次火葬と判断される。さらに、完全に人骨を収集せずに廃棄している点で、火葬跡と墓を兼ねたものとも思われるが、主要な部分の骨が検出されていないことから、取り残しの骨と考えられる。北頭位右向屈葬。

ＦＢ－２号土壙墓（Fig. 41、PL.11）

位置　X117Y112グリッド　**主軸方向**　N－25°－W　**形状等**　楕円形　**時期**　埋土や出土遺物から、14世紀後半～15世紀後半と考えられる。　**遺物**　総数３点。　**備考**　顕著な被熱域は墓坑中央部で、炭化物の分布域とほぼ共通する。さらに、東部の舌状部にも炭化物・灰が認められることから、この部分が焚口部と推定される。

本遺構から検出された遺構には、各部分に重複するものが見受けられないことから、１個体を火葬したものと推測される。この点から、本遺構は数次にわたるものではなく、単次火葬と判断される。さらに、完全に人骨を収集せずに廃棄している点で、火葬跡と墓を兼ねたものとも思われるが、主要な部分の骨が検出されていないことから、取り残しの骨と考えられる。北頭位右向屈葬。

（７）　グリッド等出土遺物

総数1,151点を検出。そのうちカワラケ10点（うち墨書土器片１点）、須恵高台椀１点、鉄製品４点、五輪塔３点（火輪３）宝筐印塔１点（相輪）、銅銭37点、瓦１点を図示。

Tab.2　住居跡　一覧表

遺構名	位　置	規　模(m)			面積	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物			旧番号
		東西	南北	壁現高 (cm)	(㎡)		位　置	構築材		土師器	須恵器	その他	
H－1	X128・129 Y113	(0.78)	(0.98)	51.5	(0.48)	N－92°－E	－		－				
H－2	X127～129 Y112・113	3.10	(4.12)	56.0	(9.67)	N－75°－E	東壁中央	凝灰岩・粘土	－	坏・甕	蓋・坏		
H－3	X121・122 Y112・113	[3.34]	[3.88]	－	[14.29]	N－72°－E	東壁中央		－	坏	坏		
H－4	X128・129 Y111・112	2.56	2.40	17.0	(4.39)	N－72°－E	－		－		坏		
H－5	X127・128 Y111・112	[3.42]	[4.86]	43.0	[15.6]	N－115°－W	西壁中央	粘土	－	坏			
H－6	X126～128 Y111・112	5.88	5.90	71.0	31.62	N－113°－W	西壁やや南	粘土・土師甕（支脚）	○	坏・甕			
H－7	X126・127 Y112・113	4.14	3.28	46.0	11.9	N－74°－E	東壁やや南	粘土・凝灰岩	○	坏・甕	高台椀		
H－8	X124～126 Y112・113	[4.06]	(4.50)	43.0	[16.85]	N－74°－E	－		－	甕			
H－9	X124・125 Y112・113	3.74	4.60	39.0	(15.38)	N－76°－E	東壁やや南	粘土	－	甕		瓦	
H－10	X117・118 Y112・113	4.20	[4.3]	25.0	[15.99]	N－74°－E	東壁中央		－	坏			
H－11	X119・120 Y111・112	(3.54)	(3.94)	8.0	[14.71]	N－87°－E	東壁やや北		－				
H－12	X119・120 Y111・112	2.78	3.78	13.5	[9.97]	N－78°－E	東壁中央	凝灰岩	－	坏			
H－13	X119・120 Y111・112	3.52	2.60	18.5	[8.31]	N－80°－E	東壁やや南		－	坏	坏		
H－14	X119・120 Y112・113	[3.6]	2.62	14.0	[8.4]	N－123°－E	東壁やや北		－	坏・甕	蓋		
H－15	欠　番												
H－16	X118 Y111・112	3.08	3.36		(8.94)	N－83°－E	東壁やや南			坏			
H－17	X118 Y111	－	－	14.0	－	N－75°－E	(東壁)		－				
H－18	X117 Y111	(2.24)	(2.78)	－	(11.19)	N－80°－E	(東壁)	凝灰岩・石	－	坏			
H－19	X116 Y110	(2.40)	(1.84)	37.0	(2.33)	N－56°－E	－	－	－				
H－20	X116・117 Y111	(3.44)	(1.76)	36.0	(9.38)	N－95°－E	(東壁)		－	甕			
H－21	X124 Y112・113	(1.48)	(2.24)	35.0	(6.55)	N－64°－E	－	－	－	坏			
H－22	X118・119 Y112・113	(3.22)	(3.20)	21.0	[7.5]	N－62°－E	－	－	－				
H－23	X109 Y114	(2.16)	(2.80)	－	(4.46)	N－105°－E	(東壁)		－				西・H－1
H－24	X108・109 Y116	2.58	2.70	－	6.47	N－77°－E	東壁やや南	瓦・粘土	－			瓦	西・H－2

Tab.3　溝跡・周溝状遺構計測表

遺構名	位　置	長さ (m)	深　さ(cm)		上　幅(cm)		下　幅(cm)		主軸方向	断面形	時　期	旧番号
			最大	最小	最大	最小	最大	最小				
W－1	X113・114 Y110～116	(13.90)	－	－	－	－	177.0	125.0	N－20°－W	逆台形	As－B降下後	
W－2	X113～117 Y110～116	(13.60)	143.0	113.0	500.0	426.0	210.0	62.0	N－15°－W	逆台形	As－B降下後	
W－3	X113～116 Y110～113	(11.40)	84.0	52.0	95.0	70.0	66.0	40.0	N－30°－E N－28°－W	逆台形	As－B降下後	
W－4	X119～123 Y110～115	(20.10)	98.0	35.0	93.0	30.0	21.0	5.0	N－0°－E	V字形	As－B降下後	
W－5	X124～129 Y110～112	(10.27)	34.0	5.0	53.0	26.0	30.0	11.0	N－75°－E	U字形	古代	
W－6	X117～120 Y115・116	[8.0]	42.0	4.0	104.0	60.0	65.0	50.0	N－106°－E	U字形	不明	
W－7	X116・117 Y111・112	4.10	73.0	23.0	112.0	96.0	88.0	78.0	N－1°－E	逆台形	As－B降下後	
W－8	X116・117 Y111・112	(4.90)	－	－	[150.0]	130.0	[120.0]	90.0	N－15°－E	U字形	As－B降下後	
W－9	X107 Y116・117	(1.94)	19.0	10.0	96.0	80.0	80.0	70.0	N－0°－E	逆台形	不明	西・W－2
1号 周溝状	X107～110 Y114～116	16.66	43.5	17.0	98.0	66.0	70.0	46.0	N－10°－W	U字形	As－B降下後	西・W－1

Tab.4　土坑・ピット計測表

遺構名	位　置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形　状	出土遺物	旧番号	遺構名	位　置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形　状	出土遺物	旧番号
D－1	X128 Y112	140	(116)	29.0	楕円形			D－23	X119 Y114・115	[140]	96	63.0	楕円形		
D－2	X128 Y113	[130]	[88]	41.0	[楕円形]			D－24	X119 Y112・113	[150]	[106]	29.0	不定形		
D－3	X118 Y112	212	[88]	38.0	不定形			D－25	X120・121 Y114	(218)	(54)	54.0	[楕円形]		
D－4	X128 Y111・112	210	(173)	79.0	(正方形)	釘		D－26	X119 Y111・112	140	[90]	16.5	[楕円形]		
D－5	X118 Y111	68	50	12.0	楕円形			D－27	X119 Y112	176	(80)	3.5	[長方形]		
D－6	X119 Y112	[140]	(125)	0.0	不定形			D－28	欠　番						
D－7	X121・122 Y113	(100)	70	43.0	長方形	銅銭		D－29	X119 Y113	[100]	63	40.0	[楕円形]	銅　銭	
D－8	X124 Y121・122	150	120	57.5	長方形			D－30	X119・120 Y113	186	110	29.0	長方形	須恵坏	
D－9	X121 Y113	[52]	[48]	34.5	[長方形]			D－31	X119 Y114	200	190	62.5	正方形	蔵骨器	
D－10	X117 Y113	76	48	17.0	楕円形			D－32	X118 Y114	89	57	32.5	楕円形		
D－11	X118・119 Y111・112	(260)	(220)	17.5	[正方形]			D－33	X121 Y111	162	160	45.0	正方形	カワラケ	
D－12	X118 Y115			26.0				D－34	X121 Y112	194	134	53.0	長方形		
D－13	X120・121 Y111・112	192	170	53.0	長方形			D－35	X121 Y111	(168)	(100)	(33.0)	長方形		
D－14	X120・121 Y113・114	200	(92)	43.0	[長方形]			D－36	X121 Y111	(218)	(130)	40.0	長方形		T－1
D－15	X118・118 Y112・113	152	[126]	45.0	長方形			D－37	X121 Y111・112	178	(120)	40.0	長方形		T－2
D－16	X120 Y113・114	254	(150)	23.5	(楕円形)	土師坏		D－38	X106 Y114・115	344	86	40.0	長方形		西・D－1
D－17	X119 Y112	184	(180)	21.0	不定形	カワラケ		D－39	X106 Y114	100	72	43.0	楕円形		西・D－2
D－18	X120 Y111	166	(112)	34.0	長方形			D－40	X110 Y111	60	42	28.0	楕円形		西・D－3
D－19	X119 Y111	122	92	31.0	楕円形			D－41	X110 Y111	(110)	110	25.0	円形		西・D－4
D－20	X117 Y114	95	90	20.5	円形	五輪塔		P－1	X108 Y115	100	60	33.5	楕円形		
D－21	X120 Y114	(238)	176	47.5	(楕円形)			P－2	X108 Y116・117	[50]	[40]	58.0	楕円形		
D－22	X123 Y112	112	94	48.0	楕円形										

Tab.5　土壙墓一覧表

番号	出土位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	主軸方向	形　状	葬　法	推定年齢 性　別	出土遺物	旧番号
DB－1	X115・116 Y111・112	－	－	－	不明	不明	[北西頭位 右向屈葬]		カワラケ	B 6
DB－2	X116 Y112	110	105	－	N－10°－W	楕円形	〃		銅銭	B 9
DB－3	X116 Y112	－	－	－	不明	不明	[北頭位 屈葬]		銅銭	B10
DB－4	X117 Y111	124	110	－	N－10°－W	隅丸方形	不明			B13
DB－5	X117 Y112	－	－	－	不明	不明	不明			B19
DB－6	X117 Y112・113	130	70	－	N－55°－E	楕円形	不明		銅銭	B20
DB－7	X118 Y111	90	60	－	N－0°－E	楕円形	[北頭位 右向屈葬]			B22
DB－8	X118 Y112・113	[84]	[62]	－	[N－33°－W]	不明	不明		カワラケ・銅銭	B25
DB－9	X118 Y112・113	105	60	23.5	N－80°－E	楕円形	東北東頭位 右向屈葬		板碑・銅銭	B25′
DB－10	X118 Y113	－	－	－	不明	不明	不明		鉄釘	B28
DB－11	X118 Y113	－	－	66.0	不明	不明	不明		カワラケ・銅銭	B28′
DB－12	X117 Y113	－	－	－	不明	不明	北西頭位 屈葬		カワラケ・銅銭	B29
DB－13	X117 Y113	－	－	－	不明	不明	不明			B29′
DB－14	X118・119 Y113	[140]	[80]	49.5	[N－19°－W]	[楕円形]	北頭位 左向屈葬		銅銭	B31
DB－15	X118・119 Y114	[107]	[53]	[20.0]	(N－36°－W)	[楕円形]	北北西頭位 右向屈葬		カワラケ	B32
DB－16	X118・119 Y114	145	120	40.0	N－27°－W	[隅丸方形]	不明		カワラケ	B32
DB－17	X118・119 Y114	－	－	－	不明	不明	不明			B32
DB－18	X118・119 Y114	135	90	65.0	N－16°－W	楕円形	北頭位 左向屈葬		銅銭	B32
DB－19	X118 Y114	－	－	－	不明	不明	不明		カワラケ・銅銭	B32′
DB－20	X119 Y114	－	－	－	不明	不明	不明		銅銭	B31′
DB－21	X119 Y114	[62]	[50]	29.0	[N－33°－E]	不明	北西頭位 右向屈葬		カワラケ・銅銭	B31′
DB－22	X119 Y114	－	－	－	不明	不明	不明			B31′
DB－23	X119 Y111	117	[97]	[20.5]	N－0°－E	隅丸長方形	北頭位 右向屈葬		カワラケ・銅銭	B33
DB－24	X119 Y113	－	－	－	[N－12°－W]	[楕円形]	北北西頭位 右向屈葬		銅銭	B35
DB－25	X118 Y114	130	110	59.0	N－2°－W	隅丸長方形	北西頭位 仰臥右向屈葬		カワラケ・板碑・銅銭	B42
DB－26	X119 Y113	104	[86]	31.0	N－2°－W	[楕円形]	北北西頭位 俯臥右向屈葬		鉄製品・銅銭	B43
DB－27	X119・120 Y112	167	110	20.5	N－0°－E	楕円形	北北西頭位 俯臥屈葬		銅銭	B44
DB－28	X118 Y113	130	[128]	66.0	N－30°－W	楕円形	北北西頭位 仰臥屈葬		五輪塔・板碑	B46
DB－29	X117 Y114・115	110	50	－	N－20°－W	不定形	北北西頭位 仰臥左向屈葬		銅銭	B48
DB－30	X117・118 Y111・112	[120]	84	22.0	[N－7°－W]	[楕円形]	北頭位 右向屈葬		板碑	B49

番号	出土位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	主軸方向	形　状	葬　法	推定年齢 性　別	出土遺物	旧番号
DB－31	X118 Y115	112	70	－	N－30°－W	楕円形	北北西頭位 俯臥屈葬		銅銭	B50
DB－32	X118 Y113	155	108	59.5	N－15°－W	楕円形	北北西頭位 右向屈葬		カワラケ・五輪塔・ 板碑・銅銭	B52
DB－33	X116 Y111	[118]	[68]	25.5	N－8°－W	[楕円形]	北北西頭位 仰臥左向屈葬		銅銭	B53
DB－34	X119 Y113	200	113	58.5	N－0°－E	楕円形	北頭位 右向屈葬		銅銭	B55
DB－35	X118・119 Y115	155	67	38.0	N－0°－E	不定形	不明		銅銭	B60
DB－36	X119 Y113	90	78	13.5	N－2°－E	楕円形	北西頭位 右向屈葬		銅銭	B61
DB－37	X117 Y112	117	63	23.0	N－25°－W	楕円形	不明		鉄製品・銅銭	B62
DB－38	X117 Y113	[73]	[65]	18.0	[N－18°－E]	[楕円形]	不明		カワラケ・銅銭	B64
DB－39	X117 Y114	116	60	9.5	N－5°－E	隅丸長方形	不明			B65
DB－40	X117 Y112・113	103	90	28.0	N－39°－E	円形	不明		板碑・鉄製品・銅銭	B66
DB－41	X117 Y112	130	98	27.0	N－100°－E	楕円形	不明		板碑・カワラケ	B68
DB－42	X117 Y113	108	84	18.0	N－50°－E	楕円形	不明		銅銭	B69
DB－43	X118 Y114	96	67	25.0	N－17°－W	楕円形	[北北西頭位 屈葬]		銅銭	B70
DB－44	X118 Y114	110	90	55.0	N－53°－E	楕円形	西南西頭位 仰臥屈葬		カワラケ・五輪塔・ 銅銭	B71
DB－45	X117 Y114	111	82	30.0	N－18°－W	楕円形	[北西頭位 屈葬]		銅銭	B72
DB－46	X118 Y114	112	50	28.0	N－3°－W	隅丸長方形	不明		カワラケ・銅銭	B74
DB－47	X119 Y114	69	63	27.5	N－2°－E	隅丸方形	不明		銅銭	B75
DB－48	X119 Y113・114	[114]	62	40.0	N－8°－W	[隅丸長方 形]	北北西頭位 右向屈葬		銅銭	B77
DB－49	X117 Y113	98	60	19.0	N－22°－W	楕円形	北頭位 俯臥左向屈葬		銅銭	B78
DB－50	X117 Y113・114	[92]	[90]	19.0	N－4°－E	[楕円形]	不明		カワラケ	B79
DB－51	X117 Y113	[105]	[70]	45.0	[N－18°－E]	[楕円形]	北北東頭位 右向屈葬		銅銭	B80
DB－52	X117 Y113	140	[88]	24.0	N－15°－E	[楕円形]	不明			B81
DB－53	X118 Y114	125	93	48.0	N－1°－W	不明	不明		カワラケ・銅銭	B82
DB－54	X119・120 Y113	－	－	18.0	不明	不明	[北頭位 仰臥]		カワラケ	B83
DB－55	X118 Y113	71	50	43.0	N－12°－W	楕円形	不明		五輪塔・銅銭	B84
DB－56	X118 Y113	－	－	－	不明	不明	不明			B85
DB－57	X117・118 Y112	91	71	16.0	N－28°－W	[楕円形]	不明		カワラケ・板碑	B86
DB－58	X117・118 Y114	62	52	－	N－2°－E	楕円形	不明			B89
FB－1	X119 Y111・112	165	115	25.0	N－1°－E	楕円形	不明		銅銭	FB－1・2
FB－2	X117 Y112	130	80	38.5	N－25°－W	楕円形	不明			B67

Tab.6　土器観察表

番号	遺構番号／層位	器種	①口径 ②器高	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
1	H－2 埋土	坏 土師器	①[11.8] ②(3.5)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	体部：ゆるやかに内湾、篦削り。口縁部：直立、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り。内面撫で。	堀方覆土	
2	H－2 床直	坏 土師器	①[14.8] ②4.3	①中粒②良好 ③橙色④1/5	体部：ゆるやかに内湾、篦削り。口縁部：直立、横撫で。底部：平底気味、篦削り。内面撫で。	28	
3	H－2 床直	坏 土師器	①[13.0] ②3.8	①細粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/4	体部：ゆるやかに内湾、篦削り。口縁部：直立、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り。内面撫で。	20	
4	H－2 埋土	坏 土師器	①[11.0] ②2.6	①細粒②良好 ③にぶい橙色④5/6	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：外傾、横撫で。底部：平底気味、篦削り後撫で。内面撫で。	覆土	
5	H－2 床直	坏 須恵器	①12.0 ②3.2	①細粒②良好 ③灰オリーブ色④4/9	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：回転篦切り後篦調整。内面轆轤撫で。	17	
6	H－2 床直	坏 須恵器	①15.5 ②3.8	①細粒②良好 ③オリーブ黒色④2/5	轆轤整形。体部：内湾気味。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：回転篦切り後篦調整。内面轆轤撫で。	10	
7	H－2 床直	坏 須恵器	①[10.8] ②3.1	①細粒②良好 ③灰色④1/5	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：わずかに外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り後篦調整。内面轆轤撫で。	覆土	
8	H－2 床直	蓋 須恵器	①16.0 ②3.6	①細粒②良好 ③灰黄褐色④1/2	轆轤整形。天井部：膨らみを持ちながら傾斜、轆轤痕。口縁部：かえり。リング状つまみ、後付。	26	
9	H－2 床直	甕 土師器	①[21.8] ②(12.7)	①細粒②良好 ③明赤褐色④口縁部1/4～体部一部	体部：上半部は横位、中間部は斜位の篦削り。口縁部：外反、横撫で。底部欠損。内面撫で。	32	
10	H－3 床直	坏 土師器	①[12.6] ②(2.5)	①細粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/10	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：外傾、横撫で。底部欠損。内面撫で。	覆土	
11	H－3 床直	坏 須恵器	①14.8 ②4.1	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：回転篦削り後篦調整。内面轆轤撫で。	覆土	
12	H－4 竈	坏 灰釉陶器	①13.6 ②4.0	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：回転篦削り後篦調整。内面轆轤撫で。	竈覆土	
13	H－5 埋土	坏 土師器	①[13.0] ②3.5	①細粒②良好 ③橙色④1/2	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：外傾、横撫で。底部：丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	覆土	
14	H－5 埋土	坏 土師器	①[11.2] ②[3.3]	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/3	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：外反、横撫で。底部：丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	覆土	
15	H－6 床直	坏 土師器	①[17.4] ②(3.2)	①細粒②良好 ③橙色④1/3	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：直立、横撫で。底部：丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	5	
16	H－6 床直	坏 土師器	①[11.2] ②(3.2)	①細粒②良好 ③橙色④1/4	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：内傾、端部つまみ出し、横撫で。底部：丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	65	
17	H－6 床直	坏 土師器	①[11.0] ②3.4	①細粒②良好 ③橙色④1/2	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：外傾、横撫で、交換点に稜。底部：丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	1	
18	H－6 床直	坏 土師器	①[12.0] ②(2.6)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/5	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：外反、横撫で、交換点に稜。底部：浅い丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	49	
19	H－6 埋土	坏 土師器	①[13.0] ②(3.2)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/5	体部：内湾気味、篦削り。口縁部：内湾、横撫で。底部欠損。内面撫で。	覆土	
20	H－6 床直	坏 土師器	①[11.4] ②3.4	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	体部：内湾気味、篦削り。口縁部：内湾、横撫で。底部：浅い丸底。内面撫で。	24	
21	H－6 床直	坏 土師器	①11.1 ②(3.1)	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/4	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：直立、横撫で、交換点に稜。底部：丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	14	歪み
22	H－6 埋土	坏 土師器	①[11.8] ②(2.7)	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/4	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：直立、端部外反、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	覆土	
23	H－6 床直	坏 土師器	①[11.8] ②3.4	①細粒②良好 ③橙色④1/2	体部：ゆるやかに内湾、篦削り。口縁部：内傾、端部つまみ出し、横撫で、交換点に稜。底部：浅い丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	3	
24	H－6 床直	坏 土師器	①13.5 ②4.1	①細粒②良好 ③橙色④3/4	体部：ゆるやかに内湾、篦削り。口縁部：内傾、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	45	内外面煤付着
25	H－6 床直	坏 土師器	①11.6 ②4.0	①細粒②良好 ③明赤褐色④7/8	体部：内湾、篦削り。口縁部：直立、横撫で。底部：丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	60	
26	H－6 床直	坏 土師器	①[12.4] ②4.0	①細粒②良好 ③橙色④3/5	体部：内湾、篦削り。口縁部：外傾、横撫で、交換点に稜。底部：浅い丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	覆土	
27	H－6 床直	坏 土師器	①[11.8] ②3.9	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/2	体部：内湾、篦削り。口縁部：直立、横撫で、交換点に強い稜。底部：丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	15	
28	H－6 床直	甕 土師器	①17.8 ②24.9	①細粒②良好 ③明黄褐色④4/5	体部：上半部に最大径、上半部は縦位、下半部は横位の篦削り。口縁部：外反、横撫で。底部：平底。内面撫で。	58	
29	H－6 埋土	甕 土師器	①[23.6] ②(6.5)	①細粒②良好 ③明赤褐色④口縁部1/5～体部一部	体部：上半部は横位の篦削り。口縁部：外反、横撫で。底部欠損。内面撫で。	18	
30	H－7 床直	坏 土師器	①11.5 ②3.5	①細粒②良好 ③明褐色④3/4	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：直立、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	覆土	
31	H－7 床直	坏 土師器	①[17.4] ②3.8	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/2	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：直立、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	8	
32	H－7 床直	高台_ 須恵器	①17.4 ②4.4	①細粒②良好 ③灰オリーブ色④4/5	轆轤整形。体部：内湾気味、顕著な轆轤痕。口縁部：外反気味、轆轤撫で。底部：回転篦切り、つまみ出し高台。	20	
33	H－7 床直	甕 土師器	①[17.4] ②(12.5)	①細粒②良好 ③灰褐色④口縁部～体部1/4	体部：上半部は縦位、下半部は斜位・横位の篦削り。口縁部：外反、端部つまみ出し、横撫で。底部欠損。内面撫で。	5	
34	H－8 床直	甕 土師器	①[18.6] ②11.3	①細粒②良好 ③にぶい橙色④口縁部～体部1/4	体部：上半部は斜位、中央部は横位の篦削り。口縁部：外反、端部つまみ出し、横撫で。底部欠損。内面撫で。	5	
35	H－9 竈	坏 土師器	①[11.2] ②(3.6)	①細粒②良好 ③にぶい黄褐色④口縁部1/6	体部：内湾気味、篦削り後撫で。口縁部：直立、横撫で。底部欠損。内面撫で。	竈覆土	
36	H－9 埋土	丸瓦	長さ(22.0) 厚さ(2.1)	①細粒②良好 ③灰色④広端部側面一部残存	行基式。凹面：布目、糸切り痕。凸面：削り後回転台撫で。側面：切取後面取り。	10	
37	H－10 床直	坏 土師器	①[10.8] ②3.5	①細粒②良好 ③橙色④2/3	体部：内湾、篦削り後撫で。口縁部：ほぼ直立、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り後撫で。内面撫で。	B52－1	内外面煤付着
38	H－12 床直	坏 土師器	①[14.2] ②4.3	①細粒②良好 ③橙色④2/3	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：外傾、横撫で。底部：丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	1	
39	H－13 床直	坏 土師器	①12.6 ②3.6	①細粒②良好 ③明赤褐色④完形	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：直立、横撫で。底部：丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	5	口縁部煤付着
40	H－13 床直	坏 土師器	①12.6 ②3.2	①細粒②良好 ③橙色④1/2	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：直立、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	16	

番号	遺構番号／層位	器種	①口径 ②器高	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
41	H－13 床直	坏 土師器	①15.2 ②3.2	①中粒②良好 ③明赤褐色④2/3	体部：ゆるやかに内湾、篦削り後撫で。口縁部：外反、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り後篦撫で。内面撫で。	7	
42	H－13 床直	坏 土師器	①(15.3) ②(4.8)	①細粒②良好 ③橙色④3/4	体部：外傾、篦削り後撫で。口縁部：外傾、横撫で。底部：平底気味、篦削り後篦撫で。内面撫で、放射状暗文。	11	
43	H－13 床直	坏 須恵器	①[15.2] ②[3.9]	①細粒②良好 ③灰白色④1/3	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：わずかに外反、轆轤撫で。底部：回転糸切り。内面轆轤調整。	14	
44	H－13 床直	坏 須恵器	①(10.0) ②(3.3)	①細粒②良好 ③灰白色④口縁部一部欠損	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：回転糸切り後篦調整。内面轆轤調整。	18	
45	H－13 床直	坏 須恵器	①11.9 ②3.4	①細粒②良好 ③灰白色④口縁部一部欠損	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外反気味、轆轤撫で。底部：回転篦切り後篦調整。内面轆轤調整。	12	
46	H－14 床直	坏 土師器	①[13.8] ②3.9	①細粒②良好 ③橙色④1/2	体部：ゆるやかに内湾、篦削り。口縁部：外傾気味、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り。内面撫で。	3	
47	H－14 覆土	坏 土師器	①[11.2] ②2.2	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/4	体部：ゆるやかに内湾、篦削り。口縁部：端部でわずかに内湾、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り。内面撫で。	覆土	
48	H－14 床直	蓋 須恵器	①17.5 ②2.8	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。天井部：膨らみを持ちながら傾斜、轆轤痕。口縁部：かえり。	2	
49	H－14 埋土	蓋 須恵器	①[18.6] ②(2.9)	①細粒②良好 ③灰色④1/4つまみ欠損	轆轤整形。天井部：膨らみを持ちながら傾斜、轆轤痕。口縁部：かえり。	堀方覆土	
50	H－14 床直	甕 土師器	①[18.8] ②　－	①細粒②良好 ③明赤褐色④口縁部1/3～体部上半	体部：上半部は斜位の篦削り。口縁部：大きく外反、横撫で。底部欠損。内面撫で。	1	口縁外部釉薬付着
51	H－16 床直	坏 土師器	①12.8 ②3.5	①細粒②良好 ③にぶい赤褐色④一部欠損	体部：ゆるやかに内湾、篦削り。口縁部：直立、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り。内面撫で。	2	
52	H－16 床直	坏 土師器	①[13.2] ②(3.8)	①細粒②良好 ③橙色④1/4	体部：外傾、篦削り。口縁部：わずかに外反、横撫で。底部：平底気味、篦削り。内面撫で、放射状暗文。	5	
53	H－18 床直	坏 土師器	①[12.4] ②(3.5)	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/3	体部：ゆるやかに内湾、篦削り。口縁部：外反、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り。内面撫で。	7	
54	H－20 床直	甕 土師器	①[21.4] ②(27.3)	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/3	体部：上半部は横位、下半部は斜位の篦削り。口縁部：外反、横撫で。底部欠損。内面撫で。	9	
55	H－20 床直	甕 土師器	①[10.7] ②(14.5)	①細粒②良好 ③橙色④口縁部1/10～体部	体部：上半部は横位、下半部は斜位の篦削り。口縁部：コの字くずれ、横撫で。底部欠損。内面撫で。	20	
56	H－20 埋土	甕 土師器	①[10.8] ②(7.8)	①細粒②良好 ③橙色④口縁部1/3～体部上半	体部：上半部は横位の篦削り。口縁部：外反、輪積痕、横撫で。底部欠損。内面撫で。	1	
57	H－21 床直	坏 土師器	①[16.0] ②(5.1)	①細粒②良好 ③橙色④口縁部～体部1/4	体部：内湾、篦削り後撫で。口縁部：直立、横撫で。底部：丸底、篦削り後撫で。内面撫で。	1	内外面煤付着
58	H－24 埋土	丸瓦	長さ(15.4) 厚さ(2.0)	①細粒②良好 ③灰色④側面一部残存	行基式。凹面：布目、糸切り痕。凸面：削り後回転台撫で、斜格子叩き目文。側面：切取後面取り。	1	
59	H－24 埋土	丸瓦	長さ(25.0) 厚さ(2.2)	①細粒②良好 ③暗黄灰色④狭端部側面残存	行基式。凹面：布目、煤一部付着。凸面：平行線叩き後撫で。	6	石英・雲母片含
60	W－1 埋土	カワラケ	①11.8 ②2.9	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	轆轤整形。体部：外反。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	覆土	
61	W－1 埋土	坏 土師器	①[15.4] ②(4.1)	①細粒②良好 ③橙色④1/8	体部：内湾、篦削り。口縁部：内傾、横撫で、交換点に弱い稜。底部：浅い丸底、篦削り後撫で。内面撫で。	W－1 トレンチ	
62	W－2 埋土	坏 土師器	①[13.6] ②4.4	①細粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/2	体部：内湾、篦削り。口縁部：内湾、横撫で。底部：丸底、篦削り後撫で。内面撫で。	覆土	
63	W－2 埋土	坏 須恵器	①14.0 ②4.1	①細粒②良好 ③灰色④9/10	轆轤整形。体部：内湾気味、顕著な轆轤痕。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：回転糸切り後篦調整。内面轆轤撫で。	1	
64	W－4 埋土	坏 土師器	①[16.0] ②(4.5)	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/8	体部：内湾気味、篦削り。口縁部：内湾、横撫で、交換点に弱い稜。底部：丸底、篦削り後撫で。内面撫で。	覆土	
65	W－4 埋土	カワラケ	①11.5 ②2.7	①細粒②良好 ③橙色④完形	轆轤整形。体部：外反。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	1	
66	W－6 埋土	カワラケ	①11.0 ②3.3	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。体部：外反。口縁部：外反、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	1	
67	W－8 埋土	坏 土師器	①[9.4] ②2.8	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/3	体部：ゆるやかに内湾、篦削り。口縁部：外傾、横撫で、交換点に稜。底部：浅い丸底、篦削り。内面撫で。	覆土	
68	D－16 埋土	坏 土師器	①13.0 ②4.3	①細粒②良好 ③にぶい赤褐色④9/10	体部：ゆるやかに内湾、篦削り。口縁部：内湾、横撫で。底部：丸底、篦削り。内面撫で。	5	外面煤多量付着
69	D－16 埋土	坏 土師器	①[13.8] ②[3.4]	①細粒②良好 ③にぶい赤褐色④1/4	体部：ゆるやかに内湾、篦削り。口縁部：ほぼ直立、横撫で。底部：浅い丸底、篦削り。内面撫で。	覆土	
70	D－16 埋土	坏 須恵器	①9.0 ②3.8	①細粒②良好 ③灰色④ほぼ完形	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外反、轆轤撫で。底部：回転篦切り後篦調整。内面轆轤撫で。	1	
71	D－17 埋土	カワラケ	①10.4 ②2.7	①細粒②良好 ③橙色④3/10	轆轤整形。体部：外傾、顕著な轆轤痕。口縁部：外反、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	覆土	
72	D－30 埋土	坏 須恵器	①6.9 ②4.0	①細粒②良好 ③灰色④1/4	轆轤整形。体部：外傾、顕著な轆轤痕。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：回転篦切り後篦調整。内面轆轤撫で。	覆土	
73	D－33 埋土	カワラケ	①6.6 ②1.6	①細粒②良好 ③浅黄橙色④4/5	轆轤整形。体部：内湾気味、顕著な轆轤痕。口縁部：外反、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で、底部篦細工。	覆土	
74	DB－8 床直	カワラケ	①7.5 ②1.8	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	B25－2	
75	DB－11 床直	カワラケ	①10.5 ②2.3	①細粒②良好 ③浅黄橙色④ほぼ完形	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で、墨書。	B28－8	
76	DB－12 床直	カワラケ	①　－ ②　－	①細粒②良好 ③橙色④体部～底部破片	轆轤整形。体部～底部破片。轆轤撫で。内面撫で、内面に「 」の墨書。	B29覆土	
77	DB－15 床直	カワラケ	①[11.6] ②[2.6]	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/8	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	B32－14	
78	DB－16 床直	カワラケ	①11.1 ②2.6	①細粒②良好 ③橙色④完形	轆轤整形。体部：外反。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	B32－2	
79	DB－19 床直	カワラケ	①11.4 ②3.0	①細粒②良好 ③橙色④完形	轆轤整形。体部：外反気味。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り後篦調整。内面轆轤撫で。	B32′－1	
80	DB－21 床直	カワラケ	①14.5 ②3.5	①細粒②良好 ③橙色④7/8	轆轤整形。体部：外反気味。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	B31′－11	
81	DB－21 床直	カワラケ	①11.1 ②2.6	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	轆轤整形。体部：外反。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	B31′－7	

番号	遺構番号／層位	器種	①口径 ②器高	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備　考
82	ＤＢ－21 床直	カワラケ	①[10.6] ②2.4	①細粒②良好 ③浅黄色④1/2	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ31′－９	
83	ＤＢ－23 床直	カワラケ	①10.8 ②2.6	①細粒②良好 ③橙色④9/10	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ33－２	
84	ＤＢ－23 床直	カワラケ	①11.0 ②2.6	①細粒②良好 ③橙色④完形	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ33－１	
85	ＤＢ－25 床直	カワラケ	①8.0 ②1.8	①細粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ42－１	内外面煤付着
86	ＤＢ－32 床直	カワラケ	①[12.6] ②2.8	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ52－１	内外面煤多量付着
87	ＤＢ－32 床直	カワラケ	①7.9 ②2.3	①細粒②良好 ③橙色④9/10	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、後付撫で調整後回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ52－２	
88	ＤＢ－32 床直	カワラケ	①7.0 ②1.8	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ52－４	
89	ＤＢ－38 床直	カワラケ	①10.6 ②3.3	①細粒②良好 ③明黄褐色④完形	轆轤整形。体部：内湾気味。口縁部：大きく外反、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ64－１	
90	ＤＢ－38 床直	カワラケ	①9.8 ②2.6	①細粒②良好 ③明黄褐色④完形	轆轤整形。体部：内湾気味。口縁部：外反、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ64－２	
91	ＤＢ－38 床直	カワラケ	①11.0 ②2.9	①細粒②良好 ③明黄褐色④完形	轆轤整形。体部：内湾気味。口縁部：外反、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ64－３	
92	ＤＢ－41 床直	カワラケ	①8.0 ②1.9	①細粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：直立気味、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で、底部に膨らみ。	Ｂ68－５	
93	ＤＢ－44 埋土	カワラケ	①11.4 ②2.7	①細粒②良好 ③にぶい黄褐色④2/3	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外反気味、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ71－１	
94	ＤＢ－50 埋土	カワラケ	①6.4 ②1.8	①細粒②良好 ③橙色④9/10	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外反気味、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ79覆土	
95	ＤＢ－53 床直	カワラケ	①10.6 ②2.9	①細粒②良好 ③にぶい黄褐色④完形	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ82－５	
96	ＤＢ－53 床直	カワラケ	①8.2 ②2.3	①細粒②良好 ③橙色④完形	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ82－４	
97	ＤＢ－54 床直	カワラケ	①8.2 ②1.9	①細粒②良好 ③橙色④7/8	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で、内外面ほぼ同じ位置に「[illegible]」と「[illegible]」の墨書。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ83－２	
98	ＤＢ－54 床直	カワラケ	①11.0 ②2.7	①細粒②良好 ③浅い黄橙色④完形	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で、対極に「海」と「浄？」の墨書。底部：平底、回転糸切り後篦調整。内面轆轤撫で。	Ｂ83－１	
99	ＤＢ－57 床直	カワラケ	①[12.2] ②3.1	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外反、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ86－８	
100	ＤＢ－57 床直	カワラケ	①9.1 ②2.1	①細粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ86－５	
101	ＤＢ－57 床直	カワラケ	①8.3 ②2.4	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ86－４	
102	ＤＢ－57 床直	カワラケ	①9.1 ②1.8	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ86－６	
103	ＤＢ－57 床直	カワラケ	①15.5 ②3.4	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：大きく外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り後篦調整。内面轆轤撫で。	Ｂ86－１	
104	Ｂ24 埋土	カワラケ	①－ ②－	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④体部破片	轆轤整形。体部破片。轆轤撫で。内面撫で、「[illegible]」の墨書。	Ｂ24覆土	
105	Ｂ24′ 床直	カワラケ	①[10.6] ②3.5	①細粒②良好 ③橙色④1/4	轆轤整形。体部：外反気味。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り後篦撫で調整。内面轆轤撫で。	Ｂ24′－２	
106	Ｂ45 埋土	カワラケ	①[10.8] ②(2.8)	①細粒②良好 ③橙色④1/2	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：大きく外反、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ45－１	
107	Ｂ45 埋土	カワラケ	①7.7 ②2.5	①細粒②良好 ③橙色④7/10	轆轤整形。体部：内湾気味。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ45－１	
108	Ｂ47 床直	カワラケ	①10.9 ②2.4	①細粒②良好 ③にぶい橙色④3/5	轆轤整形。体部：外反気味。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ47－３	
109	Ｂ47 床直	カワラケ	①10.3 ②2.4	①細粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤整形。体部：外反気味。口縁部：膨らみながら外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｂ47－２	
110	Ｂ87 床直	カワラケ	①10.6 ②2.7	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。体部：外反気味。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り後篦調整。内面轆轤撫で。	Ｂ87－１	内外面に煤付着
111	東区覆土 埋土	カワラケ	①7.6 ②1.9	①細粒②良好 ③にぶい橙色④口縁部一部欠損	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｈ区－１	
112	東区覆土 埋土	カワラケ	①8.4 ②2.0	①細粒②良好 ③赤褐色④口縁部一部欠損	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｘ117 Ｙ115	
113	東区覆土 埋土	カワラケ	①[8.6] ②2.0	①細粒②良好 ③橙色④1/2	轆轤整形。体部：外傾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。	Ｈ-16-3	
114	西区覆土 埋土	高台埦 須恵器	①[17.8] ②[4.6]	①細粒②良好 ③灰色④1/4	轆轤整形。体部：内湾。口縁部：外傾、轆轤撫で。底部：回転篦切り後篦調整、付高台。内面轆轤撫で。	西覆土	
115	西区覆土 埋土	丸瓦	長さ(25.0) 厚さ(2.5)	①細粒②良好 ③赤褐色④側面一部破片	行基式。凹面：布目、刷毛目。凸面：平行線叩き後撫で。	西覆土 －83	

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より10cmを越える層位からの検出とした。
②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はｇである。現存値を（　）で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm）、祖粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab.7　石造物観察表

番号	遺構	器種	幅	厚さ	高さ	重さ	石　材	遺存度	登録番号	備　　考
1	D－20	五輪塔 水輪	26.8	－	16.1	6.8	角閃石安山岩	完形	1	上面の径20.0cm、底面の径17.4cm。
2	D－31	蔵骨器	40.5	28.6	28.8	25.8	輝石安山岩	完形	1	上方に穴。深さ12.2cm、径16.8cm。穴内面に工具痕。
3	DB－28	五輪塔 火輪	34.8	34.9	18.6	21.1	輝石安山岩	完形	B46－5	上方に深さ7.2cm、径9.3cmの枘穴。枘穴内面に工具痕。底面に放射状の工具痕。
4	DB－28	五輪塔 水輪	27.2	27.6	20	11.5	角閃石安山岩	完形	B46－3	上面の径19.7cm、底面の径19.5cm。上面に工具痕。
5	DB－32	五輪塔 火輪	34.9	32.4	18.5	19.5	角閃石安山岩	完形	B52－9	上方に深さ3.3cm、径6.5cmの枘穴。枘穴内面、側・底面に工具痕。被熱。
6	DB－44	五輪塔 地輪	30.9	32.9	25.2	30.1	角閃石安山岩	完形	B71－2	上面中央に窪み、工具痕。正面上方が面取り。
7	DB－44	宝篋印塔 相輪	9.5	－	(12.8)	0.8	輝石安山岩	一部残存	B71－3	宝珠と請花のみ残存。請花下面は摩耗。
8	DB－55	五輪塔 火輪	33.8	34.2	19.9	24.2	輝石安山岩	完形	B84－6	側・底面に工具痕。
9	DB－55	五輪塔 火輪	40.3	30.9	17.1	13.9	角閃石安山岩	完形	B84－7	被熱。
10	DB－55	五輪塔 地輪	28.6	28.7	21.6	22.3	角閃石安山岩	完形	B84－8	底面に工具痕。被熱。
11	東区覆土	五輪塔 火輪	(29.3)	(31.8)	17.7	10.3	角閃石安山岩	一部残存	東区フク土	上方に深さ4.6cm、径10.1cmの枘穴。枘穴内面に工具痕。
12	東区覆土	五輪塔 火輪	30.4	30.3	16.4	11.8	角閃石安山岩	完形	東区フク土	
13	東区覆土	五輪塔 火輪	31.7	30.2	15.2	14.9	輝石安山岩	完形	東区フク土	上面が長方形、16.0×8.0cm。側・底面に工具痕。
14	東区覆土	宝篋印塔 相輪	10.0	－	(19.0)	1.4	輝石安山岩	完形	東区フク土	九輪の途中から請花・伏鉢・枘まで残存。

注）幅・厚さ・高さの単位はcmであり、重さの単位はkgである。現存値を（　）で示した。

Tab.8　板碑観察表

番号	遺構	器種	幅	厚さ	高さ	重さ	石　材	遺存度	登録番号	備　　考
1	DB－9	板碑	61.8	(27.2)	3.0	8.7	緑泥片岩	ほぼ完形	B25′－3	阿弥陀如来が勢至菩薩と観音菩薩を脇侍として従えた阿弥陀三尊。蓮弁の形態から、室町期のもの。
2	DB－25	板碑	(30.6)	(14.8)	2.8	2.0	緑泥片岩	一部残存	B42－2	阿弥陀如来を表すキリーク。
3	DB－28	板碑	(28.1)	(18.7)	2.2	1.8	緑泥片岩	一部残存	B46－2	阿弥陀如来を表すキリーク。
4	DB－32	板碑	(18.9)	(20.7)	2.7	2.1	緑泥片岩	一部残存	B52－10	裏面に工具痕。
5	DB－40	板碑	(22.2)	(26.6)	2.5	2.5	緑泥片岩	一部残存	B66－3	
6	DB－41	板碑	(22.3)	(37.0)	3.3	4.3	緑泥片岩	一部残存	B68－6	
7	DB－57	板碑	(55.6)	18.8	2.5	5.0	緑泥片岩	一部残存	B86－9	

注）幅・厚さ・高さの単位はcmであり、重さの単位はkgである。現存値を（　）で示した。

Tab.9　石製品観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	登録番号
1	H－2・床直	臼玉	0.8	0.8	0.2	0.2	凝灰岩	完形	13
2	H－2・床直	臼玉	0.9	0.9	0.3	0.3	凝灰岩	完形	27
3	H－2・床直	臼玉	0.9	0.9	0.3	0.2	凝灰岩	完形	2
4	H－6・埋土	管玉	2.1	0.8	0.8	1.9	凝灰岩	完形	覆土
5	H－10・埋土	砥石	5.0	1.7	1.7	21.4	凝灰岩	一部残存	B62覆土

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より10cmを越える層位からの検出とした。
②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　）で示した。

Tab.10　鉄製品観察表

番号	遺構・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺存度	登録番号	備　　考
1	H－2・床直	刀子	11.6	1.3	0.5	23.2	ほぼ完形	8	
2	H－2・埋土	刀子	(4.5)	1.6	0.2	4.0	一部残存	覆土	
3	W－4・埋土	止め具	5.4	1.0	0.5	6.0	ほぼ完形	覆土	
4	1号周溝状遺構・埋土	角釘	10.1	0.8	0.6	13.6	完形	西W－1覆土	
5	1号周溝状遺構・埋土	角釘	4.1	0.6	0.3	3.5	完形	西W－1覆土	
6	D－4・埋土	角釘	6.5	1.0	0.5	5.1	完形	覆土	
7	DB－10・床直	紡錘車	15.3	4.0	0.4	12.6	完形	B28－1	
8	DB－12・埋土	角釘	4.7	0.4	0.4	2.2	完形	D区－2	
9	DB－13・埋土	角釘	(3.7)	0.5	0.5	2.2	一部残存	D区－9	
10	DB－26・床直	刀子	19.5	1.5	0.3	44.6	完形	B43－5	
11	DB－37・埋土	刀子	12.6	1.3	0.3	17.2	完形	B62覆土	
12	DB－37・埋土	刀子	(9.3)	1.4	0.4	22.4	一部残存	B62覆土	藁付着
13	DB－40・床直	角釘	4.4	0.4	0.4	5.6	完形	B66－4	L字状に屈曲
14	東区・埋土	角釘	(5.0)	0.3	0.4	3.1	一部残存	D区－1	
15	東区・埋土	角釘	(3.5)	0.4	0.3	1.5	一部残存	D区－3	
16	東区・埋土	角釘	8.0	4.5	3.5	6.5	完形	E区覆土	L字状に屈曲
17	東区・埋土	鎌	(5.7)	4.5	0.2	15.2	一部残存	東区覆土	

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より10cmを越える層位からの検出とした。
②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　）で示した。

Tab.11　銅銭一覧表

No.	遺構名	銭名	西暦	備　考	登録番号
1	DB－2	至和元宝	1054	藁紐付着	B 9 － 3
2	DB－2	熙寧元宝	1068		B 9 － 4
3	DB－3	洪武通宝	1368		B10－ 1
4	DB－3	皇宋通宝	1039		B10－ 2
5	DB－3	不明	－		B10－ 3
6	DB－6	皇宋通宝	1039		B20－ 1
7	DB－6	聖宋元宝	1101		B20－ 2
8	DB－6	熙寧元宝	1068		B20－ 8
9	DB－8	洪武通宝	1368	裏面「一銭」	B25－ 1
10	DB－9	洪武通宝	1368	裏面「福」	B25′ 2
11	DB－11	熙寧元宝	1068		B28′－ 1
12	DB－11	乾德元宝	920		B28′－ 2
13	DB－11	至道元宝	995		B28′－ 3
14	DB－11	洪武通宝	1368		B28′－ 4
15	DB－11	聖宋元宝	1101		B28′－ 5
16	DB－11	開元通宝	966		B28′－ 6
17	DB－12	太平通宝	976		B29－ 2
18	DB－12	開元通宝	966		B29－ 3
19	DB－12	元○○宝	－		B29－ 1
20	DB－12	天禧通宝	1017		B29－ 4
21	DB－12	洪武通宝	1368		B29－ 5
22	DB－12	元豊通宝	1078		B29－ 6
23	DB－12	祥符通宝	1009		B29－ 7
24	DB－14	○○○宝	－		B31－ 2
25	DB－14	不明	－		B31－ 3
26	DB－14	洪武通宝	1368		B31－ 4
27	DB－14	紹聖通宝	1094		B31－ 7
28	DB－14	不明	－		B31－ 9
29	DB－14	元豊通宝	1078		B31－10
30	DB－18	唐國通宝	985		B32－ 1
31	DB－18	開元通宝	966		B32－15
32	DB－18	永楽通宝	1408		B32－16
33	DB－18	永楽通宝	1408		B32－17
34	DB－19	不明	－		B32′－ 3
35	DB－19	－	－	43に接着	B32′－ 4
36	DB－19	－	－	44に接着	B32′－ 5
37	DB－19	太平通宝	976		B32′－ 6
38	DB－19	－	－	46に接着	B32′－ 7
39	DB－19	－	－	47に接着	B32′－ 8
40	DB－19	○○元宝	－		B32′－ 9
41	DB－20	至道元宝	995		B31′－ 1
42	DB－20	政和通宝	1111		B31′－ 2
43	DB－20	元豊通宝	1078		B31′－ 3
44	DB－21	不明	－		B31′－ 4
45	DB－21	熙寧元宝	1068		B31′－ 5
46	DB－21	至和通宝	1054		B31′－ 6
47	DB－21	元豊通宝	1078		B31′－12
48	DB－21	天聖元宝	1023		B31′－13
49	DB－21	元豊通宝	1078		B31′－14
50	DB－23	至道元宝	995		B33－ 3
51	DB－23	景德元宝	1004		B33－ 4
52	DB－23	治平元宝	1064		B33－ 5
53	DB－23	治平元宝	1064	藁紐付着	B33－ 7
54	DB－24	皇宋通宝	1039		B35－ 1
55	DB－24	大中通宝	1361	藁紐付着	B35－ 2
56	DB－24	元豊通宝	1078		B35－ 3
57	DB－24	政和通宝	1111		B35－ 4
58	DB－25	不明	－		B42－ 3
59	DB－25	－	－	59に接着	B42－ 4
60	DB－25	開元通宝	966		B42－ 5
61	DB－25	永楽通宝	1408		B42－ 6
62	DB－25	洪武通宝	1368		B42－ 7
63	DB－25	不明	－	和紙付着	B42－ 8
64	DB－26	洪武通宝	1368		B43－ 1
65	DB－26	洪武通宝	1368	和紙付着	B43－ 2
66	DB－26	元豊通宝	1078		B43－ 3
67	DB－26	皇宋通宝	1039		B43－ 6
68	DB－26	開元通宝	966		B43－ 7
69	DB－26	聖宋元宝	1101		B43－ 8
70	DB－26	乾元重宝	759		B43－ 9
71	DB－27	聖宋元宝	1101		B44－ 1
72	DB－27	熙寧元宝	1068		B44－ 2
73	DB 27	天聖元宝	1023		B44 3
74	DB－27	大定通宝	1178		B44－ 4
75	DB－27	天聖元宝	1023		B44－ 5
76	DB－27	聖宋元宝	1101		B44－ 6
77	DB－29	永楽通宝	1408		B48－ 1
78	DB－29	永楽通宝	1408		B48－ 2
79	DB－29	永楽通宝	1408		B48－ 3
80	DB－29	永楽通宝	1408	藁紐付着	B48－ 4
81	DB－29	永楽通宝	1408		B48－ 5
82	DB－29	永楽通宝	1408		B48－ 6
83	DB－31	永楽通宝	1408		B50－ 1
84	DB－31	永楽通宝	1408		B50－ 2
85	DB－31	－	－	84に接着	B50－ 3
86	DB－31	永楽通宝	1408		B50－ 4
87	DB－31	永楽通宝	1408		B50－ 5
88	DB－31	永楽通宝	1408		B50－ 6
89	DB－32	洪武通宝	1368		B52－ 5
90	DB－32	紹聖元宝	1094		B52－ 6
91	DB－32	不明	－		B52－ 7
92	DB－32	紹聖元宝	1094		B52－ 8
93	DB－32	政和通宝	1111		B52－11
94	DB－32	不明	－		B52－12
95	DB－33	不明	－		B53－ 1
96	DB－33	－	－	95に接着	B53－ 2
97	DB－33	不明	－		B53－ 3
98	DB－34	元符通宝	1098		B55－ 1
99	DB－34	景祐元宝	1034		B55－ 2
100	DB－34	乾元重宝	759		B55－ 3
101	DB－34	政和通宝	1111	100に接着	B55－ 3
102	DB－34	不明	－		B55－ 4
103	DB－34	熙寧元宝	1068		B55－ 5
104	DB－34	政和通宝	1111		B55－ 7
105	DB－35	皇宋通宝	1039		B60－ 1
106	DB－35	－	－	105に接着	B60－ 2
107	DB－35	永楽通宝	1408	和紙付着	B60－ 4
108	DB－35	－	－	107に付着	B60－ 5
109	DB－35	－	－	108に付着	B60－ 6
110	DB－35	－	－	109に付着	B60－ 7
111	DB－36	天聖元宝	1023		B61－ 1
112	DB－36	元符通宝	1098		B61－ 2
113	DB－36	天聖元宝	1023		B61－ 3
114	DB－36	元符通宝	1098		B61－ 4
115	DB－36	嘉祐通宝	1056	藁紐付着登録	B61－ 5
116	DB－36	○平元宝	－		B61－ 6
117	DB－36	開元通宝	966		B61－ 7
118	DB－36	聖宋元宝	1101		B61－ 8

No.	遺構名	銭名	西暦	備　考	登録番号
119	DB－37	永楽通宝	1408		B62－2
120	DB－37	元豊通宝	1078		B62－3
121	DB－37	開元通宝	966		B62－5
122	DB－37	永楽通宝	1408		B62－6
123	DB－37	景徳元宝	1004		B62－7
124	DB－37	聖宋元宝	1101		B62覆土
125	DB－37	永楽通宝	1408		B62覆土
126	DB－37	永楽通宝	1408		B62覆土
127	DB－38	政和通宝	1111		B64－4
128	DB－38	永楽通宝	1408		B64－5
129	DB－38	永楽通宝	1408		B64－6
130	DB－38	永楽通宝	1408		B64－7
131	DB－38	永楽通宝	1408		B64－8
132	DB－38	永楽通宝	1408		B64－9
133	DB－38	永楽通宝	1408		B64－10
134	DB－40	元豊通宝	1078		B66－6
135	DB－40	不明	－		B66－7
136	DB－40	熙寧元宝	1068		B66－8
137	DB－40	紹聖元宝	1094		B66－9
138	DB－40	大中通宝	1361		B66－10
139	DB－40	治平元宝	1064		B66－11
140	DB－42	咸平元宝	998	藁紐付着	B69－1
141	DB－42	永楽通宝	1408		B69－2
142	DB－42	元豊通宝	1078		B69－3
143	DB－42	太平通宝	976		B69－4
144	DB－42	永楽通宝	1408		B69－6
145	DB－42	不明	－		B69－5
146	DB－43	洪武通宝	1368		B70－1
147	DB－43	皇宋通宝	1039		B70－2
148	DB－43	－	－	147に接着麻紐付着	B70－3
149	DB－44	洪武通宝	1368		B71－4
150	DB－44	政和通宝	1111		B71－5
151	DB－44	熙寧元宝	1068		B71－6
152	DB－44	不明	－		B71－7
153	DB－44	不明	－		B71－8
154	DB－44	－	－	153に接着	B71－9
155	DB－45	元豊通宝	1078		B72－1
156	DB－45	元豊通宝	1078		B72－2
157	DB－45	天聖元宝	1023		B72－3
158	DB－45	治平元宝	1064		B72－4
159	DB－46	洪武通宝	1368		B74－1
160	DB－46	○○元宝	－		B74－4
161	DB－46	元豊通宝	1078		B74－5
162	DB－47	開元通宝	966		B75－1
163	DB－47	紹聖元宝	1094		B75－2
164	DB－48	洪武通宝	1368		B77－1
165	DB－48	永楽通宝	1408		B77－2
166	DB－48	開元通宝	966		B77－3
167	DB－49	元豊通宝	1078		B78－1
168	DB－49	不明	－		B78－2
169	DB－49	元豊通宝	1078		B78－3
170	DB－51	元祐通宝	1086		B80－1
171	DB－53	政和通宝	1111		B82－1
172	DB－53	開元通宝	966		B82－2
173	DB－53	元符通宝	1098		B82－3
174	DB－55	祥符通宝	1009		B84－1
175	DB－55	開元通宝	966		B84－1
176	DB－55	皇宋通宝	1039		B84－2
177	DB－55	皇宋通宝	1039		B84－3
178	DB－55	熙寧元宝	1068		B84－4
179	DB－55	祥符通宝	1009		B84－5
180	FB－1	聖宋元宝	1101		FB1－3
181	FB－1	政和通宝	1111		FB1－4
182	FB－1	熙寧元宝	1068		FB1－5
183	B－57	祥符通宝	1009		B57－1
184	B－58	治平元宝	1064		B58－1
185	B－58	元豊通宝	1078		B58－2
186	B－58	永楽通宝	1408		B58－3
187	B－58	正隆元宝	1158		B58－4
188	B－58	永楽通宝	1408	藁紐付着	B58－5
189	B－58	元祐通宝	1086	藁紐付着	B58－6
190	B－58	皇宋通宝	1039		B58覆土
191	B－73	景祐元宝	1034		B73－4
192	B－73	大観通宝	1107		B73－5
193	B－73	至道元宝	995		B73－6
194	B－76	熙寧元宝	1068		B76覆土
195	B－76	政和通宝	1111		B76覆土
196	B－76	元豊通宝	1078		B76覆土
197	B－76	開禧通宝	1201		B76覆土
198	B－76	嘉祐通宝	1056		B76覆土
199	B－88	皇宋通宝	1039		B88－1
200	D－7	永楽通宝	1408		D－7－1
201	D－7	永楽通宝	1408		D－7－2
202	D－7	永楽通宝	1408		D－7－3
203	D－7	永楽通宝	1408		D－7－4
204	D－7	永楽通宝	1408		D－7－5
205	D－29	政和通宝	1111		D－29－1
206	D－29	皇宋通宝	1039		D－29－2
207	D－29	皇宋通宝	1039		D－29－3
208	W－7	永楽通宝	1408		W－7－5
209	W－7	宣徳通宝	1433		W－7－6
210	東区覆土	不明	－		東区－1
211	東区覆土	永楽通宝	1408		東区－2
212	東区覆土	永楽通宝	1408		東区－3
213	東区覆土	不明	－		東区－4
214	東区覆土	不明	－		東区－5
215	東区覆土	開元通宝	966		東区－6
216	東区覆土	皇宋通宝	1039		東区－7
217	東区覆土	洪武通宝	1368		東区－8
218	東区覆土	－	－	217に接着	東区－9
219	東区覆土	永楽通宝	1408		東区－10
220	東区覆土	淳熙元宝	1174		東区－11
221	東区覆土	熙寧元宝	1068		東区－12
222	東区覆土	元豊通宝	1078		東区－13
223	東区覆土	咸平元宝	998		D区－4
224	東区覆土	皇宋通宝	1039		D区－5
225	東区覆土	紹興通宝	1131		D区－8
226	東区覆土	景祐元宝	1034		D区－10
227	東区覆土	至和元宝	1054		G区覆土
228	東区覆土	政和通宝	1111		G区覆土
229	東区覆土	永楽通宝	1408		G区覆土
230	東区覆土	元豊通宝	1078		溝

注）銭名の判別は、実物、拓本、X線撮影より行った。

Tab.12　出土銅銭年代別一覧

遺構	銭　名	西暦	枚数
1	乾元重宝	759	2
2	乾德元宝	920	1
3	開元通宝	966	12
4	太平通宝	976	3
5	唐國通宝	985	1
6	至道元宝	995	4
7	咸平元宝	998	2
8	景德元宝	1004	2
9	祥符通宝	1009	4
10	天禧通宝	1017	1
11	天聖元宝	1023	6
12	景祐元宝	1034	3
13	皇宋通宝	1039	14
14	至和元宝	1054	2
15	至和通宝	1054	1
16	嘉祐通宝	1056	2
17	治平元宝	1064	5
18	熙寧元宝	1068	12
19	元豊通宝	1078	19
20	元祐通宝	1086	2
21	紹聖通宝	1094	5
22	元符通宝	1098	4
23	聖宋元宝	1101	8
24	大観通宝	1107	1
25	政和通宝	1111	12
26	紹興通宝	1131	1
27	正隆元宝	1158	1
28	淳熙元宝	1174	1
29	大定通宝	1178	1
30	開禧通宝	1201	1
31	大中通宝	1361	2
32	洪武通宝	1368	15
33	永楽通宝	1408	40
34	宣德通宝	1433	1
	不明	—	39
総　数			230

Tab.13　銅銭出土枚数順一覧

遺構	銭　名	西暦	枚数
1	永楽通宝	1408	40
2	元豊通宝	1078	19
3	洪武通宝	1368	15
4	皇宋通宝	1039	14
5	開元通宝	966	12
5	熙寧元宝	1068	12
5	政和通宝	1111	12
8	聖宋元宝	1101	8
9	天聖元宝	1023	6
10	治平元宝	1064	5
10	紹聖通宝	1094	5
12	至道元宝	995	4
12	祥符通宝	1009	4
12	元符通宝	1098	4
15	太平通宝	976	3
15	景祐元宝	1034	3
17	乾元重宝	759	2
17	咸平元宝	998	2
17	景德元宝	1004	2
17	至和元宝	1054	2
17	嘉祐通宝	1056	2
17	元祐通宝	1086	2
23	乾德元宝	920	1
23	唐國通宝	985	1
23	天禧通宝	1017	1
23	至和通宝	1054	1
23	大観通宝	1107	1
23	紹興通宝	1131	1
23	正隆元宝	1158	1
23	淳熙元宝	1174	1
23	大定通宝	1178	1
23	開禧通宝	1201	1
23	大中通宝	1361	2
23	宣德通宝	1433	1
	不明	—	39
総　数			230

元総社蒼海遺跡群(5)出土人骨：遺構編

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　　楢崎　修一郎

はじめに

元総社蒼海遺跡群(5)は，群馬県前橋市元総社町に所在する。前橋市埋蔵文化財発掘調査団による発掘調査が，2005(平成17)年９月～同年12月まで行われた。人骨は，東区の西側に位置するW－２号溝と東区のほぼ中央に位置するW－４号溝に囲まれた区域に密集して検出された。この区域から，中世の人骨60体が出土したので以下に報告する。出土人骨は，清掃後，可能な限り接合及び復元を行い，観察・計測・写真撮影を行った。なお,出土頭蓋骨の計測方法はマルティン[MARTIN](馬場，1991)に従い，出土歯の計測方法は，藤田(1949)に従った。また，出土頭蓋骨計測値の比較は，中世人骨は鈴木他(1956)を用い近世人骨は鈴木(1967)を用いた。また,歯の歯冠計測値の比較は，中近世人骨はMATSUMURA[松村](1995)を用い，現代日本人は権田(1959)を用いた。なお，出土人骨は2005年12月末に本報告者の手元に届いたが，出土人骨の数が膨大であることと，人骨を乾燥させる期間及び清掃・接合復元・観察・計測・写真撮影等をすべて一人で行っているため，約３ヶ月という短い期間ではすべてを報告することは不可能であった。以下の報告は，主に頭蓋骨及び歯に限り，四肢骨等についてはまた別の機会に譲りたい。

１．１号土壙墓出土人骨［旧６号土壙墓］

(1)人骨の出土状況：人骨は，規模不明の土壙から出土している。人骨は，長径約80cm・短径約30cmの範囲から検出されている。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北西で，顔面部を南西に向け右側を下にした横臥（側臥）屈葬で埋葬されたと推定される。被葬者は，約４歳の女性であると推定されている。1975年の現代日本人の統計では４歳女子の身長は101.7cmであるので，土壙の大きさからも屈葬であると推定される。

(3)副葬品：副葬品は，カワラケが検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまり良くなく，頭蓋骨及び四肢骨片が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土永久歯の歯冠計測値が比較的小さいため，被葬者の性別は女性(女児)であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の萌出状態から，被葬者の死亡年齢は約４歳であると推定される。

２．２号土壙墓出土人骨［旧９号土壙墓］

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約110cm・短径約105cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨２点[至和元宝(1054年)１点・熙寧元宝(1068年)１点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，遊離歯及び四肢骨片が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値が比較的大きいため，被葬者の性別は男性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が面状に露出するマルティンの３度の状態であるが，一部それほど咬耗していない歯もあるので，総合的に被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。

３．３号土壙墓出土人骨[旧10号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，規模不明の土壙から出土している。人骨は，長径約70cm・短径約60cmの範囲から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋

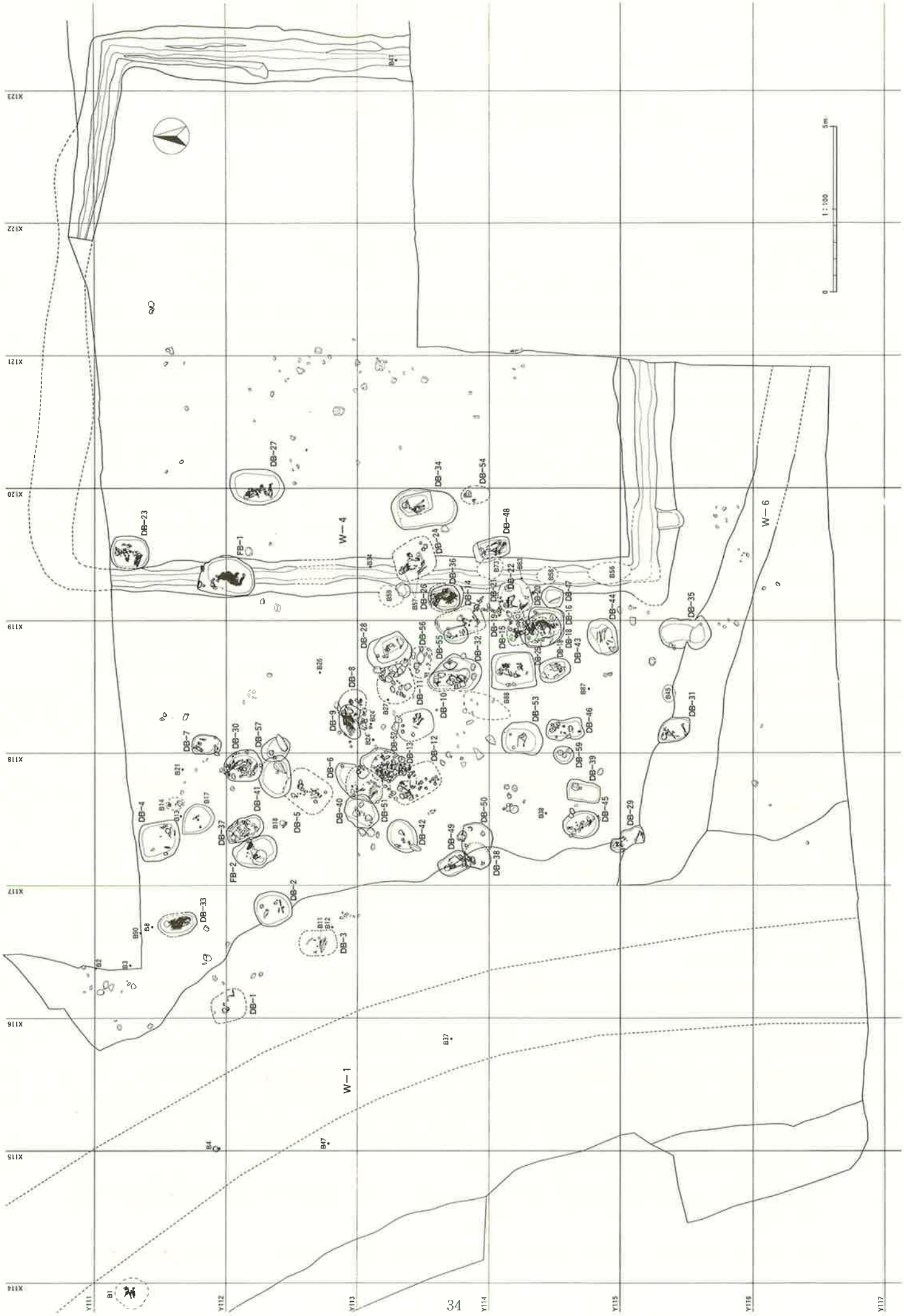


Fig. 5　W－4号溝跡・墳墓群分布図

葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨３点[皇宋通宝(1039年)１点・洪武通宝(1368年)１点・不明１点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまり良くなく，四肢骨片が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：四肢骨片が比較的小さく華奢であるため，被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないが，恐らく成人であると推定される。

４．４号土壙墓出土人骨[旧13号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約124cm・短径約110cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いため，被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(3)副葬品：副葬品は，検出されていない。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，四肢骨片が出土している。

本土壙出土人骨は，残存状態が悪いため，被葬者の個体数・性別・死亡年齢は不明である。

５．５号土壙墓出土人骨[旧19号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，規模不明の土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いため，被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(3)副葬品：副葬品は，検出されていない。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，遊離歯及び四肢骨片が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：上顎大臼歯の歯冠計測値が比較的小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：遊離歯の上顎右第３大臼歯の咬耗度を観察すると，象牙質が全面に露出するマルティンの３度の状態である。したがって，被葬者の死亡年齢は約50歳前後であると推定される。

(8)被葬者の古病理：遊離歯の上顎右第２大臼歯は，歯冠部が齲蝕により完全に崩壊して残根状態になったＣ４の状態である。

６．６号土壙墓出土人骨[旧20号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約130cm・短径約70cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いため、被葬者の頭位及び埋蔵状態は不明である。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨３点[皇宋通宝(1039年)１点・熙寧元宝(1068年)１点・聖栄元宝(1101年)１点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片・四肢骨片が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値が比較的小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状あるいは線状に露出するマルティンの２度の状態であるので，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

７．７号土壙墓出土人骨[旧22号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約90cm・短径約60cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，検出されていない。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，遊離歯及び四肢骨片が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値が大きいため，被葬者の性別は男性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状及びある程度面状に露出するマルティンの２度及び３度の中間の状態であるので，被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。

８．８号土壙墓出土人骨[旧25号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約84cm・短径約62cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，カワラケ及び銭貨１点[洪武通宝(1368年)]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片・四肢骨片が出土している。

本土壙出土人骨は，残存状態が悪いため，被葬者の個体数・性別・死亡年齢は不明である。

９．９号土壙墓出土人骨[旧25'土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約105cm・短径約60cm・深さ約24cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は東北東側で，顔面部を北側に向け仰臥屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，板碑及び銭貨１点[洪武通宝(1368年)]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は比較的良く，ほぼ全身骨格が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値が比較的大きく，四肢骨も比較的大きく頑丈であるため，被葬者の性別は男性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状・線状及びある程度面をなして露出している，マルティンの２度及び３度の中間の状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。

10．10号土壙墓出土人骨[旧28号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，規模不明の土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品ではないが，鉄釘が検出されている。木棺に使用したものと推定される。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，四肢骨片が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土右寛骨に前耳状面溝が認められたため，被葬者の性別は女性であると推定される。この前耳状面前溝は，経産婦に認められるという研究があるため，被葬者は経産婦であった可能性が高い。

(7)被葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないため，被葬者の死亡年齢は不明であるが，少なくとも経産婦であるため，成人であると推定される。

11．11号土壙墓出土人骨［旧28'土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，規模不明の土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，カワラケ・銭貨６点[乾徳元宝(920年)１点・開元通宝(966年)１点・至道元宝(995年)・熙寧元宝(1068年)１点・聖宋元宝(1101年)１点・洪武通宝(1368年)２点]が検出されている。

本土壙出土人骨は，残存状態が悪いため，被葬者の個体数・性別・死亡年齢は不明である。

12. 12号土壙墓出土人骨[旧29号土壙墓]

⑴人骨の出土状況：人骨は，規模不明の土壙から出土している。人骨は長径約70cm・短径約35cmの範囲から出土している。

⑵被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北西側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。被葬者は，約９歳の男性であると推定されている。1975年の現代日本人の統計では９歳男子の身長は131.6cmであるので，土壙の大きさからも屈葬であると推定される。

⑶副葬品：副葬品は，瓦及び銭貨７点[開元通宝(966年)１点・太平通宝(976年)１点・祥符通宝(1009年)１点・天禧通宝(1017年)１点・元豊通宝(1078年)１点・洪武通宝(1368年)１点・不明１点]が検出されている。

⑷人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪いが，ほぼ全身骨格が出土している。

⑸被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑹被葬者の性別：出土永久歯の歯冠計測値が比較的大きいため，被葬者の性別は男性(男児)であると推定される。

⑺被葬者の死亡年齢：出土歯の萌出状態から，被葬者の死亡年齢は約９歳であると推定される。

⑻被葬者の古病理：出土歯の下顎右第２乳臼歯の近心面にＣ２の状態の齲触が認められた。

13. 13号土壙墓出土人骨[旧29′土壙墓]

⑴人骨の出土状況：人骨は，規模不明の土壙から出土している。

⑵被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

⑶副葬品：副葬品は，検出されていない。

⑷人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片及び乳歯と永久歯の遊離歯が出土している。

⑸被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑹被葬者の性別：出土永久歯の歯冠計測値が比較的小さいため，被葬者の性別は女性(女児)であると推定される。

⑺被葬者の死亡年齢：出土歯の萌出状態より，被葬者の死亡年齢は約10歳であると推定される。

14. 14号土壙墓出土人骨[旧31号土壙墓]

⑴人骨の出土状況：人骨は，長径約140cm・短径約80cm・深さ約50cmの楕円形土壙から出土している。

⑵被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を東側に向け左側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

⑶副葬品：副葬品は，布及び銭貨６点[元豊通宝(1078年)１点・紹聖通宝(1094年)１点・洪武通宝(1368年)１点・不明３点]が検出されている。

⑷人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまり良くないが，頭蓋骨・遊離歯・四肢骨片が出土している。

⑸被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑹被葬者の性別：頭蓋骨の厚さが比較的厚く，出土歯の計測値も比較的大きいため，被葬者の性別は男性であると推定される。

⑺被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合を観察すると，どれも内板及び外板が癒合しておらず開放の状態である。したがって，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

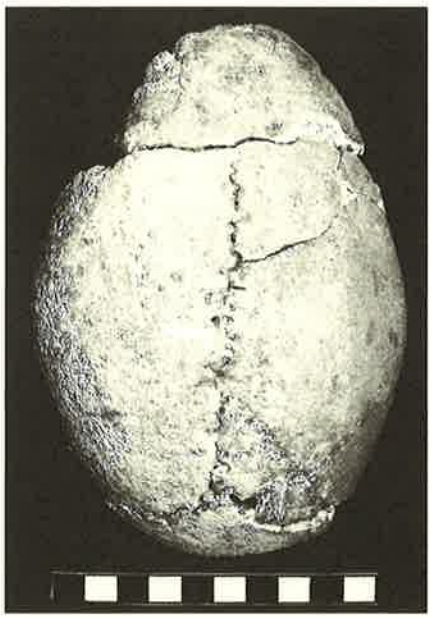


写真１．元総社蒼海遺跡群(5)14号土壙墓出土人骨

[頭蓋骨上面観]

15. 15号土壙墓出土人骨[旧32号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約107㎝・短径約53㎝・深さ約20㎝の楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北北西側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，検出されていない。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は，比較的良く，ほぼ全身骨格が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：頭蓋骨の厚さは比較的厚い。また，出土歯の歯冠計測値が比較的大きいため，被葬者の性別は男性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：上顎骨の切歯縫合は癒合し，消失した状態である。また，出土歯の咬耗度を観察すると象牙質が点状に露出したマルティンの２度の状態であるので，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理：下顎右第２大臼歯は，歯冠が崩壊したＣ４の状態の齲触である。また，同左第１大臼歯の遠心歯冠部は崩壊したＣ４の状態であり，同第３大臼歯は頰側歯冠部はＣ３の状態の齲触が認められた。さらに，下顎右第３大臼歯は、恐らく生前脱落をしており、歯槽も閉鎖し退縮した状態である。

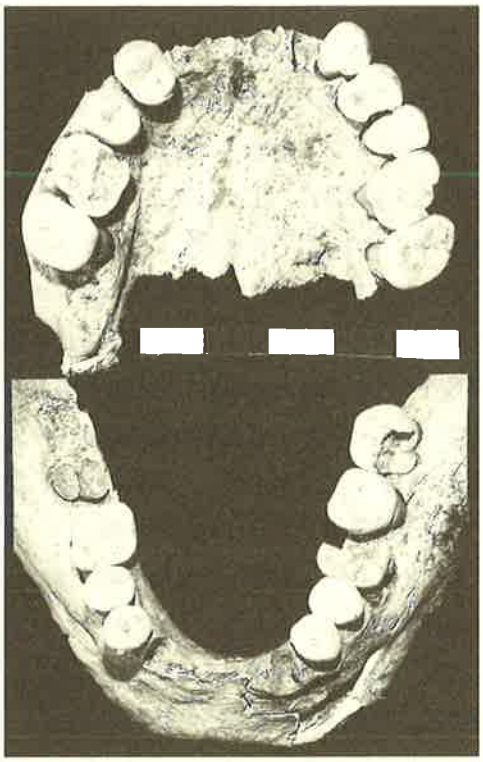


写真２．元総社蒼海遺跡群(5)15号土壙墓出土人骨
[上：上顎歯咬合面観，下：下顎歯咬合面観]

16. 16号土壙墓出土人骨[旧32号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約145㎝・短径約120㎝・深さ約40㎝の楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，検出されていない。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，下顎骨が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土歯には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値が比較的大きいため，被葬者の性別は男性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が線状及び点状に露出するマルティンの２度の状態である。また，下顎左第１及び第２大臼歯は，咬耗がエナメル質のみである。さらに，同第３大臼歯は萌出しておらず未萌出の状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は約20歳代であると推定される。

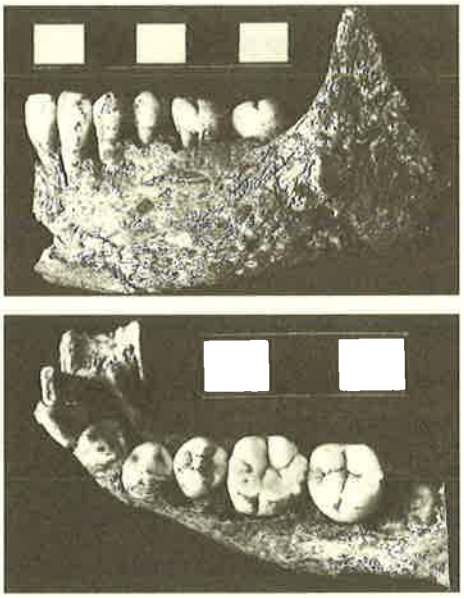


写真３．元総社蒼海遺跡群(5)16号土壙墓出土人骨
[上：左下顎骨側面観，下：左下顎骨咬合面観]

17. 17号土壙墓出土人骨[旧32号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，規模不明の土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いため，被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(3)副葬品：副葬品は，検出されていない。

出土人骨の残存状態が悪いため，被葬者の個体数・性別・死亡年齢は不明である。

18. 18号土壙墓出土人骨[旧32号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約135cm・短径約90cm・深さ約65cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を東側に向け左側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨4点[開元通宝(966年)1点・唐國通宝(985年)1点・永楽通宝(1408年)2点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は比較的良く，ほぼ全身骨格が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：頭蓋骨及び四肢骨が大きく頑丈であるため，被葬者の性別は男性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合を観察すると，内板及び外板共に癒合しておらず開放の状態である。また，上顎骨の切歯縫合を観察すると，癒合して消失した状態である。出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が線状・点状に露出するマルティンの2度の状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

写真4．元総社蒼海遺跡群(5)18号土壙墓出土人骨頭骨前面観

写真5．元総社蒼海遺跡群(5)18号土壙墓出土人骨頭骨左側面観

写真6．元総社蒼海遺跡群(5)18号土壙墓出土人骨頭骨上面観

(8)被葬者の古病理：出土歯には，歯石の付着が認められた。一部破損しているため確かではないが，上顎左右第１大臼歯は生前脱落をおこし歯槽も閉鎖し，退縮した状態である。第２及び第３大臼歯部は破損しているため，不明である。また，上顎左第１切歯は，異常萌出か異常磨耗の状態である。

写真７．元総社蒼海遺跡群(5)18号土壙墓出土人骨上下歯前面観

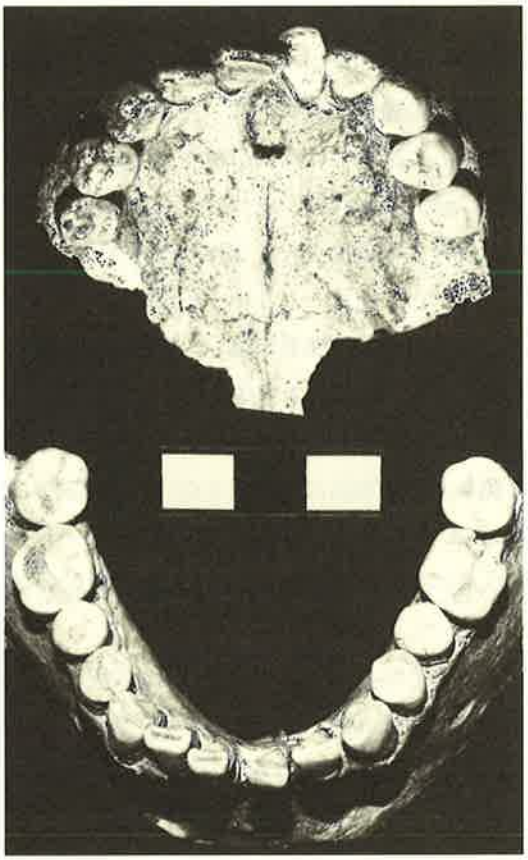


写真８．元総社蒼海遺跡群(5)18号土壙墓出土人骨咬合面観

19. 19号土壙墓出土人骨[旧32' 土壙墓]

(1)人骨の出土状況：規模不明の土壙から出土しているが，長径約30cm・短径約20cmの範囲から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨７点[太平通宝(976年)１点・不明６点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，乳歯の遊離歯が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：永久歯が出土しておらず，歯冠を計測することが不可能であるので，被葬者の性別は不明である。しかしながら，乳歯の歯冠が比較的小さいため，被葬者の性別は女性である可能性が高い。

(7)被葬者の死亡年齢：出土乳歯の歯根が破損しているため，被葬者の死亡年齢推定は困難である。しかしながら，乳歯には咬耗が認められないので，乳歯が萌出直後であると推定される。したがって，被葬者の死亡年齢は，約１歳半～２歳であると推定される。

20. 20号土壙墓出土人骨[旧31' 土壙墓]

(1)人骨の出土状況：規模不明の土壙から出土しているが，長径約30cm・短径約20cmの範囲から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，屈葬で埋葬されたと推定される。被葬者は，約３歳の男性であると推定されている。1975年の現代日本人の統計では３歳男子の身長は95.3cmであるので，土壙の大きさからも屈葬であると推定される。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨９点[至道元宝(995年)１点・元聖元宝(1023年)１点・至和通宝（1054年)１点・熙寧元宝(1068年)１点・元豊通宝(1078年)３点・政和通宝(1111年)１点・不明１点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，乳歯及び永久歯の遊離歯が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土歯には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土永久歯の歯冠計測値が比較的大きいため，被葬者の性別は男性(男児)であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：歯の萌出状態から，被葬者の死亡年齢は約３歳であると推定される。

21．21号土壙墓出土人骨[旧31'土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約62cm・短径約50cm・深さ約29cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北西側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨６点[天聖通宝(1023年)１点・熙寧元宝(1068年)１点・元豊通宝(1078年)２点・不明２点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の保存状態は比較的良く，ほぼ全身骨格が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：頭蓋骨の乳様突起は小さく，出土歯の計測値は比較的小さく，下顎骨も比較的華奢であるため，被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が線状・点状・ある程度面をなして露出するマルティンの２度及び３度の中間の状態である。頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合を観察すると，いずれも内板及び外板共に癒合せず開放の状態である。一方，上顎骨の切歯縫合は癒合した状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は，約40歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理：上顎右第２小臼歯は歯冠が崩壊したＣ４の状態であり，同左右第１大臼歯近心部はＣ３の状態の齲触である。また，下顎右第３大臼歯の近心歯頸部にＣ２の状態の齲触が認められた。

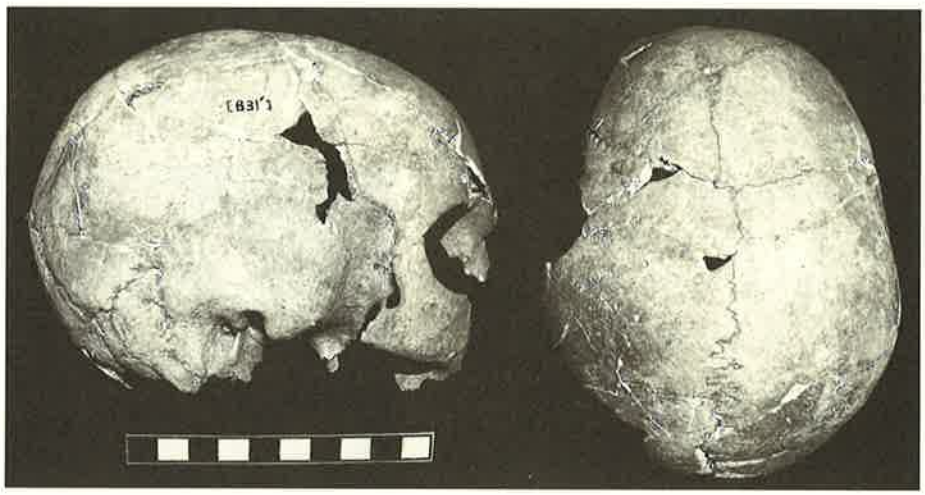


写真９．元総社蒼海遺跡群(5)21号土壙墓出土人骨頭蓋骨[左：右側面観、右：上面観]

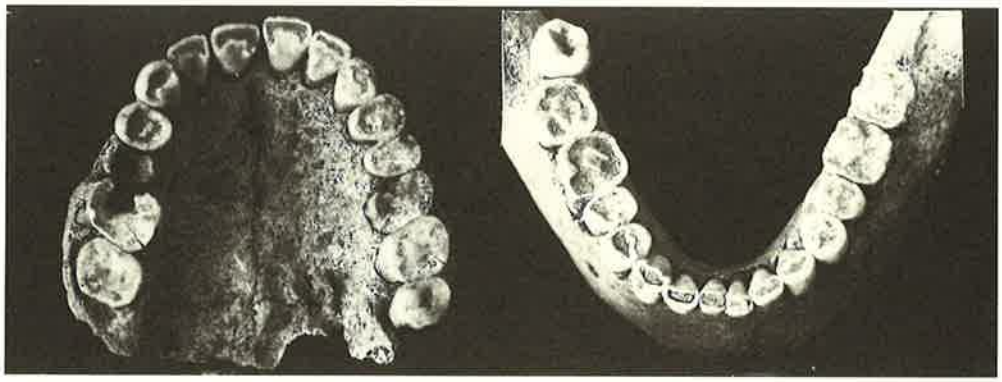


写真10．元総社蒼海遺跡群(5)21号土壙墓出土人骨上下顎骨[左：上顎歯咬合面観、右：下顎歯咬合面観]

22. 22号土壙墓出土人骨[旧31'土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，規模不明の土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，検出されていない。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片及び遊離歯が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値は比較的小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：歯の萌出状態から，被葬者の死亡年齢は約９歳であると推定される。

23. 23号土壙墓出土人骨[旧33号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約117cm・短径約97cm・深さ約21cmの隅丸長方形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，カワラケ及び銭貨４点[至道元宝(995年)１点・景徳元宝(1004年)１点・治平元宝(1064年)２点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の保存状態はあまり良くないが，ほぼ全身骨格が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土頭蓋骨を観察すると，骨の厚さは比較的厚い。しかしながら，前頭結節が認められ乳様突起も小さい。また，下顎骨も小さく華奢であり出土歯の歯冠計測値も比較的小さいので，被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合及び矢状縫合は，内板及び外板共に癒合しておらず開放の状態である。また，上顎骨の切歯縫合は癒合して消失している。さらに，出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状・線状・ある程度面を持って露出するマルティンの２度及び３度の中間である。総合的に，被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理：上顎右第１大臼歯の遠心面歯頸部はＣ３の状態の齲触である。また，下顎左右第２大臼歯は生前脱落をしており，歯槽も閉鎖し退縮が認められる。第３大臼歯は，生前脱落なのか先天性欠如なのかは判定できない。

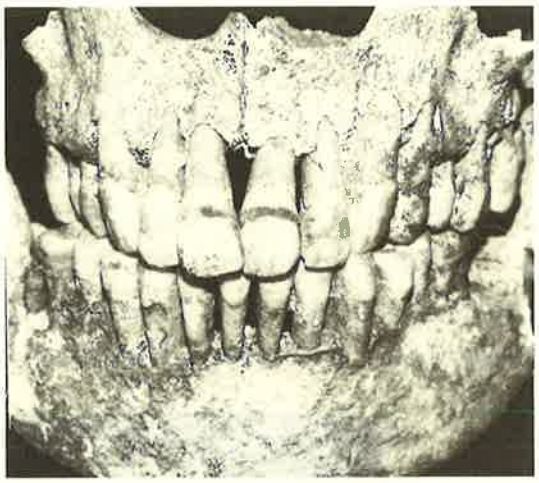


写真11．元総社蒼海遺跡群(5)23号土壙墓出土人骨上下顎前面観

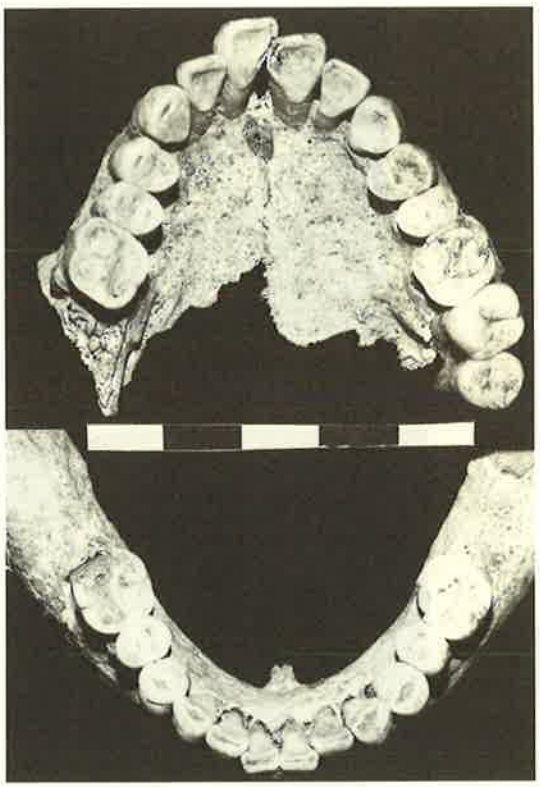


写真12．元総社蒼海遺跡群(5)23号土壙墓出土人骨上下顎歯[上：上顎歯咬合面観，下：下顎歯咬合面観]

24. 24号土壙墓出土人骨[旧35号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，規模不明の楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北北西側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨４点[皇宋通宝(1039年)１点・元豊通宝(1078年)１点・政和通宝(1111年)１点・大中通宝(1361年)１点] が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は比較的良く，ほぼ全身骨格が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土頭蓋骨の骨の厚さは比較的厚く，乳様突起も比較的発達している。しかしながら，出土歯の歯冠計測値は比較的小さく，下顎骨も華奢で小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状あるいは線状に露出するマルティンの２度の状態であるので，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理：上顎右第１小臼歯～第１大臼歯の３本は，生前脱落をし歯槽も閉鎖し退縮した状態である。上顎右第１切歯の近心にＣ２がまた遠心にＣ３の状態の齲触が認められた。また，下顎右第２大臼歯は，近心及び頬側歯頸部にＣ２が，遠心頬側咬頭にＣ２の状態の齲触が認められた。さらに，同右第２大臼歯は，歯冠部が崩壊したＣ４の状態の齲触が認められた。

写真13. 元総社蒼海遺跡群(5)24号土壙墓出土人骨上下顎骨[右側面観]

25. 25号土壙墓出土人骨[旧42号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約130cm・短径約110cm・深さ約59cmの隅丸長方形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北北西側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，板碑・カワラケ・銭貨６点[開元通宝(966年)１点・洪武通宝(1368年)１点・永楽通宝(1408年)１点・不明３点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は比較的良く，ほぼ全身骨格が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：頭蓋骨及び四肢骨は，全体的に大きく頑丈である。また，寛骨大座骨切痕の角度が狭いため，総合的に被葬者の性別は男性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合は，内板及び外板共に癒合しておらず開放の状態である。上顎骨の切歯縫合は，癒合しており消失している。歯の咬耗度を観察すると，象牙質が線状・点状に露出するマルティンの２度の状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理：上顎右第１大臼歯は，生前脱落をしており歯槽も閉鎖し退縮した状態である。左側は破損しており，不明である。

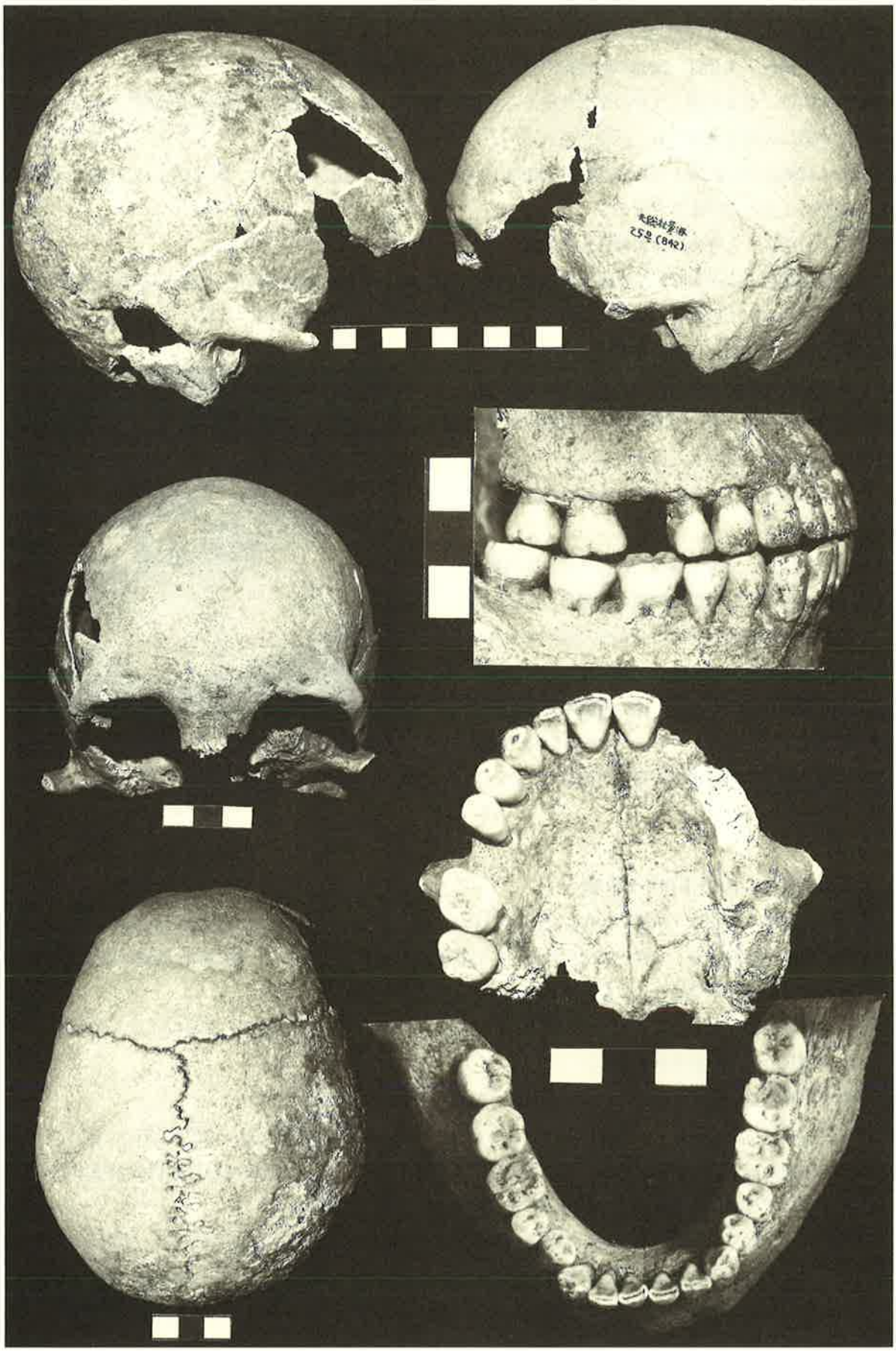


写真14.　元総社蒼海遺跡群(5)25号土壙墓出土人骨

[左上：頭蓋骨右側面観，右上：頭蓋骨左側面観，左中：頭蓋骨前面観，左下：頭蓋骨上面観，右中：上下顎骨右側面観(上顎第１大臼歯の生前脱落に注意)、右下：上下顎歯咬合面観]

26. 26号土壙墓出土人骨[旧43号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約104cm・短径約86cm・深さ約31cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いため、被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(3)副葬品：副葬品は，刀子及び銭貨７点[乾元重宝(759年)１点・開元通宝(966年)１点・皇宋通宝(1039年)１点・元豊通宝(1078年)１点・聖宋元宝(1101年)１点・洪武通宝(1368年)２点]が検出されている。

出土人骨の残存状態が悪いため、被葬者の個体数・性別・死亡年齢は不明である。

27. 27号土壙墓出土人骨[旧44号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約167cm・短径約110cm・深さ約21cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨６点[天聖元宝(1023年)２点・熙寧元宝(1068年)１点・聖宋元宝(1101年)２点]・大定通宝(1178年)１点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は比較的良く，ほぼ全身骨格が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：頭蓋骨の厚さは比較的薄く，出土歯の歯冠計測値は比較的小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状に露出するマルティンの２度の状態であり，頭蓋骨の主要縫合も癒合していない状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理：出土歯には，歯石の付着が認められた。齲蝕は，認められなかった。下顎左第２及び第３大臼歯は，生前脱落をしており歯槽も閉鎖し退縮した状態である。

写真15. 元総社蒼海遺跡群(5)27号土壙墓出土左下顎骨

28. 28号土壙墓出土人骨[旧46号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約130cm・短径約128cm・深さ約66cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，五輪塔・板碑・銭貨が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまり良くなく，頭蓋骨片・遊離歯・四肢骨片が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値は比較的小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状・線状・面状に露出するマルティンの２度と３度の中間の状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理：上顎右第２大臼歯の頬側面及び遠心面の歯頸部にＣ２の齲触が認められた。

29. 29号土壙墓出土人骨[旧48号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約110cm・短径約50cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を東側に向け左側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨６点[永楽通宝(1408年)６点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまり良くないが，ほぼ全身骨格が出土している。
(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。
(6)被葬者の性別：出土頭蓋骨の乳様突起は比較的小さく，出土歯の歯冠計測値が比較的小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。
(7)被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合は，内板及び外板共に癒合しておらず開放の状態である。また，出土歯の咬耗度を観察すると，エナメル質に限定される歯と象牙質が点状に露出する歯とがあり，マルティンの１度及び２度の中間であるので，被葬者の死亡年齢は約20歳代であると推定される。

30．30号土壙墓出土人骨[旧49号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約120㎝・短径約84㎝・深さ約22㎝の楕円形土壙から出土している。
(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥（側臥）屈葬で埋葬されたと推定される。
(3)副葬品：副葬品は，板碑が検出されている。
(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は比較的良く，ほぼ全身骨格が出土している。
(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。
(6)被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値が比較的大きく，四肢骨も比較的大きく頑丈であるため被葬者の性別は男性であると推定される。
(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状に露出するマルティンの２度の状態であるので，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

31．31号土壙墓出土人骨[旧50号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約112㎝・短径約70㎝の楕円形土壙から出土している。
(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。
(3)副葬品：副葬品は，銭貨６点[永楽通宝(1408年)５点・不明１点]が検出されている。
(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまり良くないが，ほぼ全身骨格が出土している。
(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。
(6)被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値が比較的大きく，四肢骨も大きく頑丈であるため被葬者の性別は男性であると推定される。
(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状に露出するマルティンの２度の状態であるので，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

32．32号土壙墓出土人骨[旧52号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約155㎝・短径約108㎝・深さ約60㎝の楕円形土壙から出土している。
(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥（側臥）屈葬で埋葬されたと推定される。
(3)副葬品：副葬品は，五輪塔・板碑・カワラケ・銭貨６点[紹聖元宝(1094年)２点・政和通宝(1111年)１点・洪武通宝(1368年)１点・不明２点]が検出されている。
(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまり良くないが，ほぼ全身骨格が出土している。
(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。
(6)被葬者の性別：出土頭蓋骨の厚さが比較的薄く，出土歯の歯冠計測値が比較的小さいので被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状に露出するマルティンの２度の状態であるので，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

33. 33号土壙墓出土人骨[旧53号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約118cm・短径約68cm・深さ約26cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，仰臥屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，不明の銭貨３点が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨は比較的残存状態が良く，ほぼ全身骨格が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値は比較的大きいが，四肢骨が華奢で小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，エナメル質のみであるマルティンの１度の状態であるので，被葬者の死亡年齢は約20歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理：出土歯には，全体的に歯石の付着が認められた。齲蝕は，上顎右第１小臼歯の舌側咬頭は崩壊したＣ４の状態であり，同左第１大臼歯の近心側咬頭は崩壊したＣ４の状態である。

34. 34号土壙墓墓出土人骨[旧55号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約200cm・短径約113cm・深さ約59cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥（側臥）屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨７点[乾元重宝(759年)１点・景祐元宝(1034年)１点・熙寧元宝(1068年)１点・元符通宝(1098年)１点・政和通宝(1111年)２点・不明１点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：出土人骨の残存状態はあまり良くないが，ほぼ全身骨格が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値が比較的小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：上顎骨の切歯縫合を観察すると，癒合した状態であるので，約30歳以上であると推定される。また，出土歯の咬耗度は，象牙質が線状及び点状に露出するマルティンの２度の状態であるので，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理：上顎左右第２切歯は，栓状歯である。

写真16．元総社蒼海遺跡群(5)34号土壙墓出土上顎歯前面観

35. 35号土壙墓出土人骨[旧60号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約155cm・短径約67cm・深さ約38cmの不定形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いため，被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨６点[皇宋通宝(1039)年１点・永楽通宝(1408年)１点・不明４点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，乳歯の遊離歯が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土歯には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：永久歯が出土しておらず乳歯のみなので，被葬者の性別は不明である。

(7)被葬者の死亡年齢：歯の萌出状態から，被葬者の死亡年齢は約18ヶ月（１歳半）であると推定される。

36. 36号土壙墓出土人骨[旧61号土壙墓]

⑴人骨の出土状況：人骨は，長径約90cm・短径約78cm・深さ約14cmの楕円形土壙から出土している。

⑵被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥（側臥）屈葬で埋葬されたと推定される。

⑶副葬品：副葬品は，銭貨８点[開元通宝(966年)１点・天聖元宝(1023年)２点・嘉祐通宝(1056年)１点・天符通宝(1098年)２点・聖宋元宝(1101年)１点・不明１点]が検出されている。

⑷人骨の出土部位：人骨の残存状態は良くないが，ほぼ全身骨格が出土している。

⑸被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑹被葬者の性別：歯冠計測値が比較的大きいため，被葬者の性別は男性であると推定される。

⑺被葬者の死亡年齢：歯の咬耗度を観察すると，上顎大臼歯は象牙質が面をなすほどに露出するマルティンの３度の状態である。しかしながら，下顎歯の咬耗度は象牙質が線状あるいは点状に露出するマルティンの２度の状態である。上顎大臼歯の咬耗は恐らく異常咬耗であると推定されるが，総合的に被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。

⑻被葬者の古病理：下顎骨右第１～第２大臼歯及び同左第２小臼歯は生前脱落をしており，歯槽も閉鎖し退縮した状態である。なお，第３大臼歯は，生前脱落か先天性欠如かは不明である。上顎骨及び下顎骨左は，破損しているため不明である。齲触は，上顎右犬歯近心面歯頸部にＣ３が，同右第１大臼歯の近心面歯頸部にＣ３が認められた。また，下顎右第１小臼歯の近心面・唇側面・遠心面歯頸部にＣ２が，さらに，下顎左第１小臼歯は歯冠が完全に崩壊して歯根しか残存していないＣ４の状態である。歯石の付着は，下顎左右第１切歯～犬歯の舌側面に認められた。

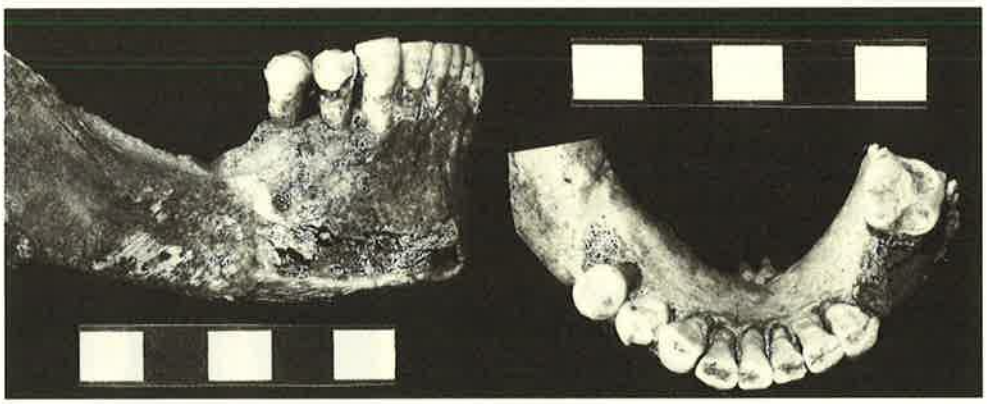


写真17．元総社蒼海遺跡群(5)36号土壙墓出土人骨[左：下顎骨右側面観、左：下顎歯咬合面観]

37. 37号土壙墓出土人骨[旧62号土壙墓]

⑴人骨の出土状況：人骨は，長径約117cm・短径約63cm・深さ約23cmの楕円形土壙から出土している。

⑵被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

⑶副葬品：副葬品は，銭貨８点[開元通宝(966年)１点・景徳元宝(1004年)１点・元豊通宝(1078年)１点・聖宋元宝(1101年)１点・永楽通宝(1408年)４点] が検出されている。

⑷人骨の出土部位：人骨の残存状態は，比較的良く，ほぼ全身骨格が出土している。

⑸被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

写真18．元総社蒼海遺跡群(5)37号土壙墓出土下顎骨左側面観

(6)被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値が比較的大きいため，被葬者の性別は男性であると推定される。
(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状に露出するマルティンの２度の状態であるので，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。
(8)被葬者の古病理：出土歯には，歯石の付着が認められた。

38. 38号土壙墓出土人骨[旧64号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約73cm･短径約65cm・深さ約18cmの楕円形土壙から出土している。
(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。被葬者は，約４歳の女性であると推定されている。1975年の現代日本人の統計では４歳女子の身長は101.7cmであるので，土壙の大きさからも屈葬であると推定される。
(3)副葬品：副葬品は，カワラケ及び銭貨７点[政和通宝(1111年)１点・永楽通宝(1408年)６点]が検出されている。
(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片及び乳歯と永久歯の遊離歯が出土している。
(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。
(6)被葬者の性別：出土永久歯の歯冠計測値が比較的小さいため，被葬者の性別は女性(女児)であると推定される。
(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の萌出状態から，被葬者の死亡年齢は約４歳であると推定される。

39. 39号土壙墓出土人骨[旧65号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約116cm・短径約60cm・深さ約10cmの隅丸長方形土壙から出土している。
(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いため，被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。
(3)副葬品：副葬品は，検出されていない。
出土人骨の残存状態が悪いため，被葬者の個体数・性別・死亡年齢は不明である。

40. 40号土壙墓出土人骨[旧66号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約103cm・短径約90cm・深さ約28cmの楕円形土壙から出土している。
(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。被葬者は，約３歳の女性であると推定されている。1975年の現代日本人の統計では３歳女子の身長は95.4cmであるので，伸展葬の可能性もあるが，頭蓋骨の出土位置が南側寄りであるので屈葬であると推定される。
(3)副葬品：副葬品は，板碑及び銭貨６点[治平元宝(1064年)１点・熙寧元宝(1068年)１点・元豊通宝(1078年)１点・紹聖元宝(1094年)１点・大中通宝(1361年)１点・不明１点]が検出されている。
(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片及び乳歯と永久歯の遊離歯が出土している。
(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。
(6)被葬者の性別：出土永久歯の歯冠計測値は比較的小さいので，被葬者の性別は女性(女児)であると推定される。
(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の萌出状態から，被葬者の死亡年齢は約３歳であると推定される。

41. 41号土壙墓出土人骨[旧68号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約130cm・短径約98cm・深さ約27cmの楕円形土壙から出土している。
(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いため，被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。
(3)副葬品：副葬品は，板碑及びカワラケが検出されている。
出土人骨の残存状態が悪いため，被葬者の個体数・性別・死亡年齢は不明である。

42. 42号土壙墓出土人骨[旧69号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約108cm・短径約84cm・深さ約18cmの楕円形土壙から出土している。
(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。被葬者は，約４歳の女性であると推定されている。1975年の現代日

本人の統計では4歳女子の身長は101.7cmであるので，伸展葬の可能性もあるが，頭蓋骨の出土位置が南側寄りであるので屈葬であると推定される。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨6点[太平通宝(976年)1点・咸平元宝(998年)1点・元豊通宝(1078年)1点・永楽通宝(1408年)2点・不明1点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片及び乳歯と永久歯の遊離歯が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土永久歯の歯冠計測値が比較的小さいため，被葬者の性別は女性(女児)であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の萌出状態より，被葬者の死亡年齢は約4歳であると推定される。

43. 43号土壙墓出土人骨[旧70号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約96cm・短径約67cm・深さ約25cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を東側に向け左側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨3点[皇宋通宝(1039年)1点・洪武通宝(1368年)1点・不明1点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は良くないが，ほぼ全身骨格が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：頭蓋骨を観察すると，眉弓は発達しておらず，乳様突起も発達していない。また，四肢骨も小さく華奢であるため，被葬者の性別は女性であると推定される。

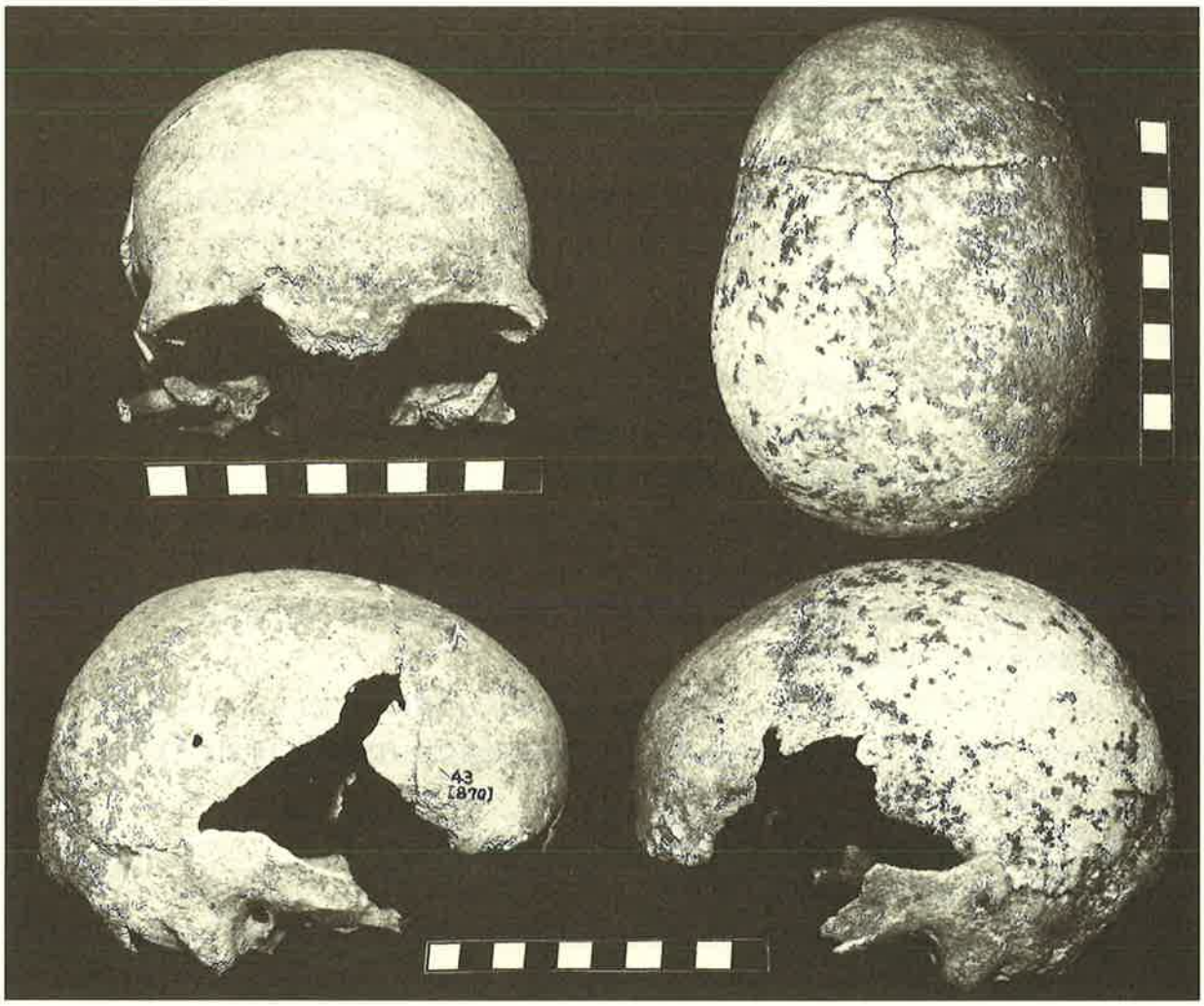


写真19．元総社蒼海遺跡群(5)43号土壙墓出土人骨頭蓋骨[上左：前面観，上右：上面観、下左：右側面観，下右：左側面観]

(7)被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合を観察すると，内板及び外板共に癒合しておらず開放の状態である。また，歯の咬耗度を観察すると，象牙質が線状あるいは点状に露出するマルティンの２度の状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は，約30歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理：齲触は，上顎右第１小臼歯の遠心面歯頸部にＣ２・同第１大臼歯の近心面歯頸部にＣ２・同第３大臼歯の頬側面にＣ２が認められた。歯石は，全体的に軽度の付着が認められた。

44. 44号土壙墓出土人骨[旧71号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約110cm・短径約90cm・深さ約55cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は西側で，顔面部を北側に向け左側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，五輪塔及び銭貨６点[熙寧元宝(1068年)１点・政和通宝(1111年)１点・洪武通宝(1368年)１点・不明３点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまり良くないが，ほぼ全身骨格が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の固体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：頭蓋骨の厚さは比較的薄く，下顎骨も華奢である。また，歯の歯冠計測値も比較的小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が線状あるいは点状に露出するマルティンの２度の状態である。しかしながら，一部には象牙質が全面的に現れている３度の状態の歯も認められる。総合的に，被葬者の死亡年齢は，40歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理：齲触は，上顎左犬歯の近心面にＣ１・下顎右第１小臼歯遠心面にＣ２・同第２小臼歯近心面にＣ１・下顎左第３大臼歯咬合面にＣ２の状態で認められた。なお，歯石の付着は認められなかった。

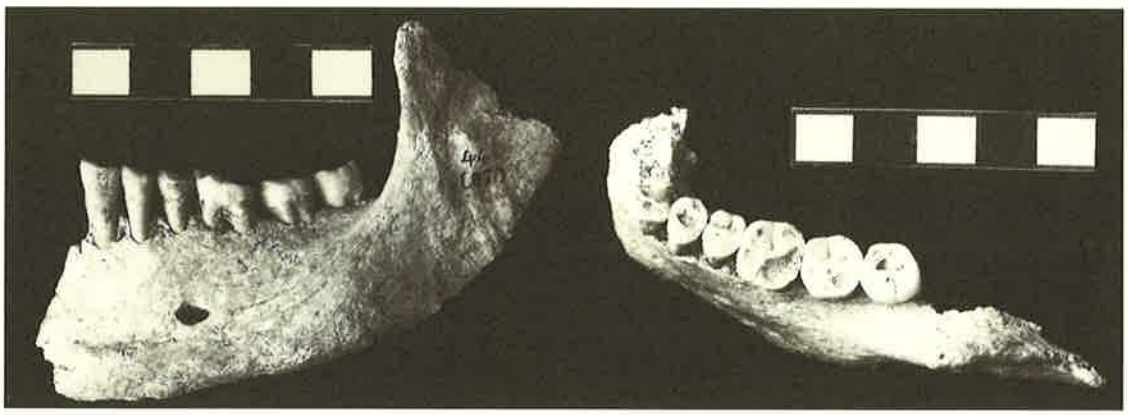


写真20．元総社蒼海遺跡群(5)44号土壙墓出土人骨［左：下顎骨左側面観，右：下顎骨咬合面観］

45. 45号土壙墓出土人骨[旧72号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約111cm・短径約82cm・深さ約30cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を東側に向け左側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨４点[天聖元宝(1023年)１点・治平元宝(1064年)１点・元豊通宝(1078年)２点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片・遊離歯・四肢骨片が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土歯には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値が比較的小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が面をなして露出するマルティンの２度と３度の中

間の状態である。したがって，被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。

⑻被葬者の古病理：歯種の同定は困難であるが，恐らく下顎右あるいは左の第１あるいは第２小臼歯の歯冠は完全に崩壊したＣ４の状態の齲触である。

46．46号土壙墓出土人骨［旧74号土壙墓］

⑴人骨の出土状況：人骨は，長径約112㎝・短径約50㎝・深さ約28㎝の楕円形土壙から出土している。

⑵被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いため，被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

⑶副葬品：副葬品は，カワラケ及び銭貨３点［元豊通宝（1078年）１点・洪武通宝（1368年）１点・不明１点］が検出されている。

⑷人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片が出土している。

⑸被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑹被葬者の性別：人骨の残存状態が悪いため，被葬者の性別は不明である。

⑺被葬者の死亡年齢：出土頭蓋骨片は，小さく骨の厚さも薄いため，恐らく未成年であると推定されるが，残念ながら歯が出土していないため，被葬者の死亡年齢は不明である。

47．47号土壙墓出土人骨［旧75号土壙墓］

⑴人骨の出土状況：人骨は，長径約69㎝・短径約63㎝・深さ約28㎝の隅丸長方形土壙から出土している。

⑵被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いため，被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

⑶副葬品：副葬品は，銭貨２点［開元通宝（966年）１点・紹聖元宝（1094年）１点］が検出されている。

出土人骨の残存状態が悪いため，被葬者の個体数・性別・死亡年齢は不明である。

48．48号土壙墓出土人骨［旧77号土壙墓］

⑴人骨の出土状況：人骨は，長径約114㎝・短径約62㎝・深さ約40㎝の隅丸長方形土壙から出土している。

⑵被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥（側臥）屈葬で埋葬されたと推定される。

⑶副葬品：副葬品は，銭貨３点［開元通宝（966年）１点・洪武通宝（1368年）１点・永楽通宝（1408年）１点］が検出されている。

⑷人骨の出土部位：人骨の残存状態は比較的良く，ほぼ全身骨格が出土している。

⑸被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑹被葬者の性別：頭蓋骨を観察すると，前頭結節が認められ乳様突起も小さいので，被葬者の性別は女性であると推定される。

⑺被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ（人字）縫合を観察すると，冠状縫合及びラムダ縫合は，内板及び外板は癒合しておらず開放の状態である。ところが，矢状縫合を観察すると，内板及び外板共に癒合した状態である。また，出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が線状及び点状に露出するマルティンの２度の状態である。また，上顎骨の切歯縫合は癒合して消失している。総合的に，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

写真21．元総社蒼海遺跡群⑸48号土壙墓出土頭蓋骨上面観

⑻被葬者の古病理：下顎右第１大臼歯の歯冠遠心部に，Ｃ４の状態で歯冠が崩壊した齲触が認められた。頭蓋骨早期癒合症の疑いがある。

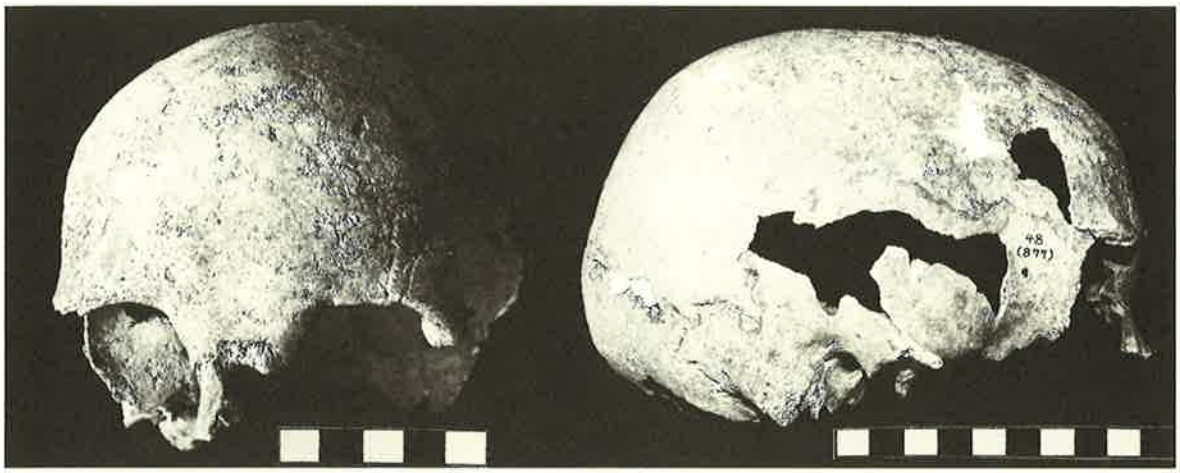


写真22．元総社蒼海遺跡群(5)48号土壙墓出土人骨頭蓋骨［左：前面観，右：右側面観］

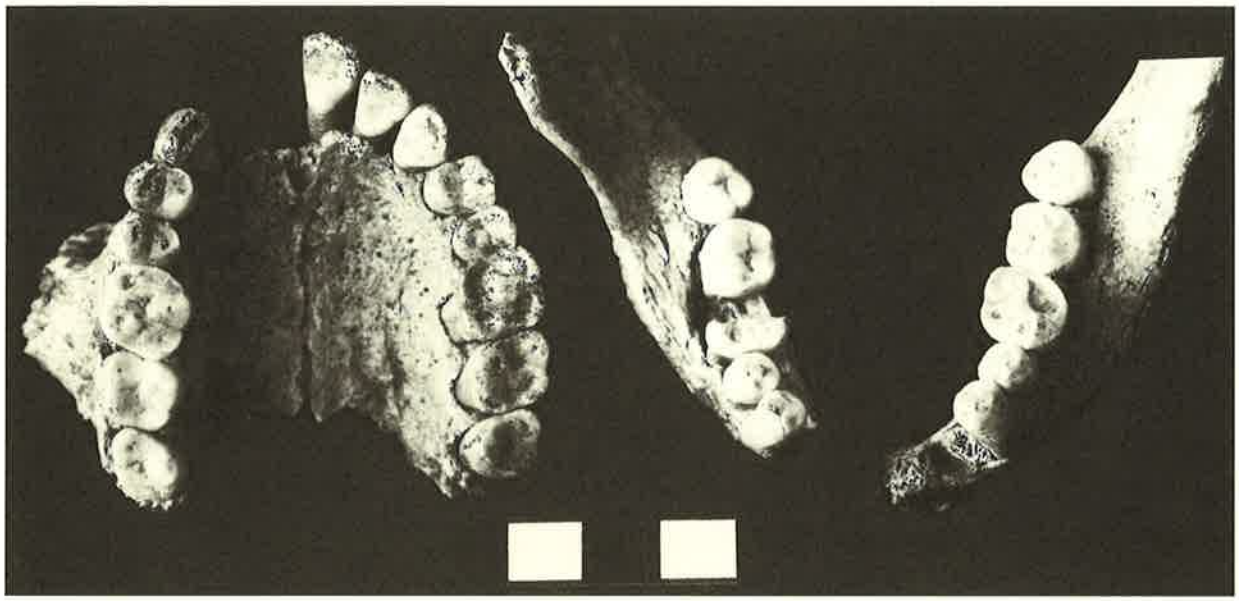


写真23．元総社蒼海遺跡群(5)48号土壙墓出土人骨上下顎骨［左：上顎歯咬合面観，右：下顎歯咬合面観］

49．49号土壙墓出土人骨［旧78号土壙墓］

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約98cm・短径約60cm・深さ約19cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を下に向けた俯臥屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨３点［元豊通宝(1078年)２点・不明１点］が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまり良くないが，ほぼ全身骨格が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値が比較的小さく，下顎骨等も小さく華奢であるため，被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状に露出するマルティンの２度の状態であるので，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理：上顎右第１大臼歯の遠心面及び同左第２大臼歯の近心面に，Ｃ３の齲触が認められた。

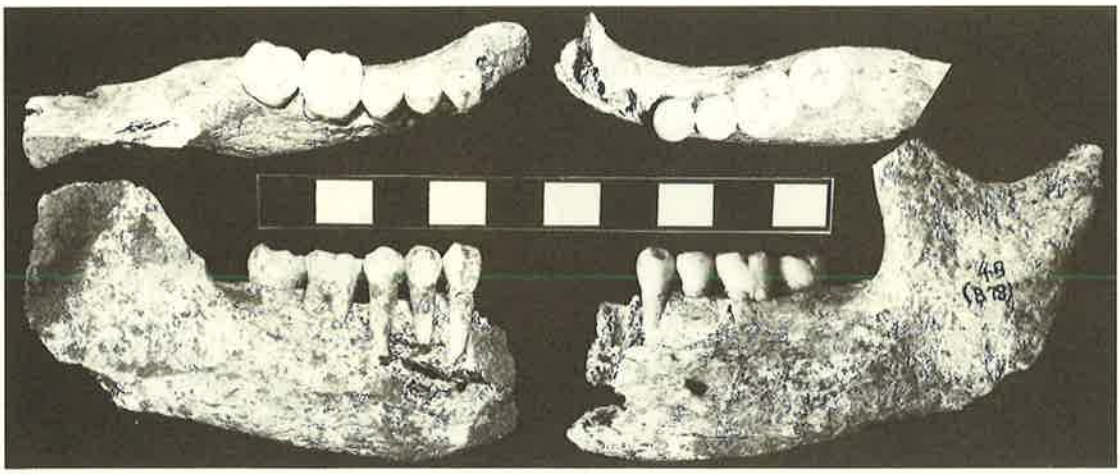


写真24．元総社蒼海遺跡群(5)49号土壙墓出土人骨下顎骨
［左上：右下顎骨咬合面観、左下：右側面観，右上：左下顎骨咬合面研，右下：左側面観］

50．50号土壙墓出土人骨［旧79号土壙墓］

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約92cm・短径約90cm・深さ約19cmの円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。被葬者は，約３歳の男性であると推定されている。1975年の現代日本人の統計では３歳男子の身長は95.3cmであるので，土壙の大きさからも屈葬であると推定される。

(3)副葬品：副葬品は，カワラケが検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，遊離歯が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土永久歯の歯冠計測値が大きいため，被葬者の性別は男性(男児)であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の萌出状態から，被葬者の死亡年齢は約３歳であると推定される。

51．51号土壙墓出土人骨［旧80号土壙墓］

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約105cm・短径約70cm・深さ約45cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。被葬者は，約12歳の女性であると推定されている。1975年の現代日本人の統計では12歳女子の身長は149.6cmであるので，土壙の大きさからも屈葬であると推定される。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨１点［元祐通宝(1086年)］が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，遊離歯及び四肢骨片が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土永久歯の歯冠計測値が比較的小さいため，被葬者の性別は女性(女児)であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯には咬耗があまり認められず，上顎第３大臼歯の歯根がまだ未完成であるため，被葬者の死亡年齢は約12歳であると推定される。

52．52号土壙墓出土人骨［旧81号土壙墓］

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約140cm・短径約88cm・深さ約24cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いので，被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(3)副葬品：副葬品は，検出されていない。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片・四肢骨片が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：性別推定の指標となる部位が出土していないが，わずかに出土している下顎左第２大臼歯の歯冠計測値は，近遠心径9.5㎜･頬舌径9.6㎜であり小さいので，被葬者の性別は女性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：下顎左第２大臼歯の咬耗度を観察すると，エナメル質のみに限定されるマルティンの１度の状態であるので，被葬者の死亡年齢は約20歳代であると推定される。

53. 53号土壙墓出土人骨[旧82号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約125㎝・短径約93㎝・深さ約48㎝の楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いため，被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(3)副葬品：副葬品は，カワラケ及び銭貨３点[開元通宝(966年)１点・元符通宝(1098年)１点・政和通宝(1111年)１点]が検出されている。

出土人骨の残存状態が悪いため，被葬者の個体数・性別・死亡年齢は不明である。

54. 54号土壙墓出土人骨[旧83号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径及び短径不明で深さ約18㎝の土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

(3)副葬品：副葬品は，カワラケが検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片・遊離歯・四肢骨片が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土歯の歯冠計測値が比較的大きいため，被葬者の性別は男性であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が線状・点状に露出するマルティンの２度の状態であるので，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

(8)被葬者の古病理：出土歯には，歯石の付着が認められた。

55. 55号土壙墓出土人骨[旧84号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約71㎝・短径約50㎝・深さ約43㎝の楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。被葬者は，約４歳の男性であると推定されている。1975年の現代日本人の統計では４歳男子の身長は102.3㎝であるので，土壙の大きさからも屈葬であると推定される。

(3)副葬品：副葬品は，五輪塔及び銭貨６点[開元通宝(966年)１点・祥符通宝(1009年)２点・皇宋通宝(1039年)２点・熙寧元宝(1068年)１点]が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片・遊離歯・四肢骨片が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土永久歯の歯冠計測値が比較的大きいため，被葬者の性別は男性(男児)であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯を観察すると，乳歯と永久歯の混合歯列である。歯の萌出状態から，被葬者の死亡年齢は約４歳であると推定される。

56. 56号土壙墓出土人骨[旧85号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，規模不明の土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：出土人骨の残存状態が悪いため，被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(3)副葬品：副葬品は，板碑及び瓦が検出されている。

出土人骨の残存状態が悪いため，被葬者の個体数・性別・死亡年齢は不明である。

57. 57号土壙墓出土人骨[旧86号土壙墓]

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約91㎝・短径約71㎝・深さ約16㎝の楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。被葬者は，約4歳の男性であると推定されている。1977年の現代日本人の統計では3歳男子の身長は95.3cmであるので，土壙の大きさからも屈葬であると推定される。

(3)副葬品：副葬品は，板碑・カワラケ及び銭貨[不明]1点が検出されている。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片及び乳歯及び永久歯の遊離歯が出土している。

(5)被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は1個体であると推定される。

(6)被葬者の性別：出土永久歯の歯冠計測値が比較的大きいため，被葬者の性別は男性(男児)であると推定される。

(7)被葬者の死亡年齢：出土歯の萌出状態より，被葬者の死亡年齢は約3歳であると推定される。

58. 58号土壙墓出土人骨［旧89号土壙墓］

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約62cm・短径約52cmの楕円形土壙から出土している。

(2)被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いため，被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(3)副葬品：副葬品は，検出されていない。

(4)人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片及び遊離歯が出土している。

出土人骨の残存状態が悪いため，被葬者の個体数・性別・死亡年齢は不明である。しかしながら，頭蓋骨の厚さが薄いため，死亡年齢は子供である可能性が高い。

59. ＦＢ１号火葬跡出土人骨［旧FB１・FB２］

(1)火葬人骨の出土状況：人骨は，長径約165cm・短径約115cm・深さ約25cmの楕円形土壙から出土している。

(2)火葬人骨の出土部位：人骨の出土量は非常に少ないが，頭蓋骨片・四肢骨片・中節骨片が出土している。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨3点[熙寧元宝(1068年)1点・聖宋元宝(1101年)1点・政和通宝(1111年)1点]が検出されている。

(4)被火葬者の頭位・埋葬状態：出土火葬人骨の出土量が少ないため，被火葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(5)火葬方法：火葬人骨を観察すると，人骨には亀裂・歪み・捻れが認められるため，白骨化させたものを火葬にふしたのではなく，死体をそのまま火葬にふしたと推定される。なお，人骨のほとんどは灰白色を呈しているため焼成温度は約900℃以上であると推定される。

(6)収骨方法：火葬人骨の残存量は非常に少ないので，恐らく丁寧に収骨したものと推定される。これは，現在にまで続く，東日本タイプの収骨方法であると推定される(楢崎，2002)。

(7)被火葬者の個体数：火葬人骨の残存量が非常に少ないので，被火葬者の個体数は不明である。

(8)被火葬者の性別：出土頭蓋骨片の厚さは，火葬による収縮を考慮しても比較的厚いので，被火葬者の性別は男性であると推定される。

(9)被火葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないため，被火葬者の死亡年齢は不明である。しかしながら，恐らく，成人であると推定される。

60. ＦＢ２号火葬跡出土人骨［旧67号土壙墓］

(1)人骨の出土状況：人骨は，長径約130cm・短径約80cm・深さ約39cmの楕円形土壙から出土している。

(2)火葬人骨の出土部位：人骨の出土量はＦＢ１号火葬跡出土人骨に比べれば量は多いが全体的に少なく，頭蓋骨片・歯根片・四肢骨片等が出土している。

(3)副葬品：副葬品は，銭貨3点[熙寧元宝(1068年)1点・聖宋元宝(1101年)1点・政和通宝(1111年)1点]が検出されている。

(4)被火葬者の頭位・埋葬状態：出土火葬人骨の出土量が少ないため，被火葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(5)火葬方法：火葬人骨を観察すると，人骨には亀裂・歪み・捻れが認められるため，白骨化させたものを火葬にふしたのではなく，死体をそのまま火葬にふしたと推定される。なお，人骨のほとんどは灰白色を呈しているた

め焼成温度は約900℃以上であると推定される。

(6)収骨方法：火葬人骨の残存量は比較的少ないので，恐らく丁寧に収骨したものと推定される。これは，現在にまで続く，東日本タイプの収骨方法であると推定される(楢崎，2002)。

(7)被火葬者の個体数：火葬人骨の残存量が少ないので，被火葬者の個体数は不明である。

(8)被火葬者の性別：出土頭蓋骨片の厚さは，火葬による収縮を考慮しても比較的薄い。また，上顎骨片の犬歯部の歯槽は小さいので，被火葬者の性別は女性であると推定される。

(9)被火葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないため，被火葬者の死亡年齢は不明である。しかしながら，上顎骨及び下顎骨の歯槽部の一部が残存しており，歯槽部が閉鎖したものは見あたらない。また，歯根片がある程度まとまって出土しているため，老齢ではないと推定される。総合的に，被火葬者の死亡年齢は成人であると推定される。

まとめ

元総社蒼海遺跡群(5)の土壙墓58基及び火葬跡２基から，人骨が60体出土した。土壙墓58基の被葬者の内，成人は，男性13体・女性19体の合計32体であった。また，土壙墓の被葬者の内，未成年は，男性(男児)５体・女性(女児)８体，性別不明で死亡年齢約１歳半１体・性別死亡年齢不明１体の合計15体であった。さらに，性別及び死亡年齢不明個体が11体あった。これまで，群馬県内の遺跡出土人骨は圧倒的に成人が多く，未成年個体は少ないことが知られていた(楢崎・石守，2005)。楢崎・石守のデータによると，出土総数727体の内，死亡年齢不明個体100体を除くと，627体の内，成人は548体で87.4％をしめるが，未成年は79体で12.6％である。文献記録及び発展途上国の人口学的データからは，未成年の死亡率が高いことが知られているが，考古学的情報との齟齬が生じていた。この解釈は，未成年の人骨は薄くもろいために遺跡で残存しにくいこと，歯しか残存しない場合が多いので遺跡での発掘の際に取りこぼしが多いこと，文献記録から未成年の場合墓に埋葬せずに遺棄葬が多かった等の理由が考えられていた。ところが，本遺跡出土人骨の場合，土壙墓58基出土人骨58体の内，成人は32体で55.2％であるが，未成年は15体で25.9％であり，未成年の出土率が高く，実際の人口学的データとかなり符号する。これは，今回の発掘が墓地の中心部にあたったために回収率が高かったためと推定される。

謝辞

本出土人骨を報告する機会を与えていただき，考古学的情報を与えていただいた，前橋市教育委員会の前原　豊氏・高橋　亨氏・高坂麻子氏に感謝いたします。

引用文献

馬場悠男　1991　『人類学講座　別巻１．人体計測法Ⅱ．人骨計測法』，雄山閣出版

藤田恒太郎　1949　歯の計測規準について，「人類学雑誌」，61(1):1-6.

権田和良　1959　歯の大きさの性差について，「人類学雑誌」，67:151-163.

MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology, National Science Museum Monographs No. 9, National Science Museum, Tokyo

楢崎修一郎　2002　下小鳥神戸遺跡出土火葬人骨，「研究紀要」，群馬県埋蔵文化財調査事業団，20: 43-50

楢崎修一郎・石守　晃　2005　群馬県出土人骨データベース，「研究紀要」，群馬県埋蔵文化財調査事業団，23: 99-109

鈴木　尚・林　都志夫・田邊義一・佐倉　朔　1956　XI．頭骨の形質，『鎌倉材木座発見の中世遺跡とその人骨』，日本人類学会編，岩波書店

鈴木　尚　1967　V．頭骨，『増上寺徳川将軍墓とその遺品・遺体』，鈴木　尚・矢島恭介・山辺知行編，東京大学出版会，p.121-274.

表１．元総社蒼海遺跡群(5)出土人骨まとめ

	成人	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	合　計
成人男性	－	－	4体	8体	1体	13体
成人女性	2体	1体	5体	8体	3体	19体

	12歳	10歳	9歳	4歳	3歳	2歳～1.5歳	年齢不明	合　計
未成年男性	－	－	1体	1体	3体	－	－	5体
未成年女性	1体	1体	1体	3体	1体	1体	－	8体
性別不明	－	－	－	－	－	1体	1体	1体

表２．元総社蒼海遺跡群(5)出土人骨リスト(一覧)

No	土壙墓番号	旧土壙番号	個体数	性　別	死亡年齢	備　　考
1	1号土壙墓	6号土壙墓	1個体	女性(女児)	約4歳	
2	2号土壙墓	9号土壙墓	1個体	男性	約40歳代	
3	3号土壙墓	10号土壙墓	1個体	女性	成人	
4	4号土壙墓	13号土壙墓	不明	不明	不明	
5	5号土壙墓	19号土壙墓	1個体	女性	約50歳代	
6	6号土壙墓	20号土壙墓	1個体	女性	約30歳代	
7	7号土壙墓	22号土壙墓	1個体	男性	約40歳代	
8	8号土壙墓	25号土壙墓	不明	不明	不明	
9	9号土壙墓	25′号土壙墓	1個体	男性	約40歳代	
10	10号土壙墓	28号土壙墓	1個体	女性	成人	経産婦
11	11号土壙墓	28′号土壙墓	不明	不明	不明	
12	12号土壙墓	29号土壙墓	1個体	男性(男児)	約9歳	齲蝕
13	13号土壙墓	29′号土壙墓	1個体	女性(女児)	約10歳	
14	14号土壙墓	31号土壙墓	1個体	男性	約30歳代	
15	15号土壙墓	32号土壙墓	1個体	男性	約30歳代	齲蝕・生前脱落
16	16号土壙墓	32号土壙墓	1個体	男性	約20歳代	
17	17号土壙墓	32号土壙墓	不明	不明	不明	不明
18	18号土壙墓	32号土壙墓	1個体	男性	約30歳代	歯石・生前脱落
19	19号土壙墓	32′号土壙墓	1個体	女性	約1歳半～2歳	
20	20号土壙墓	31′号土壙墓	1個体	男性(男児)	約3歳	
21	21号土壙墓	31′号土壙墓	1個体	女性	約40歳代	齲蝕
22	22号土壙墓	31′号土壙墓	1個体	女性	約9歳	
23	23号土壙墓	33号土壙墓	1個体	女性	約40歳代	齲蝕・生前脱落
24	24号土壙墓	35号土壙墓	1個体	女性	約30歳代	齲蝕・生前脱落
25	25号土壙墓	42号土壙墓	1個体	男性	約30歳代	生前脱落
26	26号土壙墓	43号土壙墓	不明	不明	不明	
27	27号土壙墓	44号土壙墓	1個体	女性	約30歳代	歯石・生前脱落
28	28号土壙墓	46号土壙墓	1個体	女性	約40歳代	齲蝕
29	29号土壙墓	48号土壙墓	1個体	女性	約20歳代	
30	30号土壙墓	49号土壙墓	1個体	男性	約30歳代	
31	31号土壙墓	50号土壙墓	1個体	男性	約30歳代	
32	32号土壙墓	52号土壙墓	1個体	女性	約30歳代	
33	33号土壙墓	53号土壙墓	1個体	女性	約20歳代	歯石・齲蝕
34	34号土壙墓	55号土壙墓	1個体	女性	約30歳代	栓状歯
35	35号土壙墓	60号土壙墓	1個体	不明	約1歳半	
36	36号土壙墓	61号土壙墓	1個体	男性	約40歳代	歯石・齲蝕・生前脱落
37	37号土壙墓	62号土壙墓	1個体	男性	約30歳代	歯石
38	38号土壙墓	64号土壙墓	1個体	女性(女児)	約4歳	
39	39号土壙墓	65号土壙墓	不明	不明	不明	
40	40号土壙墓	66号土壙墓	1個体	女性(女児)	約3歳	
41	41号土壙墓	68号土壙墓	不明	不明	不明	
42	42号土壙墓	69号土壙墓	1個体	女性(女児)	約4歳	
43	43号土壙墓	70号土壙墓	1個体	女性	約30歳代	歯石・齲蝕
44	44号土壙墓	71号土壙墓	1個体	女性	約40歳代	齲蝕
45	45号土壙墓	72号土壙墓	1個体	女性	約40歳代	齲蝕
46	46号土壙墓	74号土壙墓	1個体	不明	未成年？	
47	47号土壙墓	75号土壙墓	不明	不明	不明	
48	48号土壙墓	77号土壙墓	1個体	女性	約30歳代	齲蝕
49	49号土壙墓	78号土壙墓	1個体	女性	約30歳代	齲蝕
50	50号土壙墓	79号土壙墓	1個体	男性(男児)	約3歳	
51	51号土壙墓	80号土壙墓	1個体	女性(女児)	約12歳	
52	52号土壙墓	81号土壙墓	1個体	女性	約20歳代	
53	53号土壙墓	82号土壙墓	不明	不明	不明	
54	54号土壙墓	83号土壙墓	1個体	男性	約30歳代	歯石
55	55号土壙墓	84号土壙墓	1個体	男性(男児)	約4歳	
56	56号土壙墓	85号土壙墓	不明	不明	不明	
57	57号土壙墓	86号土壙墓	1個体	男性(男児)	約3歳	
58	58号土壙墓	89号土壙墓	不明	不明	不明	
59	FB1号火葬跡	FB1・FB2	1個体	男性	成人	
60	FB2号火葬跡	67号土壙墓	1個体	女性	成人	

表３．今井三騎堂遺跡出土人骨頭蓋骨計測値及び比較表

計測項目 (Martin'sNo.)	元総社蒼海遺跡群（5）					中世人骨*		江戸時代人骨**		現代人***	
	16号土壙墓	21号土壙墓	25号土壙墓	43号土壙墓	48号土壙墓	♂	♀	♂	♀	♂	♀
1 脳頭蓋最大長	195 mm	177 mm	181 mm	195 mm	187 mm	184.2 mm	177.9 mm	181.9 mm	175.4 mm	178.9 mm	170.8 mm
8 脳頭蓋最大幅	−	−	139 mm	171 mm	−	136.5 mm	131.8 mm	139.8 mm	136.8 mm	140.3 mm	135.9 mm
8：1 頭蓋長幅示数	−	−	76.8(中頭)	76.0(中頭)	−	74.2 (長頭)	74.2 (長頭)	76.9(中頭)	78.1(中頭)	78.5(中頭)	79.7(中頭)
17 バジオン・ブレグマ高		−	140 mm	−	−	137.2 mm	128.8 mm	137.5 mm	133.3 mm	138.1 mm	132.5 mm
17：1 頭蓋長高示数	−	−	77.3(高頭)	−	−	75.0(高頭)	73.4(中頭)	75.6(高頭)	75.8(高頭)	77.3(高頭)	77.7(高頭)
17：8 頭蓋幅高示数	−	−	100.7	−	−	99.8(狭頭)	97.6(中頭)	98.6(狭頭)	97.5(中頭)	98.6(狭頭)	97.7(中頭)
1＋8＋17/3 脳頭蓋モズルス	−	−	153.3	−	−	152.4	146.4	153.1	148.7	−	146.8
9 最小前頭幅	−	−	88 mm	95.5 mm	100 mm	93.5 mm	90.5 mm	94.5 mm	91.8 mm	93.2 mm	91.0 mm
10 最大前頭幅	−	−	−	112 mm	−	114.2 mm	109.0 mm	117.4 mm	114.0 mm	115.9 mm	113.7 mm
9：10 横前頭示数	−	−	−	85.3	−	81.9	82.8	80.8	80.5	80.5	81.5
9：8 横前頭頭頂示数	−	−	−	73.5	−	68.3(中前頭)	69.1(広前頭)	67.7(中前頭)	67.0(中前頭)	66.4(中前頭)	66.9(中前頭)
11 両耳幅	−	−	125.5 mm	117.5 mm	−	119.2 mm	113.5 mm	126.2 mm	120.9 mm	124.9 mm	118.8 mm
12 最大後頭幅	109 mm	−	104 mm	102 mm	−	107.8 mm	104.4 mm	109.9 mm	105.8 mm	108.4 mm	104.2 mm
12：8 横頭頂後頭示数	−	−	74.8	78.5	−	77.6	78.9	78.6	76.6	77.3	76.8
13 乳様突起間幅	−	−	103 mm	92.5 mm	−	103.7 mm	100.6 mm	104.0 mm	99.2 mm	102.4 mm	97.6 mm
23 脳頭蓋水平周	−	−	517 mm	488 mm	−	516.9 mm	495.6 mm	520.2 mm	503.3 mm	513.7 mm	493.7 mm
25 正中矢状弧長	392 mm	−	370 mm	−	−	373.7 mm	360.1 mm	373.4 mm	361.1 mm	371.7 mm	357.6 mm
26 正中前頭弧長	135 mm	114 mm	120 mm	123 mm	130 mm	126.5 mm	120.9 mm	126.7 mm	123.7 mm	127.4 mm	122.1 mm
27 正中頭頂弧長	135 mm	123 mm	130 mm	122 mm	135 mm	129.4 mm	124.4 mm	127.7 mm	123.9 mm	125.1 mm	121.0 mm
28 正中後頭弧長	122 mm	−	120 mm	−	−	117.5 mm	114.6 mm	119.2 mm	113.0 mm	119.1 mm	114.3 mm
27：26 矢状前頭頭頂示数	100.0	107.9	108.3	99.2	103.8	102.7	103.3	101.1	100.7	98.6	98.9
28：26 矢状前頭後頭示数	90.4	−	100.0	−	−	95.1	94.4	94.2	91.4	93.6	93.9
28：27 矢状頭頂後頭示数	90.4	−	92.3	−	−	93.1	92	93.3	91.2	95.4	95.4
26：25 前頭矢状弧長示数	34.4	−	32.4	−	−	33.8	33.6	33.9	34.3	34.3	34.2
27：25 頭頂矢状弧長示数	34.4	−	35.1	−	−	34.5	34.6	34.2	34.3	33.7	33.8
28：25 後頭矢状弧長示数	31.1	−	32.4	−	−	31.9	31.9	31.9	31.3	32	32
29 正中前頭弧長	121 mm	104.5 mm	119 mm	104 mm	111 mm	111.5 mm	106.6 mm	111.4 mm	108.7 mm	111.8 mm	106.5 mm
30 正中頭頂弦長	122 mm	112 mm	116 mm	109 mm	120 mm	115.7 mm	111.6 mm	114.6 mm	111.2 mm	111.8 mm	108.6 mm
31 正中後頭弦長	102 mm	−	103 mm	−	−	99.3 mm	99.6 mm	99.1 mm	96.8 mm	100.4 mm	97.0 mm
29：26 矢状前頭彎曲示数	89.6	91.7	99.2	84.6	85.4	88.2	88.2	87.9	87.9	87.9	87.4
30：27 矢状頭頂彎曲示数	90.4	91.1	89.2	89.3	88.9	89.5	89.6	89.7	89.7	89.3	89.8
31：28 矢状後頭彎曲示数	83.6	−	85.8	−	−	82.9	84.2	85.7	85.7	84.5	84.9
41 側顔長	86.5 mm	−	−	−	−	75.4 mm	72.6 mm	−	−	−	−
47 顔高	132 mm	−	−	−	−	115.8 mm	105.1 mm	118.0 mm	−	123.8 mm	115.0 mm
48 上顔高	76 mm	−	−	−	−	64.7 mm	61.6 mm	66.2 mm	66.6 mm	70.7 mm	67.1 mm
50 前眼窩間幅	25 mm	−	−	−	−	19.1 mm	18.2 mm	18.6 mm	17.1 mm	17.8 mm	17.4 mm
51 眼窩幅(左)	40.5 mm	−	−	−	−	43.1 mm	40.7 mm	43.2 mm	42.0 mm	42.7 mm	41.1 mm
54 鼻幅	28 mm	−	−	−	−	26.6 mm	24.6 mm	26.2 mm	25.1 mm	25.0 mm	24.5 mm
55 鼻高	50 mm	−	−	−	−	51.1 mm	46.9 mm	52.5 mm	49.5 mm	52.0 mm	49.0 mm
54：55 鼻示数	56.0	−	−	−	−	52.1(広鼻)	52.7(広鼻)	49.9(中鼻)	50.9(中鼻)	48.4(中鼻)	50.2(中鼻)
61 上顎歯槽突起幅	61.5 mm	61 mm	−	−	−	65.2 mm	60.7 mm	66.5 mm	64.8 mm	65.8 mm	61.7 mm
62 口蓋長	−	45 mm	−	−	−	46.3 mm	43.6 mm	44.8 mm	44.0 mm	44.0 mm	42.7 mm
63 口蓋幅	−	37 mm	−	−	−	41.0 mm	38.3 mm	40.9 mm	40.7 mm	40.0 mm	38.4 mm
68 下顎長	87 mm	75 mm	−	−	−	76.4 mm	70.8 mm	76.5 mm	94.8 mm	−	−
66 下顎角幅	113 mm	−	−	−	−	98.6 mm	89.8 mm	102.2 mm	44.7 mm	96.9 mm	90.3 mm
67 前下顎幅	−	44 mm	52 mm	−	−	48.4 mm	45.9 mm	47.8 mm	32.5 mm	−	−
69 頤高	37 mm	30 mm	33 mm	−	−	32.7 mm	28.7 mm	34.5 mm	32.5 mm	36.1 mm	33.2 mm
70 下顎枝高(右)	61 mm	60 mm	−	−	−	−	−	−	−	−	−
70 下顎枝高(左)	61 mm	−	−	−	−	59.7 mm	52.1 mm	68.2 mm	58.3 mm	62.6 mm	57.6 mm
71 下顎枝幅(右)	36.5 mm	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
71 下顎枝幅(左)	36 mm	−	−	−	−	36.6 mm	35.7 mm	35.4 mm	31.1 mm	33.1 mm	31.1 mm
71：70(右) 下顎枝示数	59.8	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
71：70(左) 下顎枝示数	59.0	−	−	−	−	61.3	69.3	52	51.3	53.1	54.1

註１：「＊」は、鈴木・林・田邊・佐倉(1956)より引用。
註２：「＊＊」は、鈴木(1967)より引用。
註３：「＊＊＊」は、森田(1950)より引用。

表４．元総社蒼海遺跡群(5)出土人骨頭蓋骨非計測的形質観察表

観察項目	18号土壙墓			21号土壙墓			25号土壙墓			43号土壙墓			48号土壙墓		
	旧Ｂ32号土壙墓			旧Ｂ31′号土壙墓			旧Ｂ42号土壙墓			旧Ｂ70号土壙墓			旧Ｂ77号土壙墓		
	右	中央	左	右	中央	左	右	中央	左	右	中央	左	右	中央	左
前頭縫合		－			－			－			－			－	
眼窩上孔	破損		－	－		△	＋		＋	－		＋	－		－
副眼窩下孔	破損		－	破損		破損	破損		破損	破損		破損	破損		破損
副頤孔	－		－	－		－	－		－	破損		破損	破損		破損
内側口蓋管骨橋	－		－	－		－	破損		－	－		－	破損		破損
第３後頭顆		破損			破損			－			破損				
前顆結節	破損		破損	破損		破損	－		－	破損		破損	破損		破損
卵円孔棘連続	破損		－	－		破損	破損		－	破損		破損	破損	破損	破損
鼓室骨裂孔	破損		－	－		破損	－		－	＋		破損	－		破損
頸静脈孔二分	破損		－	－		破損	－		－	破損		破損	破損		破損
顆管開存	破損		破損	破損		破損	破損		破損	破損		破損	破損		破損
横頬骨縫合痕跡	破損		破損	－		－	破損		破損	破損		破損	破損		破損
頭頂切痕骨	破損		－	－		破損	－		－	－		－	－		破損
アステリオン骨	破損		－	－		破損	－		－	－		－	－		破損
後頭乳突縫合骨	破損		－	－		破損	－		－	－		－	－		破損
外耳道骨腫	破損		－	－		－	－		－	－		破損	－		破損
顎舌骨筋神経溝骨橋	破損		－	－		－	－		－	－		－	破損		破損
ラムダ小骨		－			－			－			－			破損	
舌下神経管二分	破損		破損	破損		破損	－		－	破損		破損	破損		破損
横後頭縫合痕跡	－		－	－		破損	－		－	－		－	－		－

註１：「＋」は有ることを、「－」は無いことを、「△」はわずかに有ることを示す
註２：「破損」は、人骨が破損していて観察不能であることを示す

表５．元総社蒼海遺跡群(5)出土人骨出土永久歯歯冠計測値及び比較表

	歯種	歯種	元総蒼海遺跡出土人骨																								中世時代人 * Matsumura,1995		江戸時代人 * Matsumura,1995		現代人 ** 権田,1959	
			16号土壙墓		21号土壙墓		23号土壙墓		24号土壙墓		25号土壙墓		27号土壙墓		33号土壙墓		36号土壙墓		43号土壙墓		44号土壙墓		48号土壙墓		49号土壙墓							
			旧B32号		旧B31′号		旧B33号		旧B35号		旧B42号		旧B44号		旧B53号		旧B61号		旧B70号		旧B71号		旧B71号		旧B78号							
			右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀
上顎	I1	MD	−	−	7.8	7.6	8.1	破損	−	−	9.1	9.1	9.0	9.1	8.6	8.5	−	−	8.3	8.3	−	−	8.1	8.1	8.3	8.2	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
		BL	−	−	7.0	7.1	6.6	6.9	−	−	7.5	7.6	6.8	6.8	7.3	7.5	−	−	7.2	7.2	−	−	7.3	7.2	6.3	6.2	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28
	I2	MD	−	−	6.5	6.8	6.6	6.5	7.2	−	6.4	−	7.4	6.8	7.0	6.6	−	−	6.5	−	−	−	−	7.2	6.4	6.1	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.05
		BL	−	−	6.7	6.5	6.2	6.3	6.8	−	7.0	−	6.6	6.5	6.3	6.2	−	−	6.3	−	−	−	−	6.7	5.8	5.2	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51
	C	MD	−	−	7.1	6.9	7.1	7.1	7.5	−	7.9	−	8.1	7.8	7.7	−	−	−	8.0	7.8	8.1	7.9	7.9	7.7	7.9	7.8	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	−	−	7.8	7.8	7.9	7.9	7.7	−	7.9	−	8.1	8.3	8.6	−	−	−	8.1	8.4	8.1	8.1	8.9	8.9	7.3	7.3	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	P1	MD	7.9	7.6	6.6	6.7	6.5	6.8	−	−	7.5	−	7.4	7.5	齲蝕	7.1	7.5	−	7.2	−	6.7	6.9	6.8	7.0	7.1	6.9	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	10.0	9.7	9.1	9.1	8.9	9.3	−	−	9.5	−	10.0	9.7	齲蝕	9.3	10.2	−	10.0	−	8.8	9.3	9.3	9.5	8.2	8.1	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
	P2	MD	7.4	−	齲蝕	6.3	5.8	5.6	−	7.3	6.7	−	6.9	−	6.9	6.8	6.8	−	6.4	6.4	6.6	6.4	6.5	6.2	6.6	6.6	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		BL	9.5	−	齲蝕	9.0	8.6	8.7	−	9.2	9.3	−	9.7	−	9.2	9.5	9.4	−	8.9	9.3	9.1	9.0	9.0	9.1	8.5	8.6	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
	M1	MD	10.7	10.7	9.0	齲蝕	9.8	9.5	−	−	生前	−	−	9.1	−	齲蝕	10.2	−	10.1	10.2	−	−	10.7	10.6	9.6	−	10.	10.	10.	10.	10.	10.
		BL	11.4	11.5	11.4	齲蝕	11.0	11.3	−	−	脱落	−	−	11.5	−	齲蝕	12.0	−	11.5	11.5	−	−	11.5	11.6	10.5	−	45	09	61	18	68	47
	M2	MD	9.4	10.0	8.8	9.0	−	8.8	9.6	−	10.3	−	8.4	8.3	9.1	9.5	9.9	−	9.1	−	9.3	−	9.0	9.2	8.9	9.1	11.	11.	11.	11.	11.	11.
		BL	11.4	11.9	11.3	11.4	−	10.6	11.1	−	11.7	−	10.7	10.6	10.8	11.2	12.1	−	11.1	−	11.7	−	11.0	11.0	10.2	10.1	81	30	87	39	75	40
	M3	MD	8.7	8.7	−	7.8	−	7.6	−	−	9.1	−	−	−	−	9.4	−	−	8.3	−	8.0	9.0	7.8	8.5	−	6.6	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
		BL	10.7	10.8	−	9.5	−	9.5	−	−	11.3	−	−	−	−	10.8	−	−	10.7	−	10.5	10.3	10.7	10.4	−	8.0	11.	11.	12.	11.	11.	11.
下顎	I1	MD	−	5.5	4.2	4.7	5.1	5.2	5.2	5.3	5.9	5.9	5.7	5.7	5.5	5.6	4.8	4.8	5.6	5.6	−	−	−	−	−	4.8	72	19	00	52	85	31
		BL	−	5.8	5.3	5.4	5.4	5.3	5.6	5.6	6.1	6.0	5.4	5.4	6.5	6.3	6.4	6.4	6.0	6.0	−	−	−	−	−	5.1	−	−	−	−	8.94	8.86
	I2	MD	−	6.3	5.4	5.5	5.7	5.7	6.0	−	6.3	6.1	6.0	6.0	6.1	6.1	6.1	5.6	6.3	6.2	−	−	−	−	−	5.6	−	−	−	−	10.	10.
		BL	−	6.3	5.9	6.0	6.1	6.0	5.9	−	6.3	6.3	6.1	6.1	6.4	6.6	6.8	7.0	6.6	6.7	−	−	−	−	−	5.7	5.42	5.22	5.45	5.32	79	50
	C	MD	7.1	7.2	6.3	6.1	6.1	6.1	6.6	−	7.3	7.2	6.6	6.7	6.7	6.6	7.0	7.0	6.9	6.9	−	7.1	−	7.0	6.7	−	5.78	5.61	5.78	5.65	5.48	5.47
		BL	7.5	7.9	7.5	7.3	7.0	7.2	7.0	−	7.6	7.7	7.2	7.6	歯石	7.9	8.5	8.0	8.0	7.9	−	8.2	−	8.3	6.7	−	6.04	5.78	6.09	5.97	5.88	5.77
	P1	MD	7.1	7.1	6.7	6.9	6.7	6.4	7.2	7.0	7.4	7.1	7.3	7.0	6.9	6.9	7.5	−	−	−	6.9	6.6	6.6	6.8	6.8	6.8	6.22	5.98	6.29	6.11	6.20	6.11
		BL	8.2	8.5	8.3	8.4	7.6	7.7	7.3	7.2	8.2	8.1	8.7	8.3	8.1	8.0	8.0	−	−	−	7.6	8.0	7.7	8.0	6.7	7.1	6.88	6.55	7.06	6.69	6.43	6.30
	P2	MD	7.6	7.6	6.4	6.5	6.1	6.1	7.0	7.2	7.3	7.3	7.1	7.2	7.2	7.0	7.4	−	−	−	6.7	6.8	6.4	6.7	7.2	6.8	7.82	7.33	8.04	7.39	7.07	6.68
		BL	8.3	8.1	8.2	8.1	8.0	7.8	7.4	6.7	8.6	8.4	8.4	8.5	8.6	8.1	8.4	−	−	−	8.0	8.2	7.9	7.7	7.3	7.2	7.07	6.96	7.32	7.05	8.14	7.50
	M1	MD	11.2	11.2	10.2	10.2	齲蝕	10.0	−	11.3	11.0	10.6	11.5	11.5	11.3	11.4	−	10.9	−	11.2	10.3	11.2	齲蝕	11.3	10.3	10.6	8.10	7.72	8.34	7.89	7.31	7.19
		BL	10.9	10.9	10.1	10.0	10.6	10.4	−	10.6	11.4	11.3	11.6	11.3	10.2	10.5	−	11.7	−	10.5	11.8	11.5	11.4	11.7	10.3	10.2	7.12	7.00	7.45	7.12	8.06	7.77
	M2	MD	11.0	11.3	10.5	10.1	生前	生前	10.5	11.2	11.4	11.2	−	生前	−	11.3	−	−	−	−	10.1	10.3	10.7	10.5	10.2	9.9	8.49	8.06	8.68	8.30	7.42	7.29
		BL	10.8	10.8	10.3	9.9	脱落	脱落	9.6	9.8	10.7	10.6	−	脱落	−	10.1	−	−	−	−	10.8	10.5	10.3	10.1	9.5	9.5	11.	11.	11.	11.	8.53	8.26
	M3	MD	−	埋伏	9.8	−	生前	生前	−	−	11.2	10.9	−	生前	10.5	−	−	−	−	−	−	10.1	9.1	9.3	−	−	56	06	72	14	11.	11.
		BL	−	埋伏	9.5	−	脱落	脱落	−	−	10.4	10.3	−	脱落	9.6	−	−	−	−	−	−	10.0	9.2	9.0	−	−	11.	10.	11.	10.	72	32

註１．計測値の単位は、すべて、「㎜」である。
註２．歯種は、I1（第１切歯）・I2（第２切歯）・C(犬歯)・P1(第１小臼歯)・P2(第２小臼歯)・M1(第１大臼歯)・M2(第２大臼歯)・M3(第３大臼歯)を意味する。
註３．計測項目は、MD(歯冠近遠心径)・BL(歯冠唇頬舌径)を意味する
註４．「生前脱落」は、歯が生前脱落していることを示す。
註５．「齲蝕」とは、齲蝕（虫歯）により歯冠が崩壊しており計測できなかったことを示す。
註６．「＊」は、MATSUMURA(1995)より引用。なお、MATSUMURA(1995)には、第３大臼歯のデータは無い。
註７．「＊＊」は、権田(1959)より引用

元総社蒼海遺跡群(5)出土人骨：遺構外編

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　　楢崎　修一郎

はじめに

元総社蒼海遺跡群(5)は，群馬県前橋市元総社町に所在する。前橋市埋蔵文化財発掘調査団による発掘調査が，2005(平成17)年９月～同年12月まで行われた。人骨は，東区の西側に位置するＷ－２号溝と東区のほぼ中央に位置するＷ－４号溝に囲まれた区域に密集して検出された。この区域から，中世の人骨12体が出土したので以下に報告する。出土人骨は，清掃後，可能な限り接合及び復元を行い，観察・計測・写真撮影を行った。なお，出土頭蓋骨の計測方法はマルティン[MARTIN]の方法にい従い，出土歯の計測方法は，藤田(1949)に従った。また，出土頭蓋骨計測値の比較は，中世人骨は鈴木を用い近世人骨は鈴木を用いた。また，歯の歯冠計測値の比較は，中近世人骨はMATSUMURA[松村](1995)を用い，現代日本人は権田(1959)を用いた。

１．旧４号土壙墓出土人骨

人骨の残存状態は比較的悪く、頭蓋骨及び永久歯の遊離歯が出土している。出土歯には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は１個体であると推定される。出土上顎左第１大臼歯の歯冠計測値が比較的大きいため、被葬者の性別は男性であると推定される。出土歯の咬耗度を観察すると、咬耗はエナメル質のみに限定される、マルティンの１度の状態である。したがって、被葬者の死亡年齢は約20歳代であると推定される。

２．旧18号土壙墓出土人骨

人骨の残存状態は悪く、乳歯及び永久歯の遊離歯が出土している。出土歯には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は１個体であると推定される。出土上下第１大臼歯の歯冠計測値が比較的小さいため、被葬者の性別は女性(女児)であると推定される。歯の萌出状態から、被葬者の死亡年齢は約４歳であると推定される。

３．旧26号土壙墓出土人骨

人骨の残存状態は悪く、乳歯及び永久歯の遊離歯が出土している。出土歯には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は１個体であると推定される。永久歯の歯冠がまだ未完成であり、計測不能であるので、被葬者の性別は不明である。しかしながら、乳歯の歯冠が比較的小さいので、被葬者の性別は女性(女児)である可能性が高い。歯の萌出状態から、被葬者の死亡年齢は約２歳であると推定される。

４．旧45号土壙墓出土人骨

人骨の残存状態は悪く、乳歯の遊離歯が出土している。出土遊離歯には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は１個体であると推定される。永久歯が出土していないので、被葬者の性別は不明である。歯の萌出状態から、被葬者の死亡年齢は生後約９ヶ月であると推定される。

５．旧56号土壙墓出土人骨

人骨の残存状態は悪く、乳歯及び永久歯の遊離歯が出土している。出土遊離歯には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は１個体であると推定される。出土永久歯の歯冠計測値が比較的小さいため、被葬者の性別は女性(女児)であると推定される。歯の萌出状態から、被葬者の死亡年齢は約２歳であると推定される。

６．旧57号土壙墓出土人骨

人骨の残存状態は悪く、頭蓋骨片及び遊離歯が出土している。出土遊離歯には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は１個体であると推定される。出土永久歯の歯冠計測値が比較的小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。出土歯の咬耗度を観察すると、エナメル質に限定されるマルティンの１度の状態である。したがって、被葬者の死亡年齢は約20歳代であると推定される。

7．旧58号土壙墓出土人骨

人骨の残存状態は悪く，遊離歯が出土している。出土遊離歯には，重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。出土歯の歯冠計測値が比較的大きいため，被葬者の性別は男性であると推定される。出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状に露出するマルティンの２度の状態である。したがって，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

8．旧59号土壙墓出土人骨

人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片及び遊離歯が出土している。出土遊離歯には，重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

9．旧73号土壙墓出土人骨

人骨の残存状態は悪く，乳歯の遊離歯が出土している。出土遊離歯には，重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。永久歯が出土していないので，被葬者の性別は不明である。歯の萌出状態から，被葬者の死亡年齢は約18ヶ月（１歳半）であると推定される。

10．旧87号土壙墓出土人骨

人骨の残存状態は悪く，乳歯及び永久歯の遊離歯が出土している。出土歯には，重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。出土永久歯の歯冠計測値が大きいため，被葬者の性別は男性（男児）であると推定される。歯の萌出状態から，被葬者の死亡年齢は約２歳であると推定される。

11．旧88号土壙墓出土人骨

人骨の残存状態は悪く，乳歯の遊離歯が出土している。出土遊離歯には，重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。永久歯が出土していないので，被葬者の性別は不明である。歯の萌出状態から，被葬者の死亡年齢は生後約９ヶ月であると推定される。

12．旧90号土壙墓出土人骨

人骨の残存状態は悪く，下顎骨及び遊離歯が出土している。出土遊離歯には，重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。下顎骨が比較的大きく頑丈で，歯冠計測値も比較的大きいため，被葬者の性別は男性であると推定される。出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状あるいは面状に露出するマルティンの２度の状態である。したがって，被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。出度歯には，歯石の付着が認められたが，齲蝕は認められなかった。

まとめ

元総社蒼海遺跡群(5)の遺構外から、12体の人骨が出土した。遺構編の土壙墓出土人骨58体と合わせると、合計70体となる。この70体の内、性別及び死亡年齢不明個体の12体を除くと58体となる。この58体の内、成人は36体（男性15体、女性21体）で全体の62.1％をしめ、未成年は22体で全体の37.9％をしめる。このように、未成年の出土率が高く、実際の人口学的データとかなり符号する。

表１．元総社蒼海遺跡群(5)遺構外出土人骨リスト(一覧表)

No.	旧土壙番号	個体数	性　別	死亡年齢	No.	旧土壙番号	個体数	性　別	死亡年齢
1	４号土壙墓	１個体	男性	約20歳代	7	58号土壙墓	１個体	男性	約30歳代
2	18号土壙墓	１個体	女性(女児)	約４歳	8	59号土壙墓	１個体	不明	不明
3	26号土壙墓	１個体	女性(女児)	約２歳	9	73号土壙墓	１個体	不明	約18ヶ月
4	45号土壙墓	１個体	不明	約９ヶ月	10	87号土壙墓	１個体	男性(男児)	約２歳
5	56号土壙墓	１個体	女性(女児)	約２歳	11	88号土壙墓	１個体	不明	約９ヶ月
6	57号土壙墓	１個体	女性	約20歳代	12	90号土壙墓	１個体	女性	約40歳代

元総社小見内Ⅲ遺跡出土人骨

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　　楢崎　修一郎

はじめに

元総社小見内Ⅲ遺跡は，群馬県前橋市元総社町に所在する。前橋市埋蔵文化財発掘調査団による発掘調査が，2001(平成13)年９月～2002(同14)年３月まで行われた。なお，発掘調査報告書は，前橋市埋蔵文化財発掘調査団により2001年に『元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ⅲ遺跡』として出版されているが，諸般の事情から，自然科学分析は掲載されていない。本遺跡の１区から６基・６区から８基・９区から２基・18区から８基・19区から１基の合計25基の土壙墓より人骨が出土した。また，15区の４号溝から２体の人骨が出土したので併せて報告する。なお，土壙墓の時代は，主に副葬品より中近世に比定されている。以下に，元総社小見内Ⅲ遺跡出土人骨を報告する。

１．１区出土人骨

１区では，１号～６号の６基の土壙墓から人骨が出土している。

（１）１号土壙墓出土人骨［中世］

①人骨の出土状況：報告書中には，規模不明と記載されている。平面図では，人骨は現状で長径約60cm・短径約64cmの推定不整円形土壙から出土している。本土壙の東側は，トレンチにより破損しているため，正確な規模は不明であるが長径は約80cmはあったと推定される。

②人骨の出土部位：出土人骨の保存状態は非常に悪く，僅かに右上下顎骨が出土している。

③副葬品：銭貨の熙寧元寶(北宋1068年)２点・元祐通寶(北宋1086年)１点・咸平元寶(北宋998年)２点の合計５点が検出されている。

④被葬者の頭位・埋葬状態：不明である。被葬者の死亡年齢は，約３歳であると推定されている。1975年の現代日本人の統計では，３歳の男児の身長は95.3cm・女児の身長は約95.4cmと報告されている(鈴木，1996)。したがって，土壙の規模から伸展葬は不可能であるので，屈葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土歯には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：上下右第１大臼歯の歯冠計測値が，比較的小さいため，被葬者の性別は女性(女児)であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：歯の萌出状態から，被葬者の死亡年齢は，約３歳であると推定される。

写真１．元総社小見内Ⅲ遺跡１区１号土壙墓出土人骨
［上から，上顎歯咬合面観･右側面観･下顎歯咬合面観］

⑧被葬者の古病理：乳臼歯に，一部，歯石の付着が認められた。齲触(虫歯)は，認められなかった。

（２）２号土壙墓出土人骨［近世］

①人骨の出土状況：報告書中には，規模不明と記載されている。平面図では，人骨は現状で長径約1.4m・短径約1.2mの規模である。本土壙の西側は，調査区外であるため，全容は不明である。

②人骨の出土部位：出土人骨の保存状態は極めて悪く，僅かに大腿骨骨幹部破片のみ出土している。

③副葬品：副葬品は，検出されていない。

④被葬者の頭位・埋葬状態：不明である。被葬者は，成人女性と推定されているので，土壙の規模から屈葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：大腿骨の大きさは比較的小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：成人であるとしか，推定は不可能である。

（３） ３号土壙墓出土人骨［中世］

①人骨の出土状況：報告書中には，規模不明と記載されている。平面図では，人骨は現状で長径約70㎝・短径約60㎝の不整円形土壙から出土している。

②人骨の出土部位：出土人骨の保存状態は非常に悪く，僅かに歯及び頭蓋骨片が出土している。

③副葬品：銭貨の嘉祐通寶(北宋1056年)１点・政通和寶(北宋1111年)１点の合計２点が検出されている。

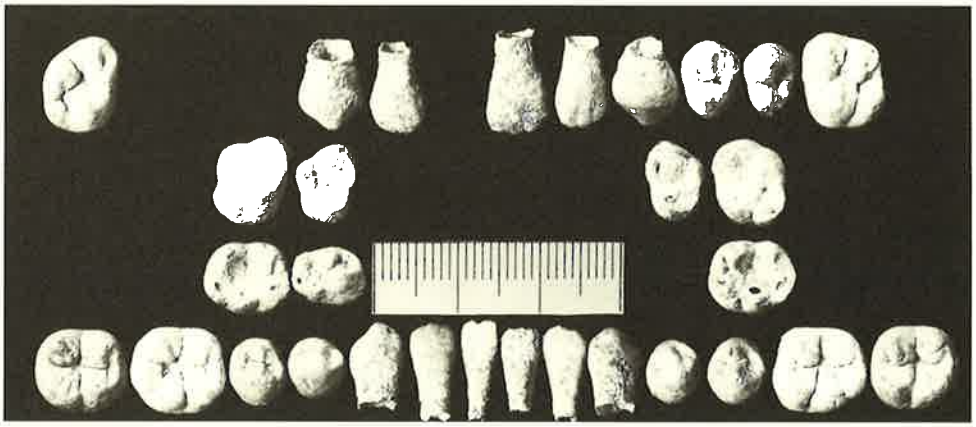
④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土位置から，被葬者の頭位は南東であると推定される。被葬者の死亡年齢は，約６歳であると推定されている。1975年の現代日本人の統計では，６歳男児の身長は114.3㎝・女児の身長は113.4㎝と報告されている(鈴木，1996)。したがって，土壙の規模から伸展葬は不可能であるので，屈葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土歯には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土永久歯の歯冠計測値が比較的小さいため，被葬者の性別は女性(女児)であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：出土歯の萌出状態から，被葬者の死亡年齢は，約６歳であると推定される。

⑨被葬者の古病理：歯石及び齲蝕(虫歯)は，認められなかった。



M2 C I2	I1 I2 C P1 P2 M1
m2 m1	m1 m2
m2 m1	m2
M2 M1 P2 P1 C I2 I1	I1 I2 C P1 P2 M1 M2

写真２．元総社小見内Ⅲ遺跡１区３号土壙墓出土人骨[出土乳歯及び永久歯]

（４） ４号土壙墓出土人骨［中世］

①人骨の出土状況：人骨は，現状で直径約1.1m・短径約60㎝・深さ約23㎝の土壙から出土している。土壙の南側は調査区外であるため，全容は不明である。

②人骨の出土部位：頭蓋骨及び四肢骨が出土している。

③副葬品:銭貨の元禧通宝(1017年)１点・元豊通宝(北宋1078年)１点・不読の銭貨１点の合計３点が出土している。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者は顔面部を北に向けた座葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：頭蓋骨は全体的に大きく頑丈で，乳様突起も発達している。また，歯も大きいため，被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合を観察すると，冠状縫合は内板は癒合し閉鎖しているものの外板は開放の状態であり，矢状縫合及びラムダ縫合は内板及び外板共に開放の状態である。また，歯の咬耗度を観察すると，象牙質が線状及び点状に露出するマルティンの２度の状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は，約30歳代～40歳代であると推定される。

写真３．元総社小見内Ⅲ遺跡１区４号土壙墓出土人骨
［頭蓋骨左側面観］

⑧被葬者の古病理：出土歯には，一部歯石の付着が認められた。また，齲触(虫歯)は認められなかった。さらに，下顎左第１大臼歯は，生前脱落をしており歯槽も閉鎖し吸収されている状態である。

（５）５号土壙墓出土人骨［中世］

①人骨の出土状況：人骨は，長径約1.1m・短径約80㎝・深さ47㎝の土壙から出土している。報告書中には，短径が18㎝と記載されているが記載ミスであろう。

②人骨の出土部位：出土人骨は比較的残存状態が良く，全身骨格が残存している。

③副葬品：銭貨の元禧通宝(1039年)１点・嘉熙通寶(南宋1237年)１点・洪武通宝(明1368年)２点・不読２点の合計６点が検出されている。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，埋葬状態は顔面部を西側に向け，右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：頭蓋骨を観察すると，ある程度大きく頑丈に見えるが，乳様突起はそれほど発達していない。一方，下顎骨は頤部が比較的発達しており男性的である。歯は，比較的小さく女性的である。ところが，左寛骨大座骨切痕の角度が鋭角なので，被葬者の性別は男性であると推定される。また，四肢骨も大きく頑丈である。

⑦被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合の３縫合は，内板は癒合して閉鎖している状態である。外板は，一部癒合して閉鎖しているものの，ほとんどは開放の状態である。また，下顎歯の咬耗度を観察すると，象牙質が面状あるいは点状に露出する，マルティンの２度～３度の状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は，約40歳代であると推定される。

写真４．元総社小見内Ⅲ遺跡１区５号土壙墓出土人骨
［下顎骨咬合面観］

⑧被葬者の古病理：下顎骨を観察すると，下顎左第１及び第２切歯は，生前脱落をしており，歯槽も閉鎖し吸収されている状態である。また，下顎左第２及び第３大臼歯部は，生前脱落をしているが，歯槽は，閉鎖吸収される途上の過程である。したがって，本被葬者が亡くなる数ヶ月前に生前脱落をしたと推定される。出土歯には，歯石及び齲触(虫歯)は認められなかった。古病理ではないが、インカ骨が認められた。

写真５．元総社小見内Ⅲ遺跡１区５号土壙墓出土人骨頭蓋骨［左から，右側面観・後面観・左側面観］

（６）６号土壙墓出土人骨［中世］

①人骨の出土状況　人骨は，長径約1.2ｍ・短径約80㎝・深さ約27㎝の土壙から出土している。西側は、不明である。

②人骨の出土部位：出土人骨の残存状態は，あまり良くないが，全身骨格が出土している。

③副葬品：副葬品は，検出されていない。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，埋葬状態は顔面部を西側に向け，右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：歯の歯冠計測値は，比較的小さく女性的である。しかしながら，下顎骨は頑丈で頤も発達しているため，被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：歯の咬耗度を観察すると，エナメル質が線状あるいは点状に露出するマルティンの２度の状態である。また，上顎骨の切歯縫合は，ある程度痕跡的である。この切歯縫合は，30歳以降では癒合して消失することが知られているので，被葬者の死亡年齢は，約20歳代後半～30歳代であると推定される。

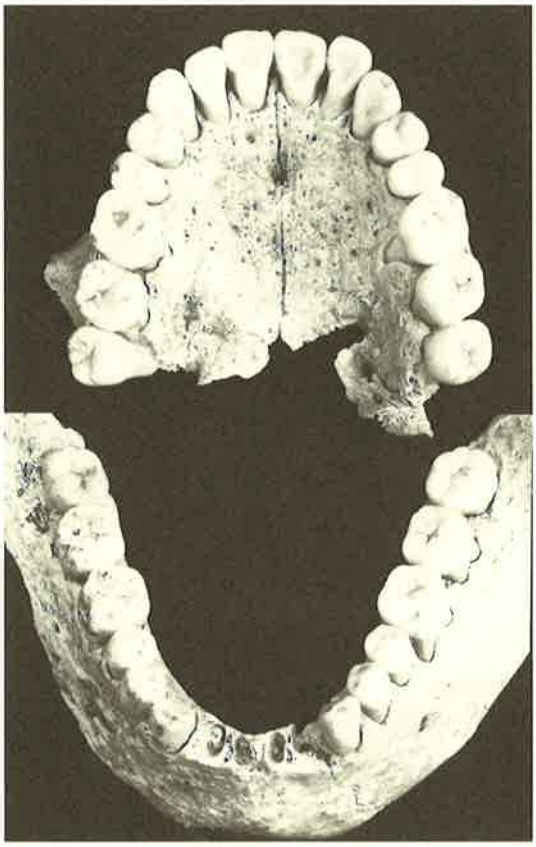


写真６．元総社小見内Ⅲ遺跡１区６号土壙墓出土人骨
［上：上顎歯咬合面観，下：下顎歯咬合面観］

⑧被葬者の古病理：検出された28本の歯には，歯石及び齲触(虫歯)は認められなかった。

２．６区出土人骨

６区では，１号～８号までの８基の土壙墓から人骨が出土している。しかしながら，全体的に人骨の残存状態は悪く，３号土壙墓のみ全身骨格が出土している。

（１）１号土壙墓出土人骨［近世］（2001年10月25日出土）

①人骨の出土状況：人骨は，長径約１ｍ・短径約74㎝・深さ約20㎝の隅丸長方形土壙から出土している。

②人骨の出土部位：人骨の残存状態は非常に悪く，わずかに頭蓋骨片及び遊離歯片みが出土している。

③副葬品：副葬品は，検出されていない。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いため，不明である。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：頭蓋骨片の骨の厚さは薄く，歯も小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。
⑦被葬者の死亡年齢：遊離歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状に露出するマルティンの２度の状態である。したがって，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

（２）２号土壙墓出土人骨［近世］（2001年11月28日出土）

①人骨の出土状況：人骨は，長径及び短径不明で，深さ約20cmの土壙から出土している。
②人骨の出土部位：人骨の残存状態は非常に悪く，わずかに頭蓋骨片のみ出土している。
③副葬品：副葬品は，検出されていない。

出土人骨の残存状態が非常に悪いため，被葬者の頭位・埋葬状態・個体数・性別・死亡年齢は，不明である。しかしながら，頭蓋骨の厚さはかなり薄いため，未成年である可能性が高いが正確な死亡年齢は不明である。

（３）３号土壙墓出土人骨［近世］（2001年12月３日～５日出土）

①人骨の出土状況：人骨は，長径約1.9m・短径約70cm・深さ約20cmの隅丸長方形土壙から出土している。
②人骨の出土部位：人骨の保存状態は，６区出土人骨では一番良く，ほぼ全身骨格が出土している。
③副葬品：副葬品は検出されておらず，釘が検出されている。木棺に埋葬されたものと推定される。
④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で，顔を西に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。
⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。
⑥被葬者の性別：頭蓋骨の大きさは比較的小さく女性的である。しかしながら，乳様突起は大きく，骨の厚さも厚く眼窩縁も厚いため，被葬者の性別は男性であると推定される。
⑦被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合を観察すると，これら３縫合とも，内板は癒合して閉鎖している状態である。外板は，一部痕跡的で癒合している部分もある。歯の咬耗度を観察すると，象牙質が面状に露出するマルティンの３度の状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は，約40歳代であると推定される。
⑧被葬者の形態：頭蓋骨の顔面部及び左半分は破損しているが，狭顔型であると推定される。
⑨被葬者の古病理：下顎右第１大臼歯～第３大臼歯は，生前脱落をしており，歯槽も閉鎖し退縮が認められる。出土歯には，わずかに歯石の付着が認められた。齲触は認められなかった。残存していた上顎左右第１大臼歯の咬耗は，頰側の方が舌側よりも進んでおり，歯を道具として使用した疑いがある。上顎右第１大臼歯の頰側面には，根尖膿瘍による顎骨の溶解が認められた。

写真７．元総社小見内Ⅲ遺跡６区３号土壙墓出土人骨頭蓋骨[左：右側面観，右：後面観]

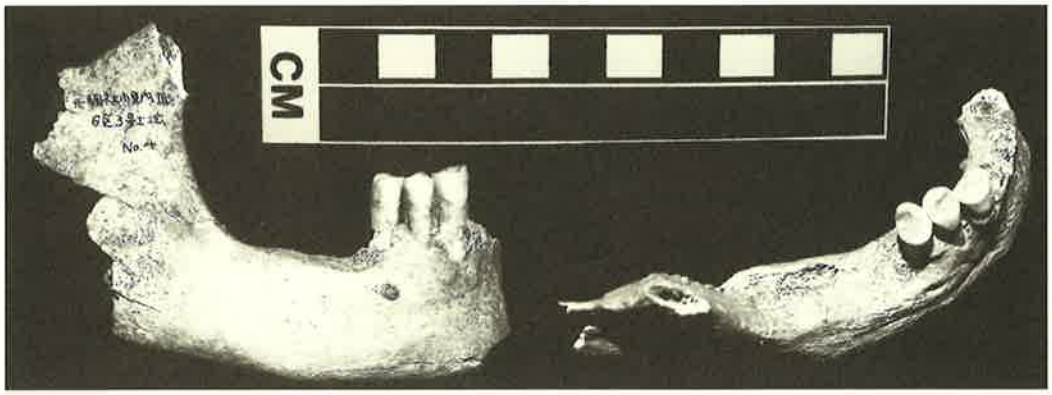


写真８．元総社小見内Ⅲ遺跡６区３号土壙墓出土人骨下顎骨［左：右側面観，右：上面観］

（４）４号土壙墓出土人骨［近世］（2001年12月５日出土）

人骨は，長径約1.9m・短径約73cm・深さ約25cmの隅丸長方形土壙から出土している。人骨の残存状態は非常に悪く，わずかに四肢骨片しか出土していない。また，副葬品は，検出されていない。土壙の形状及び規模からは，伸展葬の可能性もあるが，不明である。人骨の残存状態が非常に悪く，被葬者の個体数・性別・死亡年齢等を推定することは不可能であるため不明である。

（５）５号土壙墓出土人骨［近世］（2001年12月７日出土）

①人骨の出土状況：人骨は，長径及び短径不明で，深さ約29cmの土壙から出土している。

②人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，頭蓋骨片及び遊離歯が出土している。

③副葬品：副葬品は，検出されていない。

④被葬者の頭位・埋葬状態：土壙の南側が調査区外であるため，被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：頭蓋骨の厚さは比較的厚く，歯の大きさも大きいため被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：出土歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状あるいは面状に露出するマルティンの２度及び３度の状態である。また，頭蓋骨の縫合も閉鎖していない。総合的に，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

⑧被葬者の古病理：出土遊離歯には，歯石の付着及び齲蝕が認められた。

（６）６号土壙墓出土人骨［近世］（2001年12月12日出土）

①人骨の出土状況：人骨は，径約85cm・深さ約92cmの正方形土壙から出土している。

②人骨の出土部位：人骨の残存状態はあまり良くなく，下顎骨片及び四肢骨片が出土している。

③副葬品：寛永通宝６点，煙管１点，陶磁器１点が検出されている。また，人骨整理中に釘も追加検出された。恐らく，木棺に埋葬されたと推定される。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況より，被葬者は顔を北に向けた座葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：頭蓋骨の厚さは，比較的薄い。また，出土左下顎骨は小さく華奢である。さらに，寛骨の大座骨切痕部の角度が大きいため，総合的に被葬者の性別は女性であると推定される。

写真９．元総社小見内Ⅲ遺跡６区６号土壙墓出土人骨下顎骨左

⑦被葬者の死亡年齢：歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状に露出するマルティンの２度の状態である。したがって，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

⑧被葬者の古病理：出土歯には，歯石及び齲触は認められなかった。

（７）７号土壙墓出土人骨［近世］（2001年12月12日出土）

①人骨の出土状況：人骨は，長径不明で，短径約88㎝・深さ約73㎝の長方形土壙から出土している。

②人骨の出土部位：人骨の残存状態は非常に悪く，腓骨片や距骨片が出土している。

③副葬品：陶磁器が１点検出されている。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いため，頭位及び埋葬状態は不明である。

⑤被葬者の個体数：人骨の残存状態が非常に悪いため，被葬者の個体数は不明であるが，出土状況から恐らく１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：腓骨片の大きさが小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：年齢指標となる部位が出土していないため，被葬者の死亡年齢は不明である。恐らく，成人であると推定される。

（８）８号土壙墓出土人骨［近世］（2001年12月12日出土）

①人骨の出土状況：人骨は，長径約97㎝・短径約90㎝・深さ約75㎝の正方形土壙から出土している。

②人骨の出土部位：人骨の残存状態は，極めて悪く，わずかな頭蓋骨片のみが出土している。

③副葬品：副葬品は，検出されていない。

人骨の残存状態は，極めて悪いため，被葬者の頭位・埋葬状態・個体数・性別・死亡年齢等は不明である。

３．９区出土人骨

９区では，１号及び２号の２基の土壙墓から人骨が出土している。

（１）１号土壙墓出土人骨［９世紀中頃］

①人骨の出土状況：人骨は，長径約2.4m・短径約70㎝・深さ約30㎝の楕円形土壙から出土している。

②人骨の出土部位：人骨の残存状態は，あまり良くない。主に，遊離歯及び大腿骨片が出土している。

③副葬品：須恵器碗が１点検出されている。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況より，被葬者の頭位は北東で，伸展葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：歯の歯冠計測値及び大腿骨片が比較的大きいため，被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状に露出したマルティンの２度の状態である。したがって，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

⑧被葬者の古病理：出土遊離歯には，歯石の付着及び齲触は認められなかった。

（２）２号土壙墓出土人骨［９世紀中頃］

①人骨の出土状況：人骨は，８世紀前期の住居内に掘りこまれた，規模不明の土壙から出土している。

②人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く，四肢骨片が出土している。

③副葬品：須恵器碗が１点検出されている。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で顔を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土四肢骨の大きさが比較的小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないので，不明である。しかしながら，恐らく成人であろう。

4．15区出土人骨

15区では，W－4号溝の埋土から2体の人骨が出土している。このW－4号溝の規模は，検出された規模で長さ約6.5m・幅約2m～2.7m・深さ約1.8mである。これら2体の人骨は約1.6m離れて出土している。1号人骨及び2号人骨共に，頭蓋骨が検出されているが下顎骨が検出されていない。溝の北側から出土したものが1号人骨であり，南側から出土したものが2号人骨である。

（1）1号人骨（時代は不明であるが，人骨の状態からは近世であると推定される）

①人骨の出土状況：人骨は，W－4号溝の北側から出土している。出土状況の図面及び写真では，土壙に埋葬されたようにも見える。大きさは，長径約1.2m・短径約80cmである。

②人骨の出土部位：人骨の残存状態は悪く頭蓋骨片及び，四肢骨片が出土している。

③副葬品：副葬品は，検出されていない。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で顔を南側に向けた仰臥屈葬で埋葬されたと推定される。しかしながら，下顎骨が検出されていないので，改葬であると推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は1個体であると推定される。

写真10．元総社小見内Ⅲ遺跡15区W－4号溝出土人骨
1号人骨［頭蓋骨後面観］

⑥被葬者の性別：頭蓋骨の乳様突起は比較的大きく頑丈であり，さらに出土遊離歯の歯冠計測値も大きいため，被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：観察可能な頭蓋骨のラムダ（人字）縫合は，内板は癒合して閉鎖しかかっている状態である。外板も一部癒合しかかっている状態である。また，上顎骨の切歯縫合は，痕跡的である。さらに，出土遊離歯の上顎犬歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状に露出するマルティンの2度の状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は，約40歳代であると推定される。

⑧被葬者の古病理：観察可能な，右上顎骨の第1大臼歯部は生前脱落をしており，歯槽も閉鎖し退縮した状態である。第2及び第3大臼歯部は，破損しており不明である。また，左上顎骨は出土していないため不明である。

（2）2号人骨（時代は不明であるが，人骨の状態からは近世であると推定される）

①人骨の出土状況：人骨は，W－4号溝の南側から出土している。出土状況の図面及び写真では，土壙に埋葬されたようにも見えるがその規模は不明である。

②人骨の出土部位：頭蓋骨片が出土している。

③副葬品：副葬品は，検出されていない。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者の頭位は北側で顔を南東側に向けた状態である。しかしながら，下顎骨が検出されていないので，改葬であると推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：頭蓋骨は全体的に小さく華奢であり，乳様突起は小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

写真11．元総社小見内Ⅲ遺跡15区W－4号溝出土人骨
2号人骨［頭蓋骨後面観］

⑦被葬者の死亡年齢：ラムダ（人字）縫合の内板はある程度閉鎖しているが，外板は開放の状態である。その他の主要縫合

である，冠状縫合部及び矢状縫合部は破損しており観察不能である。また，口蓋部の横口蓋縫合は，癒合していない状態であるので，50歳以下であると推定される。さらに，歯の咬耗度を観察すると，象牙質の一部が露出するマルティンの２度の状態である。したがって，総合的に，被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。

⑧被葬者の古病理：上顎右第２大臼歯は生前脱落をしており，歯槽も閉鎖し退縮している。上顎左第２大臼歯は出土していないが，歯槽は開放している。上顎左右第３大臼歯部は，歯槽が閉鎖して退縮しているが，生前脱落なのか先天的欠如なのかは判断できない。上顎右第１大臼歯の遠心面歯頸部に，象牙質に達する齲触(虫歯)が認められた。

５．18区出土人骨

18区では，１号～８号の８基の土壙墓から人骨が出土している。これらの土壙墓は，近接している。

（１）１号土壙墓出土人骨［近世］

①人骨の出土状況：人骨は，長径約90cm・短径約84cm・深さ約９cmの正方形土壙から出土している。

②人骨の出土部位：頭蓋骨及び四肢骨片が出土している。

③副葬品：副葬品は，寛永通宝11点・不読の銭貨６点・陶磁器が検出されている。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，頭位は北側で，仰臥屈葬で埋葬されたと推定される。なお，報告書中では座臥屈葬と報告されているが，訂正が必要である。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：頭蓋骨を観察すると，乳様突起は小さく，下顎骨も華奢である。上顎骨は，出土していない。総合的に，被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，矢状縫合及びラムダ(人字)縫合は，内板は癒合し閉鎖している状態である。外板は，癒合していない状態である。冠状縫合部は，破損しており，観察不能である。また，歯の咬耗度を観察すると，エナメル質のみに咬耗が認められるマルティンの１度の状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

⑧被葬者の古病理：出土歯には，小臼歯部に歯石の付着がわずかに認められた。また，齲触(虫歯)は，認められなかった。

写真12．元総社小見内Ⅲ遺跡18区１号土壙墓出土人骨［頭蓋骨後面観］

（２）２号土壙墓出土人骨［近世］

①人骨の出土状況：人骨は，長径約75cm・短径約74cm・深さ約67cmの正方形土壙から出土している。

②人骨の出土部位：出土人骨の残存状態はあまり良くなく，下顎骨及び四肢骨片が出土している。

③副葬品：副葬品は，陶磁器及び漆片が検出されている。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，被葬者は座臥屈葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土下顎骨及び出土四肢骨は小さく華奢であり，歯の歯冠計測値も比較的小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：歯の咬耗度を観察すると，象牙質が点状に露出するマルティンの２度の状態である。しかしながら，上顎骨の左右第１切歯及び右第２切歯は生前脱落をしており歯槽も閉鎖し退縮した状態である。同様に，下顎骨の右第２大臼歯及び左第１・第２大臼歯は生前脱落をしており歯槽も閉鎖し退縮した状態である。そ

うすると，歯の咬耗度は咬合を起こさずにあまり磨り減らなかった可能性もある。下顎左右第３大臼歯は，生前脱落をしたのか未萌出なのかは不明である。上顎骨の切歯縫合は，閉鎖している。総合的に，被葬者の死亡年齢は，約40歳代であると推定される。

⑧被葬者の古病理：本人骨の頸椎は，３個が癒合した状態であり，広汎性特発性硬化性骨化過剰症症候群（DISH）であると推定される。このDISHは，脊椎骨の靱帯が骨化することにより起こる。通常，頸椎及び胸椎下部がおかされる場合が多い。また，50歳以上の男性によく認められるという。残念ながら，人骨の保存状態は悪く脊椎骨の後部は破損しているために，部位同定も困難である。しかしながら，脊椎骨椎体の大きさから，恐らく頸椎であると推定される。なお，出土歯には，全体的にわずかな歯石の付着が認められた。また，齲歯は認められなかった。

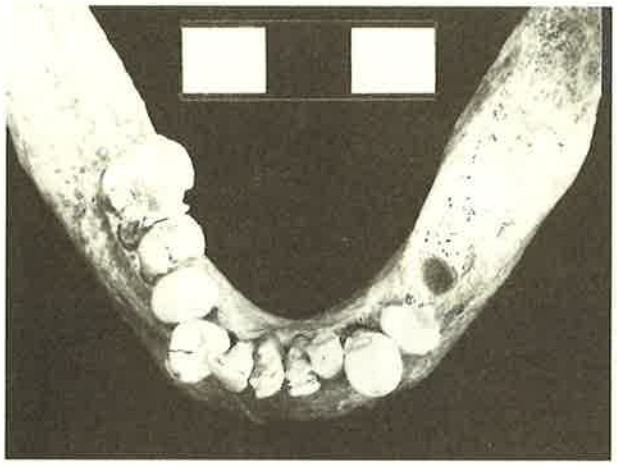


写真13．元総社小見内Ⅲ遺跡18区２号土壙墓
出土人骨［下顎骨咬合面観］

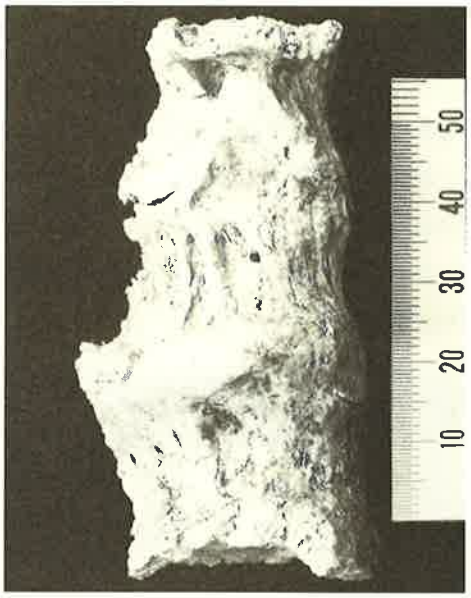


写真14．元総社小見内Ⅲ遺跡18区２号土壙墓
出土人骨DISH［頸椎前面観］

（３）３号土壙墓出土人骨［近世］

①人骨の出土状況：人骨は，長径約57㎝・短径約55㎝・深さ約63㎝の正方形土壙から出土している。

②人骨の出土部位：頭蓋骨片・下顎骨・大腿骨等が出土している。

③副葬品：癒着した銭貨が多数検出されている。人骨整理中にも，銭貨（判読不能）が１点追加検出された。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，顔を北に向けた座臥屈葬で埋葬されたと推定される。なお，釘が検出されていることから，木棺を使用したと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土永久歯の内，上顎右第２大臼歯及び下顎右第１大臼歯の歯冠計測値が比較的大きいため，被葬者の性別は男性（男児）であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：出土脛骨の骨端部は，癒合が完了していない状態である。また，下顎骨の歯の萌出状態から，被葬者の死亡年齢は約９歳であると推定される。

⑧被葬者の古病理：出土歯には，歯石及び齲蝕（虫歯）は認められなかった。

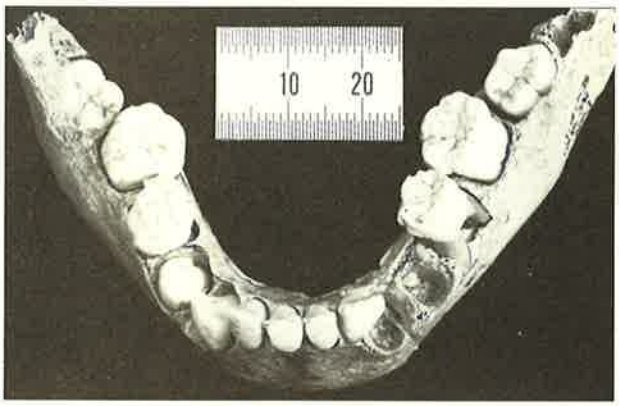


写真15．元総社小見内Ⅲ遺跡18区２号土壙墓
出土人骨［下顎骨咬合面観］

（4） 4号土壙墓出土人骨［近世］

①人骨の出土状況：人骨は，長径約90cm・短径約60cm・深さ約44cmの長方形土壙から出土している。

②人骨の出土部位：頭蓋骨及び四肢骨が出土している。

③副葬品：副葬品は，寛永通宝１点・不読の銭貨45点・陶磁器が検出されている。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，頭位は北側で顔面部を東側に向け，左側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。報告書中では，座臥屈葬と記載されているが，訂正が必要である。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：頭蓋骨を観察すると，乳様突起は小さく華奢である。また，頭頂結節が認められた。さらに，下顎骨は，小さく華奢である。総合的に，被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合は，内板はすべて癒合し閉鎖している状態である。外板は，一部癒合しているものの基本的に開放の状態である。また，下顎歯の咬耗度を観察すると，象牙質が線状あるいは点状に露出しているマルティンの２度の状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は，約30歳代であると推定される。

⑨被葬者の古病理：出土歯には，歯石及び齲触(虫歯)は，認められなかった。上顎左第３大臼歯は，未萌出である埋伏歯の状態である。右側は，破損しており不明である。また，下顎左第２大臼歯は生前脱落しており，歯槽も閉鎖し退縮した状態である。右側は，破損しており不明である。

写真16．元総社小見内Ⅲ遺跡18区４号土壙墓出土人骨頭蓋骨［左：左側面観，中：後面観，右：上面観］

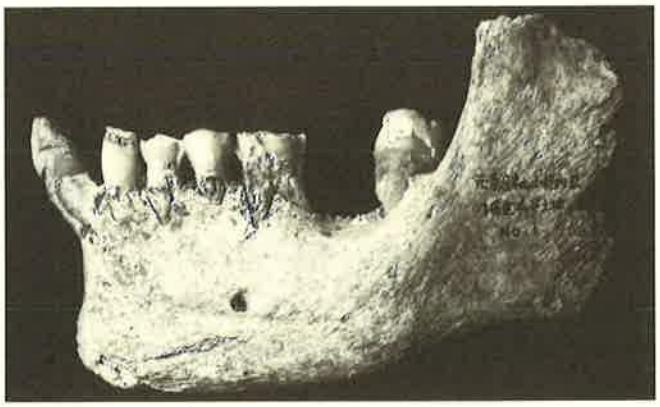


写真17．元総社小見内Ⅲ遺跡18区４号土壙墓出土人骨

［左：左上顎骨咬合面観・第３大臼歯の埋伏に注意，右：下顎骨左側面観・第２大臼歯の生前脱落に注意］

（5） 5号土壙墓出土人骨［近世］

①人骨の出土状況：人骨は，長径及び短径約１ｍ・深さ約60cmの正方形土壙から出土している。

②人骨の出土部位：頭蓋骨及び四肢骨が出土している。

③副葬品：副葬品は，癒着した銭貨19点・陶磁器・漆片が検出されている。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，頭位は北側で，顔を東側に向け，左側を下にした横臥（側臥）屈葬で埋葬されたと推定される。報告書中では，座臥屈葬と記載されているが，訂正が必要である。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：頭蓋骨を観察すると，乳様突起は大きく頑丈である。また，下顎骨も同様に大きく頑丈である。総合的に，被葬者の性別は，男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ（人字）縫合は，内板はすべて癒合し閉鎖している状態である。外板は，一部癒合しているものの基本的に開放の状態である。また，下顎歯の咬耗度を観察すると，象牙質が線状あるいは点状に露出しているマルティンの２度の状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は，約40歳代であると推定される。

⑧被葬者の古病理：出土歯には，歯石の付着は認められなかった。齲触（虫歯）は，上顎左第１大臼歯及び同第２大臼歯に認められた。上顎左第１大臼歯は，歯冠が崩壊して歯根しか残存していない状態の第４度齲触症（Ｃ４）の状態である。また，上顎左第２大臼歯の近心面歯頸部には，象牙質にまで達した第２度齲触症（Ｃ２）の状態である。さらに，下顎左第３大臼歯は，埋伏歯であり，水平に萌出しかかっている状態で，同第２大臼歯の歯根部に歯冠部があたって萌出できない状態である。

写真18．元総社小見内Ⅲ遺跡18区５号土壙墓出土人骨頭蓋骨［左：左側面観，中：後面観，右：上面観］

（6） 6号土壙墓出土人骨［近世］

①人骨の出土状況：人骨は，長径及び短径約１ｍ・深さ約80cmの正方形土壙から出土している。

②人骨の出土部位：頭蓋骨及び四肢骨片が出土している。

③副葬品：煙管が１点検出されている。さらに，釘も検出されており，木棺に埋葬されたと推定される。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，顔面部を北に向けた座臥屈葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：出土人骨の頭蓋骨を観察すると，乳様突起は小さく，厚さも薄く華奢である。また，下顎骨も小さく華奢である。総合的に，被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：上顎骨は，歯がすべて生前脱落し，歯槽も閉鎖し吸収された無歯顎の状態である。下顎骨は，すべての歯が出土しているわけではないが，左右犬歯・左右第１小臼歯・右第２小臼歯を除く歯は，すべて

生前脱落し，歯槽も閉鎖し吸収された状態である。総合的に，被葬者の死亡年齢は約50歳代であると推定される。なお，頭蓋骨の主要縫合の内，わずかに冠状縫合の泉門部だけが観察可能であるが，内板及び外板共に癒合しておらず開放の状態である。しかしながら，頭蓋縫合の未癒合は，稀に高齢でも認められる。

⑧被葬者の古病理：これは，古病理ではないが，本人骨の頭蓋骨には，前頭縫合が認められた。

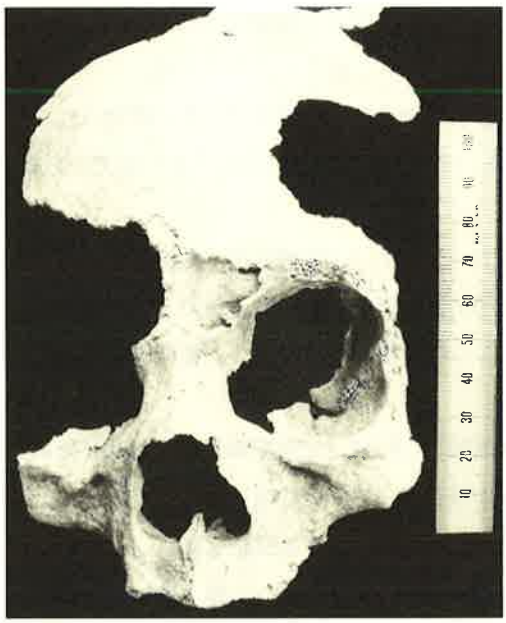


写真19．元総社小見内Ⅲ遺跡18区６号土壙墓出土人骨［左：頭蓋骨前面観，右：下顎骨上面観］

（７）７号土壙墓出土人骨［近世］

①人骨の出土状況：人骨は，長径約90cm・短径約70cm・深さ約75cmの長方形土壙から出土している。なお，報告書中には，南北軸約３cmと記載されているが訂正が必要である。

②人骨の出土部位：ほぼ，全身骨格が出土している。本遺跡出土人骨の中では，一番，保存状態が良く，顔面部まで保存されている。

③副葬品：副葬品は，検出されていない。釘が検出されており，木棺に埋葬されたと推定される。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土状況から，顔面部を北に向けた座臥屈葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：頭蓋骨及び四肢骨は，大きく頑丈である。さらに，寛骨の大座骨切痕の角度が鋭角であるため，総合的に被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合の３縫合共，内板は癒合し閉鎖している状態である。また，外板も痕跡的である。さらに，口蓋縫合の内，切歯縫合及び横口蓋縫合は癒合し閉鎖している状態である。さらに，上顎の歯は出土していないが，左犬歯及び同第２小臼歯部の歯槽は開放しているがその他の歯は生前脱落し歯槽が閉鎖し退縮している状態である。下顎は，すべての歯が生前脱落し，歯槽が閉鎖し退縮している状態の無歯顎である。総合的に，被葬者の死亡年齢は，50歳以上の老齢であると推定される。

⑧被葬者の古病理：本人骨の上顎骨は，左犬歯及び同第２小臼歯部の歯槽は開放している状態であるが，その他の歯は生前脱落をし歯槽も閉鎖し退縮した状態である。また，下顎骨は，すべての歯が生前脱落をし歯槽も閉鎖し退縮した状態である。さらに，本人骨の脊椎骨には，脊椎炎による炎症により著しい骨棘が形成されている状態が認められた。同様に，左右脛骨のヒラメ筋線部付着部に，骨増殖が認められた。この骨増殖の程度は，右脛骨の方が強く認められる。

写真20．元総社小見内Ⅲ遺跡18区７号土壙墓出土人骨

[左上：頭蓋骨前面観，左中：脊椎骨上面観(骨棘に注意)，左下：脊椎骨前面観(骨棘に注意)，右上：上顎骨咬合面観(ほぼ無歯顎に注意)，右中：下顎骨咬合面観(無歯顎に注意)，右下：左右脛骨後面観(ヒラメ筋線の骨増殖に注意)]

（8） 8号土壙墓出土人骨［近世］

①人骨の出土状況：人骨は，長径及び短径約70cm・深さ約85cmの正方形土壙から出土している。

②人骨の出土部位：人骨は，全体的に残存量は少ないが，頭蓋骨片・下顎骨片・四肢骨片が出土している。なお，本出土人骨は火葬人骨である。ところが，本土壙からは炭化材は検出されていないので，恐らく，別の場所で火葬に付した後，収骨を行ってから本土壙に埋葬したものと推定される。

③副葬品：副葬品は，検出されていない。

④被葬者の頭位・埋葬状態：本出土人骨は，火葬に付された人骨を収骨した後に埋葬したものと推定されるので，被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。火葬人骨を観察すると，人骨には亀裂・歪み・捻れが認められるため，白骨化させたものを火葬に付したのではなく，死体をそのまま火葬に付したと推定される。人骨のほとんどは灰白色を呈しているため，焼成温度は約900℃以上であると推定される。しかしながら，下顎骨及び下顎歯は火葬されたにしては歯のエナメル質が破損していない。恐らく，焼成温度が一部低かったことと，口腔内にある歯が直接火熱を受けなかったためと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：下顎骨は，小さく華奢なので，被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：下顎歯の咬耗度を観察すると，エナメル質のみのマルティンの1度の状態である。したがって，被葬者の死亡年齢は約20歳代であると推定される。

⑧被葬者の古病理：出土歯には，歯石及び齲蝕は認められなかった。

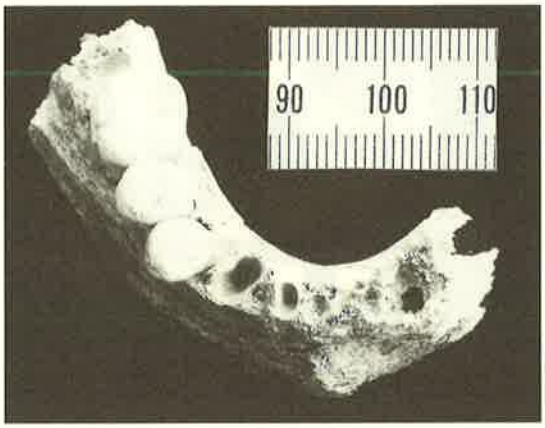


写真21．元総社小見内Ⅲ遺跡18区8号土壙墓出土人骨［下顎骨咬合面観］

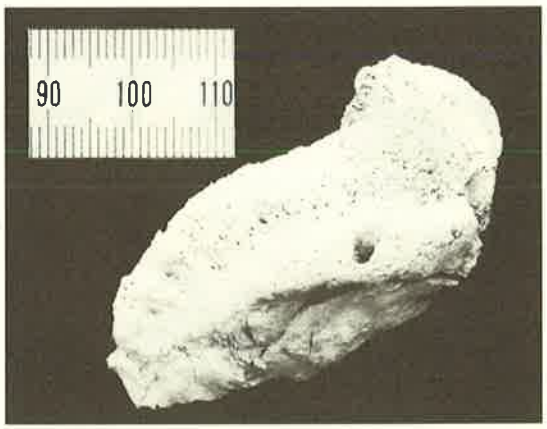


写真22．元総社小見内Ⅲ遺跡18区8号土壙墓出土人骨［後頭骨後面観］

6．19区出土人骨

（1） 1号土壙墓出土人骨［時期不明］

①人骨の出土状況：人骨は，南北径約77cm・深さ約23cmの土壙から出土している。土壙の西側は調査区外であるため，全容は不明である。しかしながら，円形土壙ではないかと推定される。

②人骨の出土部位：人骨の残存状態は非常に悪く，四肢骨片が出土している。

③副葬品：副葬品は，検出されていない。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の残存状態が悪いため，被葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。しかしながら，被葬者は約3歳と推定されている。1975年の現代日本人の統計では，3歳の男児の身長は95.3cm・女児の身長は95.4cmと報告されている（鈴木，1996）。したがって，土壙の規模から伸展葬は不可能であるので，屈葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：被葬者は未成年であり，永久歯も出土していないので被葬者の性別は不明である。

⑦被葬者の死亡年齢：年齢推定の指標となる部位が出土していないので不明である。しかしながら，大腿骨片の

大きさから，被葬者の死亡年齢は約３歳であると推定される。

まとめ

元総社小見内Ⅲ遺跡の，１区・６区・９区・15区・18区・19区から27体の中近世人骨が出土した。以下の表に，まとめを示した。性別は，男性10体(内１体は未成年)・女性13体(内２体は未成年)・不明４体である。

表１．元総社小見内Ⅲ遺跡出土人骨まとめ

区名	土壙墓番号	時代	個体数	埋葬状態	性　別	死亡年齢	備　　考
１区	１号土壙墓	中世	１個体	屈葬	女性(女児)	約３歳	歯石付着
	２号土壙墓	近世	１個体	屈葬	女性	成人	
	３号土壙墓	中世	１個体	屈葬	女性(女児)	約６歳	
	４号土壙墓	中世	１個体	座臥屈葬	男性	約30～40歳代	歯石付着・歯の生前脱落
	５号土壙墓	中世	１個体	横臥屈葬	男性	約40歳代	歯の生前脱落
	６号土壙墓	近世	１個体	横臥屈葬	男性	約20～30歳代	
６区	１号土壙墓	近世	１個体	不明	女性	約30歳代	
	２号土壙墓	近世	１個体	不明	不明	未成年？	
	３号土壙墓	近世	１個体	横臥屈葬	男性	約40歳代	歯石付着・歯の生前脱落・根尖膿瘍
	４号土壙墓	近世	１個体	不明	不明	不明	
	５号土壙墓	近世	１個体	不明	男性	約30歳代	歯石付着・齲触
	６号土壙墓	近世	１個体	座臥屈葬	女性	約30歳代	
	７号土壙墓	近世	１個体	不明	女性	成人	
	８号土壙墓	近世	１個体	不明	不明	不明	
９区	１号土壙墓	９Ｃ中	１個体	伸展葬	男性	約30歳代	
	２号土壙墓	９Ｃ中	１個体	横臥屈葬	女性	成人	
15区	１号人骨	近世	１個体	仰臥屈葬	男性	約40歳代	
	２号人骨	近世	１個体	不明	女性	約40歳代	歯の生前脱落・齲触
18区	１号土壙墓	近世	１個体	仰臥屈葬	女性	約30歳代	歯石付着
	２号土壙墓	近世	１個体	座臥屈葬	女性	約40歳代	歯の生前脱落・歯石付着・DISH
	３号土壙墓	近世	１個体	座臥屈葬	男性(男児)	約９歳	
	４号土壙墓	近世	１個体	横臥屈葬	女性	約30歳代	埋伏歯・歯の生前脱落
	５号土壙墓	近世	１個体	横臥屈葬	男性	約40歳代	齲触・埋伏歯
	６号土壙墓	近世	１個体	座臥屈葬	女性	約50歳代	無歯顎・歯の生前脱落
	７号土壙墓	近世	１個体	座臥屈葬	男性	約50歳以上老齢	無歯顎・脊椎炎・骨増殖
	８号土壙墓	近世	１個体	改葬	女性	約20歳代	火葬人骨を改葬したもの
19区	１号土壙墓	不明	１個体	屈葬	不明	約３歳	

謝辞

本出土人骨を記載する機会を与えていただいた，前橋市教育委員会の前原　豊氏，高橋　亨氏，高坂麻子氏に感謝します。また，遺跡の考古学的情報を提供していただいた山武考古学研究所の長谷川一郎氏に感謝します。

引用文献

藤田恒太郎　1949　歯の計測規準について、「人類学雑誌」、61(1)：１－６。

権田和良　1959 歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」、67：151－163.

前橋市埋蔵文化財発掘調査団編 2001『元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ⅲ遺跡』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団

MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology, National Science Museum Monographs No.9, National Science Museum (Tokyo)

表２．元総社小見内Ⅲ遺跡出土人骨出土永久歯歯冠計測値及び比較表

計測		計測項目	元総社小見内Ⅲ遺跡																				中世時代人 * Matsumura,1995		江戸時代人 * Matsumura,1995		現代人 ** 権田，1959	
			1 区						6 区					9 区		18 区												
			3号土壙		5号土壙		6号土壙		3号土壙		5号土壙		6号土壙	1号土壙		1号土壙		2号土壙		3号土壙		8号土壙						
			右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	♂	♀	♂	♀	♂	♀
上顎	I1	MD	−	7.8	−	−	8.2	8.4	−	−	−	−	−	−	8.9	8.5	−	−	−	8.5	−	−	−	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
		BL	−	6.7	−	−	7.0	7.2	−	−	−	−	−	−	7.0	7.4	−	−	−	7.4	−	−	−	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28
	I2	MD	6.6	6.6	−	−	6.8	7.0	−	−	−	−	−	−	7.4	−	−	−	−	−	−	−	−	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.05
		BL	6.4	6.2	−	−	6.4	6.5	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51
	C	MD	8.0	8.1	−	−	7.6	7.6	−	−	−	−	−	−	8.2	−	−	−	−	−	−	−	−	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	7.7	7.5	−	−	8.2	8.3	−	−	−	−	−	−	8.2	−	−	−	−	−	−	−	−	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	P1	MD	−	6.8	−	−	6.8	6.8	−	−	−	−	−	7.6	7.9	6.9	−	−	−	6.9	−	−	−	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	−	9.1	−	−	8.8	9.0	−	−	−	−	−	9.8	9.7	9.1	−	−	−	9.1	−	−	−	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
	P2	MD	−	6.5	−	−	6.4	6.5	−	−	−	−	−	−	7.4	−	−	−	−	−	−	−	−	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		BL	−	8.6	−	−	8.7	8.8	−	−	−	−	−	−	9.7	−	−	−	−	−	−	−	−	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
	M1	MD	−	10.3	−	−	10.4	10.2	(9.8)	(9.8)	10.9	10.5	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		BL	−	11.3	−	−	11.0	11.0	(12.3)	12.3	11.8	11.9	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
	M2	MD	9.0	−	−	−	9.7	9.4	9.1	8.9	9.3	9.1	−	9.7	9.9	10.3	9.8	−	−	10.3	9.8	−	−	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
		BL	11.7	−	−	−	11.2	11.1	11.5	11.1	破損	11.3	−	12.7	12.2	11.5	11.4	−	−	11.5	11.4	−	−	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31
	M3	MD	−	−	−	−	9.3	9.1	−	−	9.1	8.7	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	8.94	8.86
		BL	−	−	−	−	10.9	11.0	−	−	10.5	10.0	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	10.79	10.50
下顎	I1	MD	4.8	4.7	−	生前	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	5.42	5.22	5.45	5.32	5.48	5.47
		BL	5.5	5.5	−	脱落	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	5.78	5.61	5.78	5.65	5.88	5.77
	I2	MD	5.6	5.4	−	生前	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	6.04	5.78	6.09	5.97	6.20	6.11
		BL	5.9	5.9	−	脱落	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30
	C	MD	6.6	6.5	6.0	5.9	6.5	6.5	6.9	−	−	−	−	7.4	7.4	6.7	−	7.4	6.9	6.7	−	−	−	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68
		BL	6.8	6.9	8.3	8.3	7.7	7.7	7.7	−	−	−	−	7.4	7.6	7.9	−	8.3	8.2	7.9	−	−	−	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.50
	P1	MD	7.0	6.8	6.2	6.4	6.4	6.4	6.0	−	−	−	−	8.0	7.9	−	−	6.9	−	−	−	6.7	−	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
		BL	7.4	7.4	7.9	7.9	7.5	7.5	7.7	−	−	−	−	8.3	8.1	−	−	8.1	−	−	−	7.8	−	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
	P2	MD	7.0	6.8	6.5	6.8	6.6	6.9	6.4	−	−	−	−	−	8.2	−	7.0	−	−	−	7.0	6.9	−	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
		BL	7.9	7.9	9.0	8.6	7.9	7.9	8.3	−	−	−	−	−	9.1	−	7.7	−	−	−	7.9	8.6	−	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
	M1	MD	11.2	11.0	10.1	9.9	10.8	10.9	−	−	−	−	10.8	−	11.8	−	11.2	−	−	−	11.2	10.9	11.1	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		BL	10.1	10.1	10.8	10.6	10.7	10.7	−	−	−	−	10.4	−	11.5	−	10.9	−	−	11.0	10.9	10.5	10.4	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
	M2	MD	10.8	10.8	10.7	生前	10.6	10.4	−	−	−	−	9.9	−	−	11.0	11.2	−	−	10.2	11.2	−	11.0	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89
		BL	9.9	10.0	10.4	脱落	10.3	10.4	−	−	−	−	9.7	−	−	10.2	10.1	−	−	−	10.1	−	9.9	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20
	M3	MD	−	−	8.7	生前	10.5	10.5	−	−	−	−	9.6	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	10.96	10.65
		BL	−	−	9.3	脱落	9.8	10.3	−	−	−	−	9.2	−	−	−	−	−	−		−	−	−	−	−	−	−	10.28	10.02

註1. 計測値の単位は、すべて、「㎜」である。

註2. 歯種は、I1(第１切歯)・I2（第２切歯）・C（犬歯）・P1（第１小臼歯）・P2(第２小臼歯)・M1(第１大臼歯)・M2(第２大臼歯)・M3(第３大臼歯)を意味する。

註3. 計測項目は、MD(歯冠近遠心径)・BL(歯冠唇頬舌径) を意味する

註4.「生前脱落」は、歯が生前脱落していることを示す。

註5.「＊」は、MATSUMURA(1995)より引用。なお、MATSUMURA(1995)には、第3大臼歯のデータは無い。

註6.「＊＊」は、権田(1959)より引用

元総社小見内Ⅲ遺跡出土火葬人骨

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　　楢崎　修一郎

はじめに

元総社小見内Ⅲ遺跡は，群馬県前橋市元総社町に所在する。前橋市埋蔵文化財発掘調査団による発掘調査が，2001(平成13)年９月～2002(同14)年３月まで行われた。元総社小見内Ⅲ遺跡の６区１号・２号・３号・４号・５号・６号・７号の７基の火葬墓より，中世の火葬人骨が出土したので以下に報告する。発掘調査報告書は，前橋市埋蔵文化財発掘調査団により2001年に『元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ⅲ遺跡』としてすでに刊行されているが諸般の事情により，自然科学分析は掲載されていない。なお，報告書では「火葬墓」と記載されているが，考古学では一般的に骨蔵器が出土した場合を「火葬墓」とし，人骨だけの場合は「火葬跡」とするので，ここでは，「火葬跡」として記載することにする。

小見内Ⅲ遺跡では，６区で１号～７号まで，７基の火葬跡が出土している。７基の火葬跡の分布は調査区の西側に接近しており，この一帯を火葬場として使用していたことが推定される。

１．６区１号火葬跡出土人骨［2001年12月３日～５日出土］

⑴火葬人骨の出土状況：人骨は，長径約1.5m・短径約1.06m・深さ約0.34mの隅丸長方形の火葬跡から出土している。火葬跡の構造は，西側に突出部が存在するが，これは焚き口と推定されるので，火葬時には西側から風が吹いていたものと推定される。

⑵火葬人骨の出土部位：火葬人骨の出土部位は，ほぼ全身に及ぶが，破片が多い。

⑶副葬品：副葬品は，鉄銭(不読)の銭貨が１点検出されている。

⑷被火葬者の頭位・火葬状態：火葬跡の北側から，頭蓋骨片が出土しているので，被火葬者の頭位は，北側であると推定される。また，火葬状態は，土壙の大きさから屈位であると推定される。

⑸火葬方法：火葬人骨を観察すると，人骨には亀裂・歪み・捻れが認められるため，白骨化させたものを火葬に付したのではなく，死体をそのまま火葬に付したと推定される。また，人骨のほとんどは灰白色を呈しているため，焼成温度は約900℃以上であると推定される。しかしながら，頭蓋骨片に一部黒色のものも認められる。これは，一部焼成温度が低い部分があり，頭部に焼成むらがあったことを示す。

⑹収骨方法：火葬人骨の残存状態は，比較的悪いので，丁寧に収骨したものと推定される。これは，現在にまで続く，東日本タイプの収骨方法であると推定される(楢崎，2002)。

⑺被火葬者の個体数：人骨には重複部位が認められないため，被火葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑻被火葬者の性別：出土人骨の頭蓋骨片の厚さは，比較的薄く，四肢骨片も華奢であるため，被火葬者の性別は，女性であると推定される。

⑼被火葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないが，下顎骨片を観察すると，歯槽部が閉鎖しておらず開放の状態なので，老齢ではなく，成人であると推定される。

２．６区２号火葬跡出土人骨［2001年12月11日出土］

⑴火葬人骨の出土状況：人骨は，長径約1.3m・短径約0.7m・深さ約0.22mの隅丸長方形の火葬跡から出土している。火葬跡の構造は，西側に突出部が存在するが，これは焚き口と推定されるので，火葬時には，西側から風が吹いていたものと推定される。

⑵火葬人骨の出土部位：火葬人骨の出土部位は，全身に及ぶが，その中でも頭蓋骨片・右上腕骨片・大腿骨片・脛骨片等が同定できた。

⑶副葬品：副葬品は，検出されていない。

(4)被火葬者の頭位・火葬状態：火葬人骨の出土部位の内，頭蓋骨片や鼻骨片が北側から出土しているので，被火葬者の頭位は北側であると推定される。また，土壙の大きさより，火葬状態は屈位状態で火葬に付したと推定される。

(5)火葬方法：火葬人骨を観察すると，人骨には亀裂・歪み・捻れが認められるため，白骨化させたものを火葬に付したのではなく，死体をそのまま火葬に付したと推定される。なお，人骨のほとんどは白色を呈しているため焼成温度は約900℃以上であると推定される。しかしながら，大腿骨及び脛骨片の一部には黒色・茶色・灰色が認められたため，一部，焼成温度は約900℃をかなり下回った部位もあり，焼成にむらがあったものと推定される。

写真１．元総社小見内Ⅲ遺跡６区２号火葬跡出土人骨
［左：右上腕骨前面観，右：同後面観］

(6)収骨方法：火葬人骨の残存状態は，比較的悪いので，丁寧に収骨したものと推定される。これは，現在にまで続く，東日本タイプの収骨方法であると推定される（楢崎，2002）。

(7)被火葬者の個体数：人骨には重複部位が認められないため，被火葬者の個体数は１個体であると推定される。

(8)被火葬者の性別：出土人骨の頭蓋骨片の厚さは比較的薄く，上腕骨も小さく華奢であるため，被火葬者の性別は女性であると推定される。

(9)被火葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合・矢状縫合・ラムダ（人字）縫合部は，癒合しておらず開放の状態である。また，上腕骨は癒合が完了しているので，成人である。したがって，被火葬者の死亡年齢は約20歳代であると推定される。

３．６区３号火葬跡出土人骨［2001年12月14日出土］

(1)火葬人骨の出土状況：人骨は，長径約1.53m・短径約0.68m・深さ約0.39mの隅丸長方形の火葬跡から出土している。火葬跡の構造は，西側に突出部が存在するが，これは焚き口と推定されるので，火葬時には，西側から風が吹いていたものと推定される。

(2)火葬人骨の出土部位：火葬人骨の出土部位は，ほぼ全身に及ぶ。今回出土した，７基の中でも，火葬人骨の残存量が多いが，４号火葬跡と重複しているため，４号火葬跡の火葬人骨が混ざっている可能性が高い。

(3)副葬品：副葬品は，太平通寶（北宋976年）１点・至道元寶（北宋995年）１点及び，被熱により変形した不読の２点の合計４点の銭貨が検出されている。

(4)被火葬者の頭位・埋葬状態：火葬人骨の出土位置より，頭蓋骨片は火葬跡の北側から，また四肢骨は火葬跡の南側から出土しているため，火葬時の頭位は北側で，屈位の状態で火葬に付したと推定される。

(5)火葬方法：火葬人骨を観察すると，人骨には亀裂・歪み・捻れが認められるため，白骨化させたものを火葬に付したのではなく，死体をそのまま火葬に付したと推定される。なお，人骨は白色を呈しているため焼成温度は約900℃以上であると推定される。

(6)収骨方法：火葬人骨の残存状態は，比較的多いので，人骨の一部のみ収骨したものと推定される。これは，現在にまで続く，西日本タイプの収骨方法であると推定される（楢崎，2002）。但し，４号人骨と混在した可能性もある。

(7)被火葬者の個体数：人骨には重複部位が認められないため，被火葬者の個体数は１個体であると推定される。

(8)被火葬者の性別：出土人骨の頭蓋骨片の厚さは薄く，四肢骨片も小さく華奢であるため，被火葬者の性別は女性であると推定される。しかしながら，大腿骨及び上腕骨の骨頭は，比較的大きい。

⑼被火葬者の死亡年齢：出土した左右上顎骨を観察すると，歯冠部は残存していないが，歯槽は第１切歯部～第３大臼歯部まで閉鎖しておらず開放の状態である。これは，少なくとも，上顎に関しては歯の生前脱落が１本もなく老齢ではないことを示す。また，蝶後頭軟骨結合は癒合しており，21歳以上であることを示す。さらに，上顎骨の切歯縫合は癒合して消失はしていないので，約30歳以下であることを示す。その上，頭蓋骨の主要縫合は内板及び外板共に癒合しておらず，開放の状態である。したがって，被火葬者の死亡年齢は21歳～30歳であると推定される。

写真２．元総社小見内Ⅲ遺跡６区３号火葬跡出土人骨［左右上顎骨及び左頬骨前面観］

写真３．元総社小見内Ⅲ遺跡６区３号火葬跡出土人骨

4．6区4号火葬跡出土人骨［2001年12月12日出土］

(1)火葬人骨の出土状況：人骨は，短径約0.8m・深さ約0.26mの火葬跡から出土している。3号火葬跡と重複が認められるが，時代は4号火葬跡の方が古い。火葬跡の構造は，西側に突出部が存在するが，これは焚き口であると推定されるので，火葬時には，西側から風が吹いていたものと推定される。

(2)火葬人骨の出土部位：火葬人骨の残存状態は非常に悪いが，北側部からしか取り上げていないので，南側部は，3号火葬跡人骨として取り上げている可能性もある。

(3)副葬品：副葬品は，開元通寶（唐621年）の銭貨が1点検出されている。

(4)被火葬者の頭位・埋葬状態：北側から，下顎骨片が出土しているので，火葬時の頭位は北側で，屈位の状態で火葬に付したと推定される。

(5)火葬方法：火葬人骨を観察すると，人骨には亀裂・歪み・捻れが認められるため，白骨化させたものを火葬に付したのではなく，死体をそのまま火葬に付したと推定される。なお，人骨のほとんどは灰白色を呈しているため焼成温度は約900℃以上であると推定される。しかしながら，頭蓋骨片の一部には黒色・茶色が認められたため，一部，焼成温度は約900℃をかなり下回った部位もあり，焼成にむらがあったものと推定される。

(6)収骨方法：火葬人骨の残存状態は，比較的悪いので，丁寧に収骨したものと推定される。これは，現在にまで続く，東日本タイプの収骨方法であると推定される（楢崎，2002）。但し，3号人骨として取り上げられた可能性もある。

(7)被火葬者の個体数：火葬人骨には，明らかな重複部位が認められないため，被火葬者の個体数は1個体であると推定される。

(8)被火葬者の性別：頭蓋骨片の厚さは薄い。また，橈骨片を観察すると，火葬による収縮を考慮しても華奢で小さいため，被火葬者の性別は女性であると推定される。

(9)被火葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないが，恐らく，成人であると推定される。

5．6区5号火葬跡出土人骨

人骨は，長径及び短径不明で，深さ約0.11mの隅丸長方形の火葬跡から出土している。東側が調査区外であるため，全容は伺えない。火葬跡の構造は，西側に突出部が存在するがこれは焚き口であると推定されるので，火葬時には，西側から風が吹いていたと推定される。副葬品は，検出されていない。なお，本火葬跡からは，炭は検出されたが人骨は検出されていないため，被火葬者の個体数・性別・死亡年齢等は不明である。

6．6区6号火葬跡出土人骨

(1)火葬人骨の出土状況：人骨は，長径及び短径不明で，深さ約0.19mの火葬跡から出土している。南側が調査区外であるため，全容は伺えない。

(2)火葬人骨の出土部位：本火葬跡の南側は調査区外であるためか，出土人骨の出土量は非常に少ない。頭蓋骨片が出土している。

(3)副葬品：副葬品は，検出されていない。

(4)被火葬者の頭位・埋葬状態：出土人骨の出土量が少なく，出土位置も特定できないために，被火葬者の頭位及び埋葬状態は不明である。

(5)火葬方法：火葬人骨を観察すると，人骨には亀裂・歪み・捻れが認められるため，白骨化させたものを火葬にふしたのではなく，死体をそのまま火葬に付したと推定される。なお，人骨のほとんどは灰白色を呈しているため焼成温度は約900℃以上であると推定される。

(6)収骨方法：土壙の南側が調査区外であり，すべての人骨が検出されたわけではないので，不明である。

(7)被火葬者の個体数：出土人骨の出土量が少ないため，不明であるが，恐らく1個体であると推定される。

(8)被火葬者の性別：頭蓋骨の厚さが薄いため，被火葬者の性別は女性であると推定される。

(9)被火葬者の死亡年齢：死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないため，不明である。成人であろう。

7．6区7号火葬跡出土人骨［2001年12月12日出土］

(1)火葬人骨の出土状況：人骨は，長径及び短径不明で，深さ約0.21mの隅丸長方形の火葬跡から出土している。北側が調査区外であるため，全容は伺えない。

(2)火葬人骨の出土部位：人骨は，15に分けて取り上げられている。

(3)副葬品：副葬品は，検出されていない。

(4)被火葬者の頭位・埋葬状態：土壙の大きさは不明であり，全容が伺えないので不明であるが，恐らく，頭部を北側にして屈位で火葬にふしたと推定される。

(5)火葬方法：火葬人骨を観察すると，人骨には亀裂・歪み・捻れが認められるため，白骨化させたものを火葬にふしたのではなく，死体をそのまま火葬に付したと推定される。なお，人骨のほとんどは灰白色を呈しているため焼成温度は約900℃以上であると推定される。

(6)収骨方法：火葬人骨の残存状態は，比較的悪いので，丁寧に収骨したものと推定される。これは，現在にまで続く，東日本タイプの収骨方法であると推定される(楢崎，2002)。

(7)被火葬者の個体数：人骨には重複部位が認められないため，被火葬者の個体数は1個体であると推定される。

(8)被火葬者の性別：頭蓋骨片の厚さは比較的薄いため，被火葬者の性別は女性であると推定される。

(9)被火葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である，冠状縫合及び矢状縫合の内，矢状縫合は，内板は癒合しているが，外板はまだ癒合していない状態である。したがって，被火葬者の死亡年齢は，約30歳代～40歳代であると推定される。

写真4．元総社小見内Ⅲ遺跡6区7号火葬跡出土人骨［左：右頬骨、右：左・膝蓋骨、右・寛骨］

まとめ

元総社小見内Ⅲ遺跡の6区1号・2号・3号・4号・5号・6号・7号の7基の火葬跡より，中世の火葬人骨が出土した。以下の表1に、まとめを示した。

表1．元総社小見内Ⅲ遺跡6区出土火葬跡出土人骨まとめ

火葬跡番号	頭位	個体数	性別	死亡年齢	収骨方法	備　考
1号火葬跡	北側	1個体	女性	成人	東日本タイプ	
2号火葬跡	北側	1個体	女性	約20歳代	東日本タイプ	
3号火葬跡	北側	1個体	女性	21歳～30歳	西日本タイプ	4号火葬跡と重複
4号火葬跡	北側	1個体	女性	成人	東日本タイプ	3号火葬跡と重複
5号火葬跡	不明	不明	不明	不明	不明	
6号火葬跡	不明	1個体	女性	成人	不明	
7号火葬跡	北側？	1個体	女性	約30歳代～40歳代	東日本タイプ	

謝辞

本出土人骨を記載する機会を与えていただいた，前橋市教育委員会の前原　豊氏，高橋　亨氏，高坂麻子氏に感謝します。また，遺跡の考古学的情報を提供していただいた山武考古学研究所の長谷川一郎氏に感謝します。

引用文献

前橋市埋蔵文化財発掘調査団編　2001　『元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ⅲ遺跡』、前橋市埋蔵文化財発掘調査団

楢崎修一郎　2002　下小鳥神戸遺跡出土火葬人骨，「研究紀要」，群馬県埋蔵文化財調査事業団，20：43-50.

元総社小見Ⅲ遺跡出土人骨

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　　楢崎　修一郎

はじめに

元総社小見Ⅲ遺跡は，群馬県前橋市元総社町に所在する。前橋市埋蔵文化財発掘調査団による発掘調査が，2002(平成14)年８月～同年12月まで行われた。本発掘調査の発掘調査報告書は，2003年に，前橋市埋蔵文化財発掘調査団により『元総社蒼海遺跡群元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡』として刊行されている。しかしながら，諸般の事情から，自然科学分析は掲載されていない。本遺跡５区の１号・２号・３号・４号の４基の土壙墓より，中世の人骨が出土したので以下に報告する。出土人骨は，清掃後，可能な限り接合及び復元を行い，観察・計測・写真撮影を行った。なお，出土歯の計測方法は，藤田(1949)に従った。また，歯の歯冠計測値の比較は，中近世人はMATSUMURA[松村](1995)を用い，現代日本人は，権田(1959)を用いた。

１．１号土壙墓出土人骨[中世以降]（2002年９月19日～同年９月20日出土）

⑴人骨の出土状況：人骨は，長径約1.3m・短径約１m・深さ約30cmの長方形土壙から出土している。本土壙は，W－２号溝内に検出されている。

⑵人骨の出土部位：人骨の保存状態は，非常に悪く，頭蓋骨片及び四肢骨片が出土している。

⑶副葬品：副葬品は，検出されていない。

⑷被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土位置より，被葬者の頭位は北側で，右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

⑸被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑹被葬者の性別：頭蓋骨片の骨壁及び四肢骨片の骨の厚さが薄いため，被葬者の性別は女性であると推定される。

⑺被葬者の死亡年齢：頭蓋骨片の縫合は内板及び外板共に癒合していないが，死亡年齢推定の指標とはならない部位である。被葬者の死亡年齢は，恐らく，成人であると推定される。

２．２号土壙墓出土人骨[中世]（2002年10月４日出土）

⑴人骨の出土状況：人骨は，長径約1.2m・短径約70cm・深さ約50cmの長方形土壙から出土している。

⑵人骨の出土部位：人骨の保存状態は，比較的悪いが，人骨の出土部位は，ほぼ全身に及ぶ。

⑶副葬品：副葬品は，検出されていない。

⑷被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土位置より，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

⑸被葬者の個体数：出土人骨には，重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑹被葬者の性別：頭蓋骨を観察すると，比較的小さく華奢で，骨壁も薄く乳様突起もあまり発達していない。総合的に，被葬者の性別は女性であると推定される。

⑺被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合の内，観察できる，矢状縫合及びラムダ(人字)縫合は，内板及び外板共に癒合しておらず，開放の状態である。また，冠状縫合は，一部内板が癒合している。したがって，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

写真１．元総社小見Ⅲ遺跡５区２号土壙墓出土人骨
[頭蓋骨右側面観]

3．3号土壙墓出土人骨［中世以降］（2002年9月27日～同年10月2日出土）

⑴人骨の出土状況：人骨は，長径約1.1m・短径約1m・深さ約43cmの正方形土壙から出土している。

⑵人骨の出土部位：人骨の保存状態は，非常に悪く遊離歯及び骨片が出土している。

⑶副葬品：副葬品は，石鉢が1点検出されている。

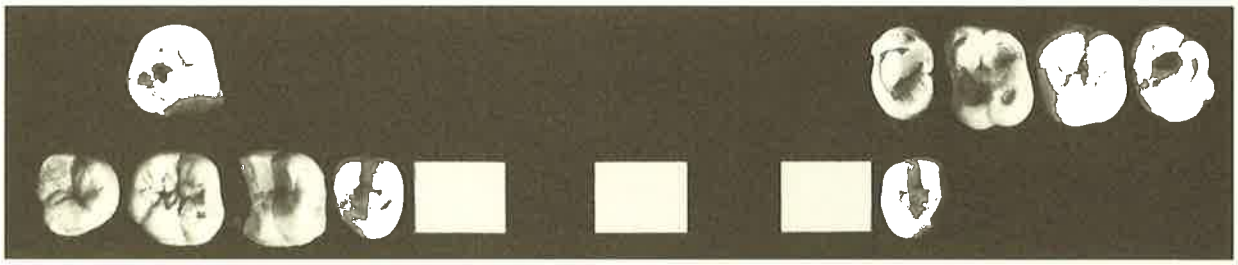
⑷被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土位置より，被葬者の頭位は北側で，右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

⑸被葬者の個体数：出土人骨には重複部位が認められないため，被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑹被葬者の性別：歯及び四肢骨の大きさが小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

⑺被葬者の死亡年齢：歯の咬耗度を観察すると，象牙質が線状・点状に露出するマルティンの2度の状態である。したがって，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

⑻被葬者の古病理：出土歯には，歯石の付着は認められなかった。齲触(虫歯)は，多数認められた。



		M2					P2	M1	M2	M3
M3	M2	M1	P2				P2			

写真2．元総社小見Ⅲ遺跡5区3号土壙墓出土人骨遊離歯咬合面観

4．4号土壙墓出土人骨［中世以降］（2002年10月3日出土）

⑴人骨の出土状況：人骨は，長径約80cm・短径約60cm・深さ約40cmの長方形土壙から出土している。

⑵人骨の出土部位：人骨の保存状態は，非常に悪く，頭蓋骨片のみ出土している。

⑶副葬品：副葬品は，銭貨4点が検出されている。

⑷被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土位置より，被葬者の頭位は北側で，右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

⑸被葬者の個体数：人骨の出土状況から，被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑹被葬者の性別：頭蓋骨片の骨壁の厚さは薄いため，被葬者の性別は女性であると推定される。

⑺被葬者の死亡年齢：年齢推定の指標となる部位が出土していないため，被葬者の死亡年齢は不明である。恐らく，成人であると推定される。しかしながら、土壙の大きさが小さいため、未成年である可能性もある。

まとめ

元総社小見Ⅲ遺跡5区の1号・2号・3号・4号の4基の土壙墓から、中世の人骨が出土した。以下の表1に、まとめを示した。

表1．元総社小見Ⅲ遺跡5区出土人骨まとめ

土壙墓番号	個体数	性別	死亡年齢	頭位・埋葬状態	備　考
1号土壙墓	1個体	女性	成人	北側・横臥屈葬	
2号土壙墓	1個体	女性	約30歳代	北側・横臥屈葬	
3号土壙墓	1個体	女性	約30歳代	北側・横臥屈葬	齲触多数
4号土壙墓	1個体	女性	成人？　未成年？	北側・横臥屈葬	

謝辞

本出土人骨を記載する機会を与えていただいた，前橋市教育委員会の前原　豊氏，高橋　亨氏，高坂麻子氏に感謝します。また，本遺跡に関する考古学的情報をいただいた，山武考古学研究所の長谷川一郎氏に感謝します。

引用文献

藤田恒太郎　1949　歯の計測規準について，「人類学雑誌」，61：1－6．

権田和良　1959　歯の大きさの性差について，「人類学雑誌」，67：151－163．

前橋市埋蔵文化財発掘調査団編　2003『元総社蒼海遺跡群　元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡』，前橋市埋蔵文化財発掘調査団

MATSUMURA，Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology，*National Science Museum Monographs* No.9，National Science Museum，Tokyo.

表２．小見Ⅲ遺跡５区３号土壙墓出土人骨歯冠計測値及び比較表

上下顎	歯種	計測項目	小見Ⅲ 3号土壙 右	小見Ⅲ 3号土壙 右	中世時代人 * ♂	中世時代人 * ♀	江戸時代人 * ♂	江戸時代人 * ♀	現代人 * ♂	現代人 * ♀
上顎	P2	MD	－	6.8	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		BL	－	10.0	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
	M1	MD	－	8.9	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		BL	－	10.9	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
	M2	MD	10.7	9.6	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
		BL	9.7	11.1	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31
	M3	MD	－	8.5	－	－	－	－	8.94	8.86
		BL	－	9.5	－	－	－	－	10.79	10.50
下顎	P2	MD	7.5	7.6	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
		BL	8.8	8.6	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
	M1	MD	10.5	－	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		BL	10.1	－	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
	M2	MD	10.4	－	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89
		BL	10.2	－	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20
	M3	MD	9.3	－	－	－	－	－	10.96	10.65
		BL	8.8	－	－	－	－	－	10.28	10.02

註１．計測値の単位は，すべて，「㎜」である。
註２．歯種は，P2(第２小臼歯)・M1(第１大臼歯)・M2(第２大臼歯)・M3(第３大臼歯)を意味する。
註３．計測項目は、MD(歯冠近遠心径)・BL(歯冠唇頬舌径)を意味する。
註４．「＊」は，MATSUMURA(1995)より引用。なお，MATSUMURA(1995)には、M3(第３大臼歯)のデータは無い。
註５．「＊＊」は、権田(1959)より引用

元総社草作Ⅴ遺跡出土人骨

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　楢崎　修一郎

はじめに

元総社草作Ⅴ遺跡は，群馬県前橋市元総社町に所在する。前橋市埋蔵文化財発掘調査団による発掘調査が，2002(平成14)年８月～2003(同15)年３月まで行われた。発掘調査報告書は，2003年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団により『元総社蒼海遺跡群　元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡』として出版されている。しかしながら，諸般の事情から自然科学分析は掲載されていない。草作Ⅴ遺跡で，１号から３号までの３基の土壙墓及び１号火葬跡が検出された。この内，１号土壙墓・２号土壙墓・１号火葬跡から，中世以降の人骨が出土したので以下に報告する。

１．１号土壙墓出土人骨[中世以降]（2002年９月12日出土）

人骨は，長軸約1.1m・短軸約58cm・深さ約８cmの長方形土壙から出土している。副葬品は，検出されていない。人骨の残存状態は極めて悪く，遊離歯片のみ出土している。同定可能であったのは，下顎右第１大臼歯のみである。頭位及び埋葬状態は不明であるが，被葬者は成人女性であると推定されているので，埋葬状態は恐らく屈葬であると推定される。下顎右第１大臼歯のＭＤ(歯冠近遠心径)は11.4mm，ＢＬ(歯冠頬舌径)は10.4mmである。この計測値から，被葬者の性別は女性であると推定される。また，咬耗度は，象牙質が点状に露出するマルティンの２度の状態である。したがって，被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

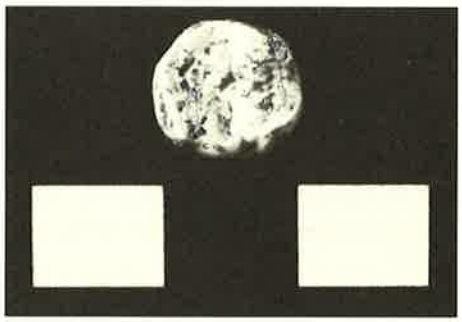


写真１．元総社草作Ⅴ遺跡１号土壙墓
下顎右第１大臼歯咬合面観

２．２号土壙墓出土人骨[中世以降]（2002年）

人骨は，長軸約1.2m・短軸約69cm・深さ約43cmの長方形土壙から出土している。副葬品は，検出されていない。人骨の残存状態は極めて悪く，四肢骨片のみ出土している。頭位及び埋葬状態は不明であるが，被葬者は成人女性であると推定されているので，埋葬状態は恐らく屈葬であると推定される。出土四肢骨の骨幹部緻密質の厚さが比較的薄いので，被葬者の性別は女性であると推定される。死亡年齢は不明であるが，恐らく，成人であろう。

３．１号火葬跡出土人骨[中世以降]（2002年10月11日出土）

火葬人骨は，長径約86cm・短径約57cm・深さ約10cmの楕円形の火葬跡から出土している。副葬品は，検出されていない。火葬人骨の出土部位は，わずかな四肢骨片が出土している。被火葬者の頭位及び火葬状態は，不明であるが，土壙の大きさから屈位で火葬に付したと推定される。火葬人骨の色は，灰白色が主であり，焼成温度は約900℃以上であると推定される。人骨の出土部位がわずかなので，白骨化させたものを火葬に付したのか，死体をそのまま火葬に付したのかは不明である。火葬人骨の残存状態は，非常に悪いので，丁寧に収骨したものと推定される。これは，現在にまで続く，ほとんどの火葬人骨を収骨する東日本タイプの収骨方法であると推定される。個体数は，不明であるが，土壙の規模から１個体であると推定される。火葬人骨の四肢骨片は華奢で小さく厚さも比較的薄いため，被火葬者の性別は女性であると推定される。死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないので，被火葬者の死亡年齢は不明である。

謝辞

本出土人骨を記載する機会を与えていただいた，前橋市教育委員会の前原　豊氏，高橋　亨氏，高坂麻子氏に感謝します。また，本出土人骨に関する考古学的情報を与えていただいた，山武考古学研究所の長谷川一郎氏に感謝します。

引用文献

前橋市埋蔵文化財発掘調査団編　2003『元総社蒼海遺跡群　元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡』，前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社小見内Ｘ遺跡出土人骨

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　　楢崎　修一郎

はじめに

元総社小見内Ｘ遺跡は，群馬県前橋市元総社町に所在する。前橋市埋蔵文化財発掘調査団による発掘調査が，2004(平成16)年10月～2005(同17)年１月まで行われた。なお，発掘調査報告書は，2005年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団により『元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ｘ遺跡』として出版されているが，諸般の事情により自然科学分析は掲載されていない。小見内Ｘ遺跡は，小見Ⅲ遺跡の東側に位置し，西区・中央区・東区の３区に分かれる。小見内Ｘ遺跡の東区の西寄りＷ－１号溝跡東側で２基の土壙墓が，また，中央区の西寄りＷ－８号溝跡西側で１号火葬跡が検出され人骨が出土した。なお，土壙墓及び火葬跡の時代は，副葬品及び層位から中世に比定されている。以下に，出土人骨について報告する。人骨の計測方法は，マルティンの方法に従った(馬場，1991)。また，歯の計測方法は，藤田の方法に従った(藤田，1949)。さらに、歯の計測値の比較は、中近世人はMATSUMURA(1995)を用い、現代日本人は権田(1959)を用いた。

１．土壙墓出土人骨

１号土壙墓及び２号土壙墓から，人骨が出土した。これらの土壙墓は，東区の西側に位置し，Ｗ－１号溝に近接する。

（１）１号土壙墓出土人骨［中世］

①人骨の出土状況：人骨は，長径約1.15m・短径約90cm・深さ約10cmの隅丸長方形土壙から出土している。なお，報告書中には長軸11.41mと記載されているが訂正が必要である。

②人骨の出土部位：人骨の保存状態は，あまり良くないが，人骨の出土部位は，ほぼ全身に及ぶ。

③副葬品：副葬品は，銭貨の永楽通宝６点が検出されている。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土位置より，被葬者の頭位は北側で，右側を下にした横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には，重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：歯及び四肢骨の大きさが小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

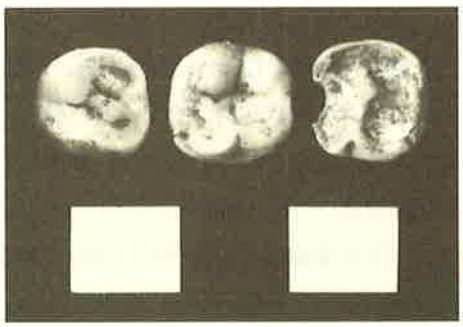


写真１．元総社小見内Ｘ遺跡１号土壙墓出土歯
［右から，下顎右M1・M2・M3］

⑦被葬者の死亡年齢：歯の咬耗度を観察すると，下顎右第１大臼歯はエナメル質が面状に露出するマルティンの３度の状態である。しかしながら，下顎右第２及び第３大臼歯は，エナメル質が点状に露出するマルティンの２度の状態である。したがって，総合的に被葬者の死亡年齢は約40歳代であると推定される。報告書中では，本報告者の鑑定に基づき約30歳代と記載されているが，精査の結果，訂正が必要である。

⑧被葬者の古病理：出土歯には、歯石の付着が認められた。また，齲蝕は右第１大臼歯の遠心面歯頸部にＣ２が認められた。

（２）２号土壙墓出土人骨［中世］

①人骨の出土状況：人骨は，長径約1.5m・短径約1.3m・深さ約50cmの隅丸方形土壙から出土している。

②人骨の出土部位：人骨の保存状態は，比較的良く，人骨の出土部位は，ほぼ全身に及ぶ。

③副葬品：副葬品は，銭貨の永楽通宝３点が検出されている。また，人骨整理中に３点が追加検出された。

④被葬者の頭位・埋葬状態：人骨の出土位置より，被葬者の頭位は北側で，顔面部を西側に向け右側を下にした

横臥(側臥)屈葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数：出土人骨には，重複部位が認められないため，被葬者の個体数は１個体であると推定される。

⑥被葬者の性別：頭蓋骨の厚さは，薄い。また，歯及び四肢骨の大きさが小さいため，被葬者の性別は女性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢：頭蓋骨の主要縫合である、冠状縫合・矢状縫合・ラムダ(人字)縫合を観察すると、内板及び外板共に癒合していない状態である。また、歯の咬耗度を観察すると，マルティンの２度の状態である。したがって，総合的に被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

⑧被葬者の古病理：出土歯には、歯石の付着及び齲触は認められなかった。

写真２．元総社小見内Ｘ遺跡２号土壙墓出土人骨頭蓋骨[左：上面観、右：後面観]

写真３．元総社小見内Ｘ遺跡２号土壙墓出土人骨[左：右上顎骨前面観，右：下顎骨咬合面観]

２．火葬跡出土人骨

１号火葬跡は，中央区の西側から出土している。

（１）１号火葬跡出土人骨［中世］

①人骨の出土状況：人骨は，長径約70cm・短径約40cmの土壙から出土している。なお，本土壙は西側に約20cmの突出部を持つ。この突出部は，焚き口であると推定されるので，火葬時は風が西側から吹いていたと推定される。

②人骨の出土部位：人骨の出土部位は非常に少ない。恐らく，丁寧に収骨したものと推定される。わずかに，歯根が１点同定できたのみである。このように、火葬人骨を丁寧に収骨する方法は、現在にまで続く東日本タイプ

の収骨方法であると推定される(楢崎，2002)。

③副葬品：副葬品は，検出されていない。

火葬人骨は，わずかな量しか出土していないため，被火葬者の頭位・火葬状態・被火葬者の個体数・性別・死亡年齢等は不明である。しかしながら，人骨の色は灰白色を呈しているため，焼成温度は約900℃以上であると推定される(楢崎，2002)。

まとめ

元総社小見内Ｘ遺跡の東区の１号土壙墓・２号土壙墓，また同遺跡の中央区の１号火葬跡から中世の人骨が出土した。１号土壙墓には，約40歳代の女性が横臥屈葬で埋葬されたと推定された。また，２号土壙墓には，約30歳代の女性が横臥屈葬で埋葬されたと推定された。さらに，１号火葬跡には，性別及び死亡年齢不明の人骨が火葬にふされ，東日本タイプの収骨方法で丁寧に収骨されたと推定された。

謝辞

本出土人骨を記載する機会を与えていただいた，前橋市教育委員会の前原　豊氏，高橋　亨氏，高坂麻子氏に感謝します。また，本出土人骨に関する考古学的情報を与えていただいた，山武考古学研究所の長谷川一郎氏に感謝します。

表１．元総社小見内Ｘ遺跡出土人骨出土永久歯歯冠計測値及び比較表

	歯種	計測項目	元総社小見内Ｘ遺跡 1号土壙墓 右	元総社小見内Ｘ遺跡 2号土壙墓 右	元総社小見内Ｘ遺跡 2号土壙墓 左	中世時代人 Matsumura,1995* ♂	中世時代人 Matsumura,1995* ♀	江戸時代人 Matsumura,1995* ♂	江戸時代人 Matsumura,1995* ♀	現代人 権田,1959** ♂	現代人 権田,1959** ♀
上顎	I1	MD	－	8.5	－	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
		BL	－	7.3	－	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28
	I2	MD	7.2	6.3	－	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.05
		BL	7.1	6.4	－	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51
	C	MD	－	7.3	－	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	－	7.8	－	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	P1	MD	－	6.8	6.8	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	－	9.1	9.2	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
	P2	MD	－	6.7	6.6	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		BL	－	9.6	8.5	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
	M1	MD	－	－	9.6	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		BL	－	－	10.7	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
	M2	MD	－	8.6	8.7	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
		BL	－	11.1	11.3	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31
	M3	MD	－	9.0	9.0	－	－	－	－	8.94	8.86
		BL	－	11.8	11.3	－	－	－	－	10.79	10.50
下顎	I1	MD	－	5.3	5.2	5.42	5.22	5.45	5.32	5.48	5.47
		BL	－	5.5	5.4	5.78	5.61	5.78	5.65	5.88	5.77
	I2	MD	－	5.6	5.8	6.04	5.78	6.09	5.97	6.20	6.11
		BL	－	5.8	5.9	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30
	C	MD	5.2	6.5	6.6	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68
		BL	歯石	7.2	7.5	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.50
	P1	MD	7.3	6.5	6.4	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
		BL	7.9	6.9	6.6	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
	P2	MD	7.2	7.2	7.2	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
		BL	8.4	7.6	7.7	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
	M1	MD	10.2	－	10.3	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		BL	11.0	－	9.7	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
	M2	MD	11.1	9.8	9.8	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89
		BL	10.5	9.6	9.6	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20
	M3	MD	10.3	－	10.3	－	－	－	－	10.96	10.65
		BL	9.8	－	9.4	－	－	－	－	10.28	10.02

註１．計測値の単位は、すべて、「㎜」である。
註２．歯種は、I1(第１切歯)・I2(第２切歯)・C(犬歯)・P1(第１小臼歯)・P2(第２小臼歯)・M1(第１大臼歯)・M2(第２大臼歯)・M3(第３大臼歯)を意味する。
註３．計測項目は、MD(歯冠近遠心径)・BL(歯冠唇頬舌径)を意味する。
註４．「生前脱落」は、歯が生前脱落していることを示す。
註５．「＊」は、MATSUMURA(1995)より引用。なお、MATSUMURA(1995)には、M3(第３大臼歯)のデータは無い。
註６．「＊＊」は、権田(1959)より引用

引用文献

藤田恒太郎　1949　歯の計測規準について，「人類学雑誌」，６１：１-６．

権田和良　1959　歯の大きさの性差について，「人類学雑誌」，６７：１５１-１６３．

前橋市埋蔵文化財発掘調査団編　2005　『元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ｘ遺跡』，前橋市埋蔵文化財発掘調査団

楢崎修一郎　2002　下小鳥神戸遺跡出土火葬人骨，「研究紀要」，群馬県埋蔵文化財調査事業団，20：43-50.

元総社小見内Ｘ遺跡出土獣骨

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　　楢崎　修一郎

はじめに

小見内Ｘ遺跡は，群馬県前橋市元総社町に所在する。前橋市埋蔵文化財発掘調査団による発掘調査が，平成16(2004)年10月～同17(2005)年１月まで行われた。発掘調査報告書は，2005年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団により『元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ｘ遺跡』として発行されている。しかしながら，諸般の事情により自然科学分析は掲載されていない。小見内Ｘ遺跡は，小見内Ⅲ遺跡の東側に位置し，西区・中央区・東区の３区に分かれる。小見内Ｘ遺跡の東区のＷ－１号溝より馬歯が，中央区のＷ－９号溝から馬骨が出土したので以下に報告する。なお，獣骨の計測は，ドリーシュの方法にしたがった(DRIESCH，1976)。

１．Ｗ－１号溝出土馬歯［中世以降］

⑴馬歯の出土状況：馬歯は，東区の西にあるＷ－１号溝のほぼ中央から出土している。このＷ－１号溝は，南北に走行し，長さ約12.3m・幅約3.6m～4.2m・深さ約1.6mの規模である。

⑵馬歯の出土部位：馬歯は，上顎右第２小臼歯～同第３大臼歯までの，上顎臼歯６本が出土している。

⑶個体数：出土馬歯は，出土状況から同一個体と推定されるので，個体数は１個体であると推定される。

⑷性別：馬の場合，犬歯の有無で性別推定が可能であるが，今回犬歯は出土していないので，性別は不明である。

⑸死亡年齢：出土臼歯の歯冠高より，死亡年齢は約７歳～８歳であると推定される。

写真１．元総社小見内Ｘ遺跡Ｗ－１号溝出土馬歯(上顎右臼歯頬側面観)

写真２．元総社小見内Ｘ遺跡Ｗ－１号溝出土馬歯(上顎右臼歯舌側面観)

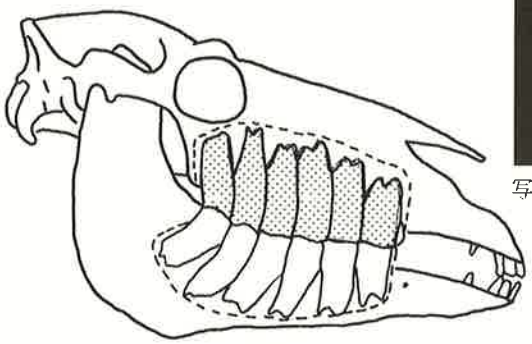


図１．元総社小見内Ｘ遺跡出土馬歯出土部位

２．Ｗ－９号溝出土馬骨［中世以降］

⑴馬骨の出土状況：馬骨は，中央区の東にあるＷ－９号溝から出土している。このＷ－９号溝は，北東から南西に走行し，長さ約13.3m・幅約93cm～1.2m・深さ約25cmの規模である。

(2)馬骨の出土部位：上腕骨が出土している。

(3)個体数：上腕骨１点であるので，個体数は１個体である。

(4)性別：馬の場合，犬歯の有無や寛骨で性別推定が可能であるが，今回，上腕骨しか出土していないので，性別は不明である。

(5)死亡年齢：上腕骨の骨体部のみの出土であるため，骨端部の癒合の有無が確認できないため，死亡年齢は不明である。

表１．元総社小見内Ｘ遺跡出土馬歯歯冠計測値

歯　種	ＭＤ(近遠心径)	ＢＬ(頬舌径)	歯　冠　高
Ｐ２(第２小臼歯)	36 ㎜	23 ㎜	32 ㎜
Ｐ３(第３小臼歯)	27 ㎜	27 ㎜	45 ㎜
Ｐ４(第４小臼歯)	27 ㎜	27 ㎜	48 ㎜
Ｍ１(第１大臼歯)	23.5 ㎜	25 ㎜	45.5 ㎜
Ｍ２(第２大臼歯)	23.5 ㎜	24.5 ㎜	45 ㎜
Ｍ３(第３大臼歯)	23 ㎜	21 ㎜	47 ㎜

まとめ

元総社小見内Ｘ遺跡のＷ－１号溝及びＷ－９号溝から馬歯及び馬骨が出土した。Ｗ－１号溝から，馬歯の上顎右臼歯が６点出土した。性別不明で，死亡年齢約７歳～８歳の壮麗馬が１個体出土したと推定された。Ｗ－９号溝から，馬骨の上腕骨が1点出土した。性別及び死亡年齢不明の馬骨が1個体出土した。

謝辞

本獣骨を記載する機会を与えていただいた，前橋市教育委員会の前原　豊氏，高橋　亨氏，高坂麻子氏に感謝します。また，遺跡に関する考古学的情報を与えていただいた，山武考古学研究所の長谷川一郎氏に感謝します。

引用文献

DRIESCH，Angela von den 1976 *A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites*，Peabody Museum Bulletin No.1，Peabody Museum，Harvard University

Ⅶ　まとめ

1　集落の変遷について

ここでは、元総社蒼海遺跡群での従来の分類に従い、Ⅰ期（～７世紀前半：律令期以前）、Ⅱ期（７世紀から10世紀初頭：律令期）、Ⅲ期（10世紀前半から：律令期以後）の３期に区分した。

本遺跡は元総社町の西部、上野国府推定域の北西に位置する。遺構確認面は現耕作土とAs－B混土下のAs－C・Hr-FP混土で、地山は東区と西区の大部分ではローム層、西区X117以南では黒褐色粘質土層となる。標高差はそれほどないが、東区は調査区東部に向かってやや高くなる一方、西区西南部は低地帯であったと想像できる。

本遺跡で検出された住居跡を従来の分類に従って区分すると、Ⅰ期が１軒、Ⅱ期が17軒、Ⅲ期が０軒となる。ここで注目されるのはⅡ期に該当する住居跡が多数である点である。

Ⅰ期に該当するのはH－６号住居跡である。(Fig.11、PL.２）西竈で５m四方と比較的大型で、７世紀前半の住居と考えられる。この時期の住居跡が周辺で検出された例は少ないが、このような大型住居の存在は国府造営以前から当地が居住地として利用されていたことを示すものである。

Ⅱ期の住居跡は主軸方向をほぼ同じくしており、若干の時期差はあるものの複数軒重複し、繰り返し住居として利用されていたと考えられる。H－８号住居跡（Fig.13、PL.２）は竈を持たない住居跡であるが、東壁中央からは廃絶された竈が検出され、竈付け替え等の改築が行われたことが窺える。また、前述のH－６号住居跡の上層からはH－５住居跡が、そのすぐ西からは竈を壊すかたちでH－７号住居跡が検出された。これらから、当地が律令期のある期間継続して居住地として利用されていたことが窺える。

過年度の近隣での調査ではⅡ期の住居跡検出は全体的に少なく、Ⅲ期以降が主体であった。本遺跡地に隣接する元総社小見内Ⅲ遺跡（2002年調査）の１・２区でも検出遺構の年代は中世が主体である。対して本遺跡検出の住居跡が律令期主体ということは、上野国府との関連が想起される。

武蔵国府においては30年に及ぶ発掘調査の結果、国府の周辺には造営に携わった人々の住んだ「国府のマチ」の存在が解明された。「国府のマチ」が機能していたのは７世紀末～８世紀初頭の国府造営期、律令体制の初期である。大宝律令発布後、国府が各地で整備されつつある中、造営に関わった者たちの居住地として国府周辺には大規模な集落が存在した。推定国府域西北辺に位置する本遺跡周辺にもこのような集落地が広がっていたことは十分に考えられる。周辺一帯は区画整理事業に伴う発掘調査が計画されている。今後の調査により古代上野国における国府とその周辺の土地利用の解明が待たれるところである。

2　溝について

本遺跡からは合計９条の溝跡が検出された。ここでは、主に中世の溝跡について考える。

W－１・２号溝跡は東区西端を南北に走行する幅５m、深さ３m、断面が逆台形の溝跡である。土層観察から、数度にわたり埋没を繰り返したとみられ、数枚の硬化面を持つ。この溝と同様の遺構が過年度調査（元総社小見内Ⅳ遺跡・W－１・２号溝跡：2002年調査）で検出されており、現道に沿って南北方向に走行したと考えられる。この溝は埋土にAs－Bを含むことから12世紀初頭以降のものであることは明らかで、複数回埋没を繰り返したことから、一定期間道あるいは溝として使用されたと推測される。本遺構を含む元総社蒼海地区は中世において蒼海城が存在していたことが知られる。本遺構は蒼海城の堀割の西外れに位置するが、城へと向かうルートの一つであったことは十分考えられる。

本遺跡検出のW－４号溝跡は東西約19m、南北約18mで、過年度調査の元総社小見内Ⅲ遺跡で検出されたものと同一とみられ、平面形状はほぼ方形、断面はV字形である。(Fig.５・20) 埋土にAs－B軽石を含み、D－４号土壙を切り、墳墓群に切られることから、13世紀後半～14世紀後半の間に機能していたと想定される。東西南北を方形に巡る本遺構は建物を区画する溝あるいは堀と想定される。13世紀半ば以降の区画溝としては城館や寺院での検出例は多いが、本遺構の規模からはそのような施設の堀とは考えにくく、前出の小見内Ⅲ遺跡にあるように「小堂」的建物の区画溝であったと考えるのが妥当と言えよう。本調査において本遺構の範囲内に建物の存在を示す遺構は検出できず、本遺構の性格を決定付けるには至らないが、後述する土壙墓群との関係を考えるならば、本遺構を区画溝とする建物が範囲内に存在した可能性は高く、今後の調査による全容解明が待たれるところである。

3　壙墓群について

本遺跡からは60基に上る墳墓群が検出された。これらは東区のW－１～３とW－４号溝跡の間のAs－B軽石を多く含む砂質土層より検出された(Fig.５)。墳墓群の内訳は土葬墓58基、火葬墓２基で、五輪塔・板碑を伴うものが数基ある。土壙墓としては確認できなかったが骨片を検出したものも含めると90箇所以上となる。一帯には夥しい数の石が配置され、墓壙が数カ所で重複して検出されたことから、一帯がある期間「墓域」として機能していたと推定される。

墳墓群の埋葬法は北頭位屈葬が多数を占める。副葬品はカワラケ・銅銭が多く、(後述する五輪塔・板碑の型式からその年代は14世紀後半～15世紀半ばにかけてとされる。) 刀子を伴うものもある。平面形では隅丸長方形と楕円形の２タイプが多数を占める。隅丸長方形タイプがX118・119、Y113・114付近に集中し、北北西頭位右向屈葬が多数であるのに対し、楕円形タイプは散在的で体の向きもバラバラである。これは、あくまで推測だが埋葬された時期もしくは被葬者階層の差に起因するのではないだろうか。また、東区南部（X117・118、Y114付近）で検出された墳墓群は北を軸として等間隔に並んでおり、何らの規則性が窺える。このことはの当地が一時的且つ一過性でなく、継続性と計画性を持った墓域・聖域であったと想定される。

このような特徴を持つ墳墓群の被葬者はいかなる階層に属したのか。本地域は平将門による国府崩壊以来、中世においては長野氏の支配から蒼海城の長尾氏と、主立った大名の本拠地であった。特に本調査区近隣からは蒼海城の堀跡も検出されており、一帯は中世蒼海城の城下町および周辺地域であった。中世動乱期、当地域は数々の侵略を経験しつつも政治の中心地であり、本墳墓群の被葬者はこの時期に当地域周辺で生活した者と想定される。

東国の中世墳墓における埋葬者階層について笹生衛氏は、房総地方を例としてA～Eの５タイプに分類し、その類型は関東一円に通有であるとしている。この類型をもとに本墳墓群を分類すると、本墳墓群の被葬者は14世紀中頃から後半にかけ力を付けた土豪・国人領主層といえそうである。墳墓は数代にわたり繰り返して構築され、14世紀後半～15世紀前半をピークとし、16世紀には衰退したと考えられる。

本墳墓群の北側にはわずかに数基の墓地が残っており、墓石の年代は江戸中期から末期にわたる。(寛政・文化文政年間) また過年度調査で出土した人骨の分析結果からも近世の所見を得ている。このことと、本墳墓群が位置的に至近であるということのみから、中世に始まった墓域が近世には北に範囲を広げ永続していたとするのは拙速だが、本地域一帯が現在に至るまで開発されることも少なく、旧地割を活かした土地利用がなされていることを考慮すると、中世以降も何らかの形で墓地として機能していたことは想像に難くない。

以上から、本墳墓群は中世蒼海地区において力を持ちつつあった土豪・領主によって構築されたといえそうである。当時彼ら上層農民の間には広く庚申信仰や浄土信仰が根付きつつあり、出土した板碑に刻まれた阿弥陀三

尊種子などはそのことを如実に示している。前述した溝を伴う「小堂」が存在したとすれば、それは彼らの信仰の先駆けとなるの象徴的建物で、その建物の廃絶に伴い、本地域が墓域として聖域化したと思われる。

本墳墓群は中世動乱期の不安定な情勢を反映した当時の人々の信仰風景を物語る貴重な遺構であり、今後の調査により、古代・中・近世と永続的な当地の土地利用状況のさらなる解明を期待したい。

（1）五輪塔について

五輪塔は空・風・火・水・地輪からなる石造物である。本遺跡からは、火輪７、水輪２、地輪２の合計11基が検出された。遺構別の出土は土壙墓から７、土壙から１、遺構外から３である。出土状態は主に土壙墓からで原位置を保つものは少なく、それぞれの組み合わせも不明である。火輪の数から想定して、最少７基以上、最大11基が存在していたといえよう。

石材での特徴をみると角閃石安山岩と輝石安山岩の２つに大別できる。

角閃石安山岩は、主に榛名山を給源とし、同山麓と利根川流域に転石として多量に存在する岩石である。室町期になってから、本格的に利用されはじめ、榛名山麓に五輪塔群を形成している。以後、室町期の後半から戦国期には、分布範囲が榛名山麓から利根川右岸から埼玉まで広範囲に広がり、戦国期以降角閃石安山岩の使用頻度が増すようである。

輝石安山岩は、主に赤城山南麓特に南東部を供給源とし、利根川左岸での利用が中心であるが、南北朝から戦国期には利根川下流や利根川右岸でも利用されている。このことは本遺跡周辺の人々は、赤城山南麓との交流があったことがうかがえる。角閃石安山岩と比較すると、硬質の安山岩で輝石を含み加工が可能な岩石である。

本遺跡出土の五輪塔の火輪を形状からみると、すべて軒が反り返っていて四隅を斜線で切っている。これは室町期に造られた五輪塔のようである。このように石材及び形状から、室町期(15世紀初頭～16世紀初頭)を中心に五輪塔が造られたと推測することができよう。

（2）板碑について

本遺跡から出土した板碑の多くは破損し、残念ながら紀年銘の残るものは無く、造立年代を確定できない。本遺跡出土すべての板碑の石材は緑泥片岩であり、下仁田町から埼玉県小川町まで分布する三波川変成帯に属する。造立年代については紀年銘の残るものは無いため、一般的に二条線の有無、頂部山形の角度、全長と全幅の比率、種子の形状及び刻字法、蓮座（蓮台）の形状、文字の書体及び刻字法などから推察していく。本遺跡での板碑のうち、原形の状態に近い残存状況は「板１」(ＤＢ－９）である。「板１」は阿弥陀如来が観音・勢至両菩薩を脇侍として従えた阿弥陀三尊を梵字で表現している。二条線が無い、蓮実と蓮弁がより簡略化されている、薄い石材に浅い丸彫りを施している、以上の点から「板１」は室町時代の製作と推測する。また「板２」(ＤＢ－25) と「板３」(ＤＢ－28) にも阿弥陀如来を表す梵字が彫られており、「板１」と同様に室町期(15世紀初頭～16世紀初頭)の製作と推測する。

（3）カワラケについて

本遺跡ではカワラケが土壙墓、土壙、溝から出土し、そのうち図示したものは44点である。そのうち30枚が土壙墓から出土し、カワラケが出土した土壙墓は60基中19基であり、35％にあたる。また土壙墓１基あたりのカワラケ出土平均個数は1.58個であり、土壙墓によって１個から５個までと幅がある。大きさでみると、大型品（口

径９㎝超）が29点、小型品（口径９㎝以内）が12点、破片が２点であり、完形またはほぼ完形に近いものは31点であった。№97は内外面のほぼ同じ位置に、また№98は体部外面の対極にそれぞれ２文字「海」「浄（か？）」の墨書があり、共にＤＢ－54号土壙墓より出土した。また他にも「鬼鬼」「泰(か？)」の文字の墨書土器も出土している。これらの漢字に共通していることは、浄土信仰や庚申信仰が人々に広く広まっていた証であるといえよう。なお、カワラケと共伴した銅銭や過去の研究成果等から、年代観については14世紀半ばから15世紀半ばとみていいだろう。

（４）鉄製品について

本遺跡からは、紡錘車、釘、刀子、鎌などの鉄製品が出土した。特に釘は主に角釘で鉄13（ＤＢ－40）はＬ字状に屈曲しており、土壙墓からの出土であることから棺の存在を窺うことができよう。鉄８（ＤＢ－12)、鉄９（ＤＢ－13）についても同様なことがいえよう。また、３基の土壙墓から計４点の刀子を出土しているが、長さの平均は14.2㎝であり、いずれも残存は良好である。なかでも鉄10（ＤＢ－26）は、人骨（頭蓋骨）の上から出土し、明らかに副葬品として刀子が利用されていたことがわかる。

（５）銅銭について

本遺跡からは、総数230枚、34種類の銅銭が出土し、すべて渡来銭である。そのうち183枚が土壙墓から出土し、銅銭が出土した土壙墓は60基中39基であり、65％にあたる。頭や手の付近から出土する例が多いが出土位置を限定することはできない。また土壙墓１基あたりの銅貨出土平均枚数は4.67枚であり、土壙墓によって１枚から８枚と様々であるが、１/３に当たる13基では六道銭とみなしてもよい６枚の銅貨が出土している。六道銭の投入を多少意識していたのかもしれない。また藁や麻紐、和紙などが付着している銅貨もみられ、それらで銅貨を包んで埋葬した様子が窺える。種類別でみると唐銭３、南唐朝銭13、北宋銭112、南宋銭３、金朝銭２、明朝銭58、不明39である。最も北宋銭が多く半数近くを占めているのは、他の銅銭出土遺跡例のパターンと類似している。いかに北宋時代の宋商は日本との交流を盛んに行っていたことを窺い知ることができよう。初鋳年代は759年から1433年と幅広い。なかでも永楽通宝は40枚と最も多く、極めて良銭である。次いで北宋銭の元豊通宝、明朝銭の洪武通宝、北宋銭の皇宋通宝となる。仮に銅銭の初鋳年代のみで土壙墓を分類すると、10世紀以降が１基、11世紀以降が７基、12世紀以降が６基、13世紀以降が０基、14世紀以降が13基、15世紀以降が９基となり、銅銭以外の遺物とも考えてみると、14世紀から15世紀にかけてが妥当といえるであろう。

４　最後に

本遺跡は、６世紀末から９世紀にかけては居住地として、14世紀から15世紀にかけては中世墳墓群として、さらに現在まで墓地として利用されてきた土地である。言い換えると国府時代には居住地、蒼海城時代には墳墓群という「生と死」の両面から見つめていた場所である。特に墳墓群については、人骨の調査研究を群馬県埋蔵文化財発掘事業団の楢崎修一郎専門員に託し、全貌を明らかにしていただいた。また銅銭に錆が多く付着していたため、保存処理を専門業者である京都科学へ委託した。銅貨の離脱及びＸ線撮影を行っていただき銅貨の文字の判読に大いに役立った。ここで厚く御礼申し上げる。

最後に今後も元総社蒼海遺跡群の発掘調査は行われるが、国府時代、蒼海城時代の二本柱を中心に更なる解明を期待したい。

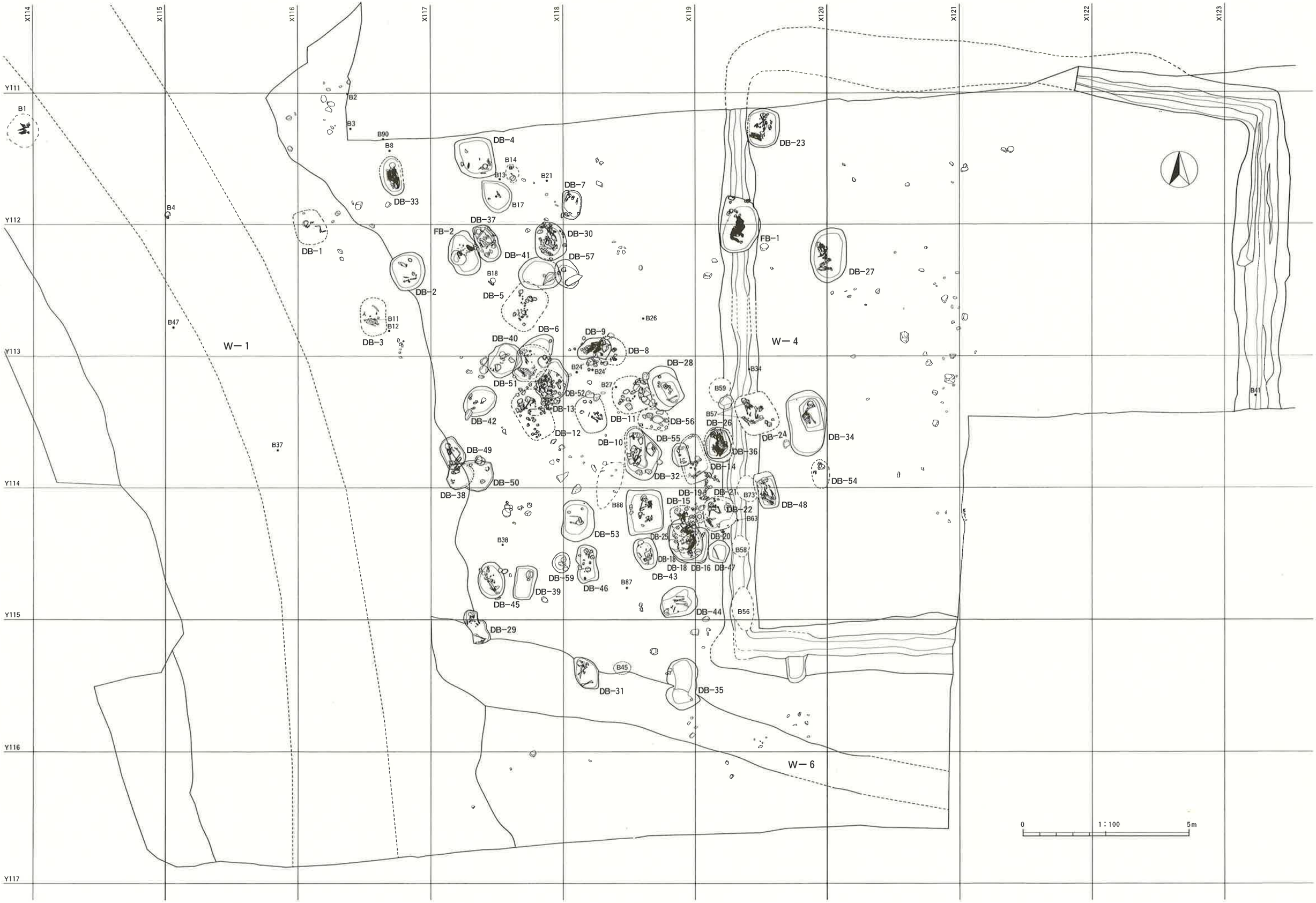


Fig.5　W－４号溝跡・墳墓群　分布図

〈引用参考文献〉

木部日出雄他編『富田遺跡群・西大室遺跡群・清里南部遺跡群』前橋市教育委員会　1980年

造幣局泉友会編『コインの歴史』創元社　1984年

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『浜町屋敷内遺跡Ｃ地点』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　1985年

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『上野国分僧寺・尼寺中間地域　－関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財調査報告書第12集－』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　1987年

群馬県教育委員会事務局文化財保護課『史跡上野国分寺跡』　群馬県教育委員会　1988年

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『白石大御堂遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　1991年

白石太一郎「奈良県宇陀地方の中世墓地」『国立歴史民俗博物館研究報告　第49集』国立歴史民俗博物館　1993年

吉井敏幸「中世群集墳遺跡からみた葬墓の成立」『国立歴史民俗博物館研究報告　第49集』国立歴史民俗博物館　1993年

笹生衛「東国における中世墓地の諸相」『(財)千葉県文化財センター年報16』(財)千葉県文化財センター　1995年

川島雅人ほか『多摩ニュータウン№457遺跡』(財)東京都埋蔵文化財センター　1996年

秋池　武　「利根川流域中世石造物石材の流通と変遷」『群馬県立歴史博物館紀要　第19号』群馬県歴史博物館　1998年

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『下植木壱町田遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　1999年

飯森康広「中世後期館跡とその周辺構造」『信濃』第51巻第10号　1999年

日本貨幣商協同組合　編『日本貨幣型録2000』日本貨幣商協同組合　2000年

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『小八木志志貝戸遺跡群３　中世編』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団　2001年

山武考古学研究所編　『元総社小見内Ⅲ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年

齊木一敏・高坂麻子編『元総社小見内Ⅳ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

山武考古学研究所編『元総社小見Ⅲ遺跡　元総社草作Ⅴ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

近藤雅順・稲垣慎太郎編『元総社小見内Ⅶ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年

近藤雅順・稲垣慎太郎編『元総社小見内Ⅷ遺跡　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年

小野正敏・五味文彦・萩原三雄　編『中世の系譜』高志書院　2004年

多賀町教育委員会『敏満寺遺跡石仏谷墓跡』多賀町教育委員会　2005年

中世墓資料集成研究会『中世墓資料集成　－関東編（１）－』中世墓資料集成研究会　2005年

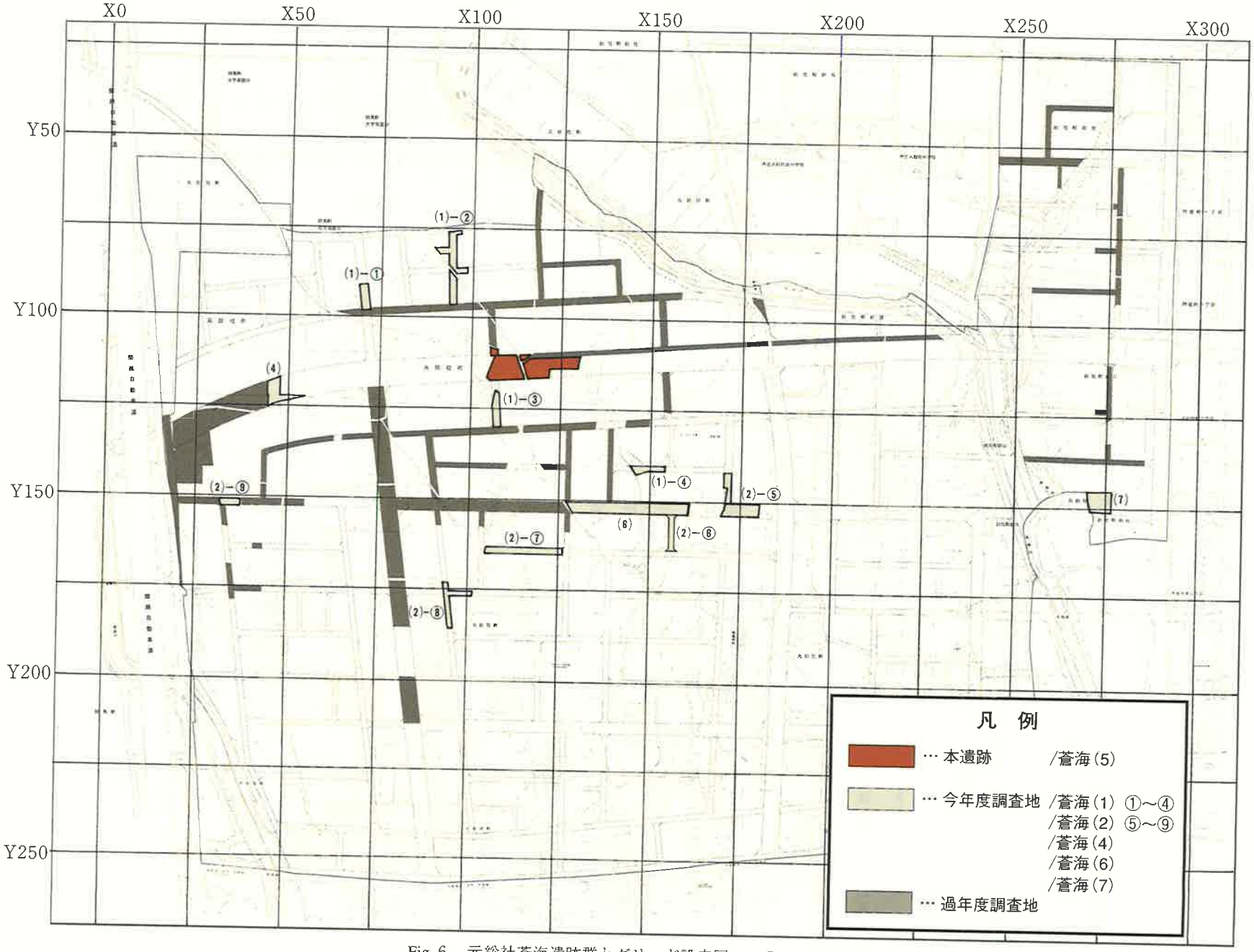


Fig. 6　元総社蒼海遺跡群とグリッド設定図　　S＝1：6000

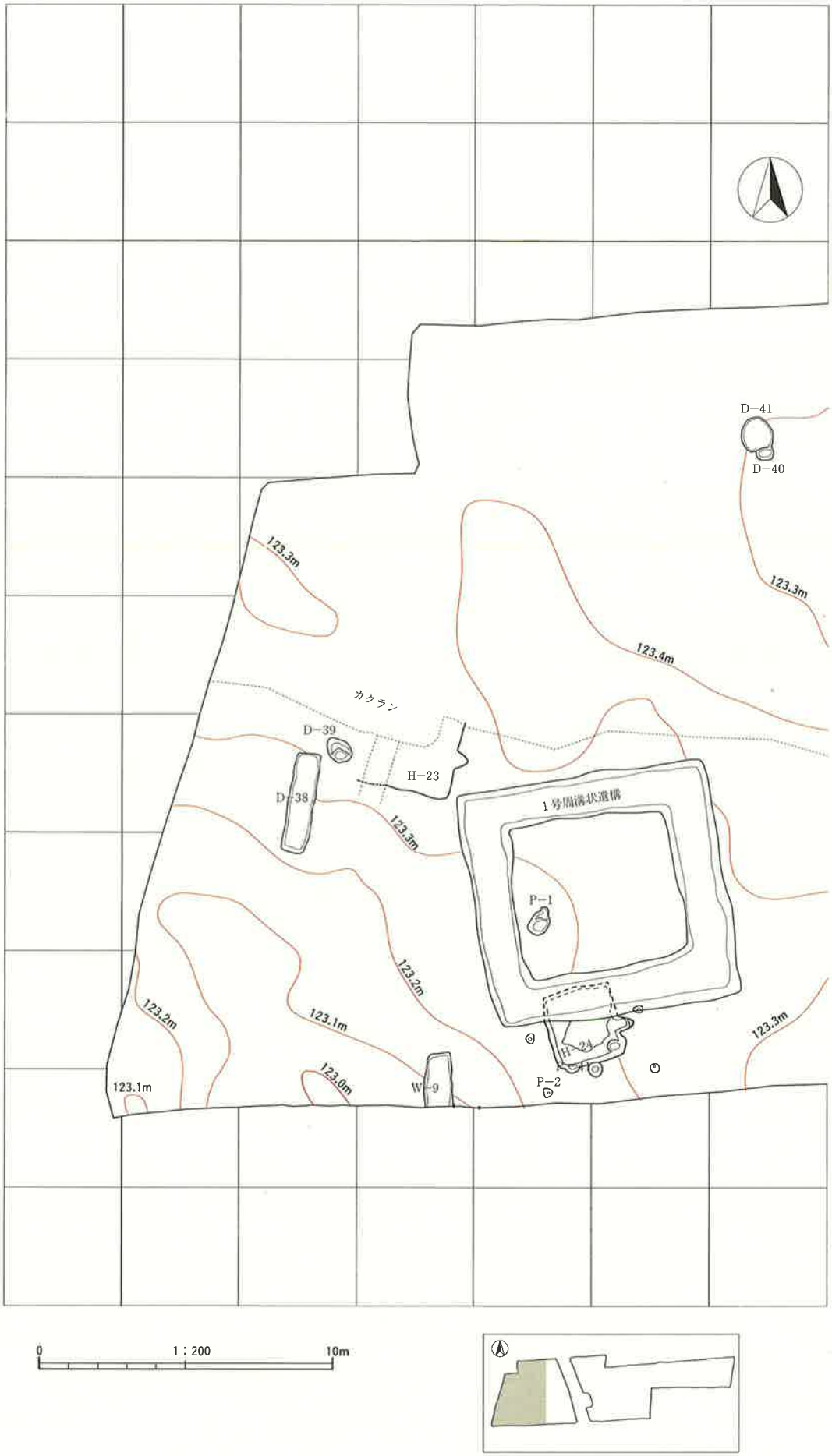

D−41
D−40
123.3m
123.3m
123.4m
カクラン
D−39
H−23
D−38
1号周溝状遺構
123.3m
P−1
123.2m
123.2m
123.1m
123.3m
H−24
123.1m
123.0m
W−9
P−2
0
1：200
10m

Fig. 7　西区全体図

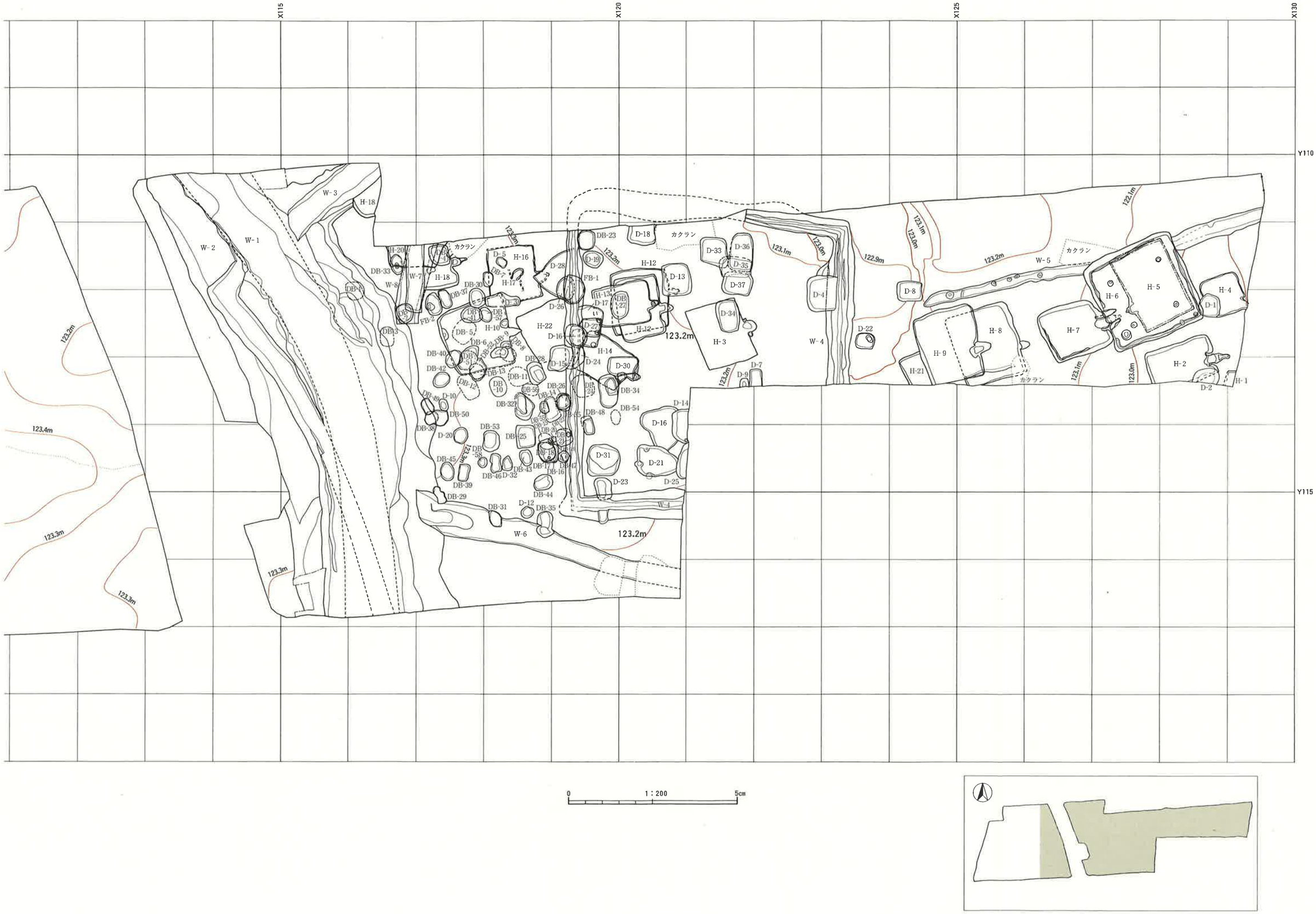
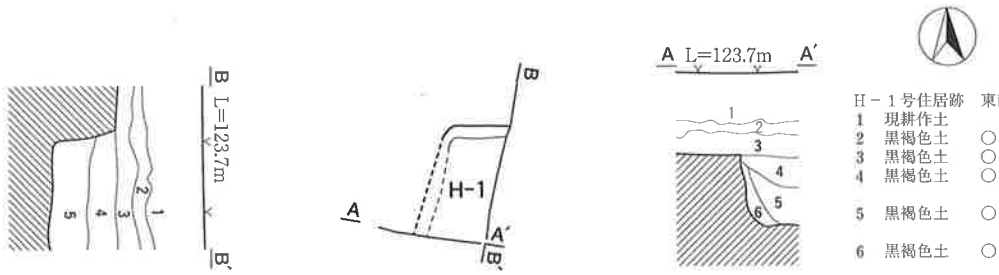
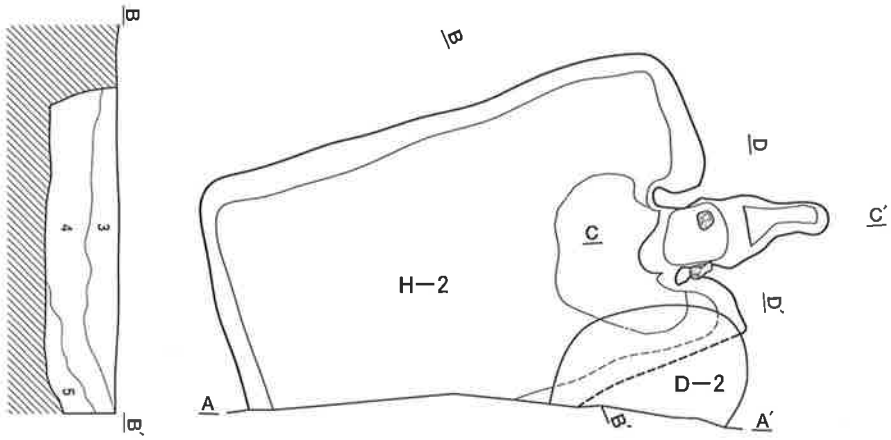

X115
X120
X125
X130
Y110
Y115
W-1
W-2
W-3
W-4
W-5
W-6
W-7
W-8
H-1
H-2
H-3
H-4
H-5
H-6
H-7
H-8
H-9
H-12
H-13
H-14
H-16
H-17
H-18
H-20
H-21
H-22
D-1
D-2
D-4
D-5
D-7
D-8
D-9
D-10
D-12
D-13
D-14
D-16
D-17
D-18
D-19
D-20
D-21
D-22
D-23
D-24
D-25
D-26
D-27
D-28
D-30
D-31
D-32
D-33
D-34
D-35
D-36
D-37
DB-23
DB-25
DB-29
DB-31
DB-33
DB-34
DB-35
DB-39
DB-40
DB-42
DB-43
DB-44
DB-45
DB-46
DB-48
DB-50
DB-53
DB-54
FB-1
FB-2
カクラン
123.2m
123.3m
123.4m
123.1m
123.0m
122.9m
122.1m
0
1 : 200
5cm

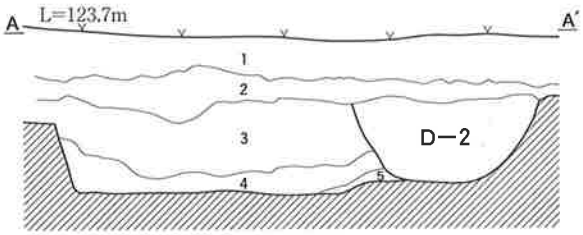
Fig. 8　東区　全体図



H－１号住居跡　東南壁セクション

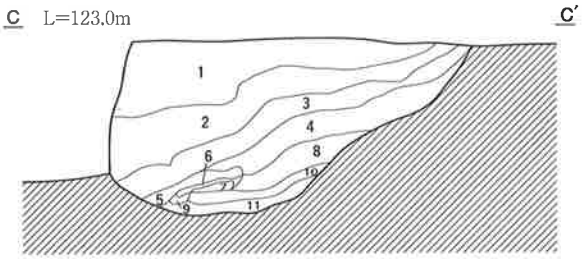
1	現耕作土		
2	黒褐色土	○×	As-B混土
3	黒褐色土	○×	As-C、Hr-FP20%、
4	黒褐色土	○×	As-C、Hr-FP10%、炭化物10%含む
5	黒褐色土	○×	As-C、Hr-FP５%、砂層粒５%含む
6	黒褐色土	○×	As-C20%含む





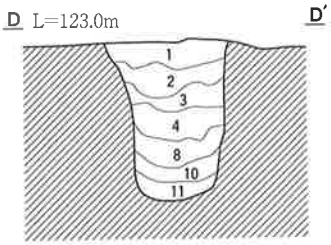
H－２号住居跡　ベルト・南壁セクション

1	現耕作土		
2	黒褐色土	◎×	As-B混土、As-C・Hr-FP10%含む
3	暗褐色土	△×	As-C５%、砂層粒５%含む
4	黒褐色土	△△	As-C５%含む
5	にぶい黄褐色土	△△	砂層粒20%含む



H－２号住居跡　竈セクション

1	黒褐色土	△○	As-B混土、黄色ブロック・焼土ブロック２%含む
2	極暗褐色土	△○	As-B混土、黄色ブロック・焼土ブロック２%含む
3	極暗褐色土	△○	As-B混土、炭化物・焼土ブロック２%含む
4	赤褐色土	△○	焼土ブロック主体
5	灰褐色土	×◎	粘土主体
6	暗赤褐色土	×○	焼土主体
7	極暗褐色土	△○	灰主体
8	暗赤褐色土	△○	焼土ブロック２%、粘土質
9	暗赤褐色土	×◎	焼土・粘土混土
10	極暗褐色土	×△	焼土ブロック５%含む
11	黒褐色土	×○	焼土粒２%、粘土ブロック２%含む



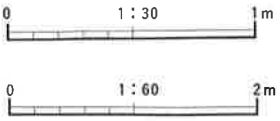
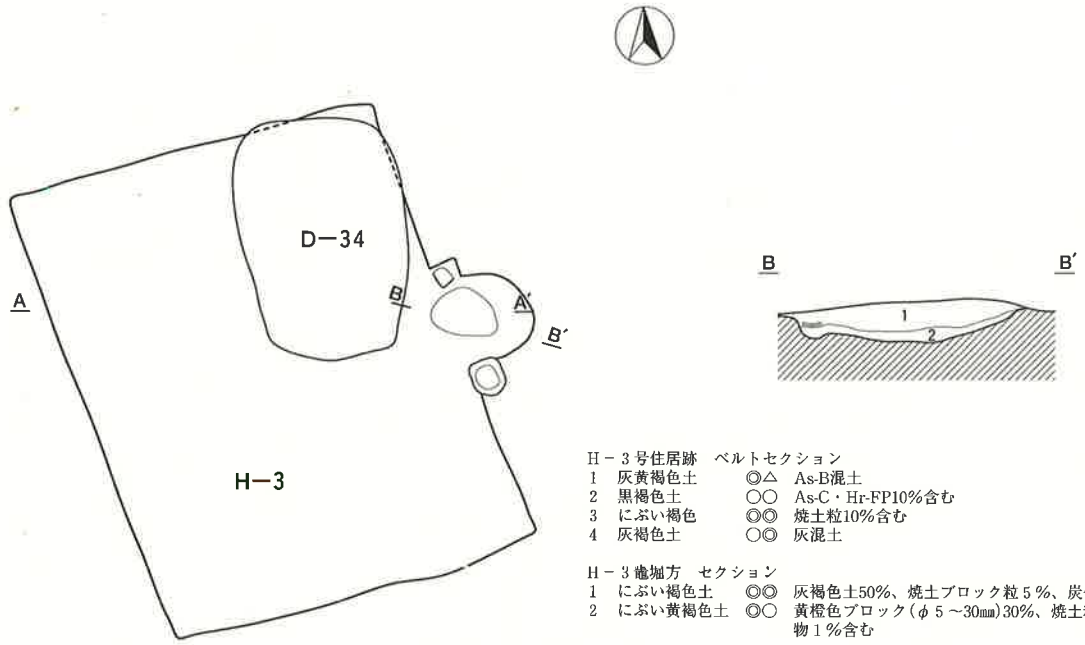


Fig. 9　Ｈ－１・２号住居跡

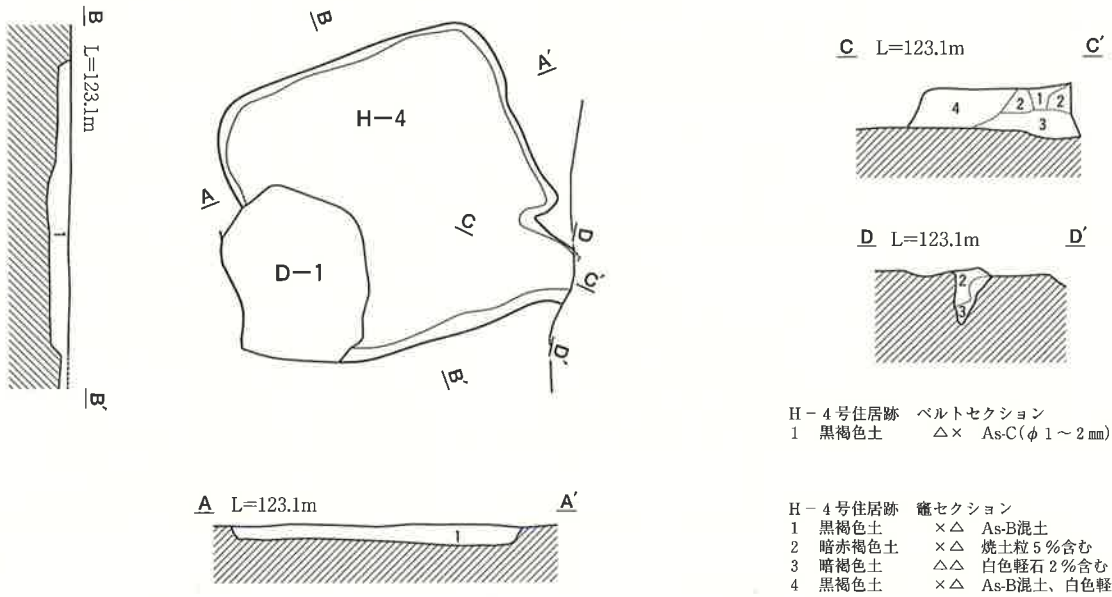


H－3号住居跡　ベルトセクション

1	灰黄褐色土	◎△	As-B混土
2	黒褐色土	○○	As-C・Hr-FP10%含む
3	にぶい褐色	◎◎	焼土粒10%含む
4	灰褐色土	○◎	灰混土

H－3竈堀方　セクション

1	にぶい褐色土	◎◎	灰褐色土50%、焼土ブロック粒5%、炭化物1%含む
2	にぶい黄褐色土	◎○	黄橙色ブロック(φ5～30㎜)30%、焼土粒2%、炭化物1%含む



H－4号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色土	△×	As-C(φ1～2㎜)20%含む

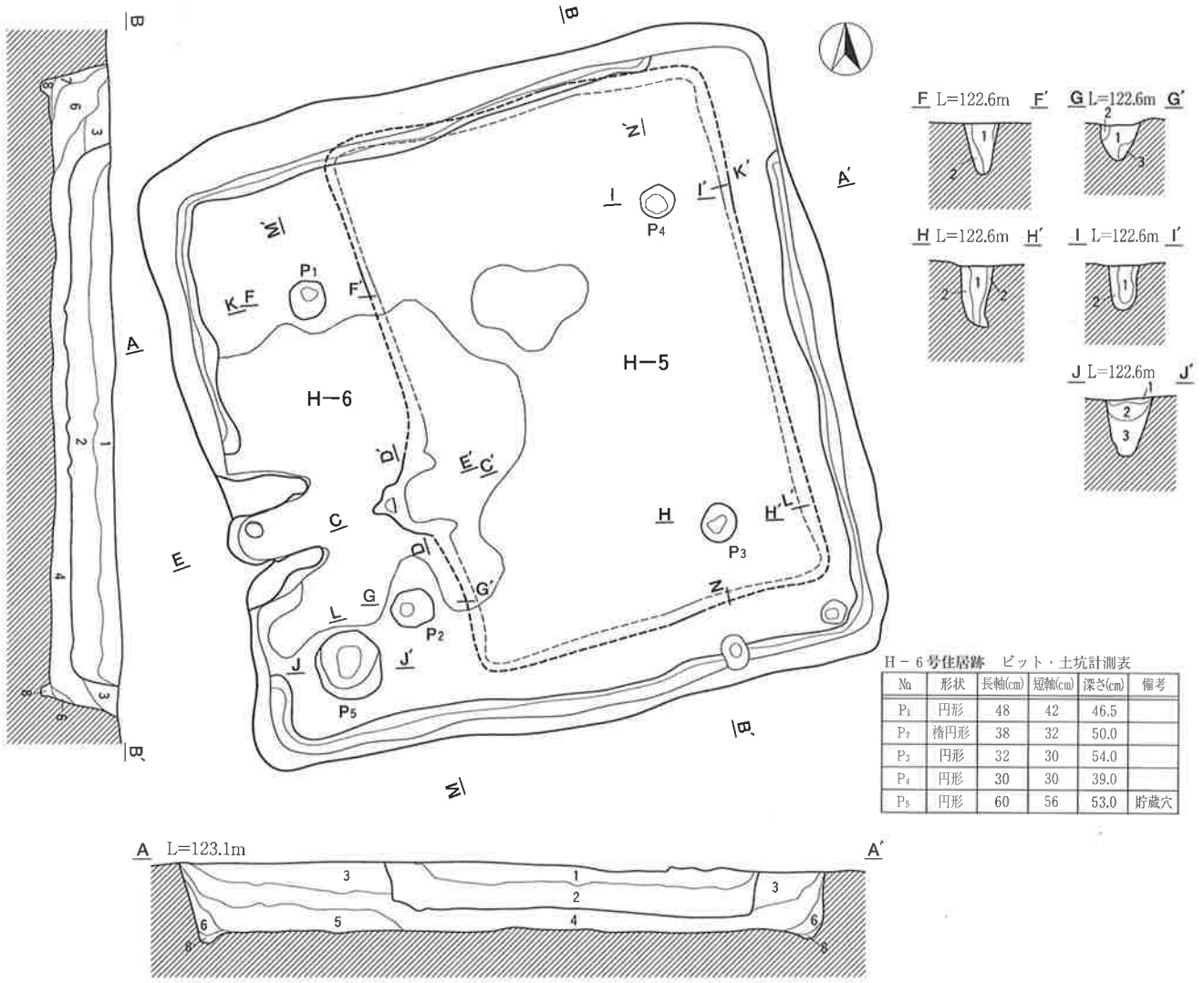
H－4号住居跡　竈セクション

1	黒褐色土	×△	As-B混土
2	暗赤褐色土	×△	焼土粒5%含む
3	暗褐色土	△△	白色軽石2%含む
4	黒褐色土	×△	As-B混土、白色軽石5%含む

0　1：30　1m

0　1：60　2m

Fig.10　H－3・4号住居跡



H－6号住居跡　ピット・土坑計測表

№	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P_1	円形	48	42	46.5	
P_2	楕円形	38	32	50.0	
P_3	円形	32	30	54.0	
P_4	円形	30	30	39.0	
P_5	円形	60	56	53.0	貯蔵穴

H－5・6号住居跡　ベルトセクション

1　黒褐色土　○△　炭化物、焼土化した粘土5％、As-C・Hr-FP10％含む
2　黒褐色土　○×　As-C・Hr-FP10％、砂層ブロック（φ2㎜）5％含む
3　黒褐色土　△×　As-C・Hr-FP5％含む
4　黒褐色土　○×　As-C・Hr-FP・砂層ブロック（φ5㎜）・粘土粒・焼土粒5％含む
5　暗褐色土　△×　As-C・Hr-FP・砂層ブロック（φ2㎝）5％含む
6　黒褐色土　△×　As-C・Hr-FP（φ2㎝）10％含む
7　暗褐色土　△×　砂層粒20％含む
8　暗褐色土　○×　砂層粒10％含む

H－6号住居跡　P_2セクション

1　にぶい黄褐色土　○○　粘土粒（10YR6/2、φ1㎝）10％、焼土粒5％含む
2　褐色土　○×　砂層ブロック（φ1～2㎝）15％含む
3　暗褐色土　△×　地山漸移層

H－6号住居跡　P_1・P_3・P_4セクション

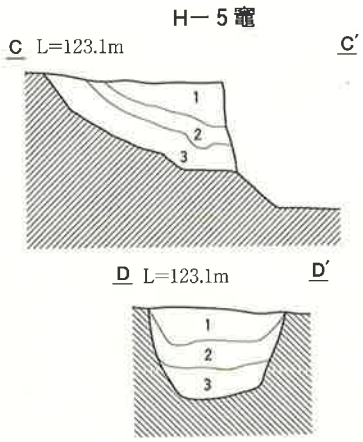
1　暗褐色土　××　砂層粒（φ5㎜）5％含む
2　暗褐色土　◎×　砂層ブロック（φ1～2㎜）10％含む

H－6号住居跡P_5セクション

1　黒褐色土　○○　粘土・砂層からなる床面
2　黒褐色土　△×　砂層ブロック（φ1㎝）15％含む
3　黒褐色土　××　砂層粒15％含む

0　1：60　2m

Fig.11　H－5・6号住居跡

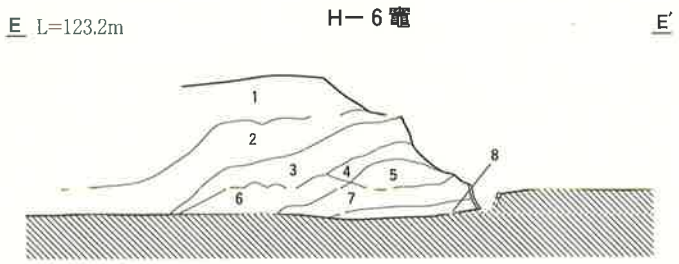


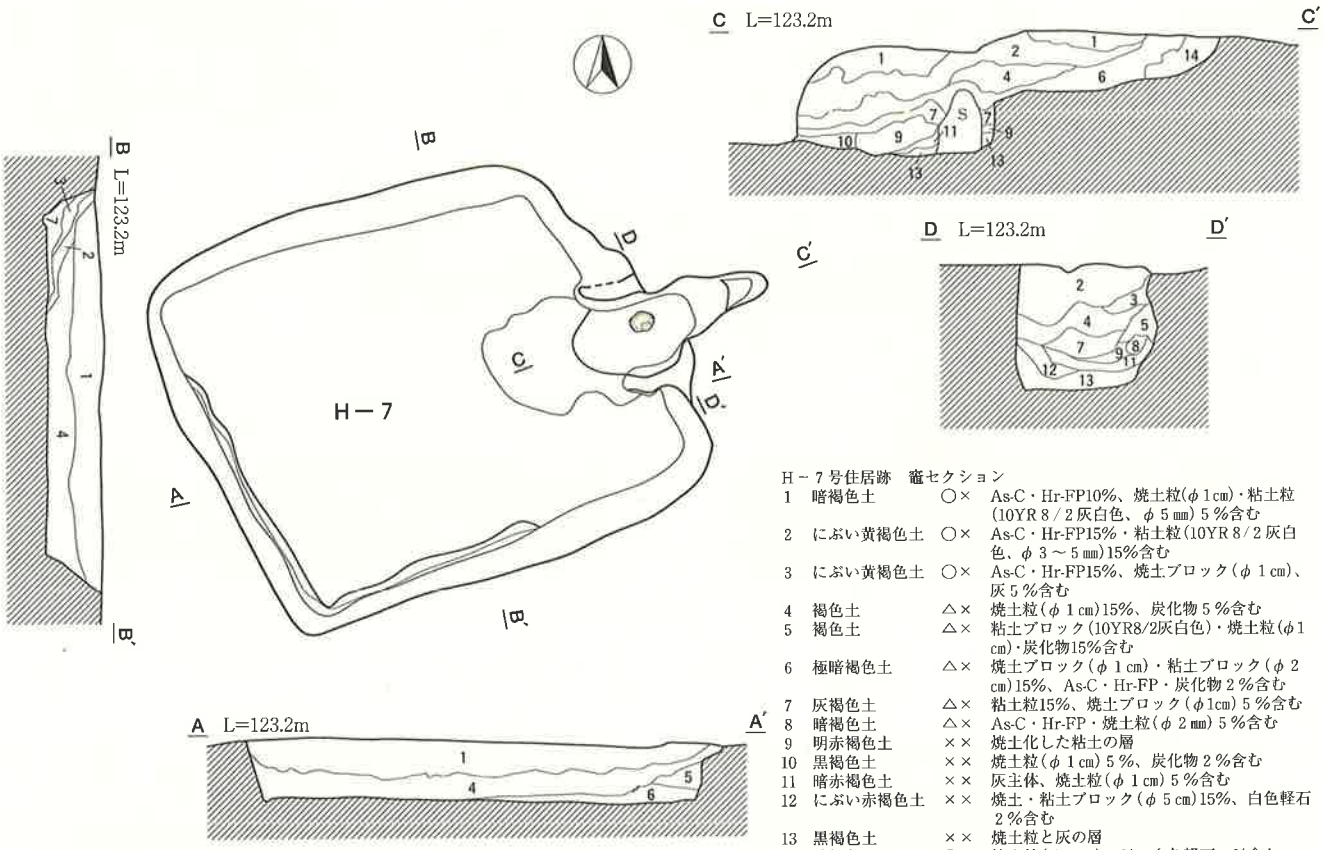
H－5号住居跡　竈セクション

1	黒褐色土	△×	As-C・Hr-FP15%、焼土粒(φ5㎜)5%含む
2	黒褐色土	△×	焼土粒15%、白色軽石5%含む
3	黒褐色土	△×	灰15%、焼土粒5%含む

H－6号住居跡　竈セクション

1	黒褐色土	○×	As-C・Hr-FP・砂層ブロック(φ1㎝)5%含む
2	暗褐色土	○×	As-C・Hr-FP・焼土ブロック(φ1㎝)・砂層ブロック(φ2㎝)5%、粘土粒(10YR6/2、φ1～2㎝)15%含む
3	黒褐色土	○△	As-C・Hr-FP2%、粘土粒(φ1㎝)5%、焼土粒10%、砂層ブロック(φ2㎝)20%含む
4	暗褐色土	○△	As-C・Hr-FP2%、砂層ブロック(φ2㎝)・焼土粒5%含む
5	黒褐色土	○○	粘土ブロック(φ)2㎝)15%、焼土ブロック(φ1～2㎝)5%含む
6	暗赤褐色土	○○	粘土主体(10YR6/3にぶい黄橙色)、焼土粒5%含む
7	にぶい黄褐色土	△×	粘土ブロック(10YR6/3にぶい黄橙色、φ3㎝)15%、灰5%含む
8	黒褐色土	△×	灰20%、焼土粒5%含む





H－7号住居跡　竈セクション

1	暗褐色土	○×	As-C・Hr-FP10%、焼土粒(φ1㎝)・粘土粒(10YR8/2灰白色、φ5㎜)5%含む
2	にぶい黄褐色土	○×	As-C・Hr-FP15%・粘土粒(10YR8/2灰白色、φ3～5㎜)15%含む
3	にぶい黄褐色土	○×	As-C・Hr-FP15%、焼土ブロック(φ1㎝)、灰5%含む
4	褐色土	△×	焼土粒(φ1㎝)15%、炭化物5%含む
5	褐色土	△×	粘土ブロック(10YR8/2灰白色)・焼土粒(φ1㎝)・炭化物15%含む
6	極暗褐色土	△×	焼土ブロック(φ1㎝)・粘土ブロック(φ2㎝)15%、As-C・Hr-FP・炭化物2%含む
7	灰褐色土	△×	粘土粒15%、焼土ブロック(φ1㎝)5%含む
8	暗褐色土	△×	As-C・Hr-FP・焼土粒(φ2㎜)5%含む
9	明赤褐色土	××	焼土化した粘土の層
10	黒褐色土	××	焼土粒(φ1㎝)5%、炭化物2%含む
11	暗赤褐色土	××	灰主体、焼土粒(φ1㎝)5%含む
12	にぶい赤褐色土	××	焼土・粘土ブロック(φ5㎝)15%、白色軽石2%含む
13	黒褐色土	××	焼土粒と灰の層
14	暗褐色土	○×	焼土粒(φ1㎜)15%、白色軽石5%含む

H－7号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色土	○×	As-C・Hr-FP15%、粘土ブロック(10YR6/2灰黄褐色、φ2㎝)5%含む
2	黒褐色土	△×	灰20%、焼土粒5%含む
3	極暗褐色土	△×	焼土ブロック(φ1㎝)15%、粘土ブロック(φ1㎝)2%含む
4	暗褐色土	○×	As-C・Hr-FP15%、粘土ブロック(φ5～10㎝)含む
5	にぶい黄褐色土	○×	竈の粘土が崩れた部分
6	黒褐色土	△×	灰主体、焼土粒(φ1㎝)・炭化物(φ1㎝)5%含む
7	黒褐色土	△×	砂層の崩れた層、灰5%含む

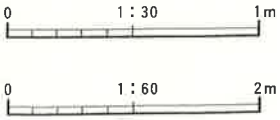
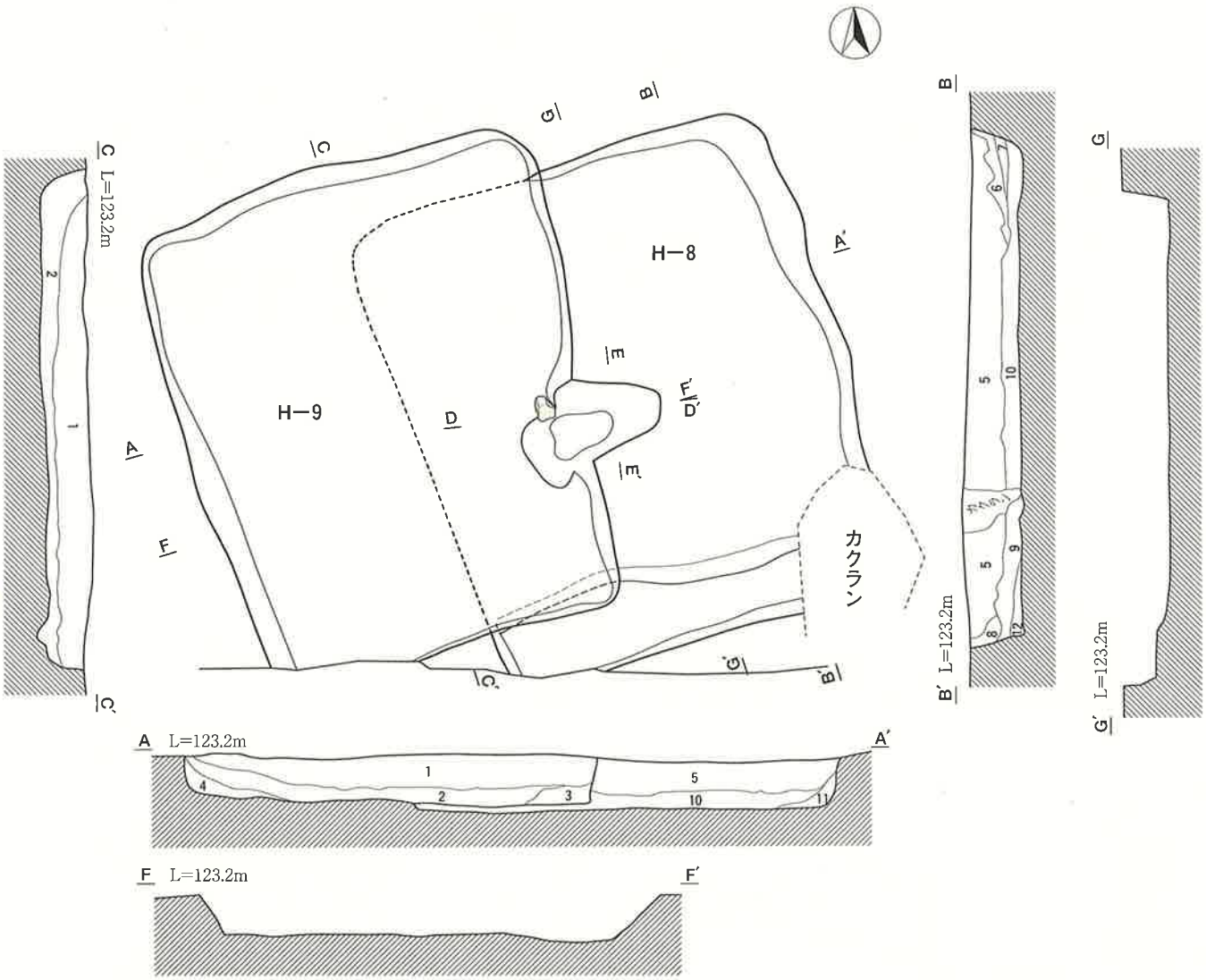
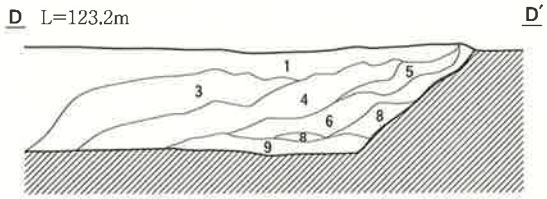


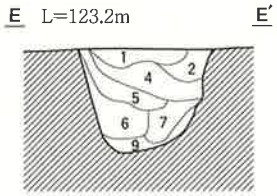
Fig.12　H－5～7号住居跡



H－8・9号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色土	○×	As-C・Hr-FP15%、砂層ブロック(φ3cm)5%含む
2	黒褐色土	○×	As-C・Hr-FP10%、粘土ブロック(φ2cm)5%含む
3	黒褐色土	○○	粘土粒(10YR4/3にぶい黄褐色土)15%含む
4	黒褐色土	○×	砂層粒10%、As-C・Hr-FP5%含む
5	黒褐色土	○×	As-C・Hr-FP15%、砂層ブロック(φ2～3cm)10%含む
6	灰黄褐色土	◎△	粘土ブロック(10YR5/2灰黄褐色、φ2～4cm) 15%含む
7	黒褐色土	○×	砂層ブロック(φ1cm)・As-C・Hr-FP10%含む
8	暗褐色土	△×	砂層ブロック(φ2～3cm含む)
9	黒褐色土	△×	砂層ブロック(φ3～5cm) 20%含む
10	黒褐色土	○×	白色軽石10%、砂層ブロック(φ1cm)5%含む
11	暗褐色土	△×	砂層粒20%、As-C・Hr-FP2%含む
12	褐色土	○×	地山(棚状遺構)

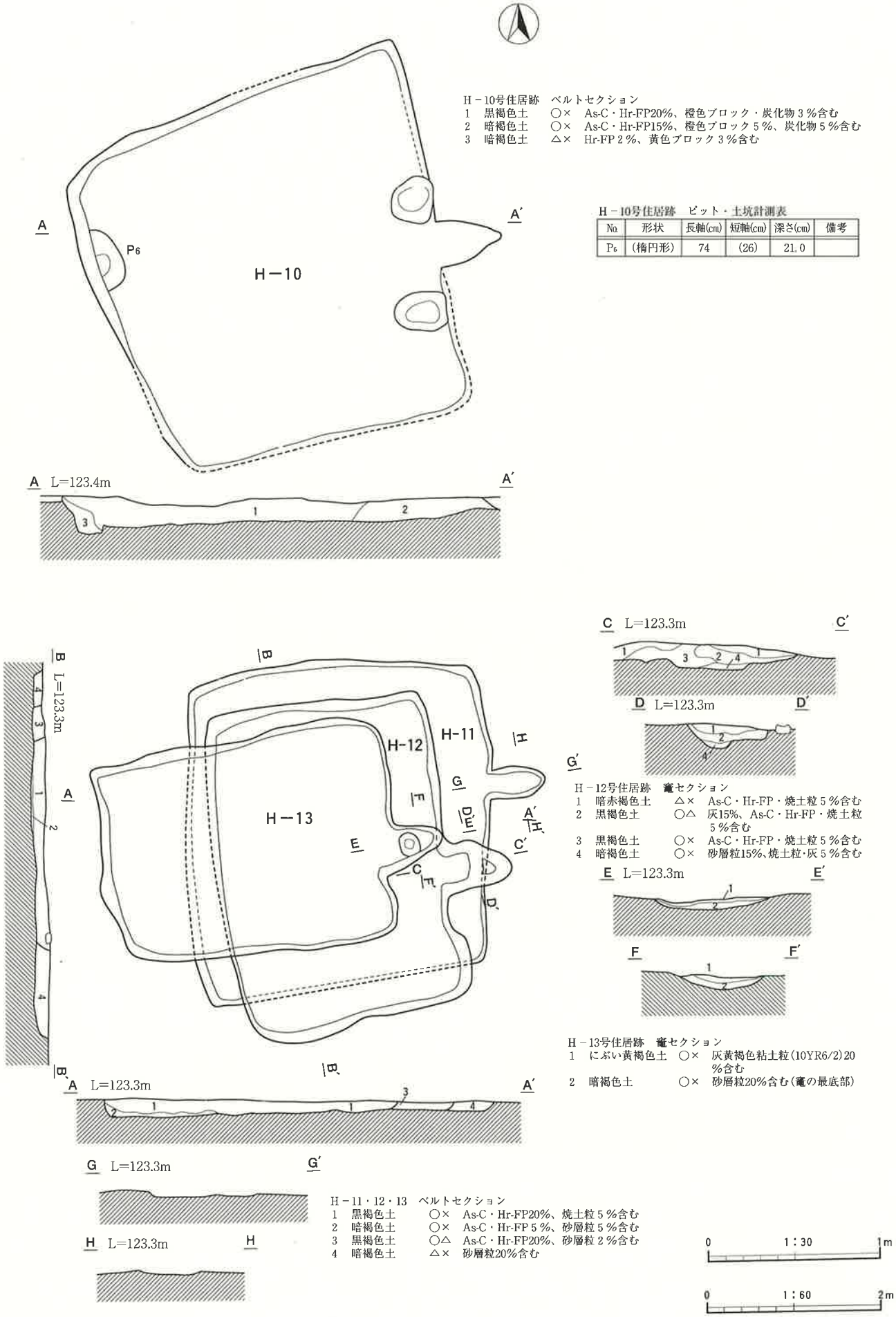




H－9号住居跡　竈セクション

1	黒褐色土	○×	As-C・Hr-FP5%含む
2	暗褐色土	◎×	粘土粒(10YR4/1褐灰色)15%含む
3	黒褐色土	○×	粘土粒(10YR4/1褐灰色)・As-C・Hr-FP5%含む
4	暗褐色土	◎△	粘土ブロック(10YR4/1褐灰色、φ3～5cm)・焼土粒15%含む
5	暗赤褐色土	◎×	焼土ブロック(φ1cm)・焼土粒15%含む
6	極暗赤褐色土	××	焼土粒・灰15%含む
7	暗赤褐色土	××	焼土粒15%、灰20%含む
8	黒褐色土	××	焼土粒15%、灰25%、焼土ブロック(φ3cm)5%含む
9	黒褐色土	××	灰層

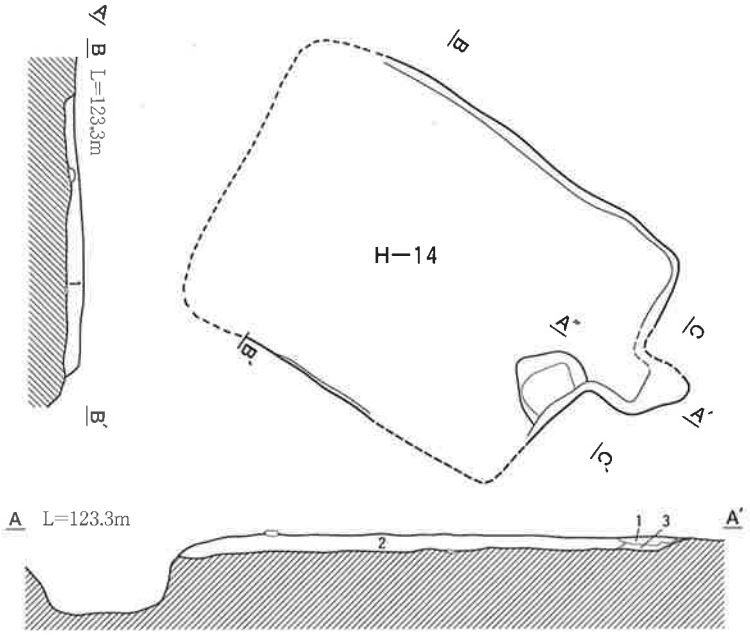
Fig.13　H－8・9号住居跡

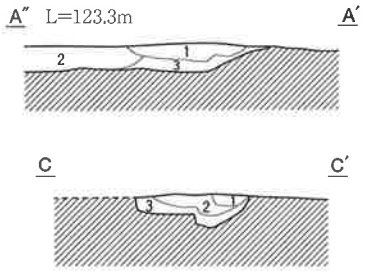


No	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P6	(楕円形)	74	(26)	21.0	

H－10号住居跡　ピット・土坑計測表

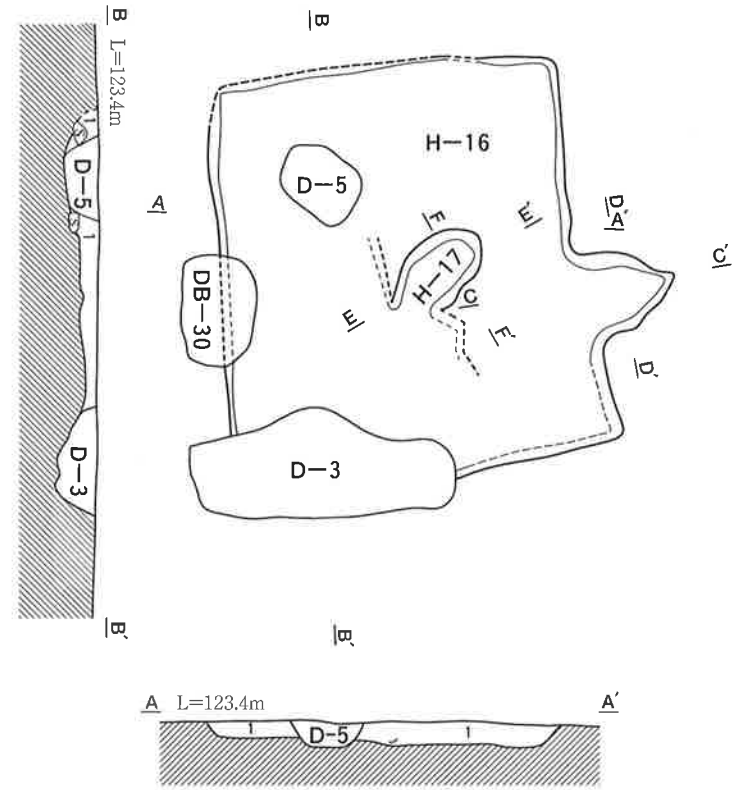
Fig.14　H－10～13号住居跡

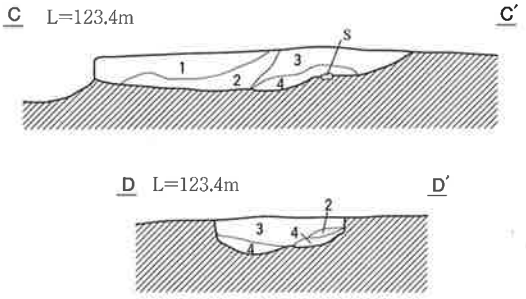




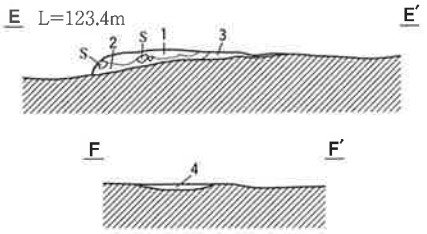
H－14号住居跡　竈
1　極暗褐色土　○×　焼土ブロック（φ1cm）20%、As-C・Hr-FP 5％含む
2　暗褐色土　○×　砂層粒20%、As-C・Hr-FP・焼土粒5％含む
3　黒褐色土　△×　焼土粒20%、灰5%含む

H－14号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色土　○×　砂層粒20%、As-C・Hr-FP 5％含む





H－16号住居跡　竈セクション
1　黒褐色土　○×　As-C・Hr-FP・焼土粒5％含む
2　黒色土　○×　粘土粒20%、焼土粒5％含む



H－17号住居跡　竈セクション
1　黒褐色土　○×　As-C・Hr-FP・砂層粒5％、焼土粒2%含む
2　黒褐色土　△×　As-C・Hr-FP・焼土粒5％含む
3　極暗褐色土　○×　焼土ブロック（φ2cm）20%、Hr-FP・As-C 5％含む
4　黒色土　○×　灰20%、As-C・Hr-FP 5％含む

H－16号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色土　○×　As-C・Hr-FP20%、砂層ブロック（φ5cm）5％含む

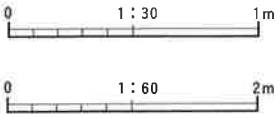


Fig.15　H－14・16・17号住居跡

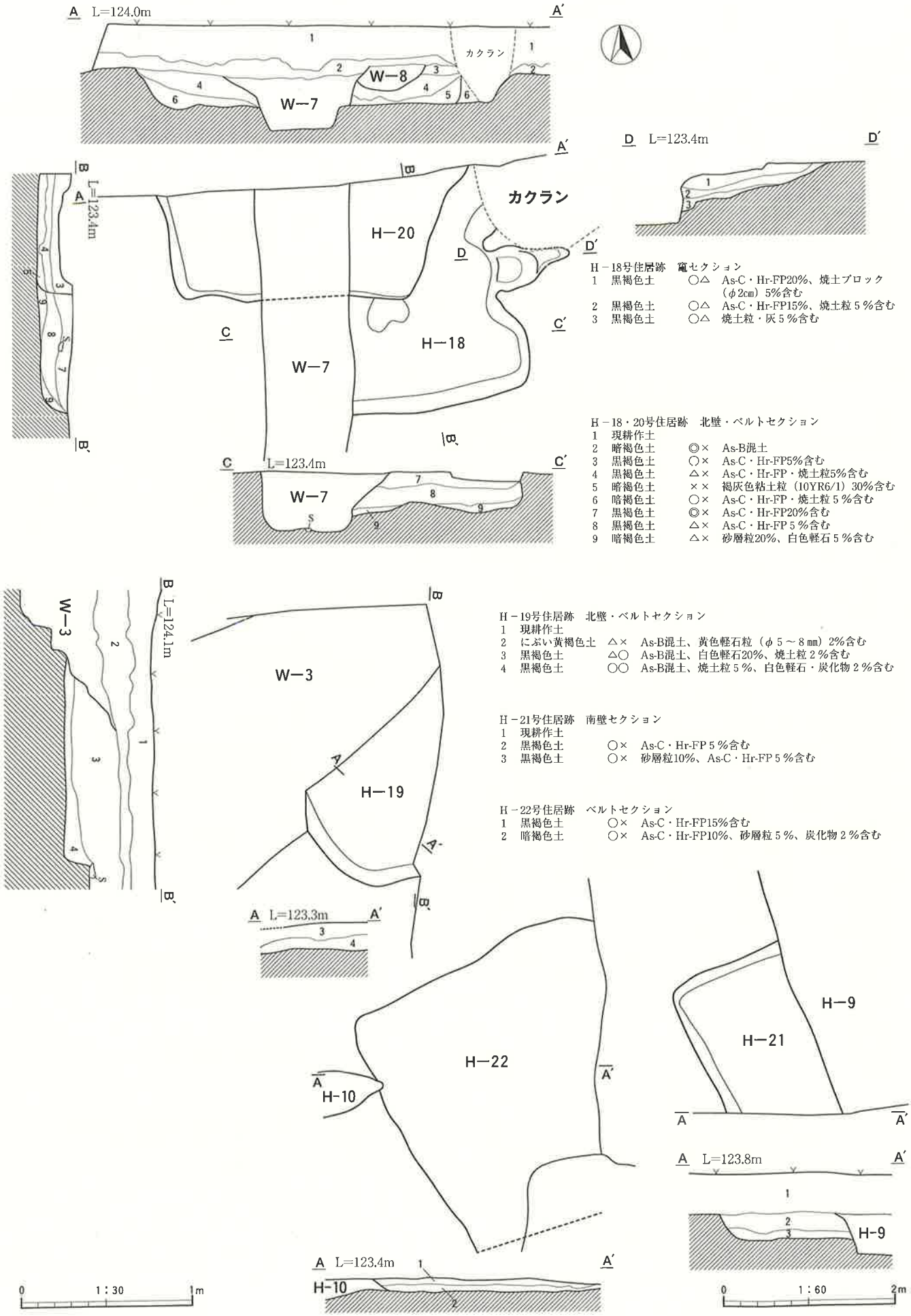
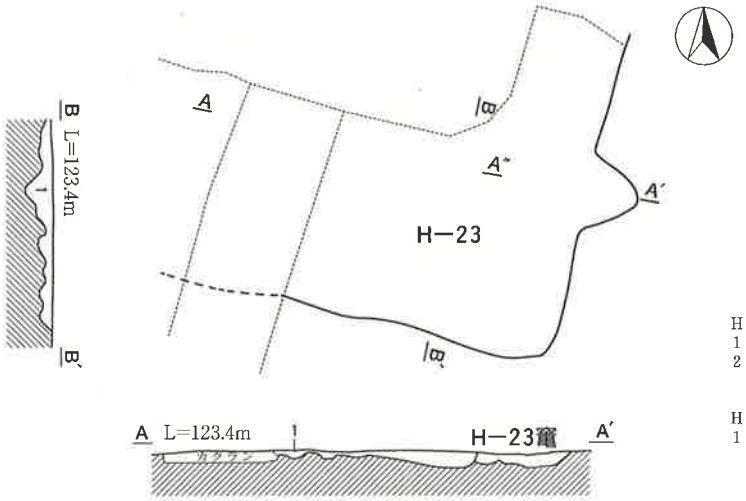
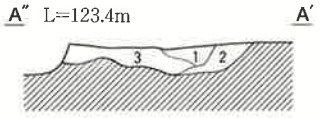


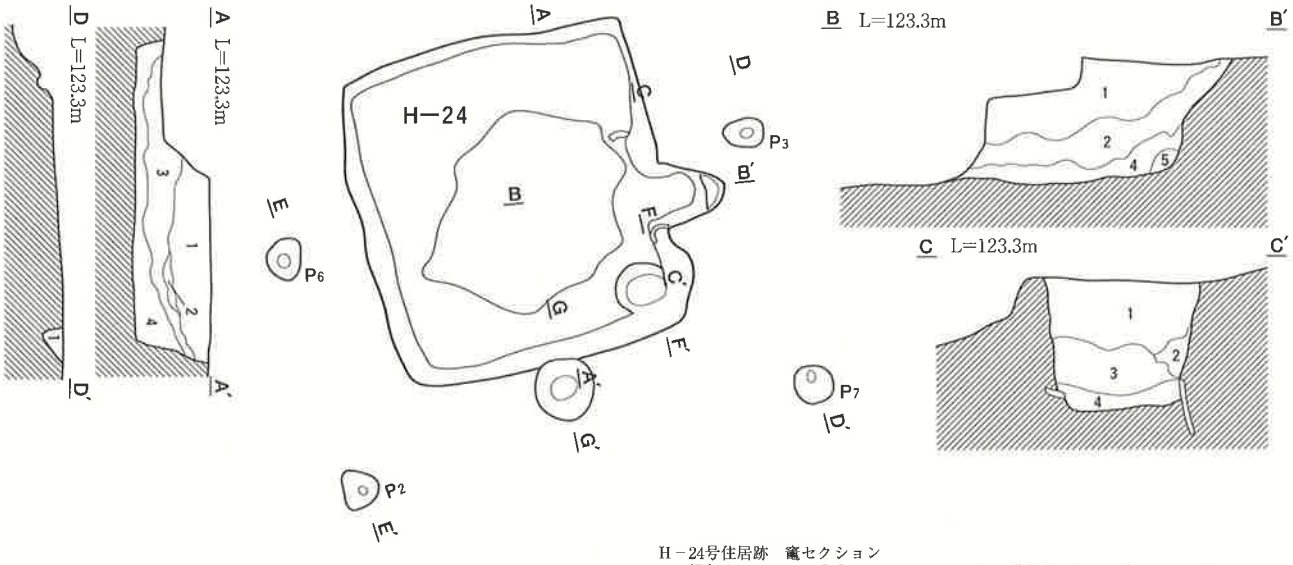
Fig.16　H－18～22号住居跡



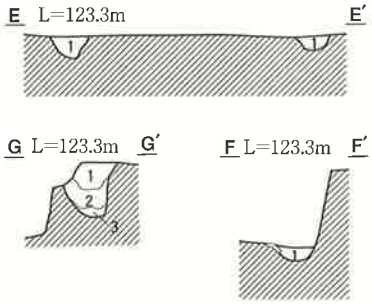


H－23号住居跡　竈堀方セクション
1　にぶい黄褐色土　○△　微砂、黄橙色粒10%、As-C・Hr-FP５%含む
2　明褐色土　△△　微砂、As-C・Hr-FP５%、焼土主体

H－23号住居跡　堀方セクション
1　褐色土　△×　微砂、As-C５%含む



H－24号住居跡　竈セクション
1　褐色土　○○　As-C・Hr-FP10%、黄橙色ブロック(φ１～２cm)５%、焼土粒１%含む
3　灰褐色土　○◎　灰褐色土粘土主体
4　暗褐色土　△○　微砂、焼土粒・灰褐色粘土・As-C・Hr-FP５%、炭化物１%含む
5　黒褐色土　×○　灰層
6　にぶい赤褐色土　×△　焼土ブロック50%、灰主体



H－24号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐色土　○○　As-C・Hr-FP10%、黄褐色粒３%含む
2　暗褐色土　○△　As-C・Hr-FP５%、砂利(φ１mm以下)含む
3　褐色土　○○　As-C・Hr-FP10%、黄橙色ブロック(φ１～２cm)５%、焼土粒１%含む
4　にぶい黄褐色土　△○　黄橙色ブロック(φ１～２cm)10%、As-C・Hr-FP５%、炭化物２%含む

H－24号住居跡　Ｐ５セクション
1　褐色土　×△　黄橙色粒５%、As-C・Hr-FP２%、焼土粒１%含む

H－24号住居跡　Ｐ８セクション
1　褐色土　○○　As-C・Hr-FP15%含む
2　にぶい黄褐色土　△○　As-C・Hr-FP10%、黄橙色粒５%含む
3　暗褐色土　◎○　As-C・Hr-FP５%含む

H－24号住居跡　Ｐ２・Ｐ３・Ｐ６・Ｐ７セクション
1　褐色土　○○　黄橙色粒15%、As-C・Hr-FP５%含む

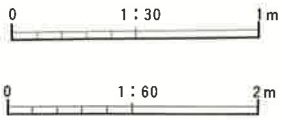
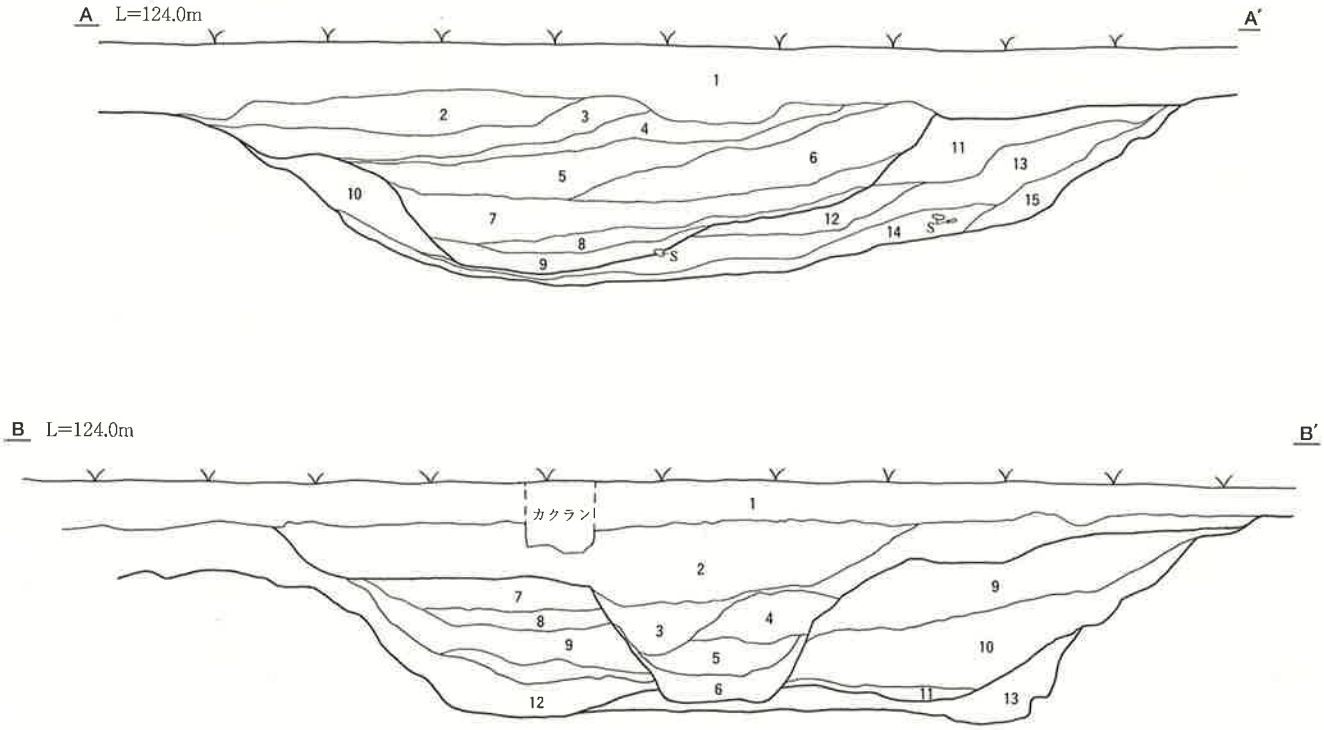


Fig.17　Ｈ－23・24号住居跡

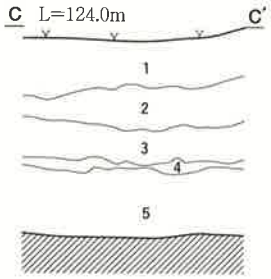
Fig.18　W－１～３号溝跡

0　1：120　6m



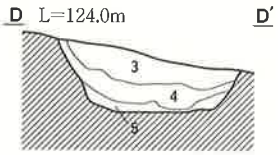
W－１・２号溝跡　北壁セクション　１～10層＝W－２　　11～15層＝W－１

1	現耕作土		
2	暗褐色土	○×	As-B混土、As-C・Hr-FP５％、炭化物２％、上部に硬化面あり。
3	暗褐色土	△×	粗砂、As-B混土、As-C・Hr-FP・炭化物（φ５㎜）５％含む
4	暗褐色土	○×	As-B混土、As-C・Hr-FP５％含む
5	暗褐色土	○×	As-B混土、As-C・Hr-FP５％、含み、中央部硬化する
6	にぶい黄褐色土	××	粗砂、中央部２カ所硬化、川砂主体
7	暗褐色土	○×	As-C・Hr-FP５％、炭化物（φ２㎜）２％、上面中央部に硬化面あり、川砂主体
8	暗褐色土	△△	上面中央に硬化面あり、川砂主体
9	黒褐色土	○×	中層・下層に硬化面あり、川砂主体
10	暗褐色土	○○	地山漸移層
11	暗褐色土	○×	As-B混土、As-C・Hr-FP10%、炭化物５％含む
12	暗褐色土	○×	As-C・Hr-FP５％、炭化物（φ５㎜）５％含む
13	黒褐色土	○×	As-B混土、As-C・Hr-FP５％、炭化物（φ３㎜）２％含む 上面硬化
14	暗褐色土	○×	As-B混土、硬化面あり
15	暗褐色土	○×	As-B混土、As-C・Hr-FP・炭化物（φ３㎜）５％含む



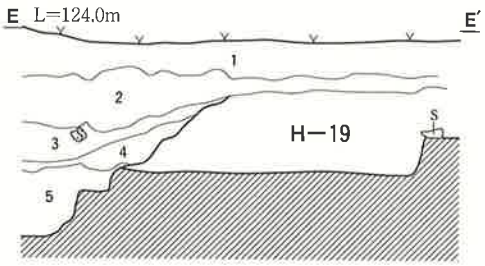
W－１～３号溝跡　南壁セクション

1	現耕作土		
2	黒褐色土	○×	As-B混土、As-C・Hr-FP５％、左下層は川砂主体で硬化
3	黒褐色土	△×	川砂主体、As-C・Hr-FP５％含む
4	黒褐色土	×○	粗砂、砂礫層中層は川砂主体で硬化
5	黒褐色土	××	川砂主体、下部は炭化物（φ２㎜）５％含む
6	黒褐色土	△×	川砂主体、炭化物（φ５㎜）含む
7	黒褐色土	○○	As-B混土、As-C・Hr-FP５％、炭化物（φ２㎜）２％含む
8	黒褐色土	△×	川砂主体、中層部が硬化
9	暗褐色土	○×	As-B混土、As-C・Hr-FP・炭化物（φ２㎜）５％含む
10	暗褐色土	○×	As-B混土、炭化物（φ５㎜）５％、As-C・Hr-FP２％含む
11	黒褐色土	○○	As-B混土
12	黒褐色土	○○	As-B混土、砂礫５％、炭化物（φ２㎜）２％、地山粘土ブロック（１㎜）５％含む
13	暗褐色土	○×	砂礫層中層が硬化、橙色ブロック（３㎜）５％含む
14	にぶい黄褐色土	△×	砂礫層、石混じる、水分を多く含む（溝の下部構造）



W－３号溝跡ベルト　セクション

1	暗褐色土	○×	As-B混土、水成堆積層2面検出
2	暗褐色土	△×	As-B混土、川砂主体、下部に硬化面あり
3	黒褐色土	△○	As-B混土、白色軽石20%、焼土粒５％、炭化物２％含む

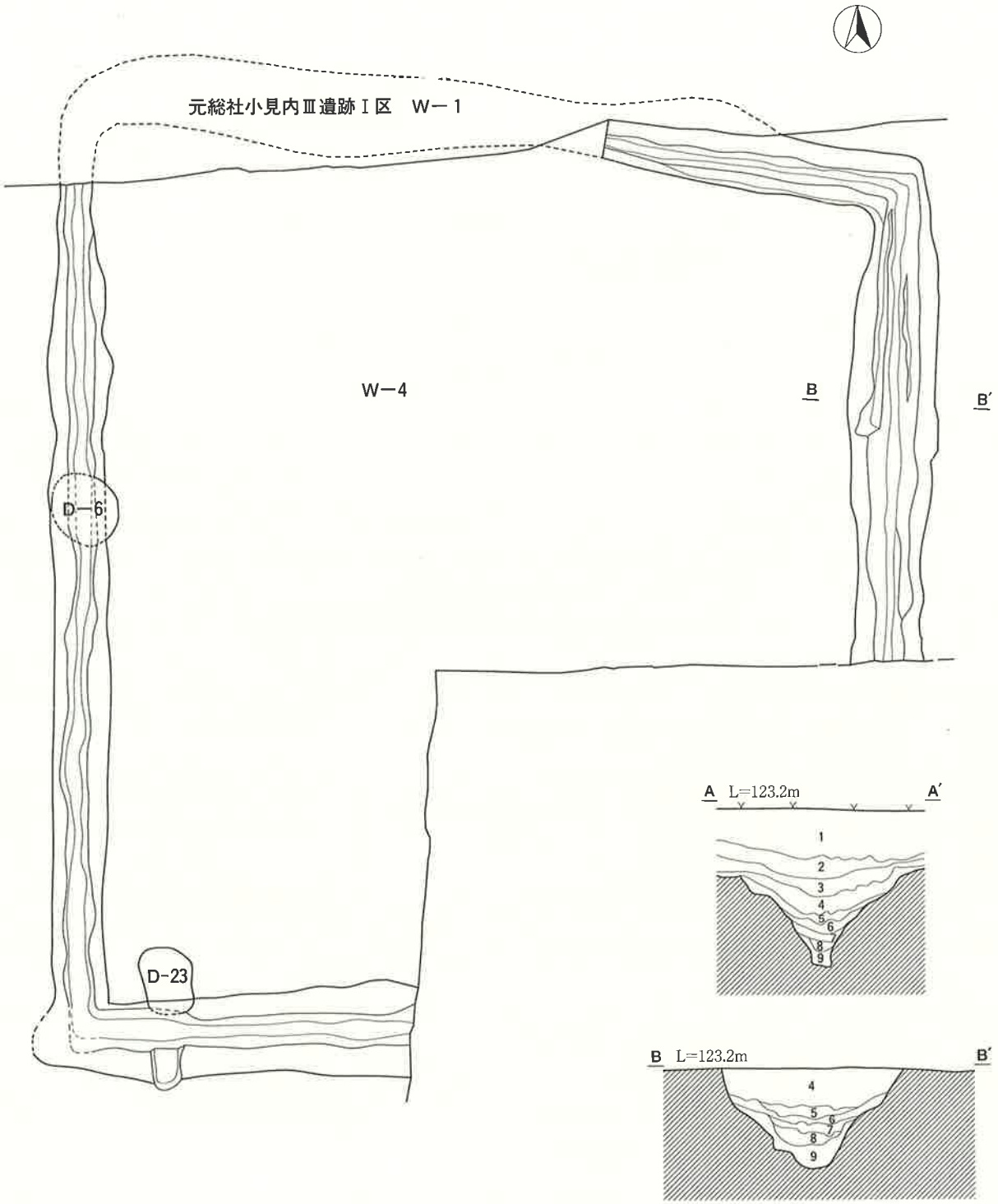


W－３号溝跡東・北壁　セクション

1	現耕作土		
2	にぶい黄褐色土	××	As-B混土、黄色軽石（φ５～８㎜）５％含む
3	暗褐色土	○×	As-B混土、一部に硬化面あり
4	暗褐色土	××	As-B混土、川砂主体、下部に硬化面あり
5	暗褐色土	△×	As-B混土、白色軽石20%、焼土粒５％、炭化物２％含む

0　1：60　2m

Fig.19　W－１～３号溝跡



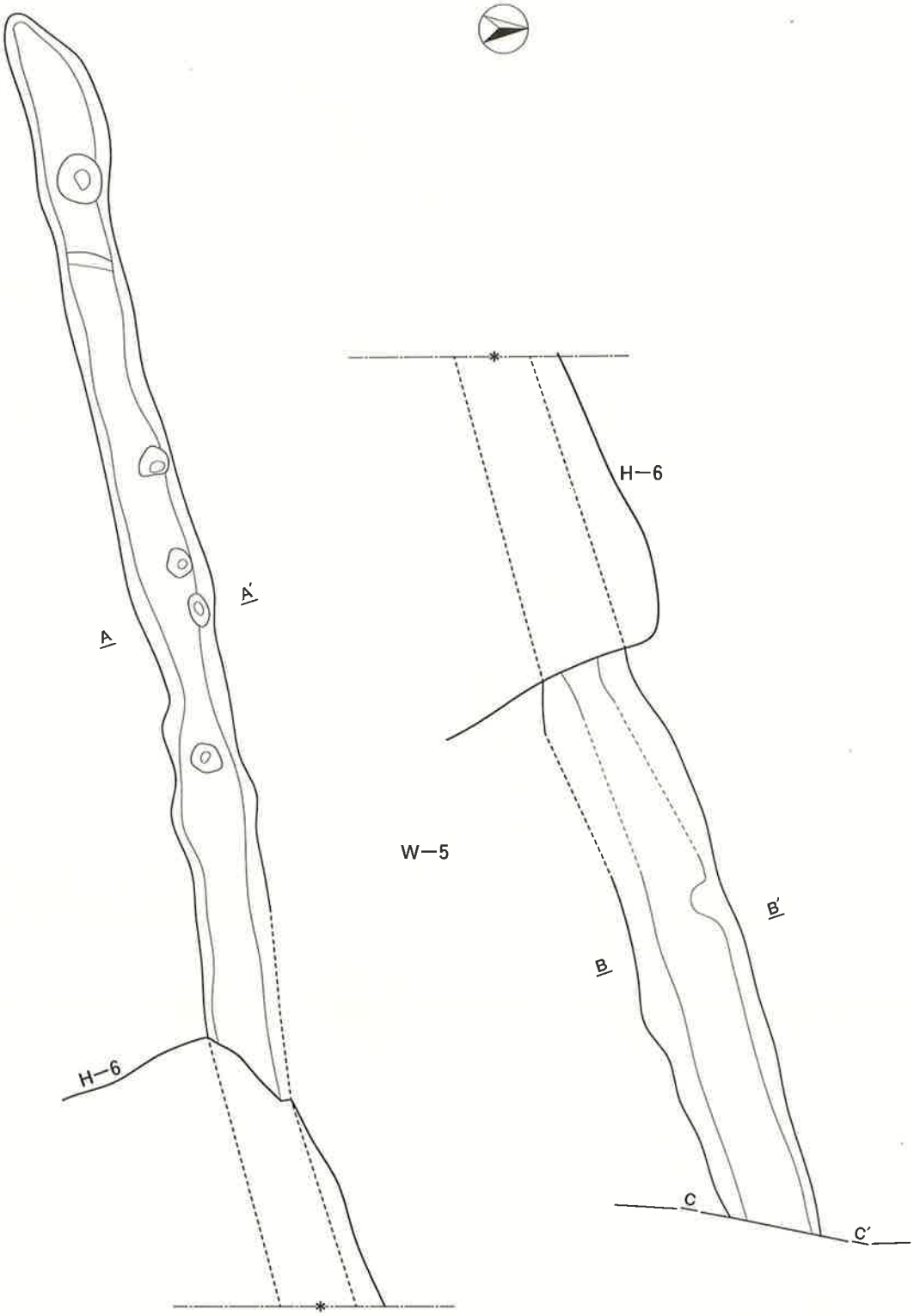
W－4号溝跡　セクション

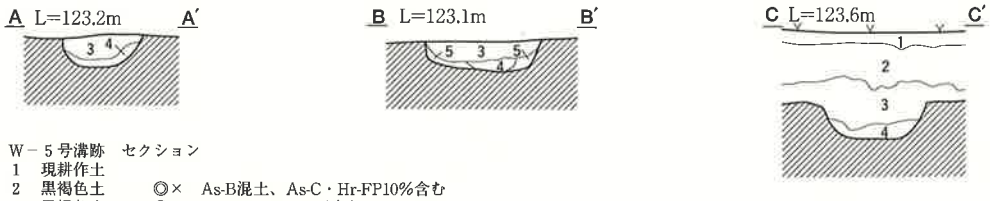
1	現耕作土		
2	黒褐色土	△△	As-B混土、As-C・Hr-FP10%含む
3	黒褐色土	△△	粗砂、As-B混土、As-C・Hr-FP 5 %含む
4	黒褐色土	△×	As-B混土、As-C・Hr-FP、黄色ブロック 2 %含む
5	暗褐色土	××	粗砂、黄色粒(φ 2 ㎜) 2 %含む
6	黒褐色土	△△	黄色ブロック 5 %含む
7	暗褐色土	×△	黄色ブロック 5 %含む
8	褐色土	△△	黄色ブロック、礫 5 %含む
9	暗褐色土	××	粗砂、黄色粒 5 %含む

0　1：120　6m

0　1：60　2m

Fig.20　W－4号溝跡





W－5号溝跡　セクション
1　現耕作土
2　黒褐色土　◎×　As-B混土、As-C・Hr-FP10%含む
3　黒褐色土　○△　As-C・Hr-FP10%含む
4　黒褐色土　○×　砂層粒10%、As-C・Hr-FP 5 %含む

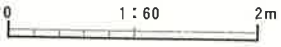


Fig.21　W－5号溝跡

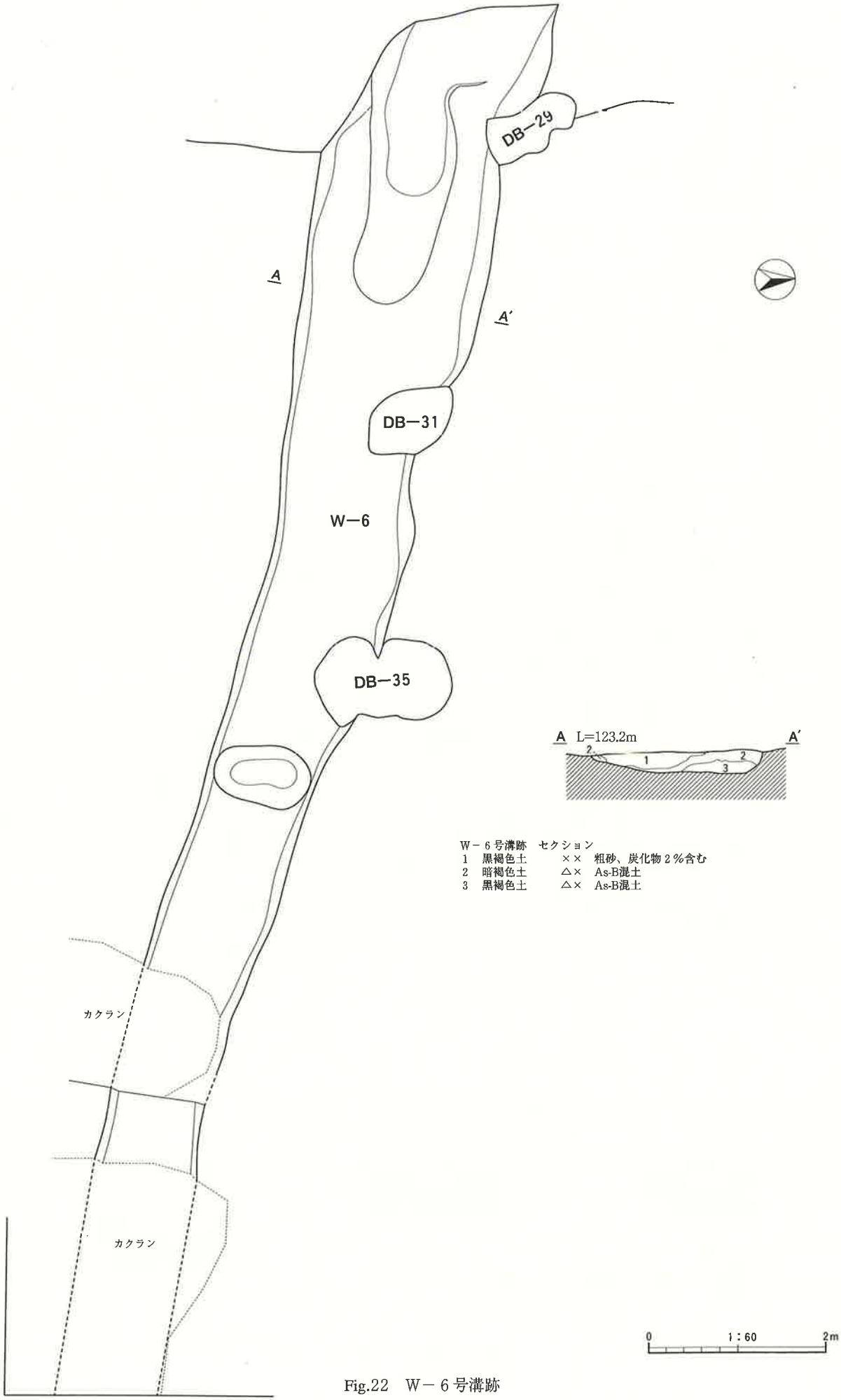

DB−29
A
A′
DB−31
W−6
DB−35
A L=123.2m A′
2
1
2
3
W－6号溝跡　セクション
1　黒褐色土　××　粗砂、炭化物2％含む
2　暗褐色土　△×　As-B混土
3　黒褐色土　△×　As-B混土
カクラン
カクラン
0
1：60
2m

Fig.22　W－6号溝跡

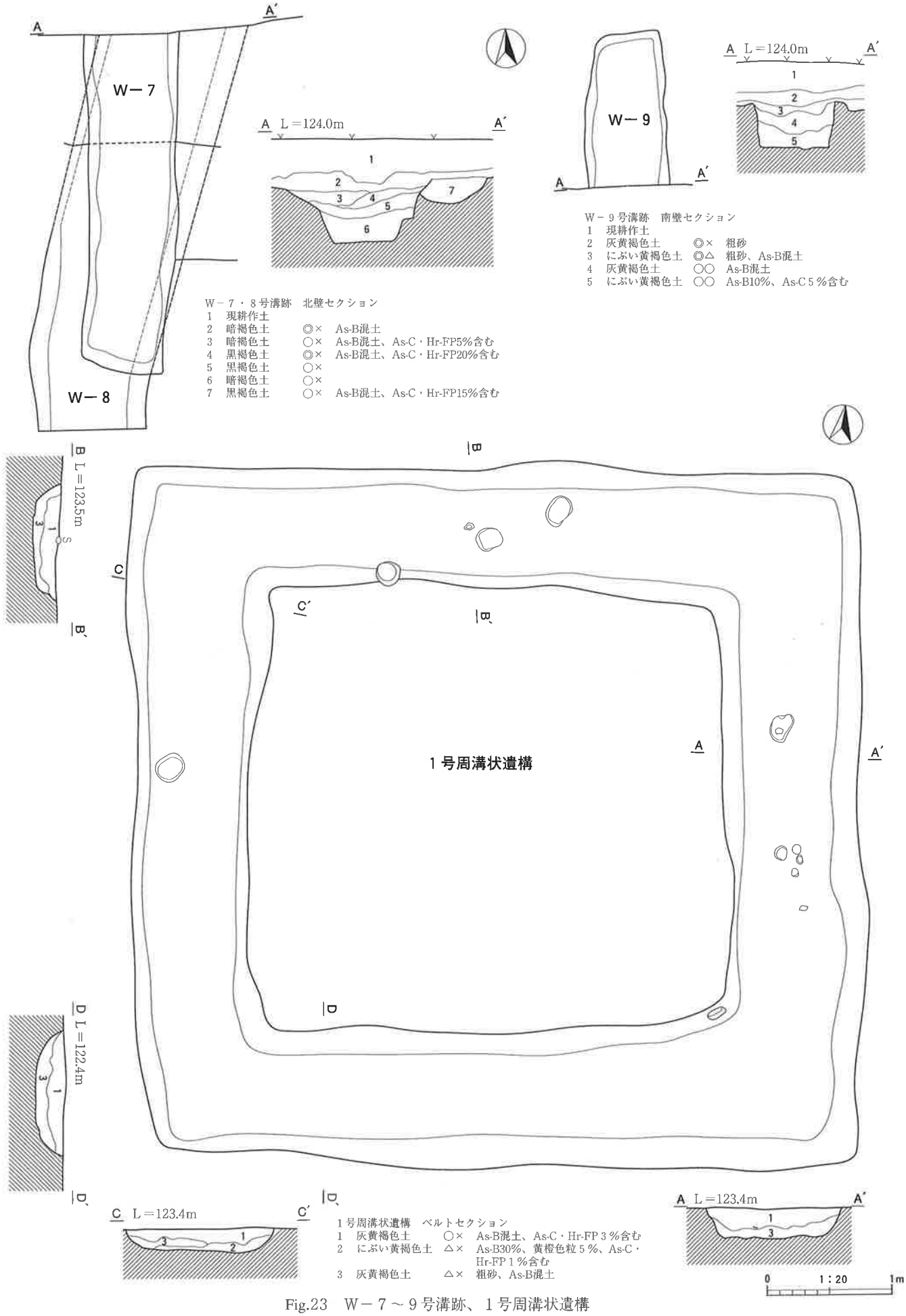
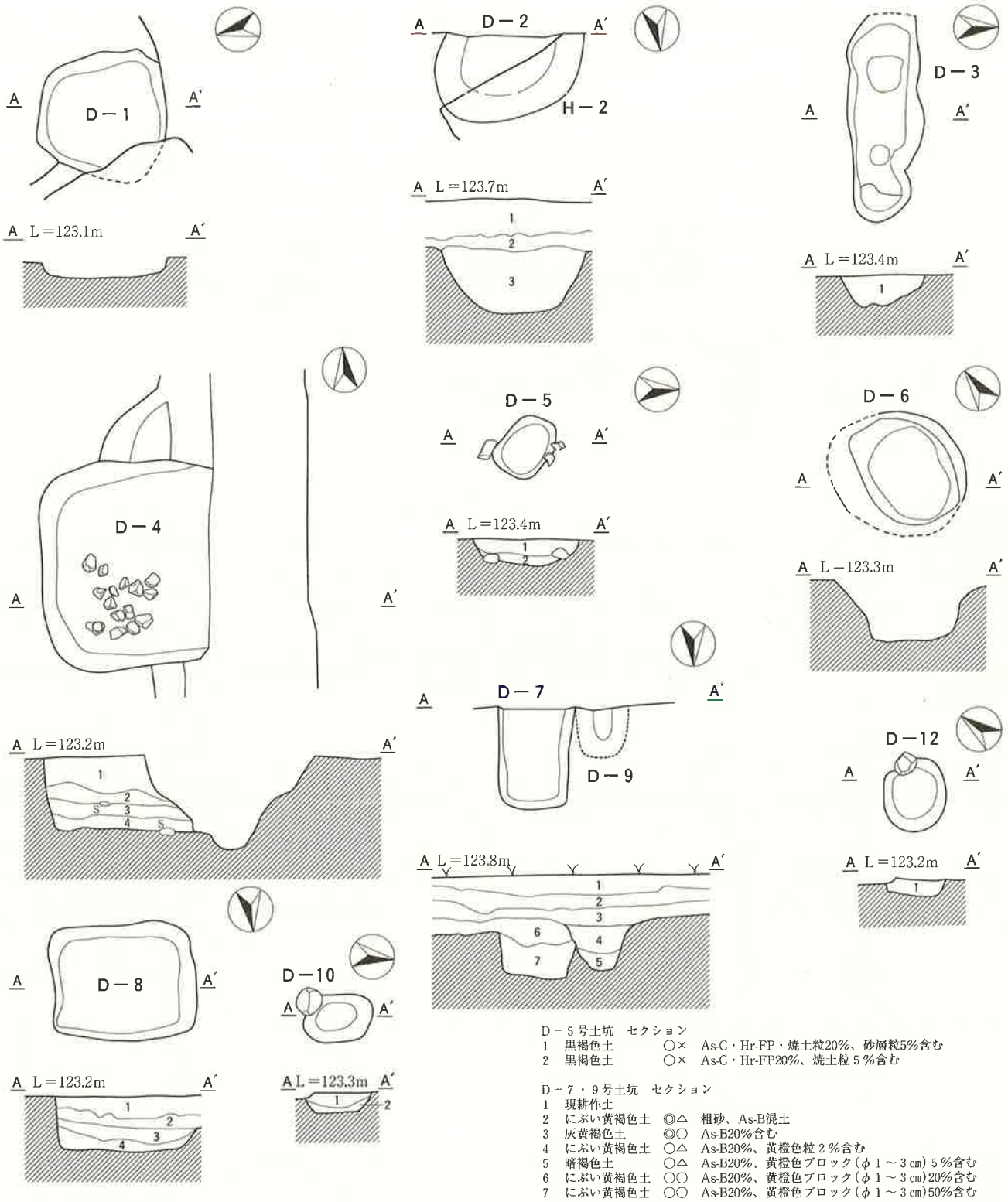


Fig.23　W－7～9号溝跡、1号周溝状遺構



D－2号土坑　セクション
1　現耕作土
2　黒褐色土　◎×　As-B混土、As-C・Hr-FP10%含む
3　暗褐色土　○△　As-B20%、As-C・Hr-FP 5 %含む

D－3号土坑　セクション
1　黒褐色土　○×　As-C・Hr-FP15%、砂層粒5%含む

D－4号土坑　セクション
1　暗褐色土　△△　As-B混土、炭化物・黄色ブロック 5 %含む
2　褐色土　××　As-B混土、黄色ブロック 5 %含む
3　暗褐色土　×△　As-B混土、黄色ブロック 5 %含む
4　褐色土　××　As-B混土、黄色ブロック 5 %含む

D－5号土坑　セクション
1　黒褐色土　○×　As-C・Hr-FP・焼土粒20%、砂層粒5%含む
2　黒褐色土　○×　As-C・Hr-FP20%、焼土粒 5 %含む

D－7・9号土坑　セクション
1　現耕作土
2　にぶい黄褐色土　◎△　粗砂、As-B混土
3　灰黄褐色土　◎○　As-B20%含む
4　にぶい黄褐色土　○△　As-B20%、黄橙色粒 2 %含む
5　暗褐色土　○△　As-B20%、黄橙色ブロック（φ 1 ～ 3 cm）5 %含む
6　にぶい黄褐色土　○○　As-B20%、黄橙色ブロック（φ 1 ～ 3 cm）20%含む
7　にぶい黄褐色土　○○　As-B20%、黄橙色ブロック（φ 1 ～ 3 cm）50%含む

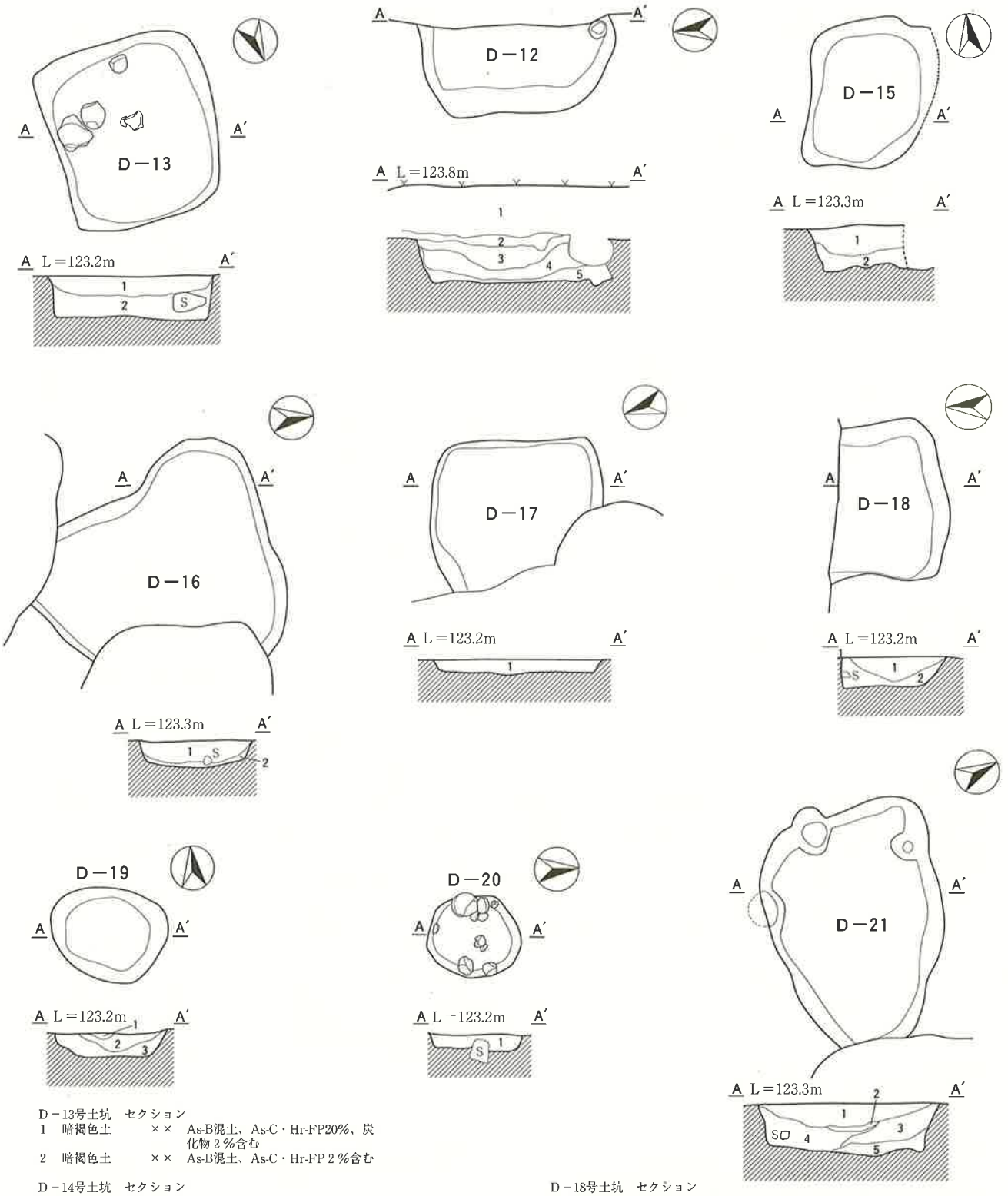
D－8号土坑　セクション
1　灰黄褐色土　○×　As-B混土、Hr-FP 5 %含む
2　にぶい黄褐色土　○△　微砂、黄橙色ブロック（φ 3 cm）10%、Hr-FP 5 %含む
3　にぶい黄褐色土　○○　微砂、黄橙色粒10%、Hr-FP 1 %含む
4　にぶい黄橙色土　△△

D－10号土坑　セクション
1　灰黄褐色土　○×　粗砂、As-B混土
2　にぶい黄橙色土　△○　微砂

D－12号土坑　セクション
1　暗褐色土　○×　砂層粒20%含む

0　1：60　2m

Fig.24　D－1～10・12号土坑



D－13号土坑　セクション
1　暗褐色土　××　As-B混土、As-C・Hr-FP20%、炭化物２%含む
2　暗褐色土　××　As-B混土、As-C・Hr-FP２%含む

D－14号土坑　セクション
1　現耕作土
2　暗褐色土　×△　As-B混土、
3　暗褐色土　△△　Hr-FP５%、As-C20%含む
4　暗褐色土　△△　Hr-FP２%、As-C10%含む
5　暗褐色土　△△　As-C２%含む

D－15号土坑　セクション
1　暗褐色土　××　As-B混土、As-C・Hr-FP５%含む
2　暗褐色土　××　As-B混土、As-C・Hr-FP５%含む

D－16号土坑　セクション
1　黒褐色土　△×　As-C・Hr-FP20%含む
2　暗褐色土　○×　砂層粒30%含む

D－17号土坑　セクション
1　褐色土　△×　As-B混土

D－18号土坑　セクション
1　暗褐色土　××　As-B混土、黄褐色ブロック（φ２～３cm）５%含む
2　暗褐色土　××　As-B混土、黄褐色ブロック（φ２cm）５%含む
3　暗褐色土　××　As-B混土

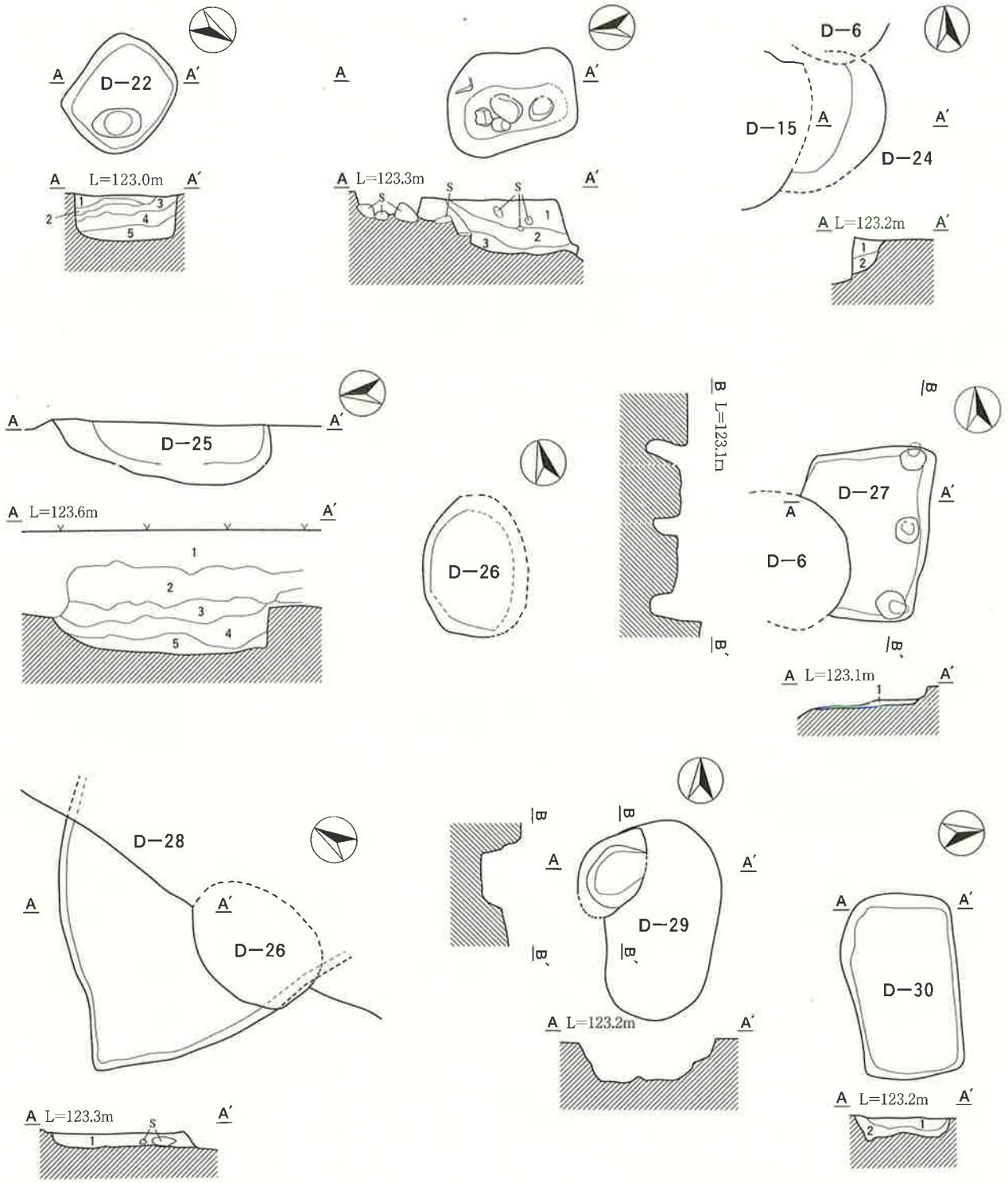
D－19号土坑　セクション
1　にぶい黄褐色土　××　As-B混土
2　暗褐色土　△△　As-B混土
3　暗褐色土　△△　As-B混土

D－20号土坑　セクション
1　暗褐色土　○×　As-B混土、砂層粒20%、As-C・Hr-FP５%含む

D－21号土坑　セクション
1　暗褐色土　××　As-B混土、白色軽石（φ２～３mm）５%含む
2　暗褐色土　×○　As-B混土、硬化面
3　暗褐色土　××　As-B混土、凝灰岩ブロック（φ10cm）含む
4　暗褐色土　××　As-B混土、As-C２%含む
5　暗褐色土　××　As-B混土、As-C５%含む

0　1：60　2m

Fig.25　D－13～21号土坑



D－22号土坑　セクション
1　黄褐色土　△△　黄橙色粒(φ１～３㎝)50%、白色軽石１%含む
2　褐色土　△○　黄橙色粒(φ１～３㎝)20%、白色軽石１%含む
3　黄褐色土　△△　黄橙色粒(φ１～３㎝)50%、白色軽石１%含む
4　褐色土　△○　黄橙色粒(φ１～３㎝)30%、白色軽石１%含む
5　黄褐色土　△△　黄橙色粒(φ１～３㎝)50%、白色軽石１%含む

D－23号土坑　セクション
1　暗褐色土　××　As-B混土、As-C・Hr-FP５%含む
2　黒褐色土　○△　砂層ブロック(φ１～５㎝)５%含む
3　褐色土　△×　砂層粒20%含む

D－24号土坑　セクション
1　黒褐色土　○×　As-B混土、As-C・Hr-FP15%含む
2　黒褐色土　○×　As-B混土、As-C・Hr-FP15%、砂層粒10%含む

D－25号土坑　セクション
1　現耕作土
2　As-B混土層
3　暗褐色土　○△　As-B20%、As-C・Hr-FP15%含む
4　褐色土　△×　黄橙色粒15%、As-B10%、As-C・Hr-FP５%含む
5　暗褐色土　○△　As-C・Hr-FP・As-B10%、黄橙色粒５%含む

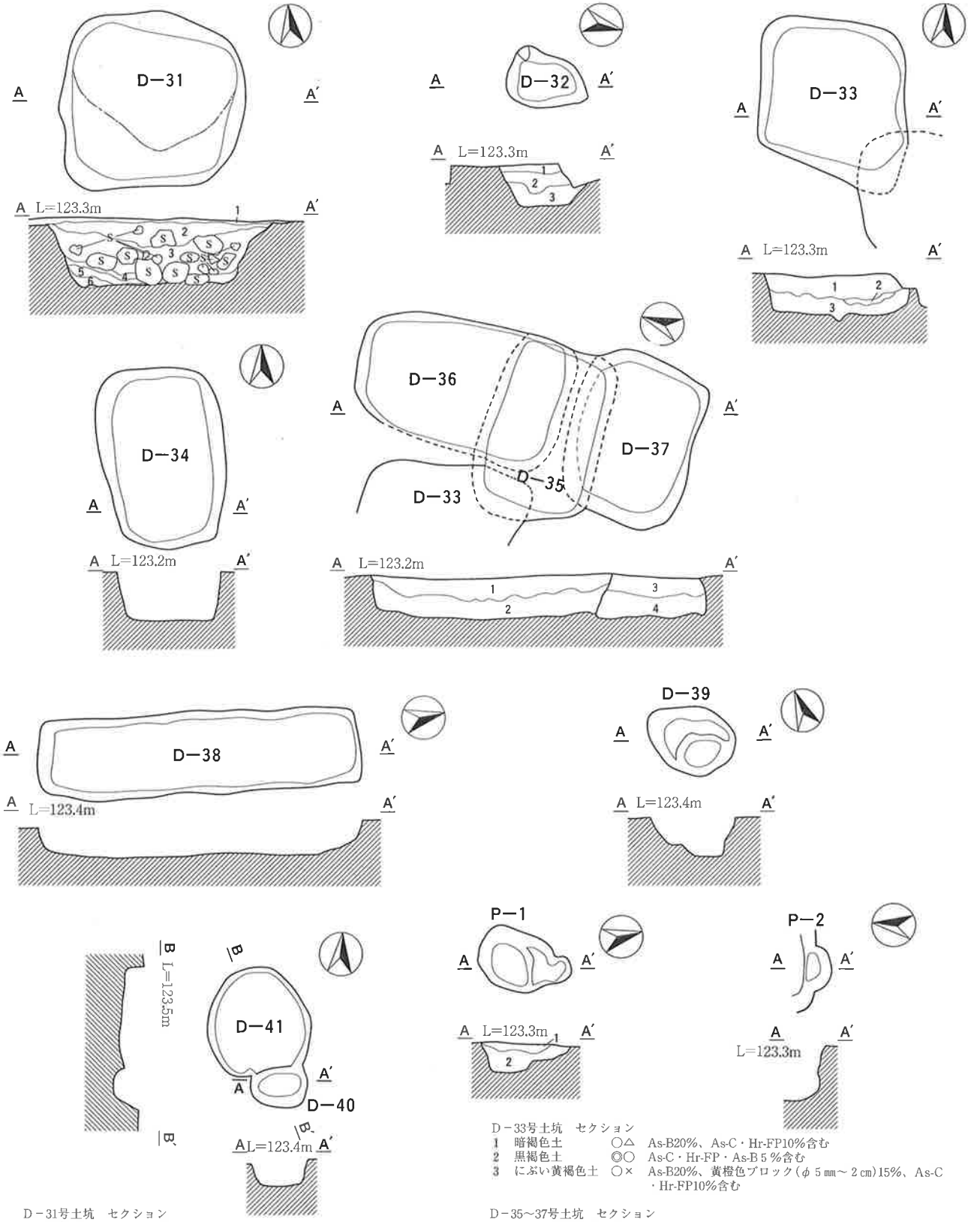
D－27号土坑　セクション
1　にぶい黄褐色土　○◎　灰白色粘土ブロック（φ５㎜～２㎝）50%、Hr-FP１%含む

D－28号土坑　セクション
1　黒褐色土　××　As-B混土、As-C・Hr-FP20%含む

D－30号土坑　セクション
1　にぶい黄褐色土　○△　黄橙色粒10%、As-C・Hr-FP３%含む
2　褐色土　○○　微砂、黄橙色粒30%、As-C・Hr-FP１%含む

0　1：60　2m

Fig.26　D－22～30号土坑



D－31号土坑　セクション

1	褐色土	××	As-B混土
2	褐色土	××	As-B混土、As-C・Hr-FP 5％含む
3	褐色土	××	As-B混土、黄色ロームブロック（φ 1～3 cm）5％、As-C・Hr-FP 2％含む
4	にぶい黄褐色土	◎○	黄色ブロック（φ 1～2 cm）5％、にぶい黄褐色粘土ブロック主体
5	暗褐色土	◎○	黄色ブロック（φ 1～2 cm）5％、にぶい黄褐色粘土ブロック主体
6	にぶい黄褐色土	◎◎	黄色ブロック（φ 1～5 cm）10％、にぶい黄褐色粘土ブロック主体

D－32号土坑　セクション

1	暗褐色土	○×	As-B混土、As-C・Hr-FP 5％、炭化物 1％含む
2	暗褐色土	○×	As-B混土、As-C・Hr-FP 5％含む
3	にぶい黄褐色土	○×	砂層粒 5％含む

D－33号土坑　セクション

1	暗褐色土	○△	As-B20％、As-C・Hr-FP10％含む
2	黒褐色土	◎○	As-C・Hr-FP・As-B 5％含む
3	にぶい黄褐色土	○×	As-B20％、黄橙色ブロック（φ 5 mm～2 cm）15％、As-C・Hr-FP10％含む

D－35～37号土坑　セクション

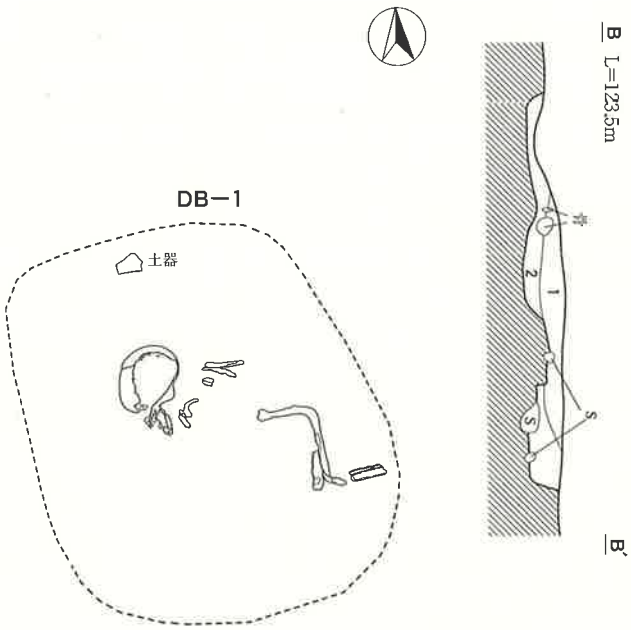
1	にぶい黄褐色土	○×	As-B混土、As-C・Hr-FP15％、黄橙色ブロック（φ 5 mm～2 cm）5％含む
2	暗褐色土	○×	As-B混土、As-C・Hr-FP10％、黄橙色ブロック（φ 5 mm～2 cm）5％含む
3	暗褐色土	○×	As-B混土、As-C・Hr-FP15％、黄橙色ブロック（φ 5 mm～2 cm）25％含む
4	褐色土	○△	As-B混土、As-C・Hr-FP10％、黄橙色ブロック（φ 5 mm～5 cm25％含む）

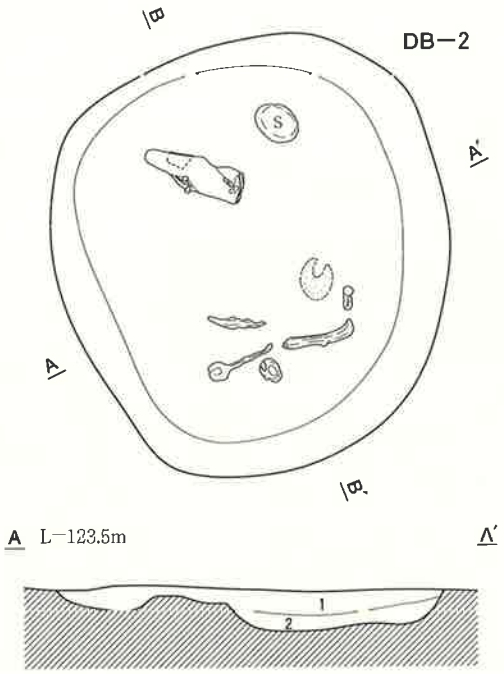
P－1号ピット　セクション

1	にぶい黄褐色土	△△	As-B10％、As-C・Hr-FP 5％含む
2	暗褐色土	○○	As-C・Hr-FP15％、黄橙色粒 5％含む

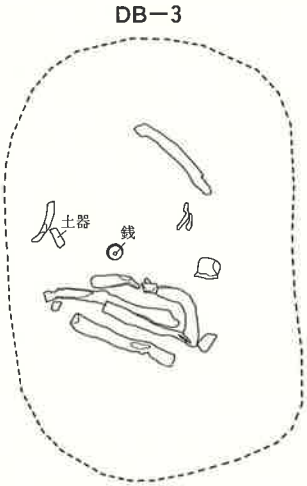
0　1：60　2m

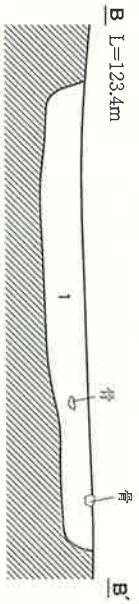
Fig.27　D－31～41号土坑、P－1・2号ピット

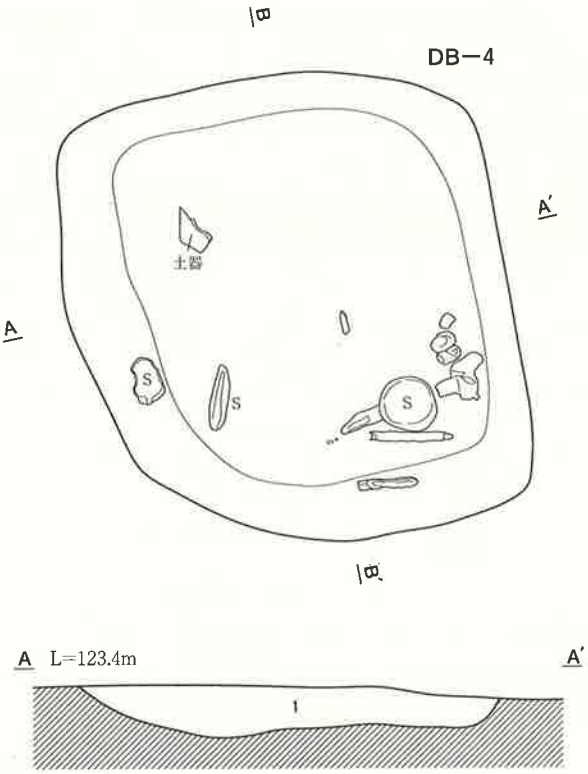




DB－２号土壙墓　セクション
1　暗褐色土　　○×　As-B混土、白色軽石５％含む
2　暗褐色土　　○×　As-B混土、白色軽石・炭化物(φ２～５cm)５％含む



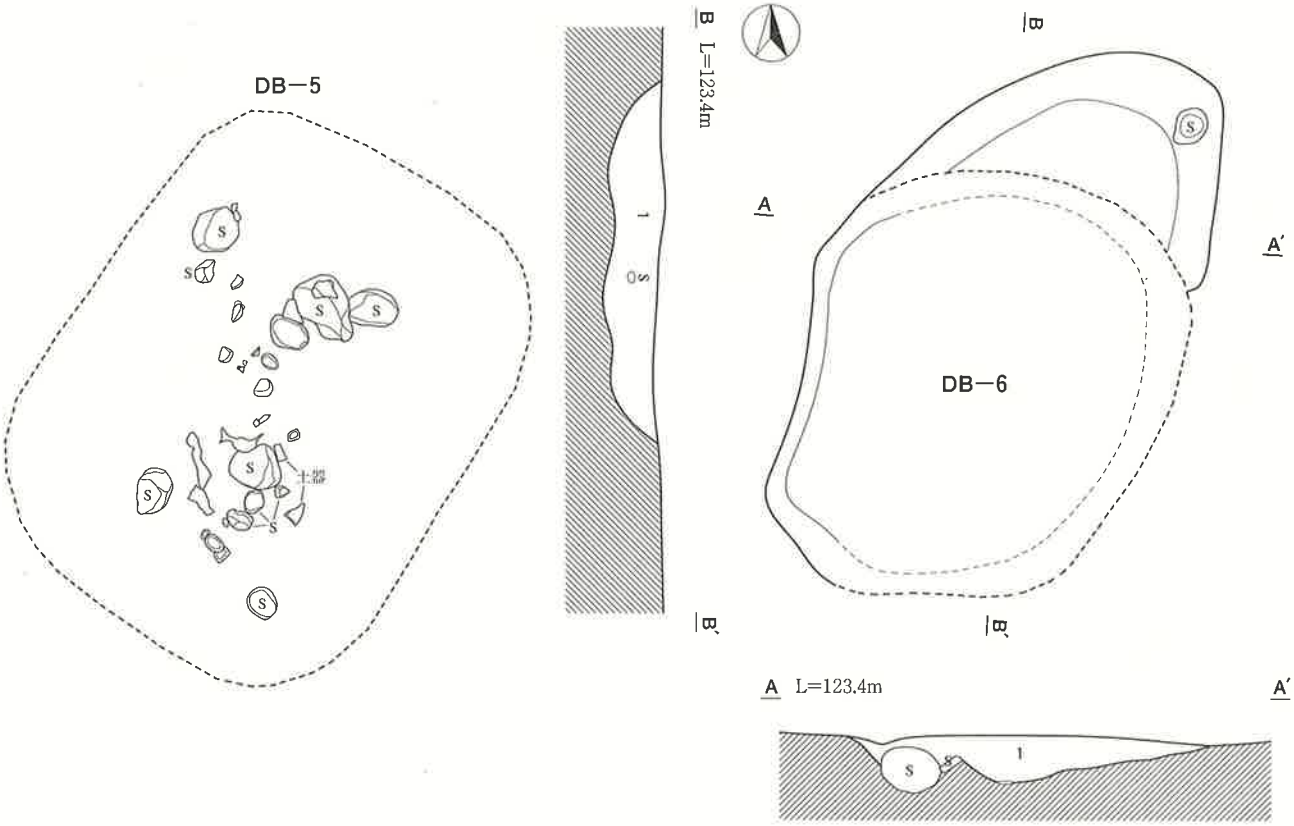




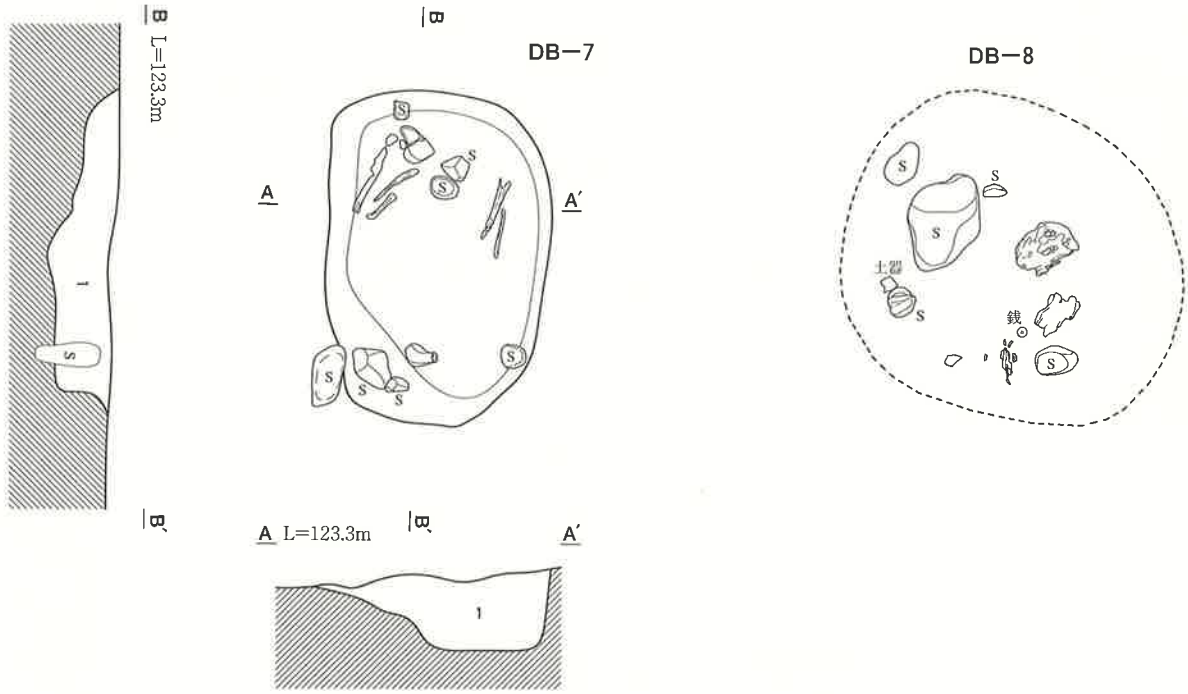
DB－４号土壙墓　セクション
1　黒褐色土　　○○　As-B混土、焼土ブロック２％含む

0　1：20　1m

Fig.28　ＤＢ－１～４号土壙墓



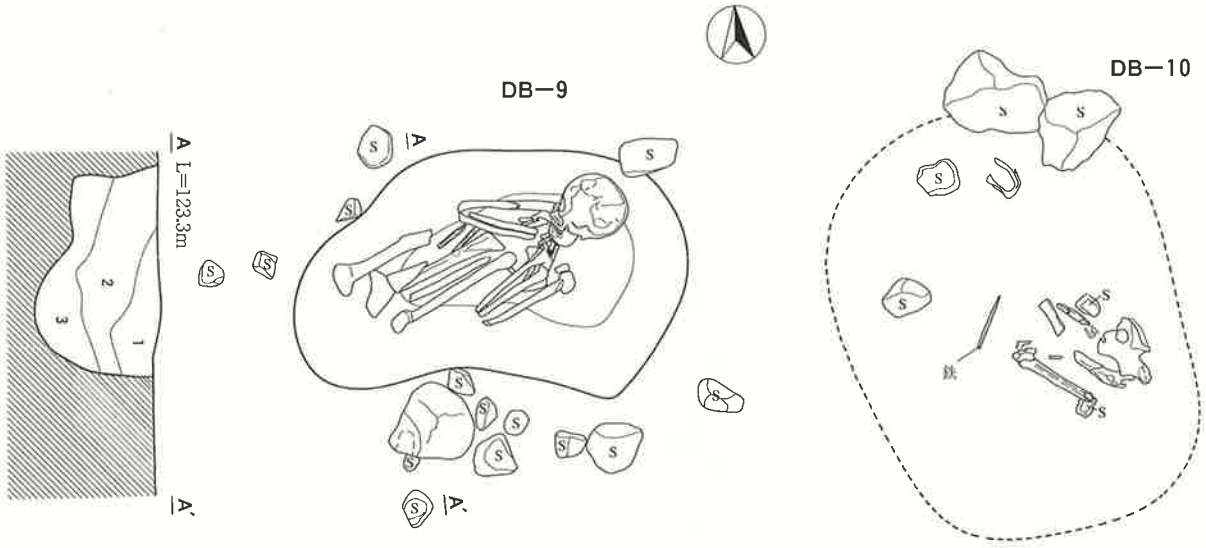
DB－６号土壙墓　セクション
1　黒褐色土　　○△　As-B混土、白色軽石５％含む



DB－７号土壙墓　セクション
1　暗褐色土　　△×　As-B混土、白色軽石（φ１㎜）10%含む

Fig.29　ＤＢ－５～８号土壙墓

0　1:20　1m



DB－9号土壙墓　セクション
1　黒褐色土　△△　As-B混土、白色軽石2％含む
2　黒褐色土　△△　As-B混土、白色軽石5％含む
3　黒褐色土　△△　As-B混土、白色軽石・焼土粒2％含む

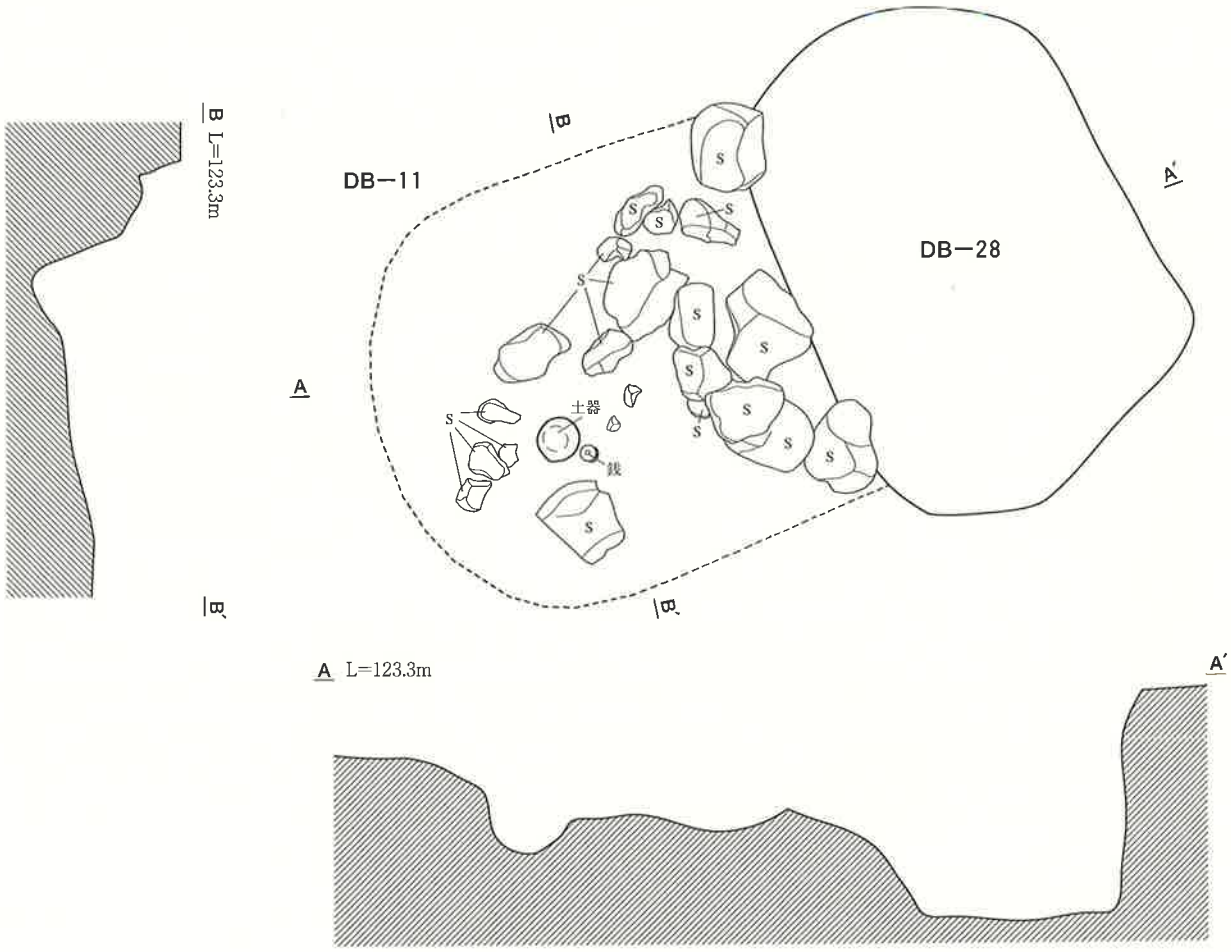


Fig.30　ＤＢ－９～11号土壙墓

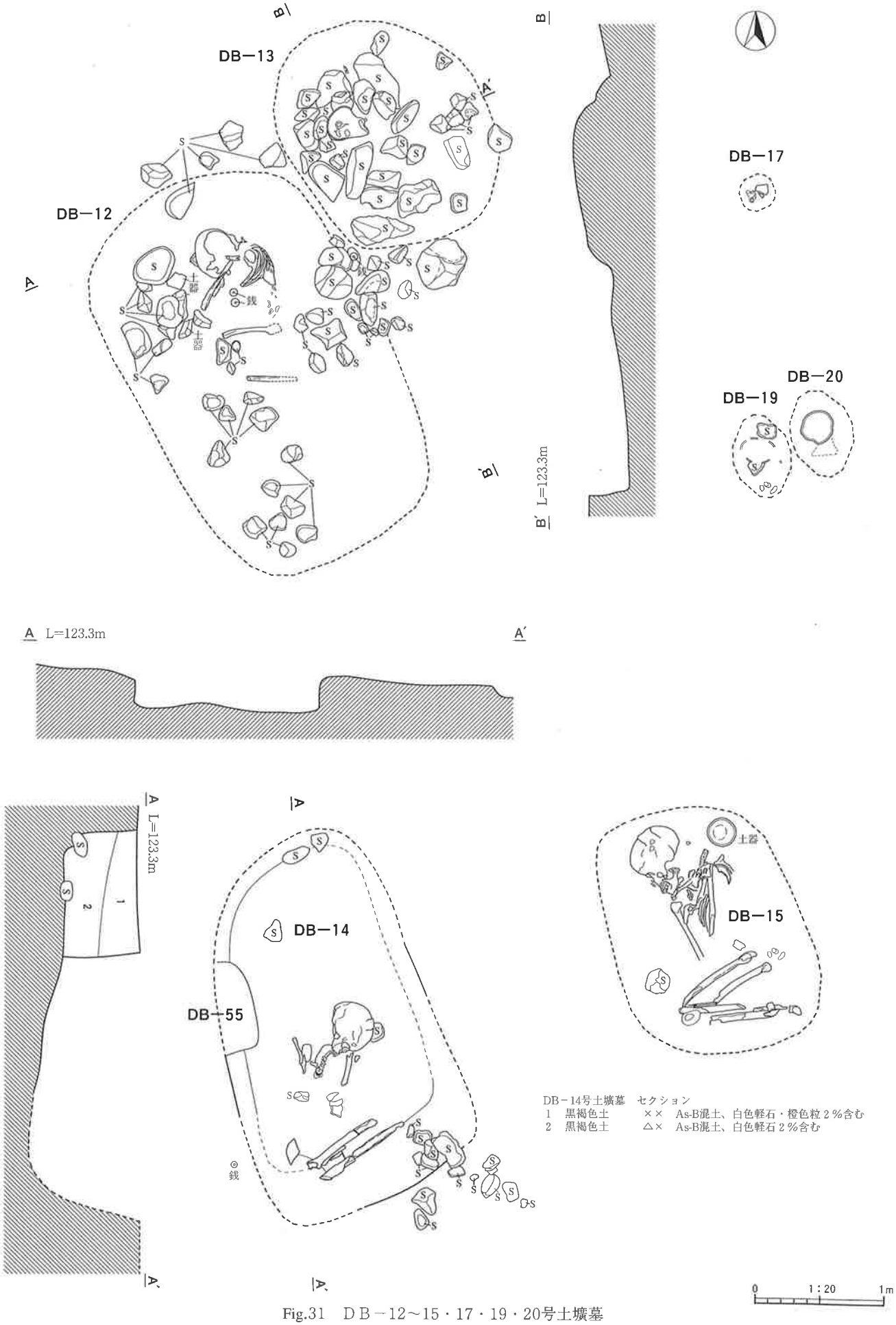
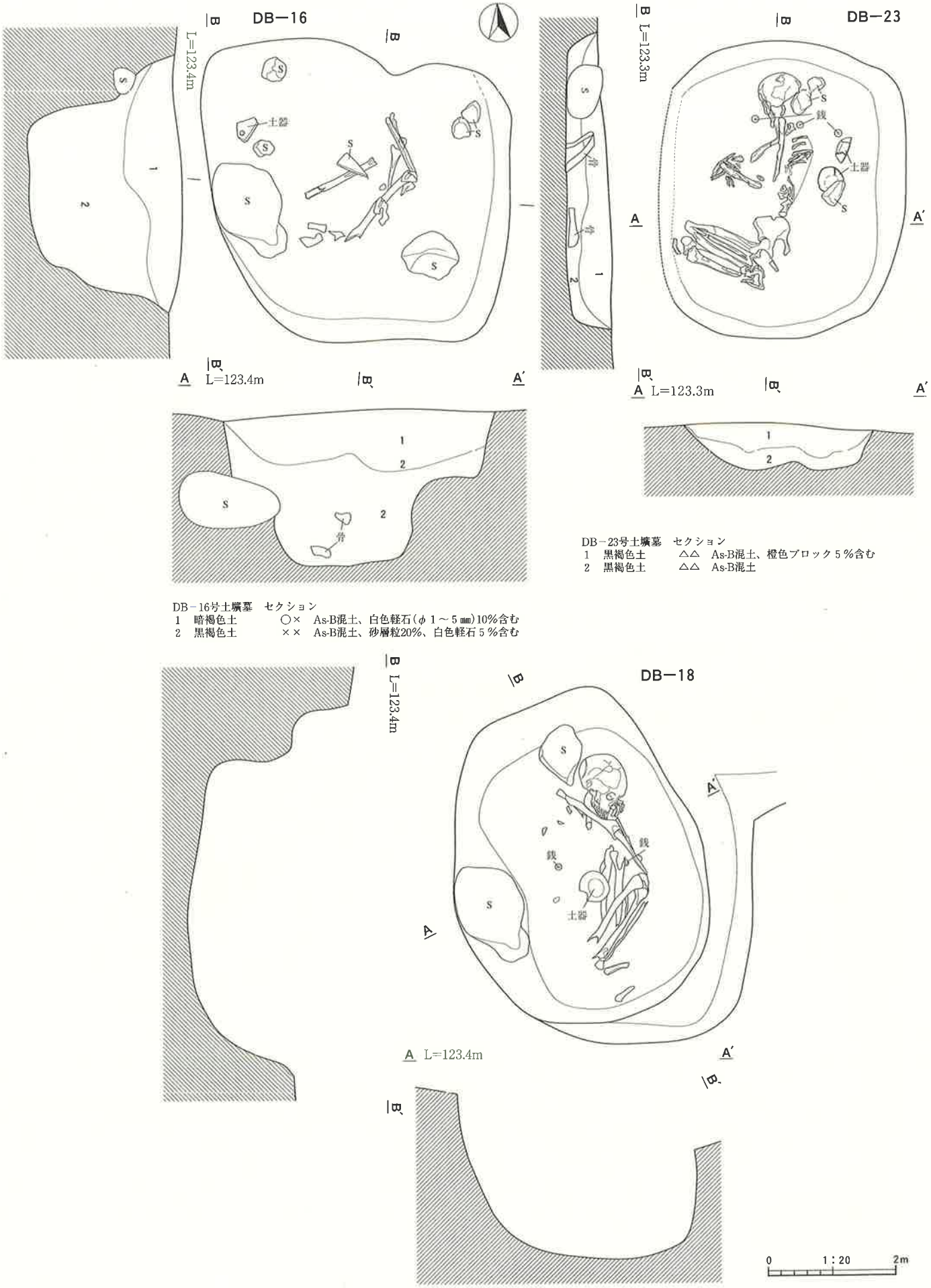


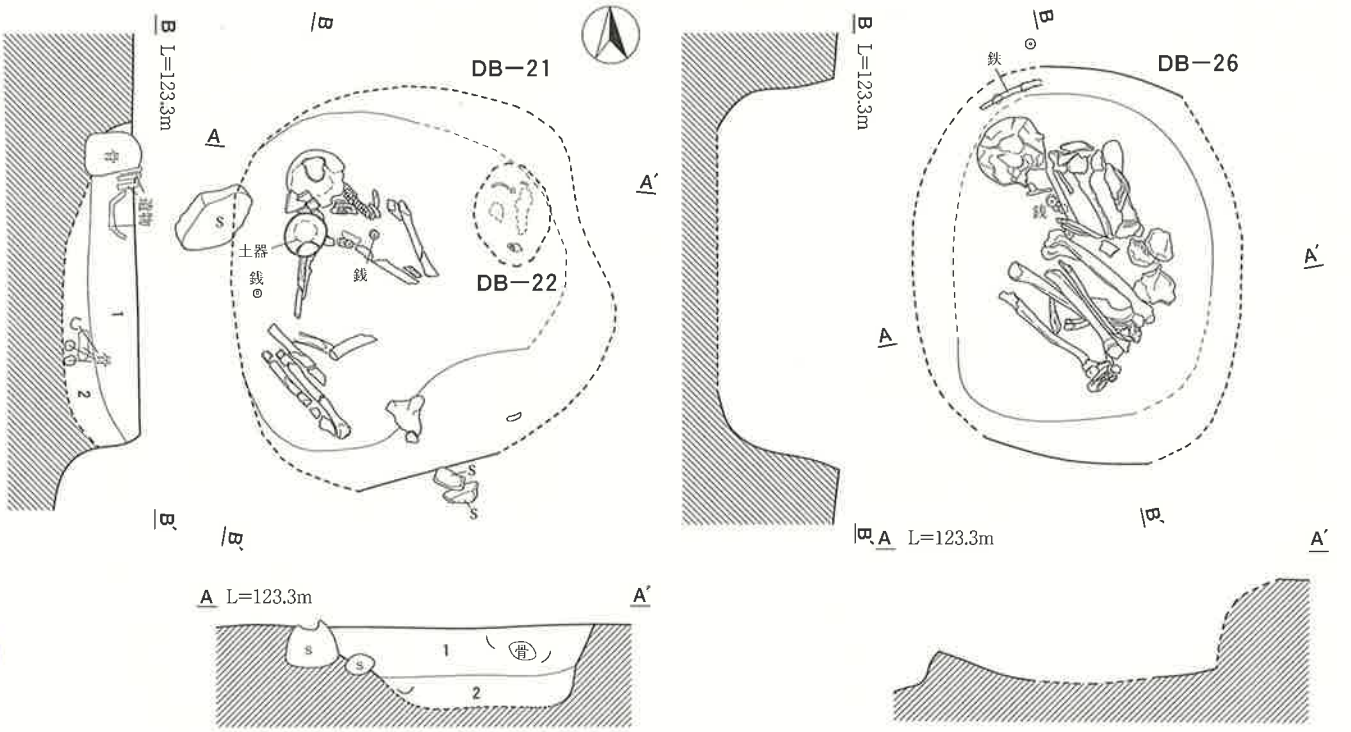
Fig.31　ＤＢ－12～15・17・19・20号土壙墓



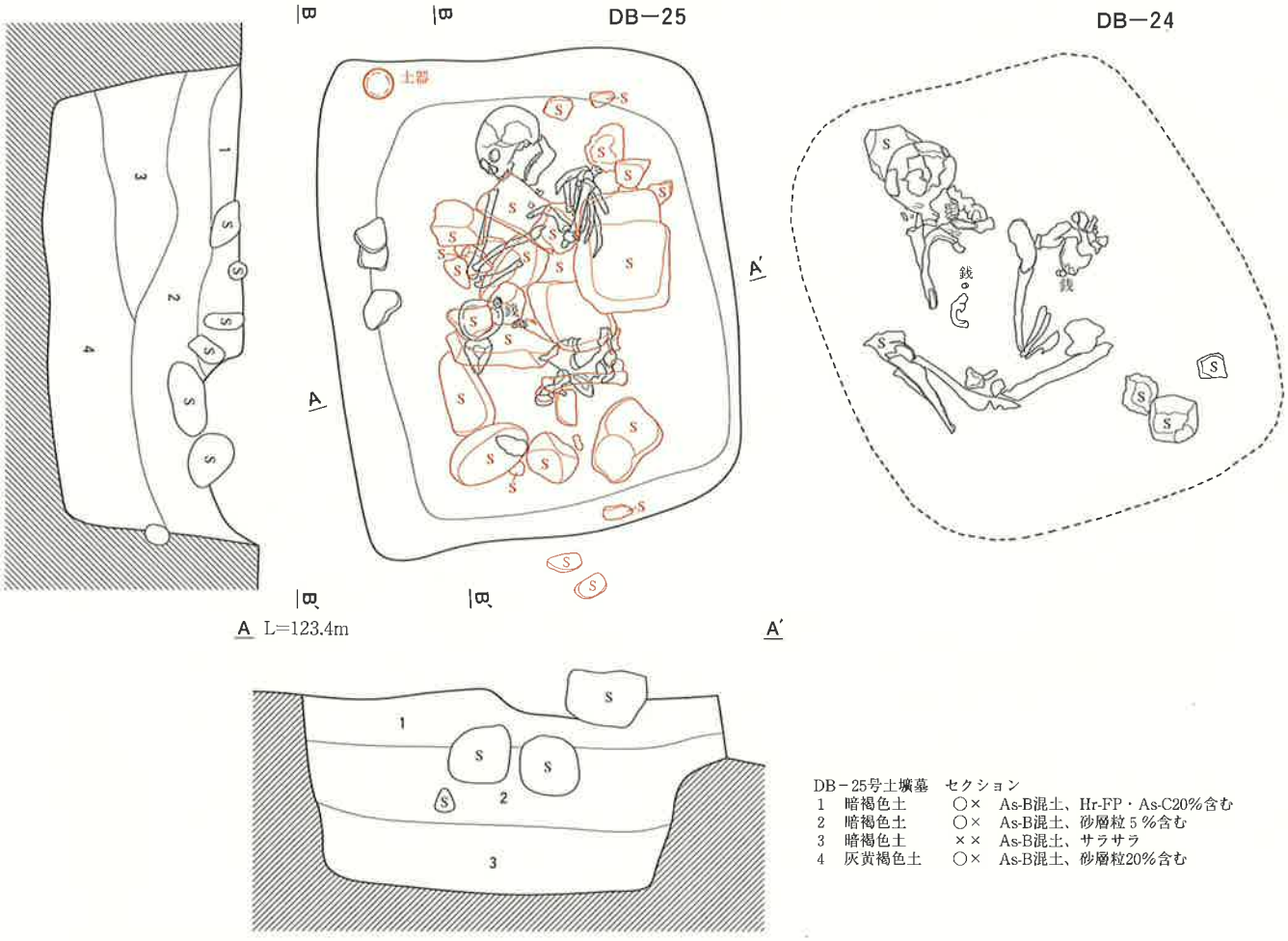
DB−16号土壙墓　セクション
1　暗褐色土　○×　As-B混土、白色軽石(φ1～5㎜)10%含む
2　黒褐色土　××　As-B混土、砂層粒20%、白色軽石5%含む

DB−23号土壙墓　セクション
1　黒褐色土　△△　As-B混土、橙色ブロック5%含む
2　黒褐色土　△△　As-B混土

Fig.32　DB−16・18・23号土壙墓



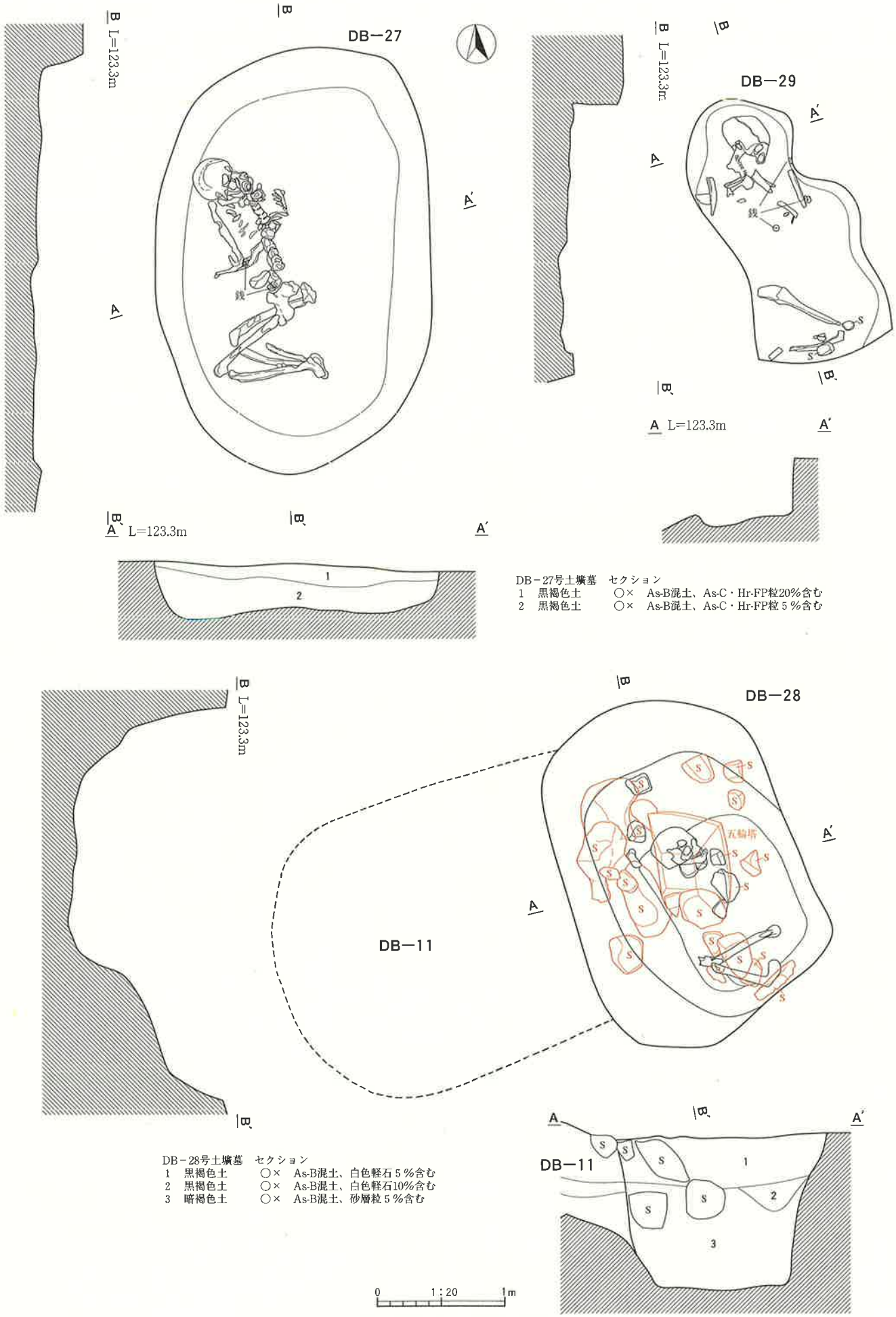
DB－21号土壙墓　セクション
1　灰黄褐色土　　○×　As-B混土(粗粒)
2　にぶい黄褐色土　○×As-B混土(細粒)



DB－25号土壙墓　セクション
1　暗褐色土　　○×　As-B混土、Hr-FP・As-C20%含む
2　暗褐色土　　○×　As-B混土、砂層粒５%含む
3　暗褐色土　　××　As-B混土、サラサラ
4　灰黄褐色土　○×　As-B混土、砂層粒20%含む

Fig.33　ＤＢ－21・22・24～26号土壙墓

0　1:20　1m



DB－27号土壙墓　セクション
1　黒褐色土　○×　As-B混土、As-C・Hr-FP粒20%含む
2　黒褐色土　○×　As-B混土、As-C・Hr-FP粒５%含む

DB－28号土壙墓　セクション
1　黒褐色土　○×　As-B混土、白色軽石５%含む
2　黒褐色土　○×　As-B混土、白色軽石10%含む
3　暗褐色土　○×　As-B混土、砂層粒５%含む

Fig.34　ＤＢ－27～29号土壙墓

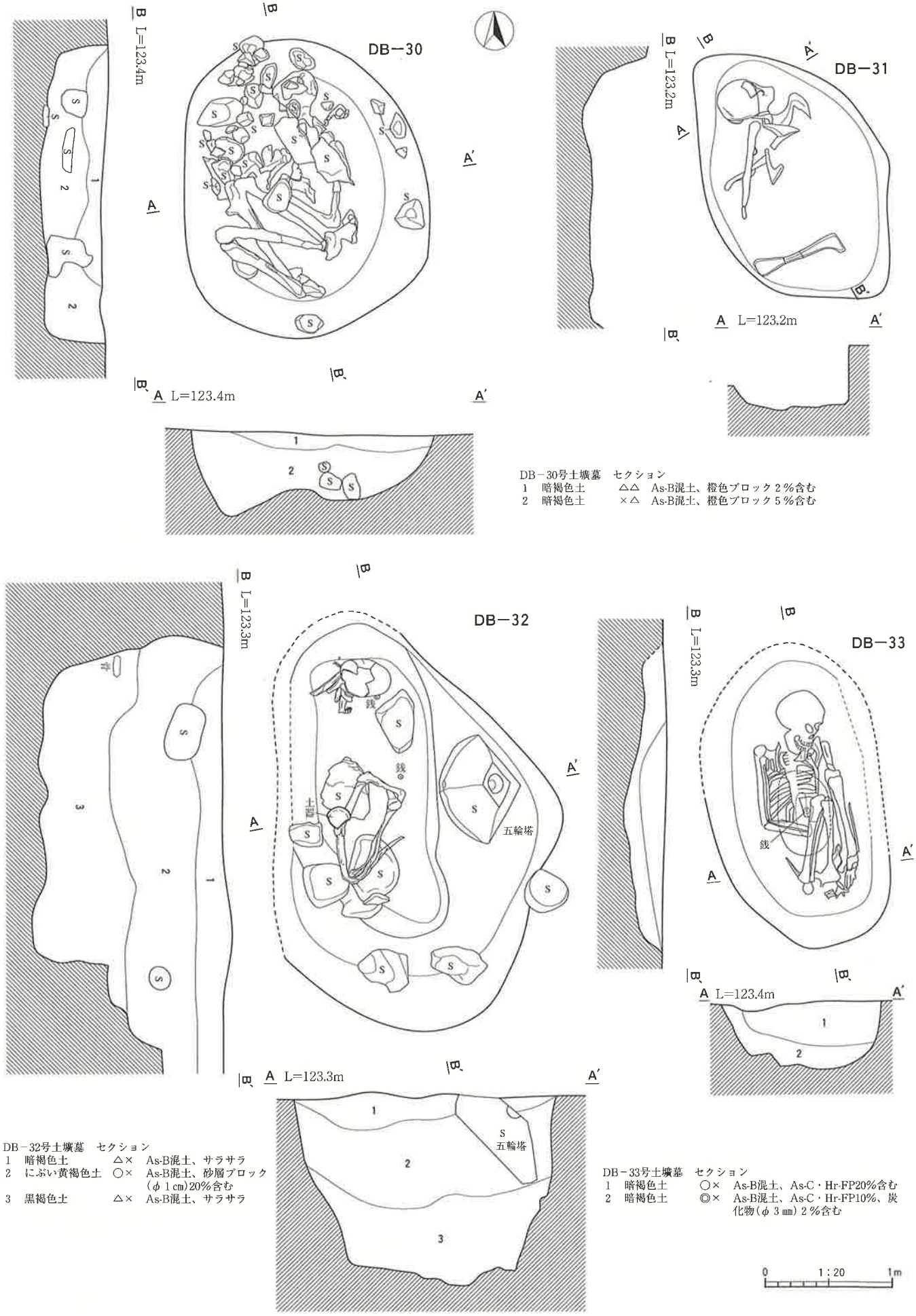


Fig.35　ＤＢ－30～33号土壙墓

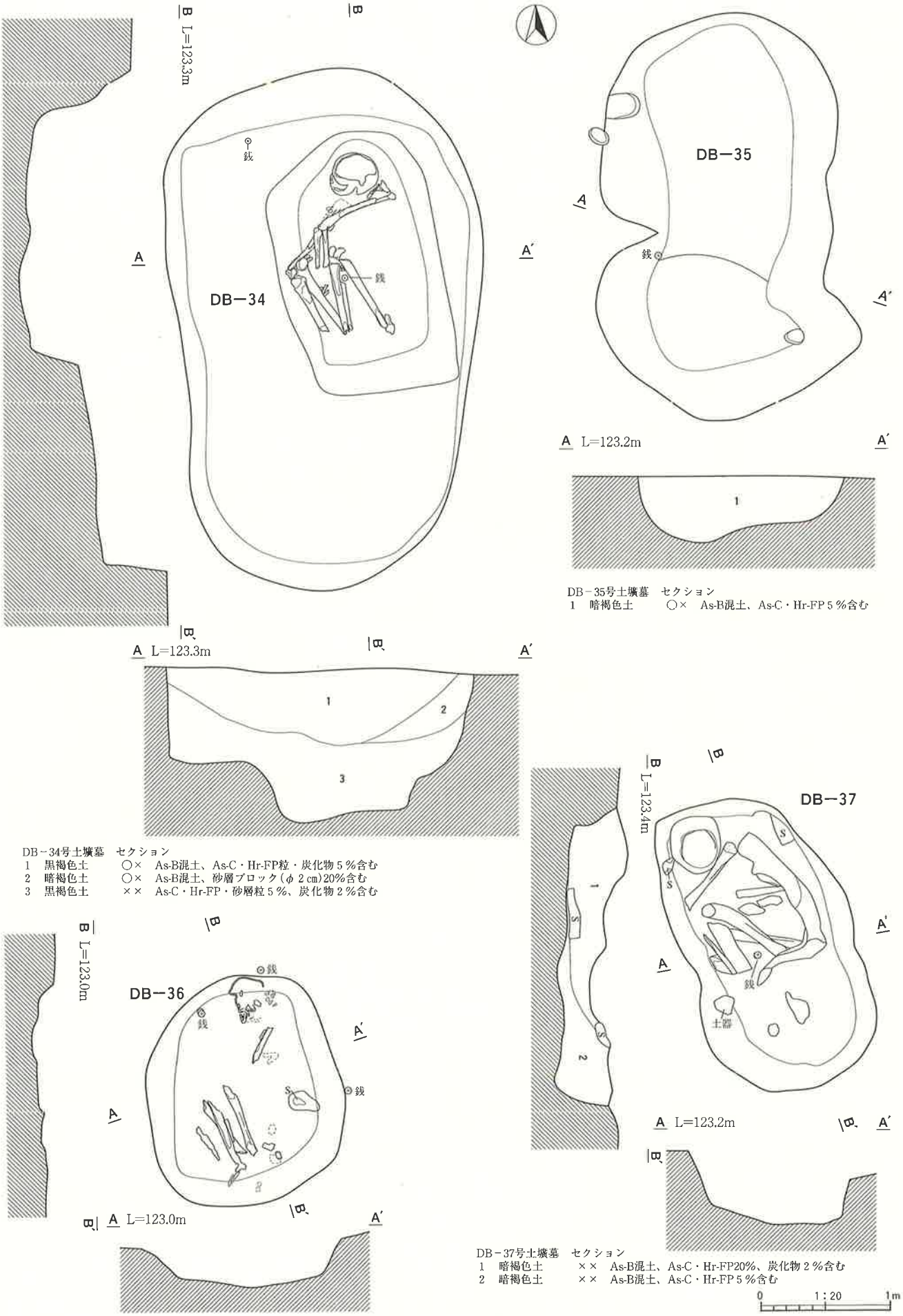
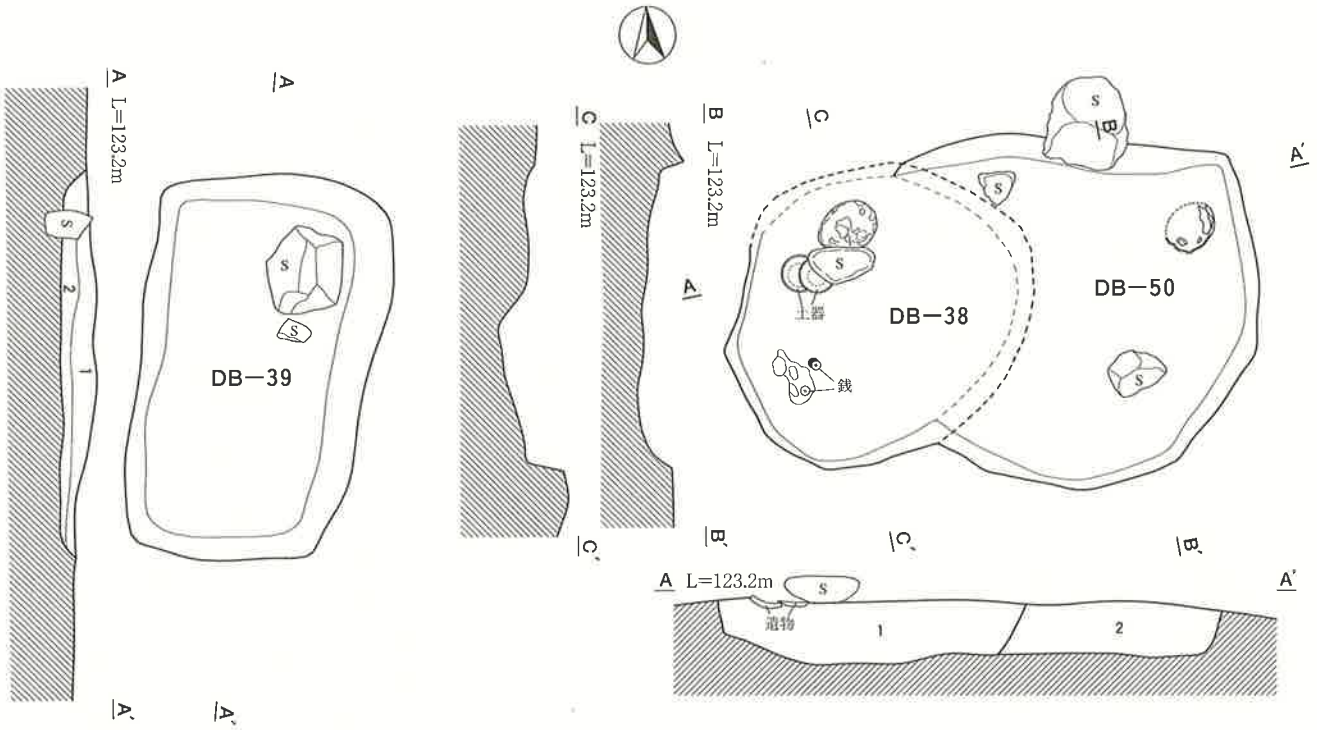
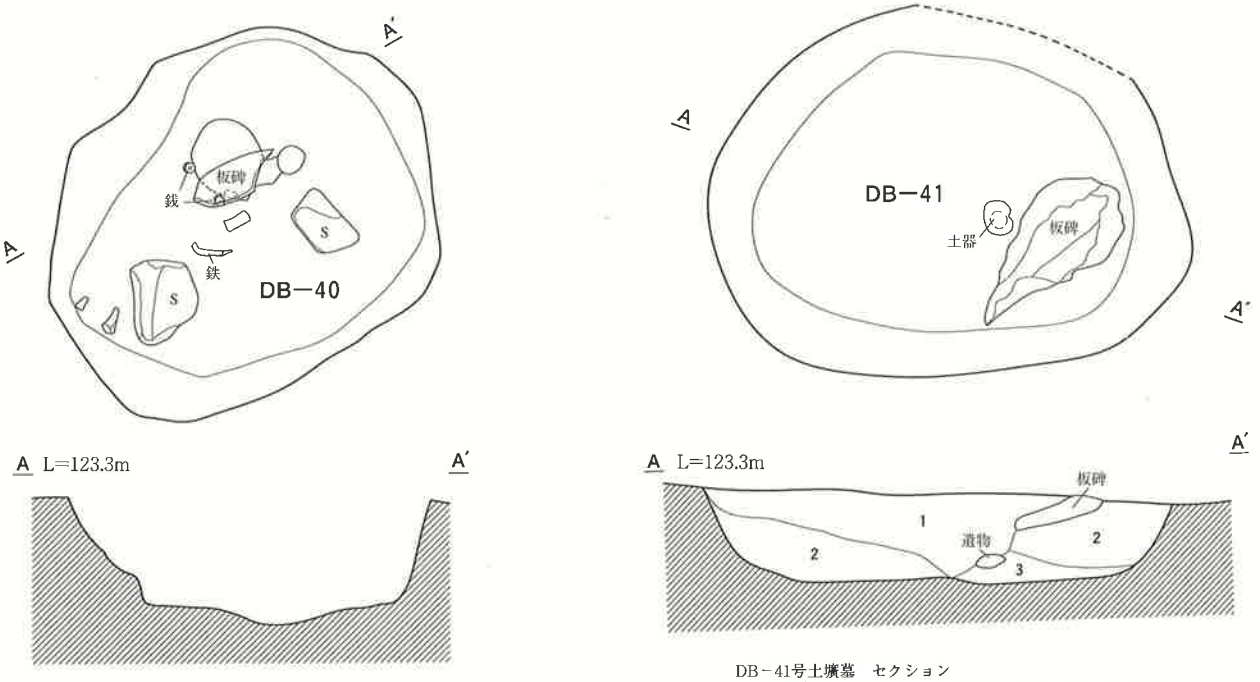


Fig.36　ＤＢ－34～37号土壙墓



DB－39号土壙墓　セクション
1　暗褐色土　　△×　As-B混土

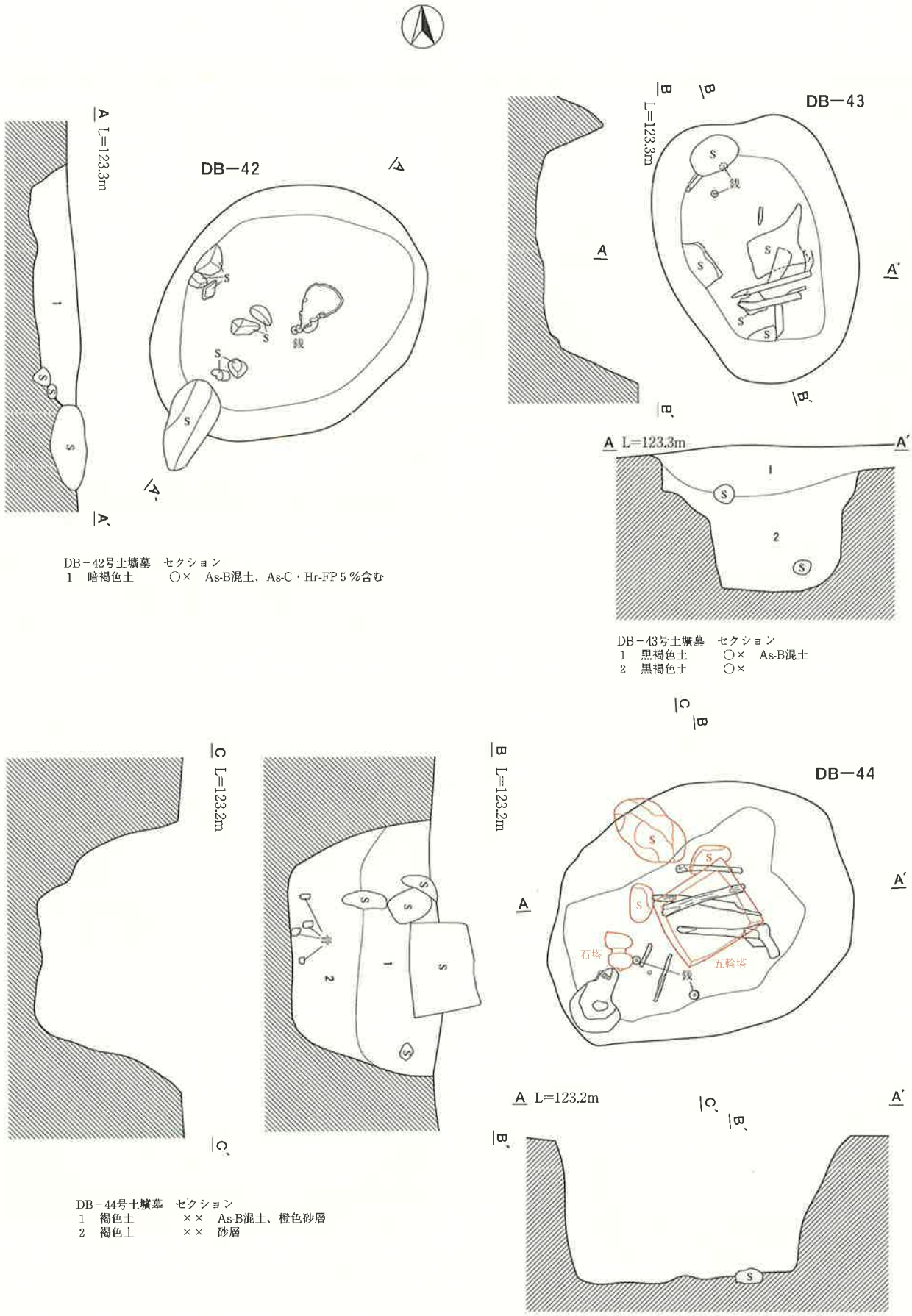
DB－38・50号土壙墓　セクション
1　暗褐色土　　○×　As-B混土、As-C・Hr-FP 5％含む
2　暗褐色土　　○×As-B混土、As-C・Hr-FP 2％含む



DB－41号土壙墓　セクション
1　暗褐色土　　△×　As-B混土、As-C・Hr-FP 5％含む

Fig.37　ＤＢ－38～41・50号土壙墓

0　1：20　1m



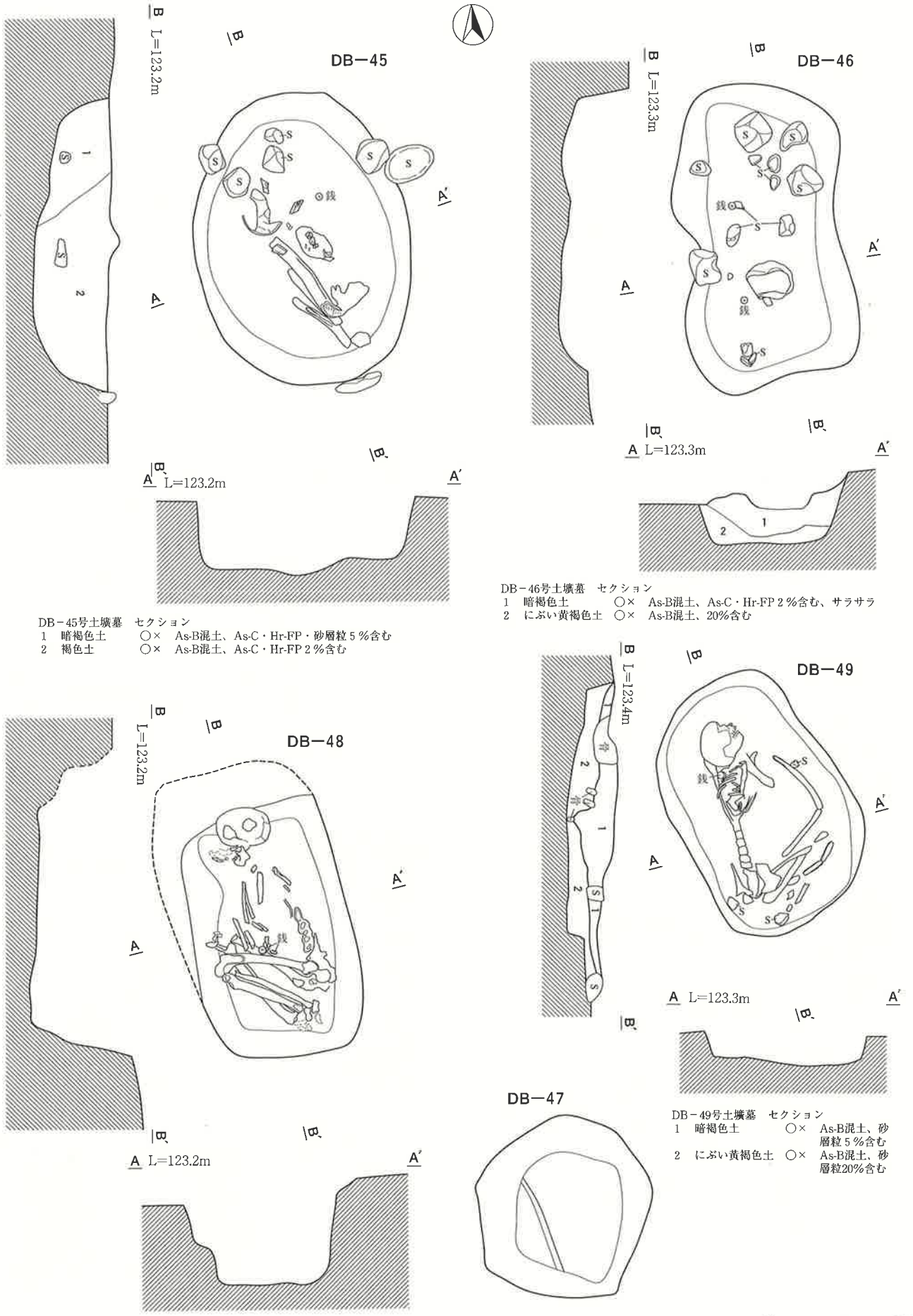
DB－42号土壙墓　セクション
1　暗褐色土　　○×　As-B混土、As-C・Hr-FP 5％含む

DB－43号土壙墓　セクション
1　黒褐色土　　○×　As-B混土
2　黒褐色土　　○×

DB－44号土壙墓　セクション
1　褐色土　　××　As-B混土、橙色砂層
2　褐色土　　××　砂層

Fig.38　ＤＢ－42～44号土壙墓

0　1：20　1m

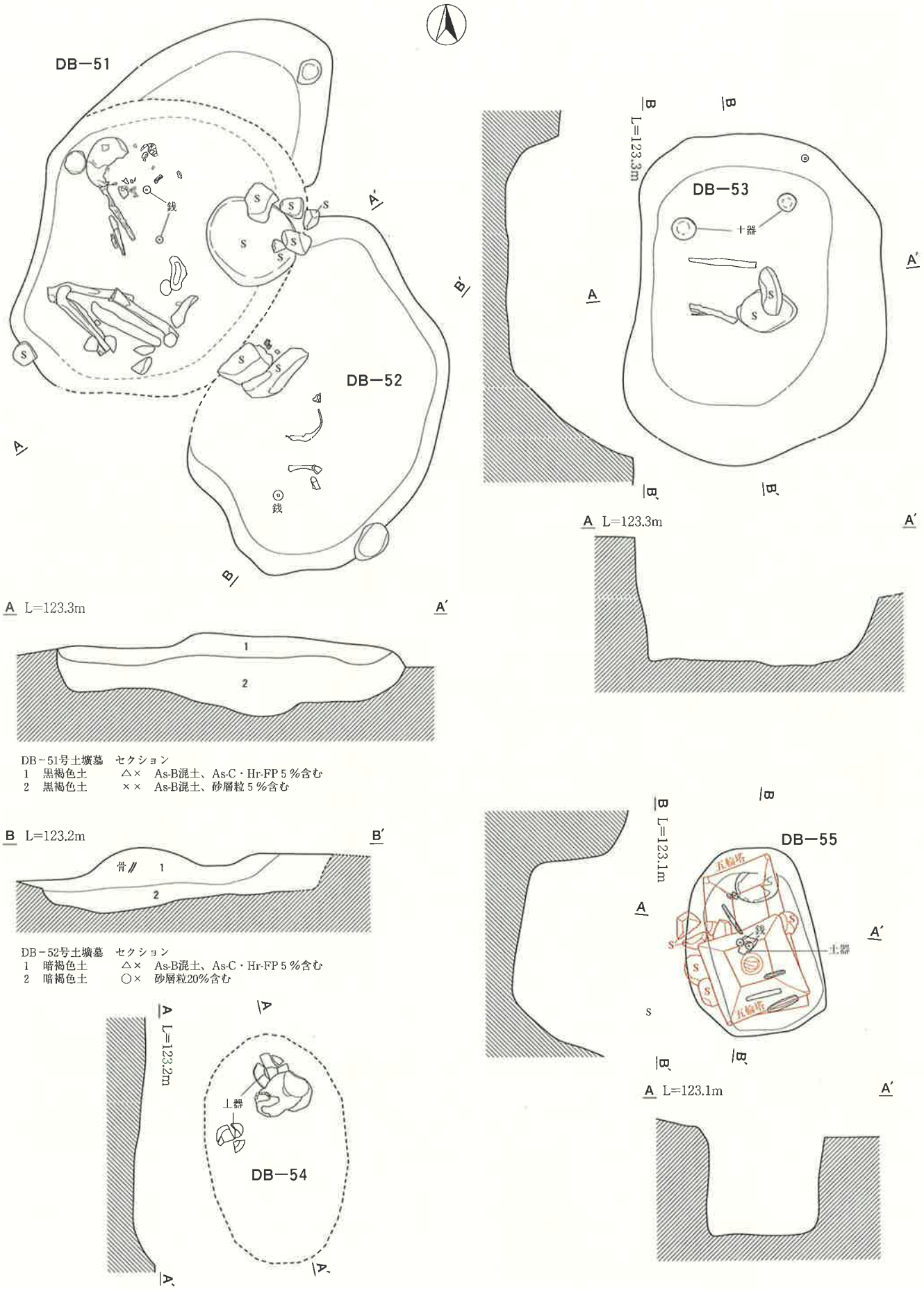


DB－45号土壙墓　セクション
1　暗褐色土　○×　As-B混土、As-C・Hr-FP・砂層粒５％含む
2　褐色土　○×　As-B混土、As-C・Hr-FP２％含む

DB－46号土壙墓　セクション
1　暗褐色土　○×　As-B混土、As-C・Hr-FP２％含む、サラサラ
2　にぶい黄褐色土　○×　As-B混土、20％含む

DB－49号土壙墓　セクション
1　暗褐色土　○×　As-B混土、砂層粒５％含む
2　にぶい黄褐色土　○×　As-B混土、砂層粒20％含む

Fig.39　ＤＢ－45～49号土壙墓



DB－51号土壙墓　セクション
1　黒褐色土　△×　As-B混土、As-C・Hr-FP 5 %含む
2　黒褐色土　××　As-B混土、砂層粒 5 %含む

DB－52号土壙墓　セクション
1　暗褐色土　△×　As-B混土、As-C・Hr-FP 5 %含む
2　暗褐色土　○×　砂層粒20%含む

Fig.40　ＤＢ－51～55号土壙墓

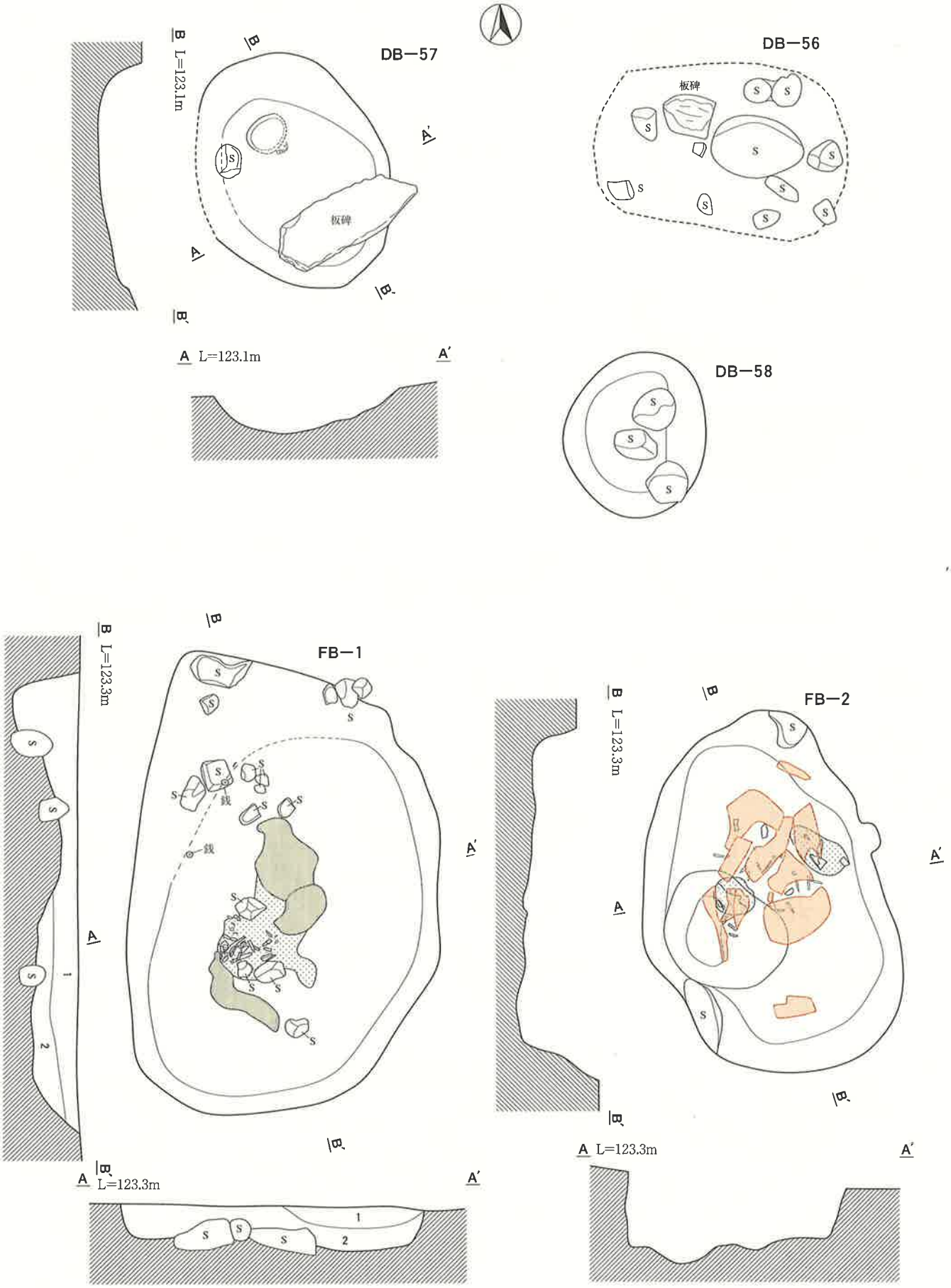


Fig.41　ＤＢ－56～58号土壙墓、ＦＢ－１・２号火葬墓

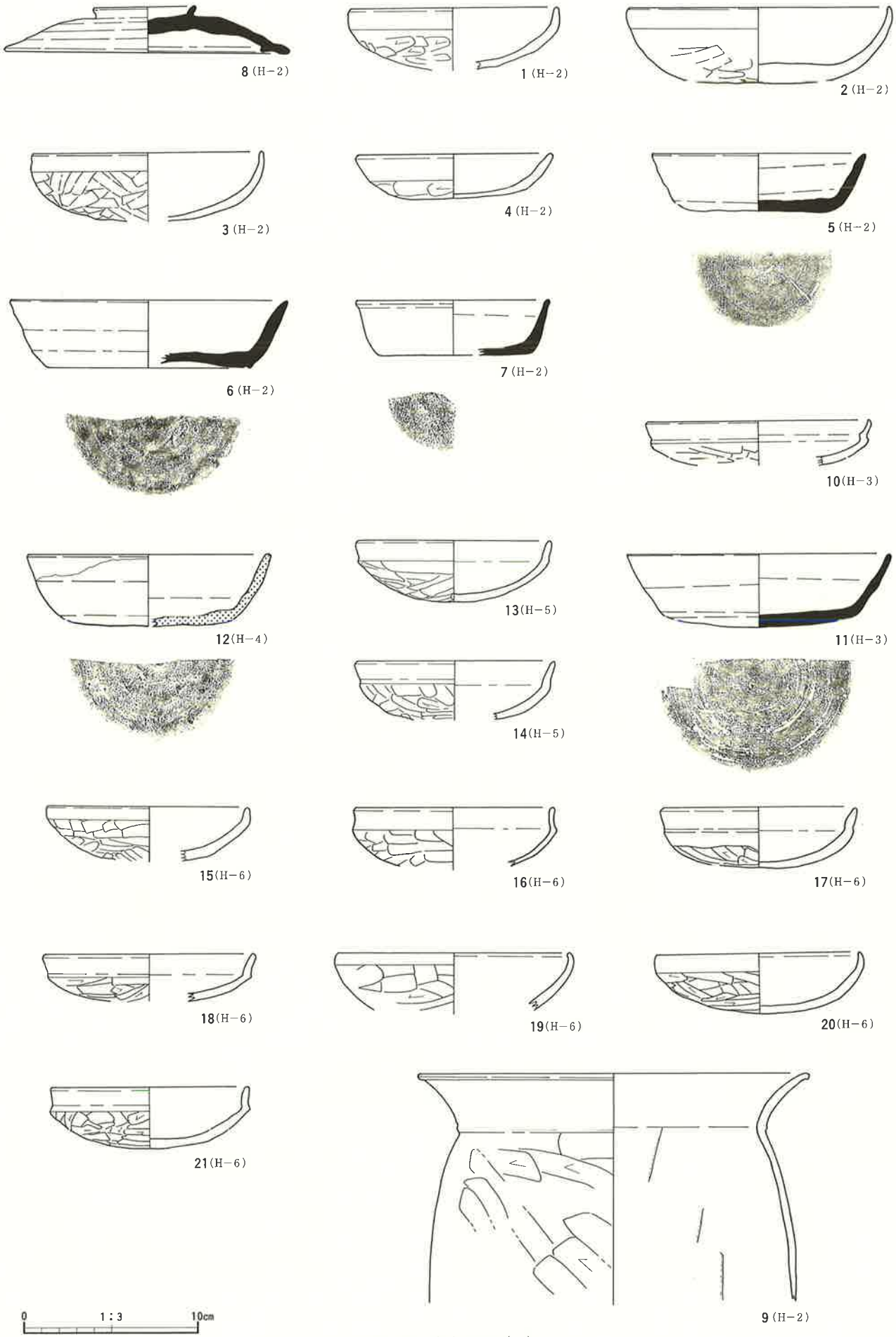

8 (H−2)
1 (H−2)
2 (H−2)
3 (H−2)
4 (H−2)
5 (H−2)
6 (H−2)
7 (H−2)
10(H−3)
12(H−4)
13(H−5)
11(H−3)
14(H−5)
15(H−6)
16(H−6)
17(H−6)
18(H−6)
19(H−6)
20(H−6)
21(H−6)
9 (H−2)
0
1:3
10cm

Fig.42　出土土器（1）

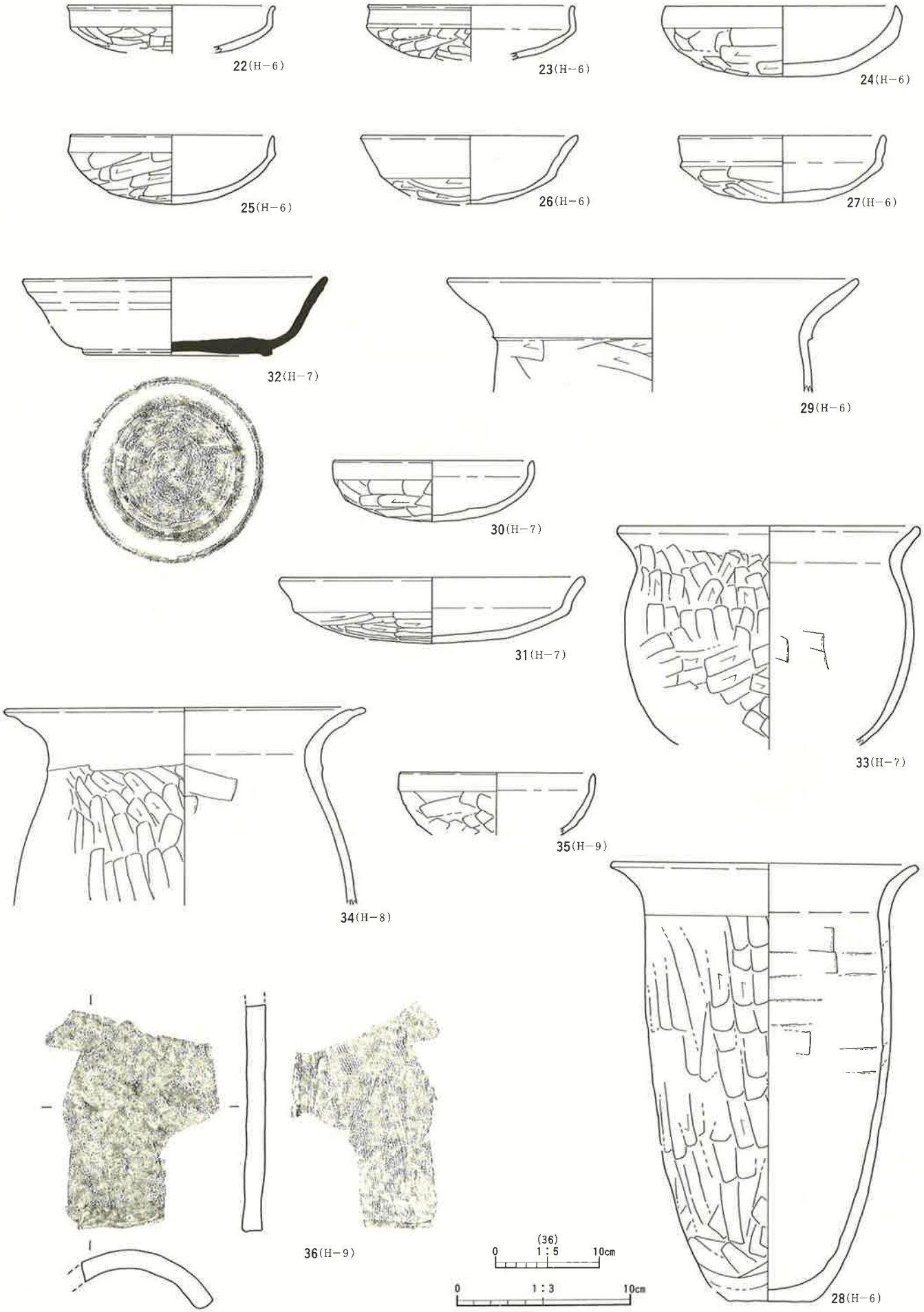

22(H−6)
23(H−6)
24(H−6)
25(H−6)
26(H−6)
27(H−6)
32(H−7)
29(H−6)
30(H−7)
31(H−7)
33(H−7)
35(H−9)
34(H−8)
36(H−9)
28(H−6)
(36)
0 1:5 10cm
0 1:3 10cm

Fig.43　出土土器（2）

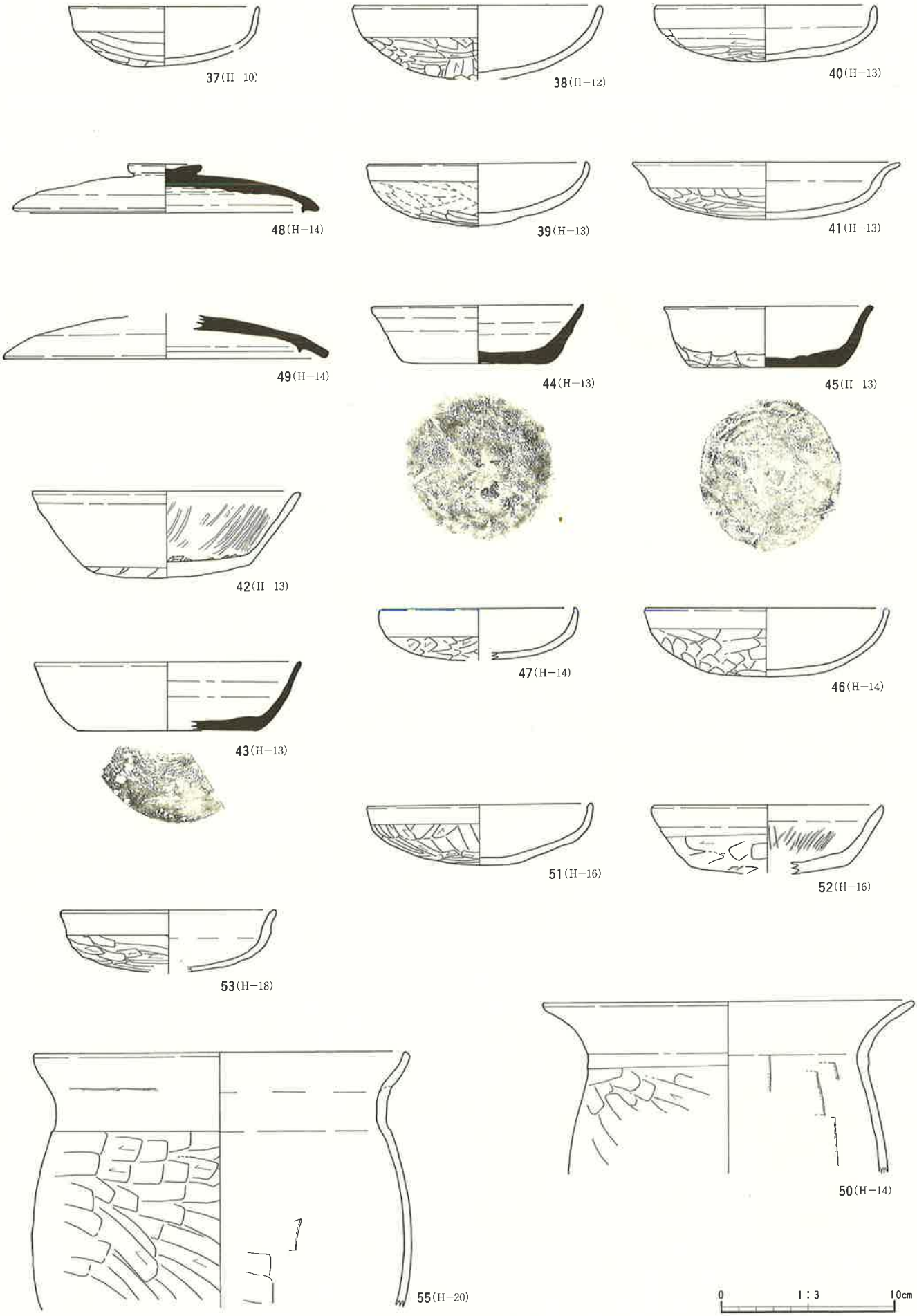

37(H−10)
38(H−12)
40(H−13)
48(H−14)
39(H−13)
41(H−13)
49(H−14)
44(H−13)
45(H−13)
42(H−13)
47(H−14)
46(H−14)
43(H−13)
51(H−16)
52(H−16)
53(H−18)
50(H−14)
55(H−20)
0
1：3
10cm

Fig.44　出土土器（3）

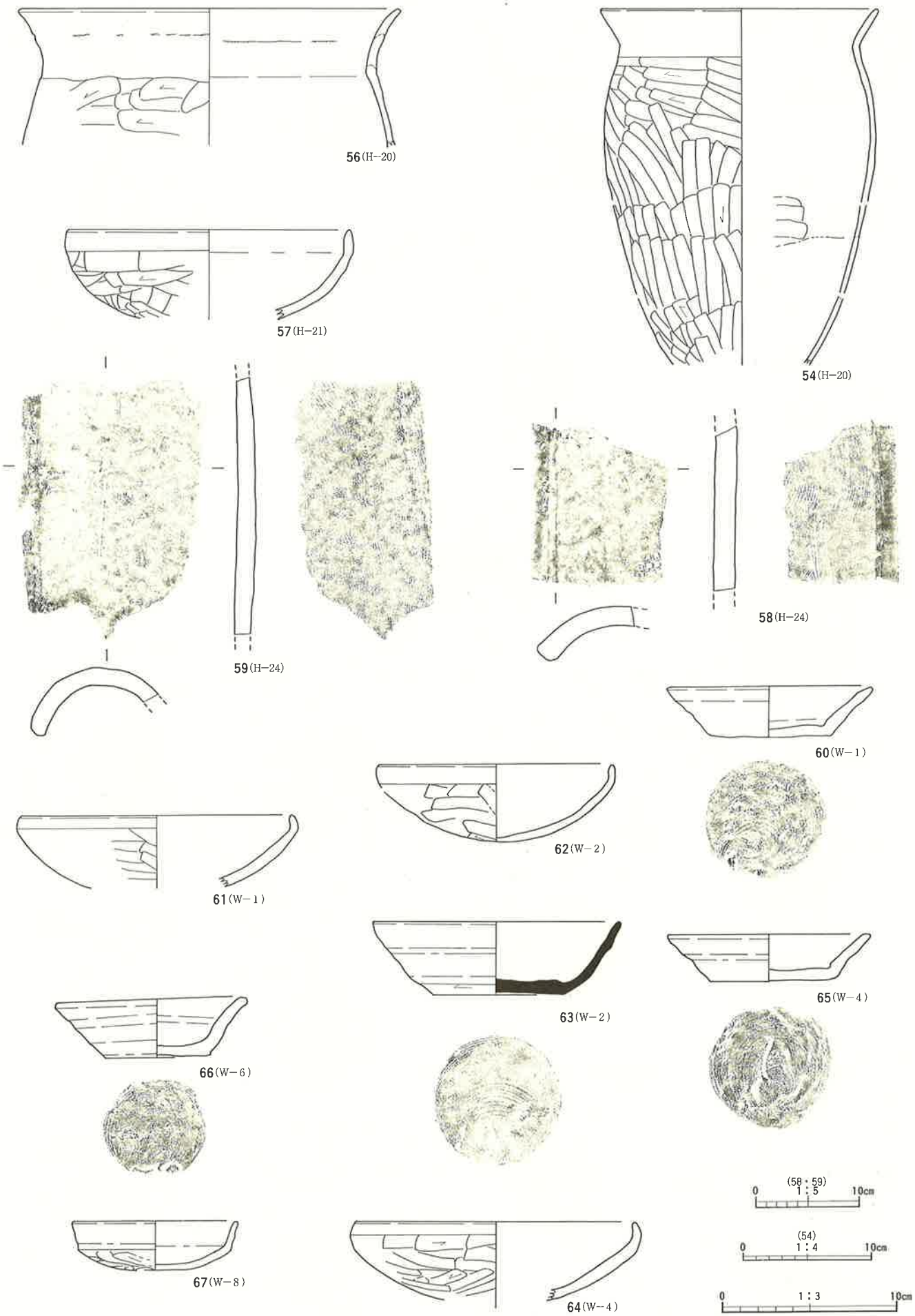

56(H−20)
57(H−21)
54(H−20)
59(H−24)
58(H−24)
60(W−1)
61(W−1)
62(W−2)
63(W−2)
65(W−4)
66(W−6)
67(W−8)
64(W−4)
(58・59)
0 1:5 10cm
(54)
0 1:4 10cm
0 1:3 10cm

Fig.45　出土土器（4）

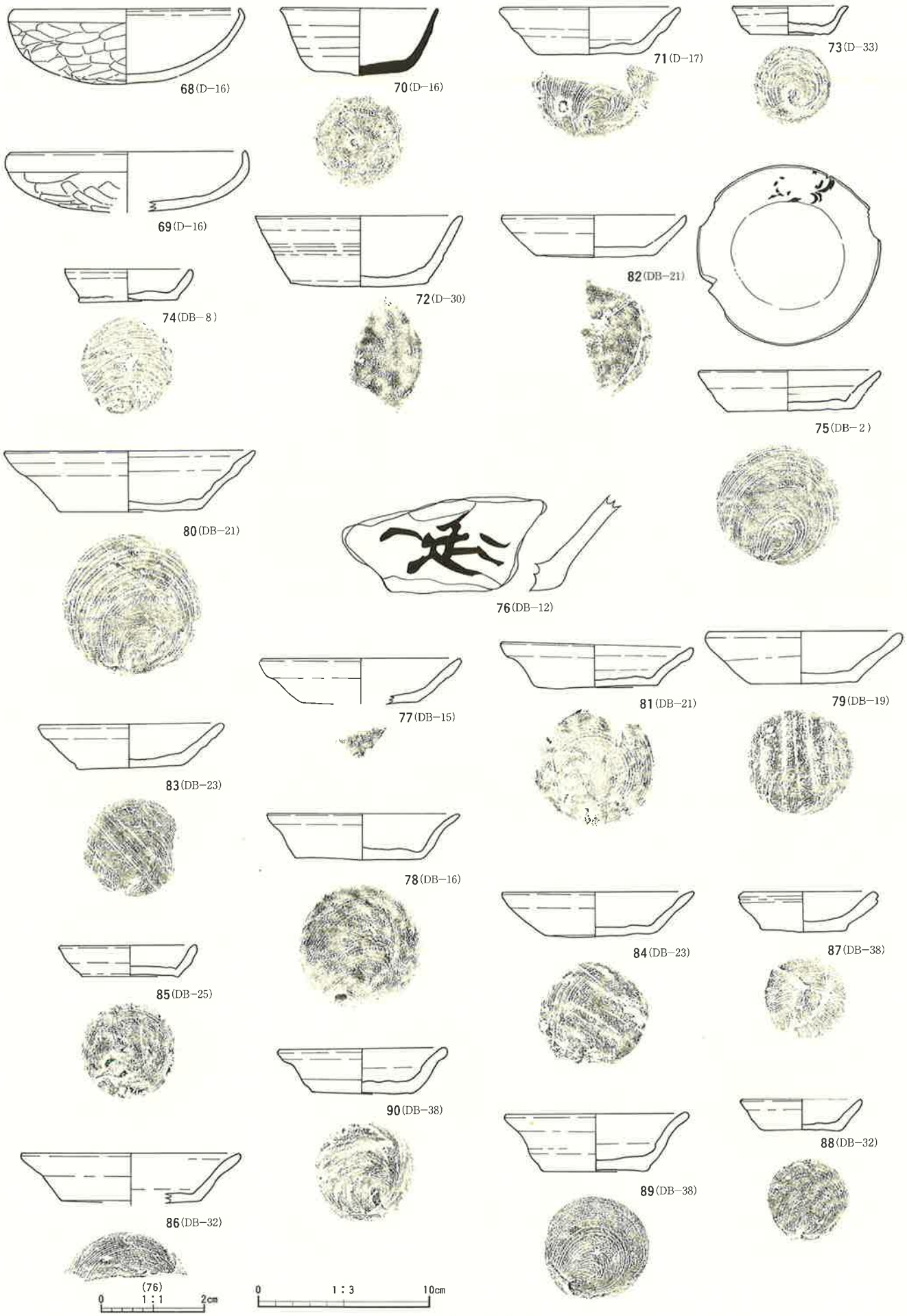

68(D−16)
70(D−16)
71(D−17)
73(D−33)
69(D−16)
72(D−30)
82(DB−21)
74(DB−8)
75(DB−2)
80(DB−21)
76(DB−12)
77(DB−15)
81(DB−21)
79(DB−19)
83(DB−23)
78(DB−16)
84(DB−23)
87(DB−38)
85(DB−25)
90(DB−38)
88(DB−32)
89(DB−38)
86(DB−32)
(76)
0 1:1 2cm
0 1:3 10cm

Fig.46　出土土器（5）

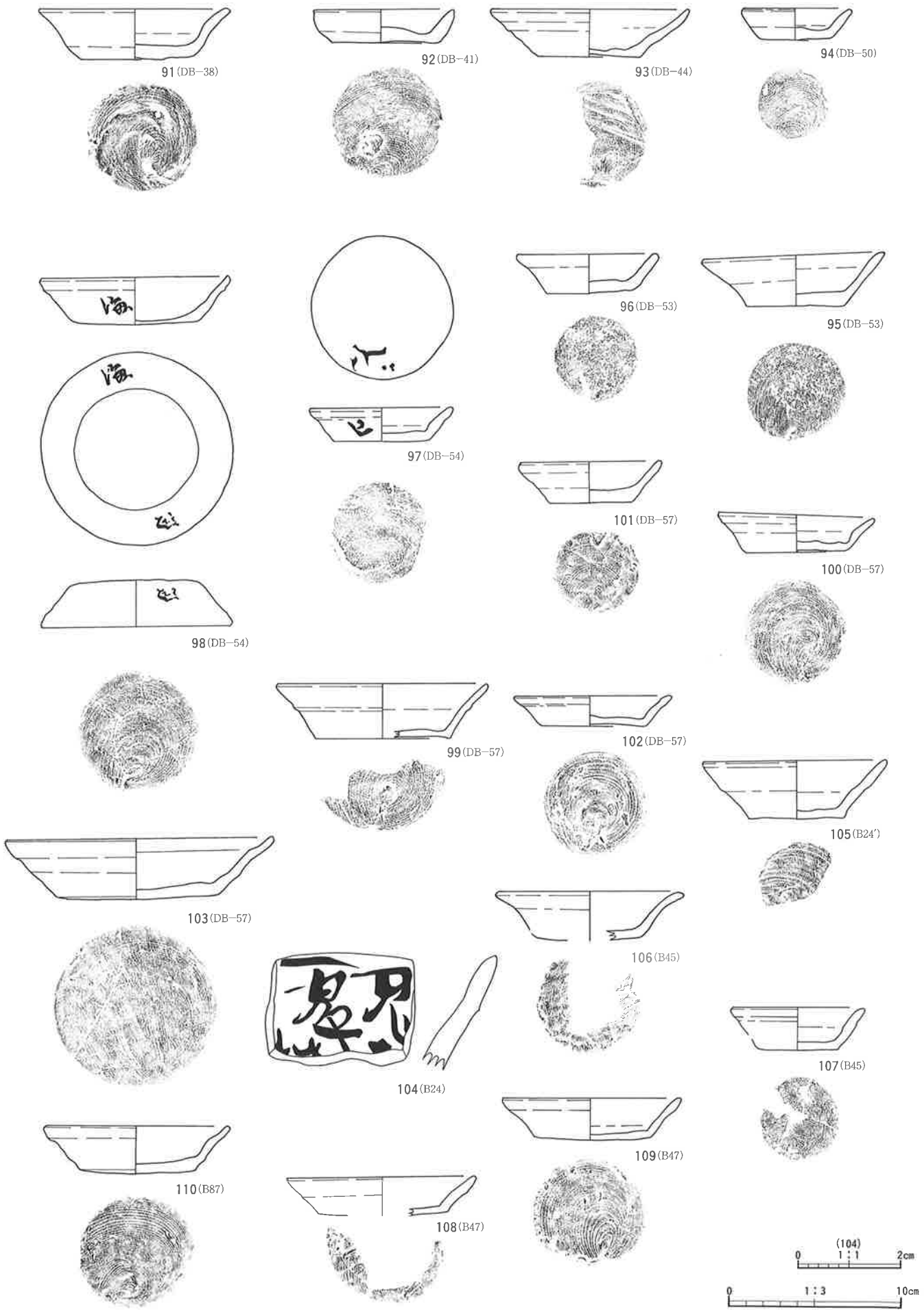

91(DB−38)
92(DB−41)
93(DB−44)
94(DB−50)
96(DB−53)
95(DB−53)
97(DB−54)
101(DB−57)
100(DB−57)
98(DB−54)
99(DB−57)
102(DB−57)
105(B24')
103(DB−57)
106(B45)
104(B24)
107(B45)
109(B47)
110(B87)
108(B47)
(104)
0 1:1 2cm
0 1:3 10cm

Fig.47　出土土器（6）

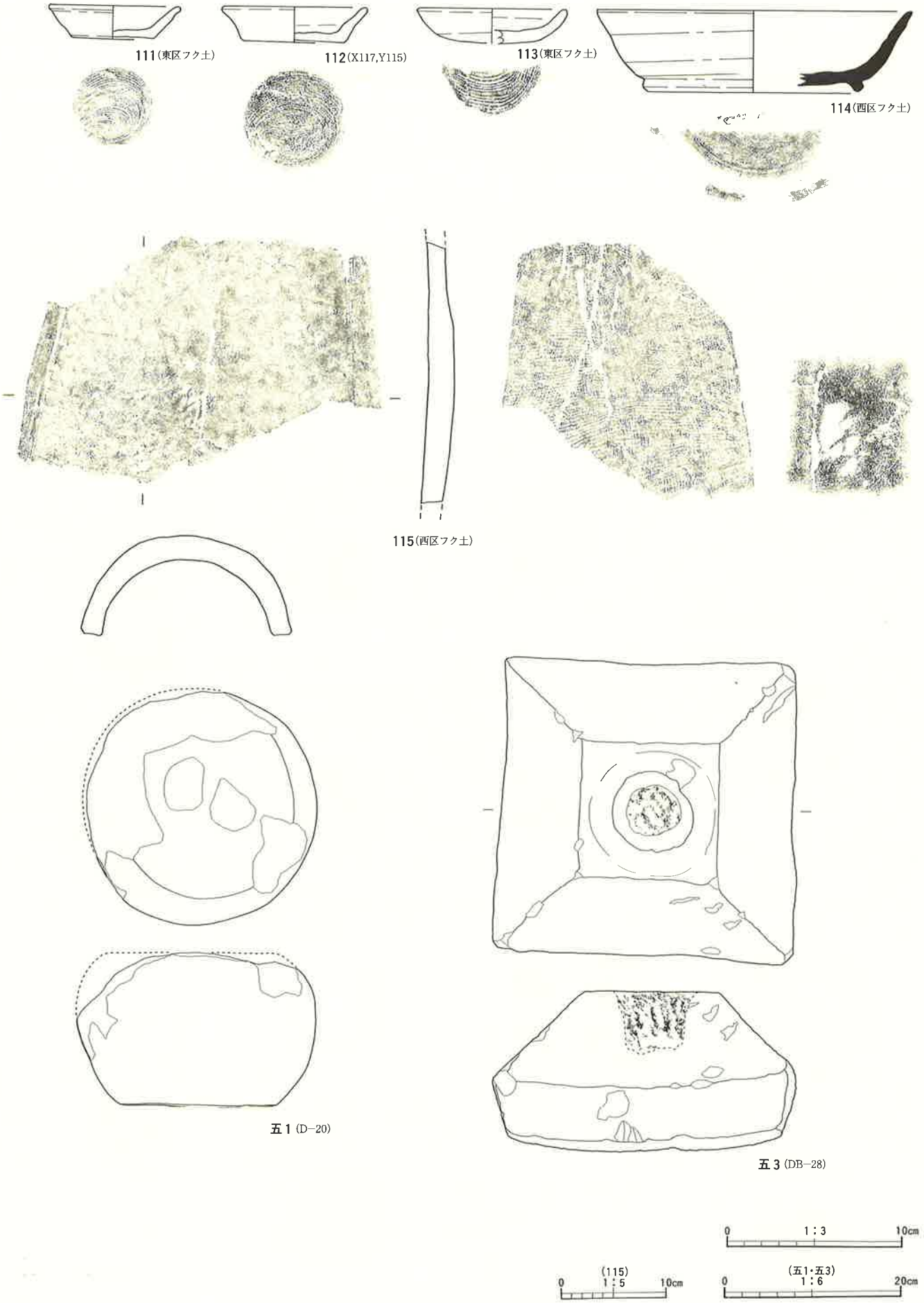
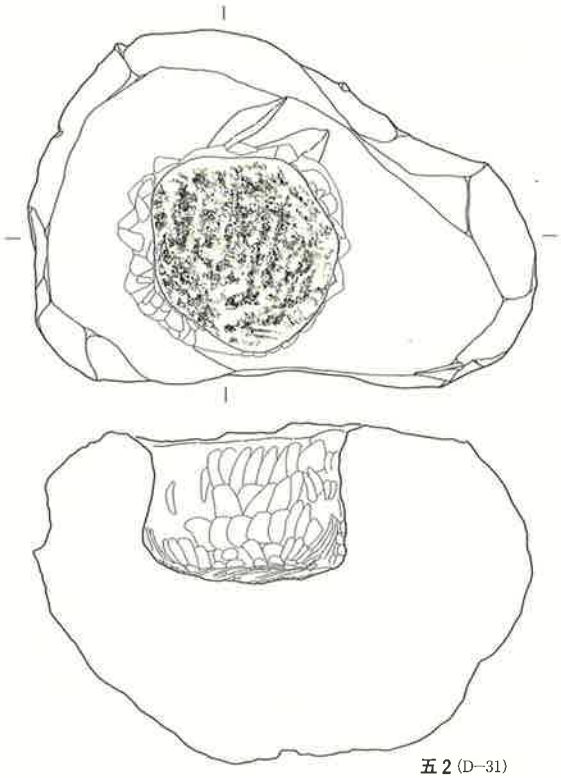
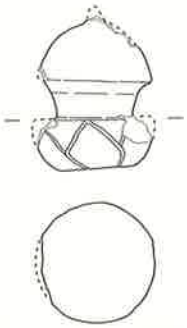


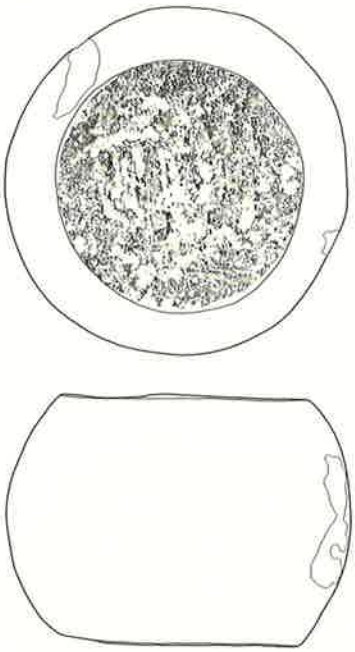
Fig.48　出土土器（7）、石造物（1）



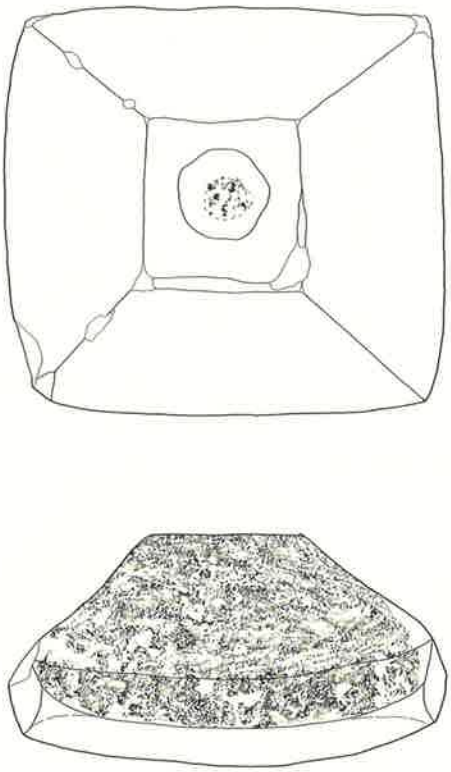
五 2 (D−31)



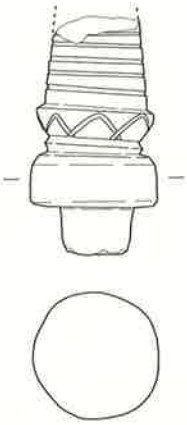
五 7 (DB−44)



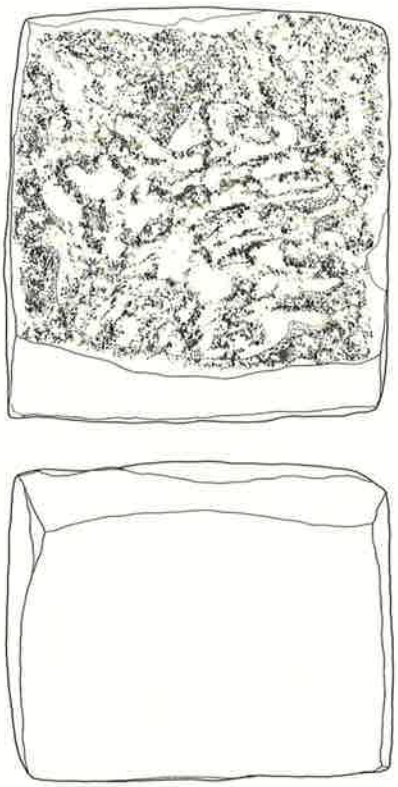
五 4 (DB−28)



五 5 (DB−32)



五14(東区フク土)



五 6 (DB−44)

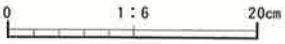
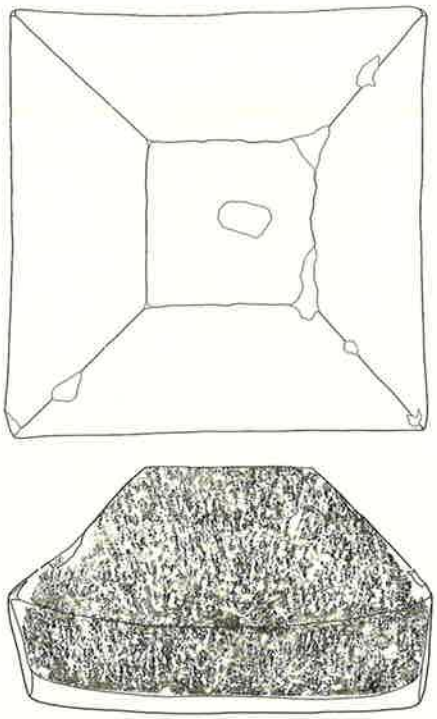
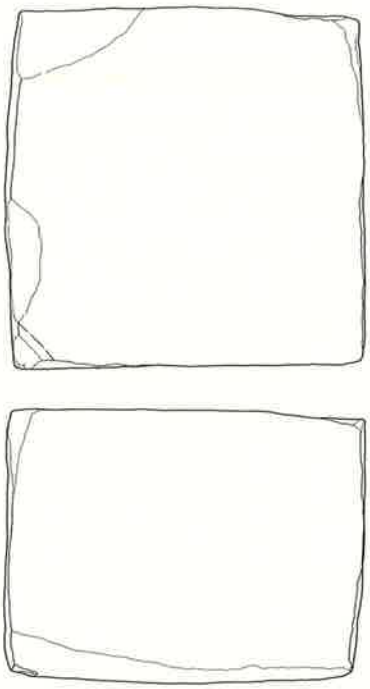


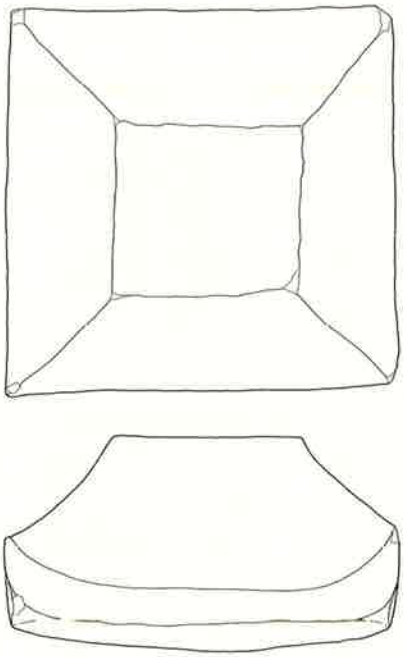
Fig.49　石造物（2）



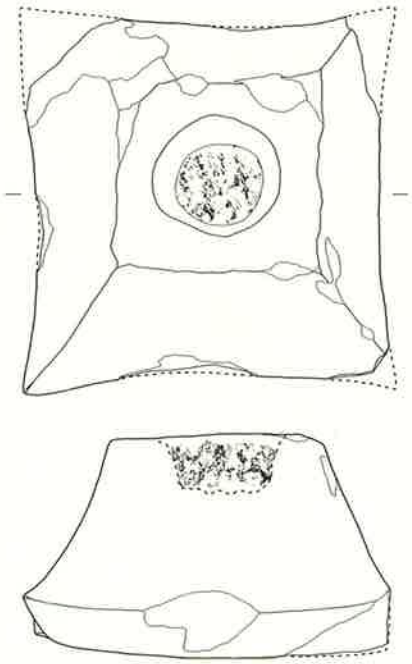
五8 (DB−55)



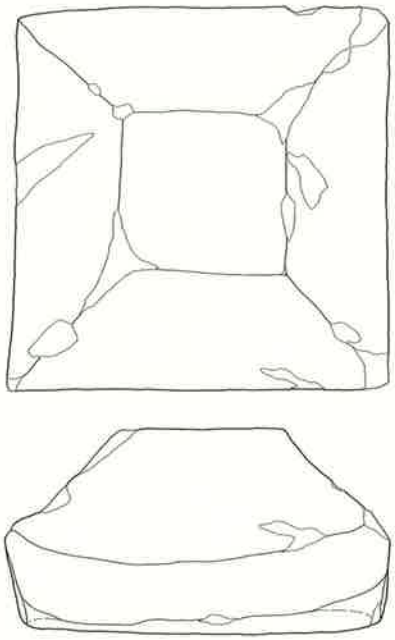
五10 (DB−55)



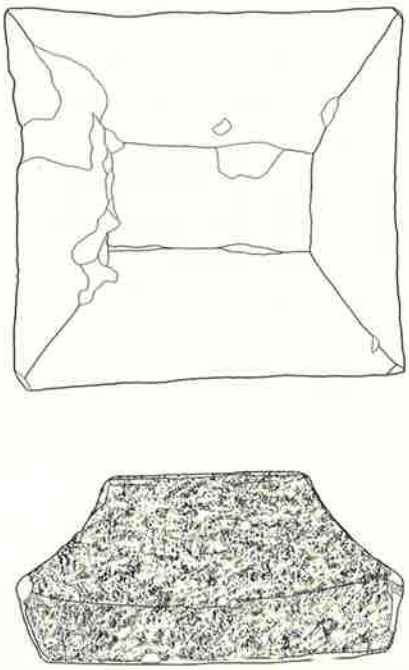
五9 (DB−55)



五11 (東区フク土)



五12 (東区フク土)



五13 (東区フク土)

0　1：6　20cm

Fig.50　石造物（3）

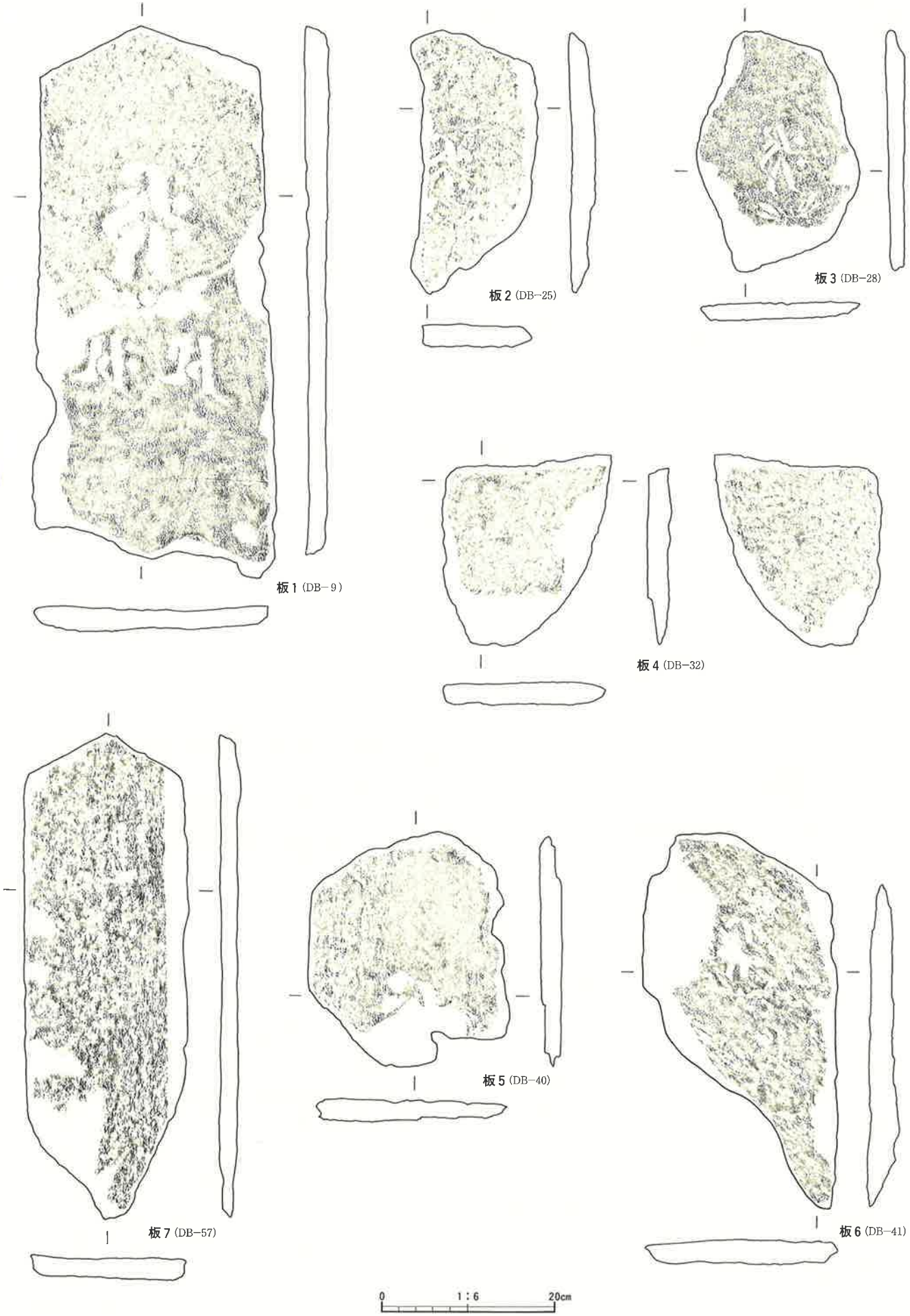


Fig.51　板碑

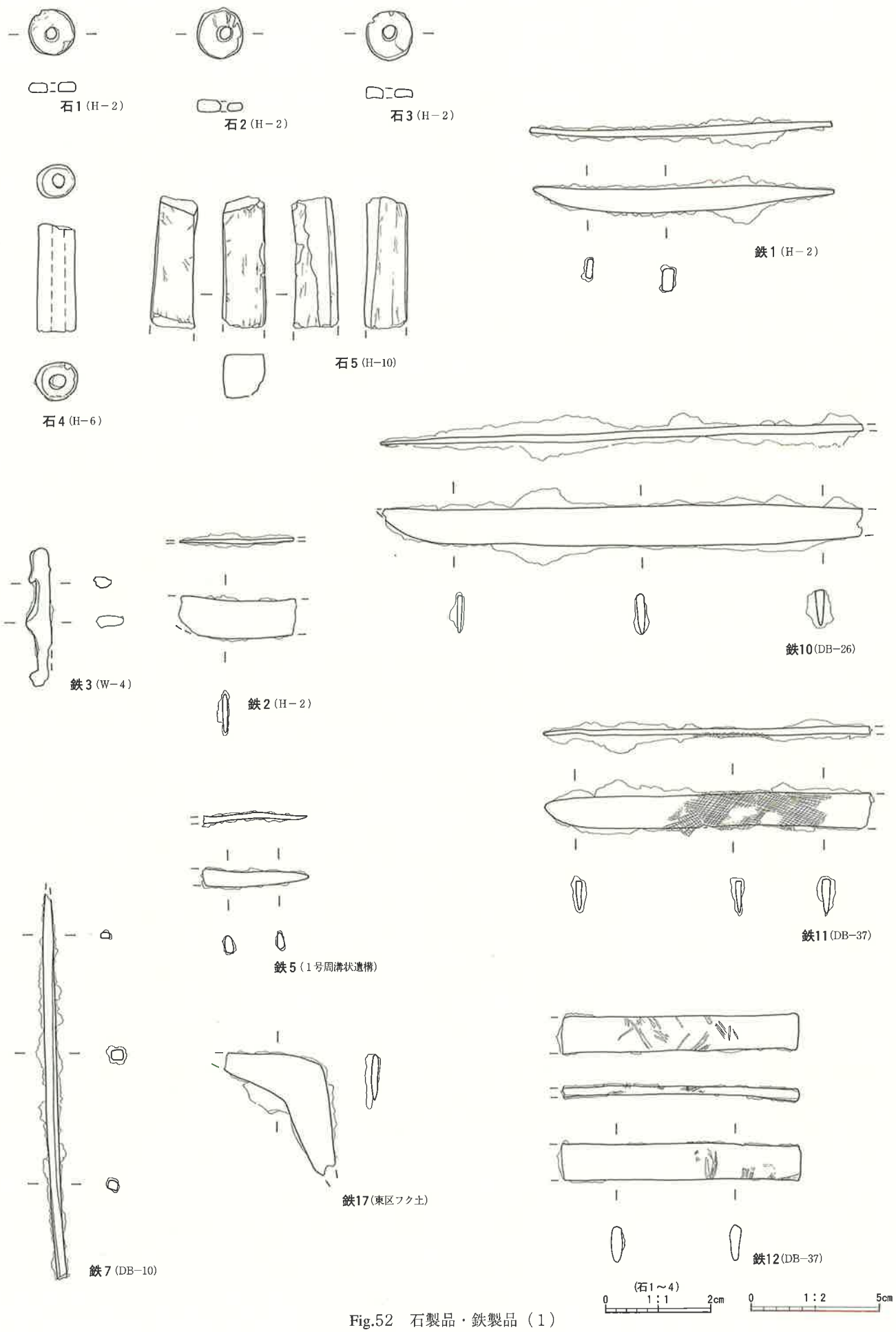


Fig.52　石製品・鉄製品（1）

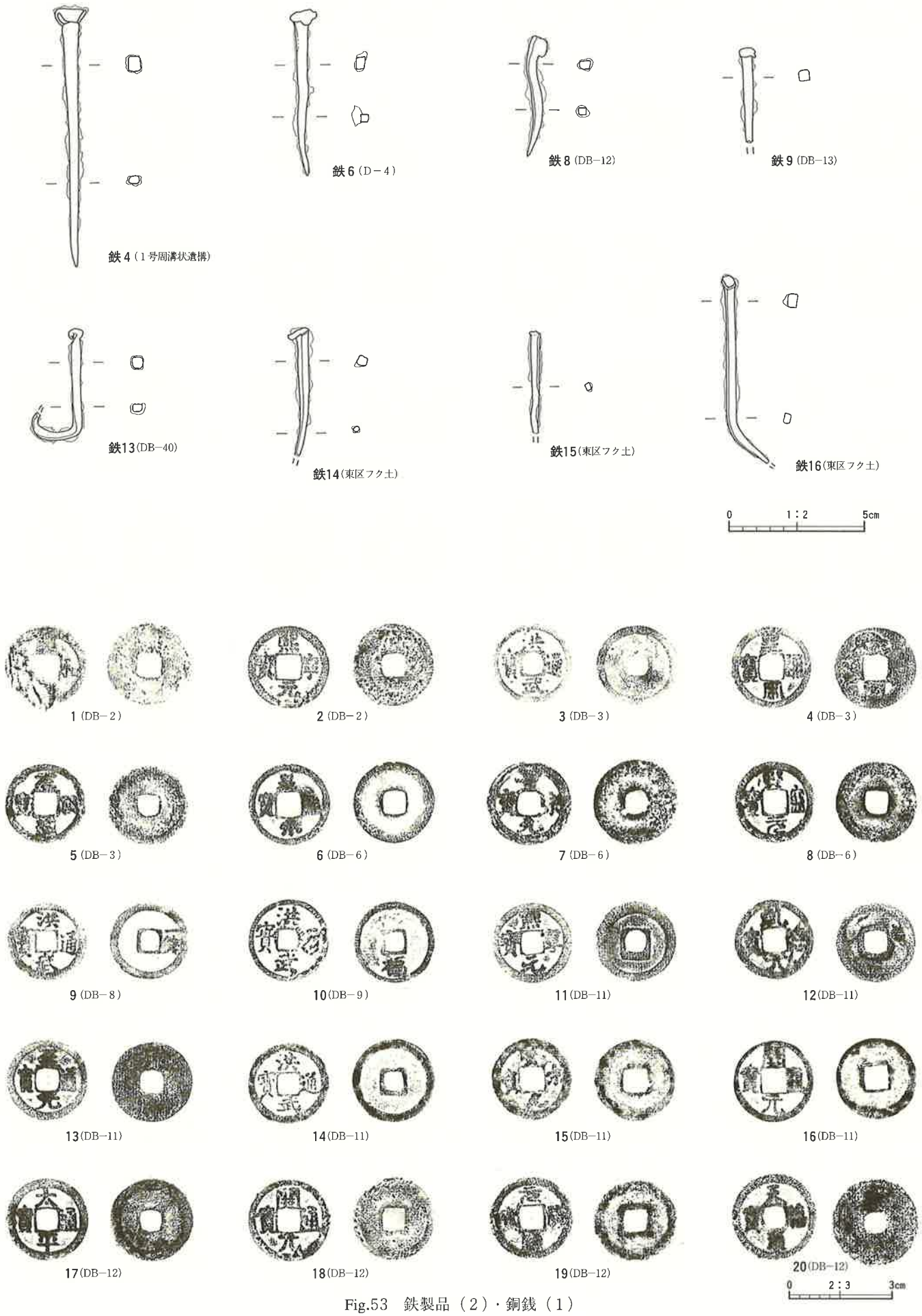


Fig.53　鉄製品（2）・銅銭（1）

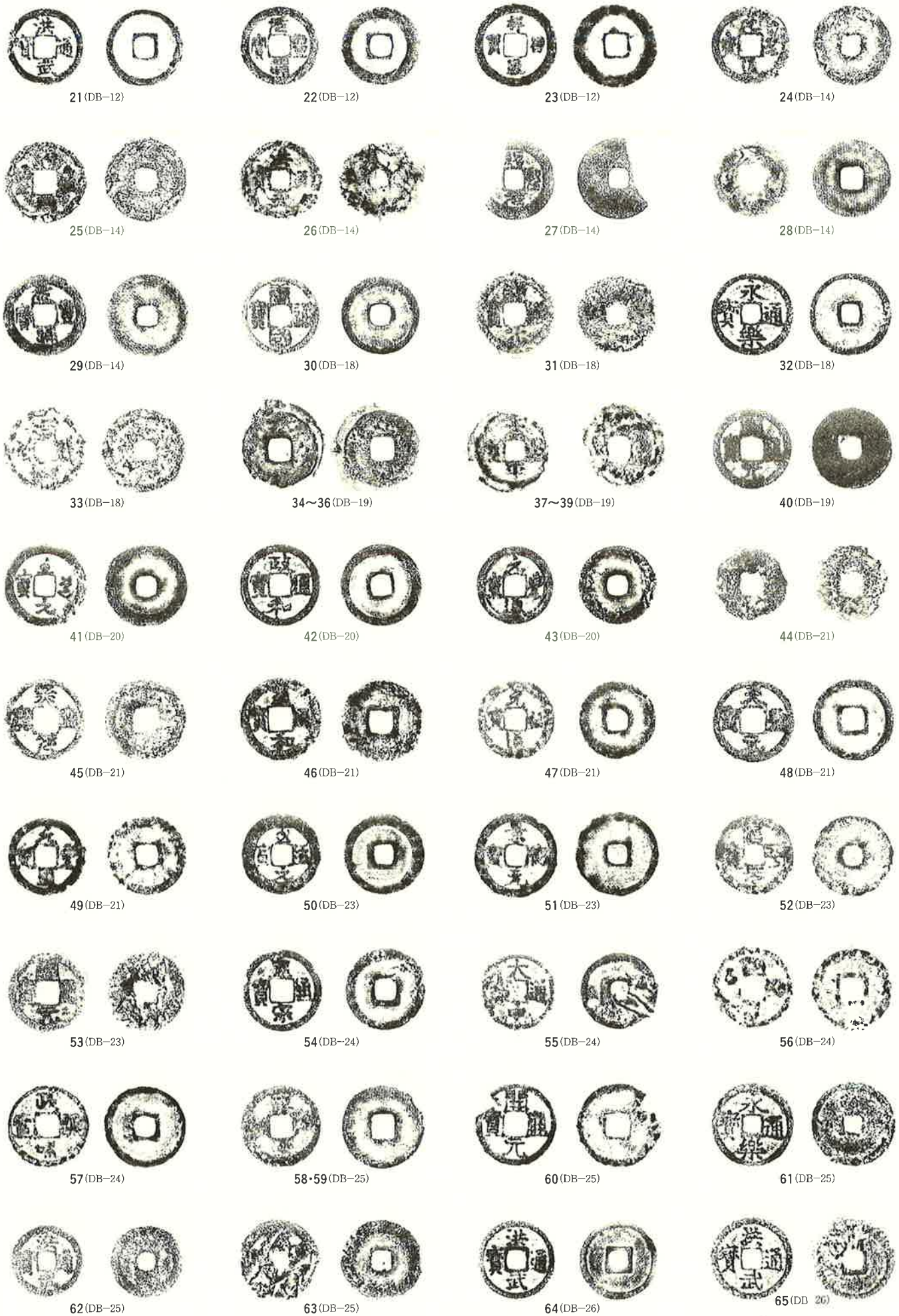

21(DB−12)
22(DB−12)
23(DB−12)
24(DB−14)
25(DB−14)
26(DB−14)
27(DB−14)
28(DB−14)
29(DB−14)
30(DB−18)
31(DB−18)
32(DB−18)
33(DB−18)
34〜36(DB−19)
37〜39(DB−19)
40(DB−19)
41(DB−20)
42(DB−20)
43(DB−20)
44(DB−21)
45(DB−21)
46(DB−21)
47(DB−21)
48(DB−21)
49(DB−21)
50(DB−23)
51(DB−23)
52(DB−23)
53(DB−23)
54(DB−24)
55(DB−24)
56(DB−24)
57(DB−24)
58・59(DB−25)
60(DB−25)
61(DB−25)
62(DB−25)
63(DB−25)
64(DB−26)
65(DB−26)
0 2 3 3cm

Fig.54 銅銭（2）

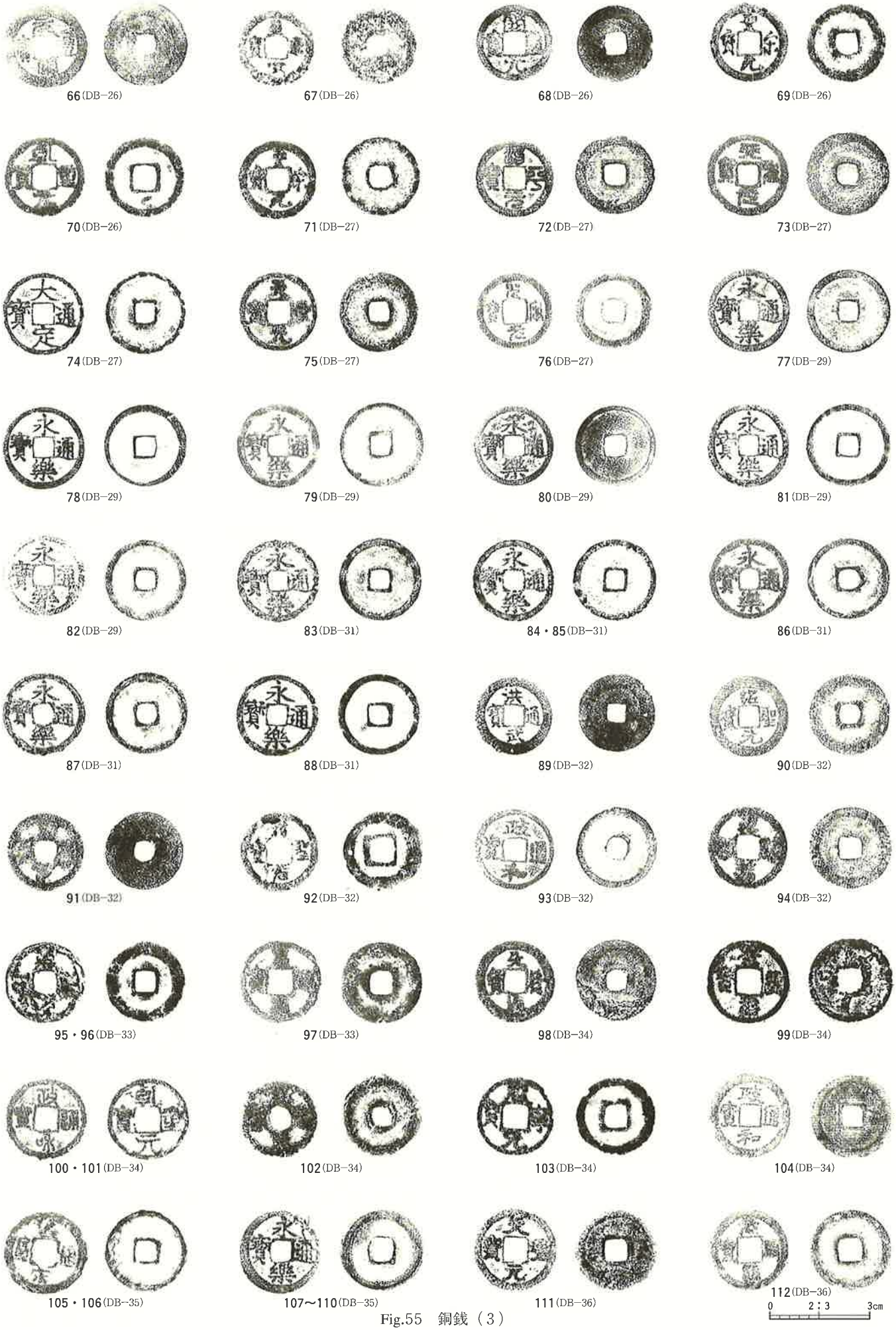

66(DB−26)
67(DB−26)
68(DB−26)
69(DB−26)
70(DB−26)
71(DB−27)
72(DB−27)
73(DB−27)
74(DB−27)
75(DB−27)
76(DB−27)
77(DB−29)
78(DB−29)
79(DB−29)
80(DB−29)
81(DB−29)
82(DB−29)
83(DB−31)
84・85(DB−31)
86(DB−31)
87(DB−31)
88(DB−31)
89(DB−32)
90(DB−32)
91(DB−32)
92(DB−32)
93(DB−32)
94(DB−32)
95・96(DB−33)
97(DB−33)
98(DB−34)
99(DB−34)
100・101(DB−34)
102(DB−34)
103(DB−34)
104(DB−34)
105・106(DB−35)
107〜110(DB−35)
111(DB−36)
112(DB−36)
0 2:3 3cm

Fig.55　銅銭（3）

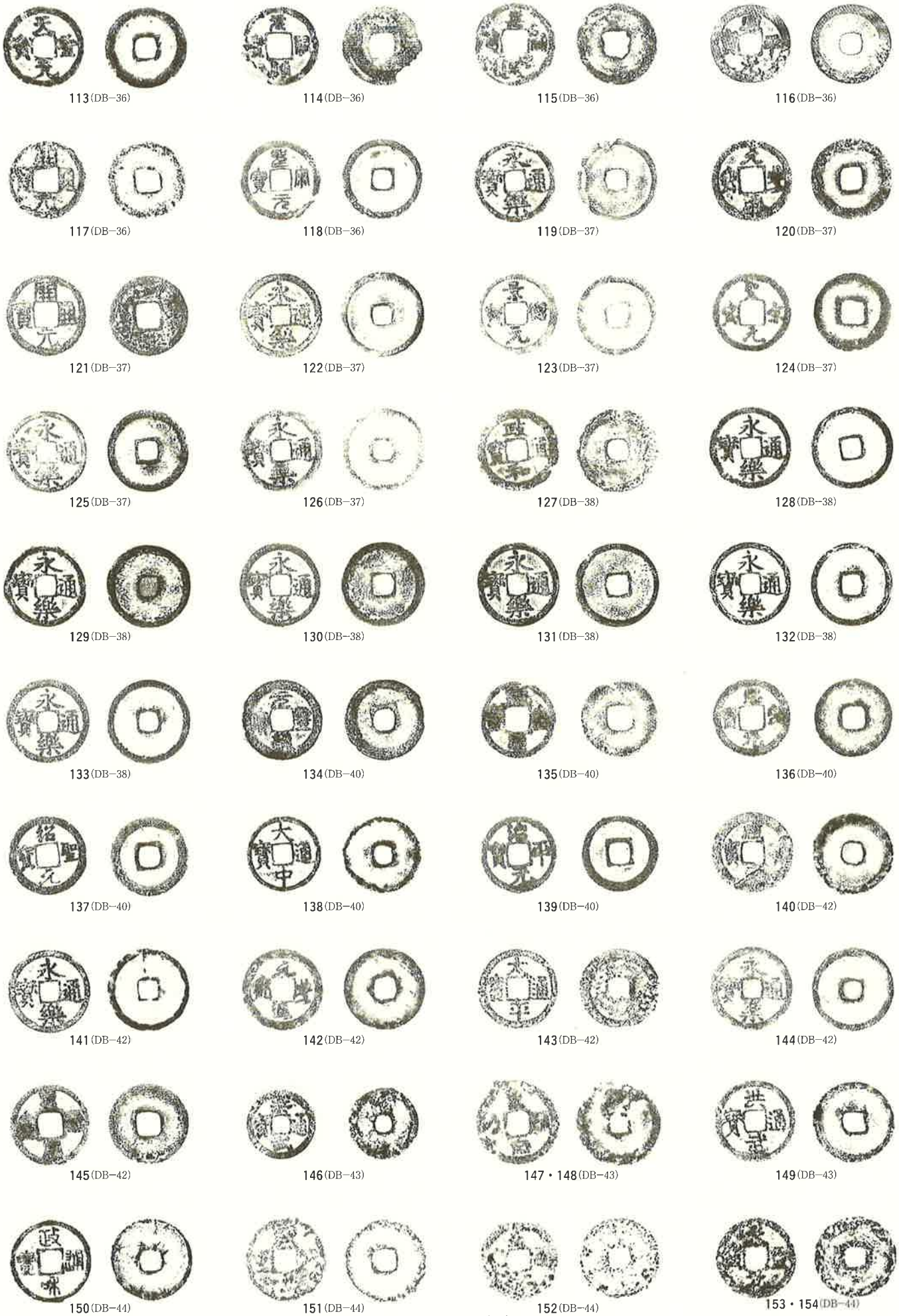

113(DB−36)
114(DB−36)
115(DB−36)
116(DB−36)
117(DB−36)
118(DB−36)
119(DB−37)
120(DB−37)
121(DB−37)
122(DB−37)
123(DB−37)
124(DB−37)
125(DB−37)
126(DB−37)
127(DB−38)
128(DB−38)
129(DB−38)
130(DB−38)
131(DB−38)
132(DB−38)
133(DB−38)
134(DB−40)
135(DB−40)
136(DB−40)
137(DB−40)
138(DB−40)
139(DB−40)
140(DB−42)
141(DB−42)
142(DB−42)
143(DB−42)
144(DB−42)
145(DB−42)
146(DB−43)
147・148(DB−43)
149(DB−43)
150(DB−44)
151(DB−44)
152(DB−44)
153・154(DB−44)
0 2:3 3cm

Fig.56　銅銭（4）

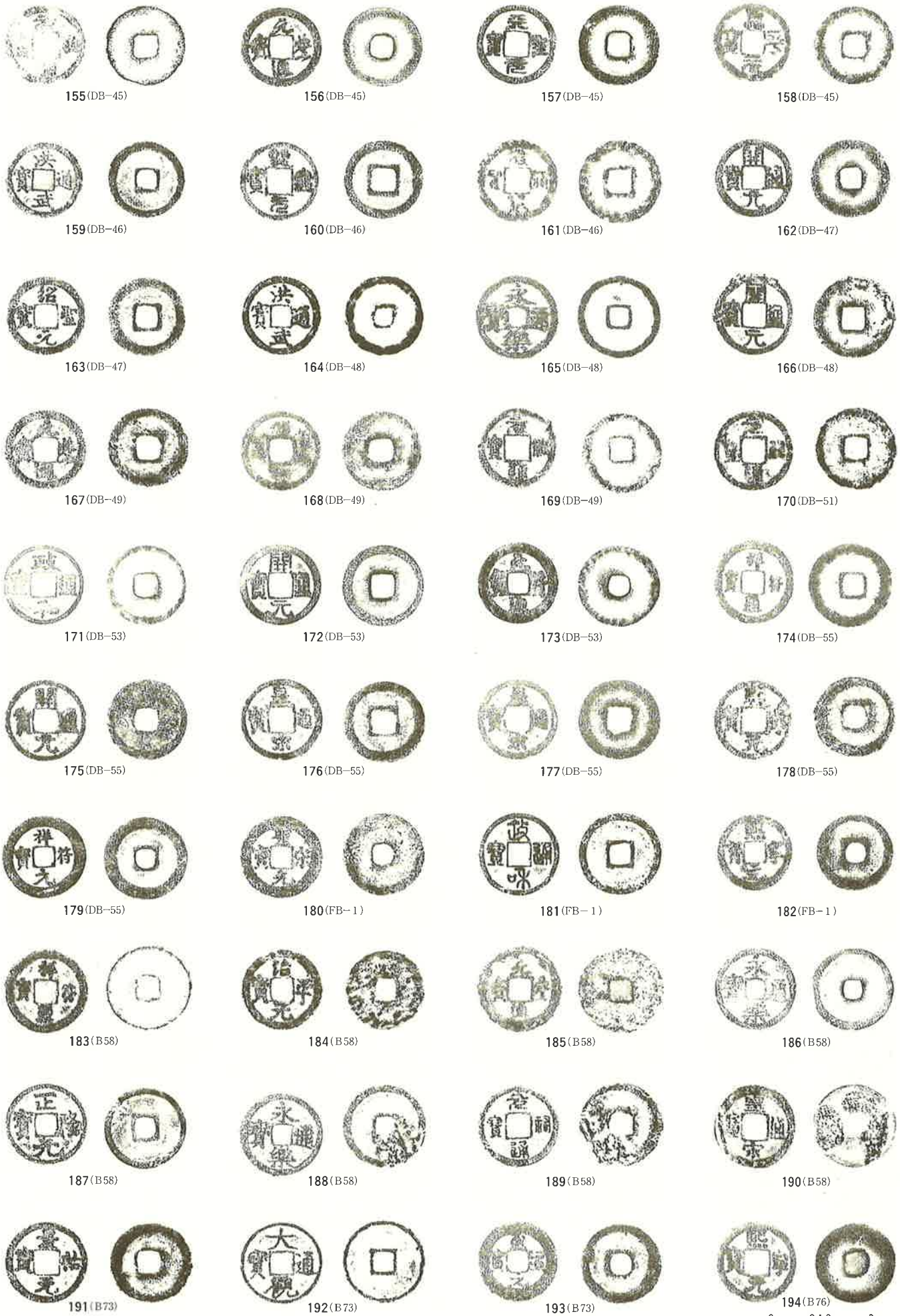

155(DB−45)
156(DB−45)
157(DB−45)
158(DB−45)
159(DB−46)
160(DB−46)
161(DB−46)
162(DB−47)
163(DB−47)
164(DB−48)
165(DB−48)
166(DB−48)
167(DB−49)
168(DB−49)
169(DB−49)
170(DB−51)
171(DB−53)
172(DB−53)
173(DB−53)
174(DB−55)
175(DB−55)
176(DB−55)
177(DB−55)
178(DB−55)
179(DB−55)
180(FB−1)
181(FB−1)
182(FB−1)
183(B58)
184(B58)
185(B58)
186(B58)
187(B58)
188(B58)
189(B58)
190(B58)
191(B73)
192(B73)
193(B73)
194(B76)
0 2:3 3cm

Fig.57　銅銭（5）

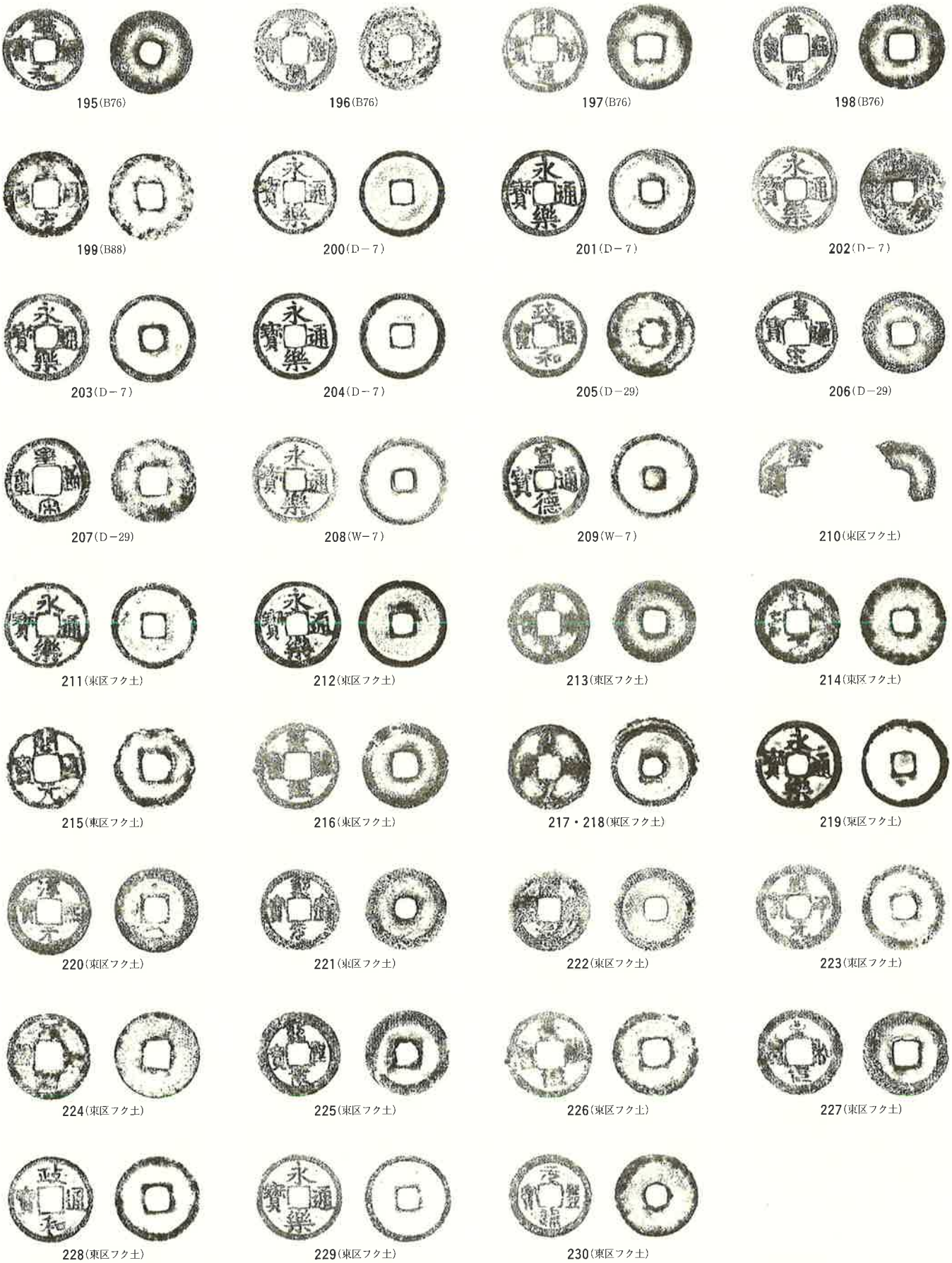


Fig.58　銅銭（6）

0　2:3　3cm

東区全景（北から）

東区東部全景（真上から）

PL.2

H－２号住居跡全景（西から）

H－２号住居跡竈全景（西から）

H－６・７号住居跡全景（東から）

H－６号住居跡竈全景（東から）

H－７号住居跡全景（西から）

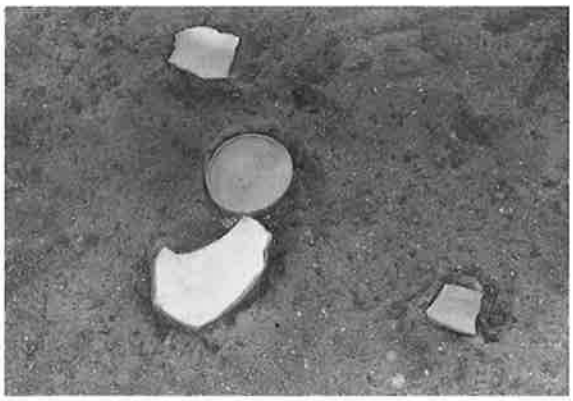
H－７号住居跡竈全景（西から）

H－７号住居跡遺物出土状況（西から）

H－８・９号住居跡重複全景（西から）

Ｈ－９号住居跡全景（西から）

Ｈ－９号住居跡竈全景（西から）



Ｈ－13号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－11～13号住居跡重複全景（西から）

Ｈ－14号住居跡全景（西から）

Ｈ－14号住居跡遺物出土状況（北から）

Ｈ－18号住居跡全景（西から）

Ｈ－18号住居跡竈全景（西から）

PL.4

H－19号住居跡・W－３号溝跡全景（東から）

H－20号住居跡全景（西から）

H－24号住居跡全景（西から）

H－24号住居跡竈全景（西から）

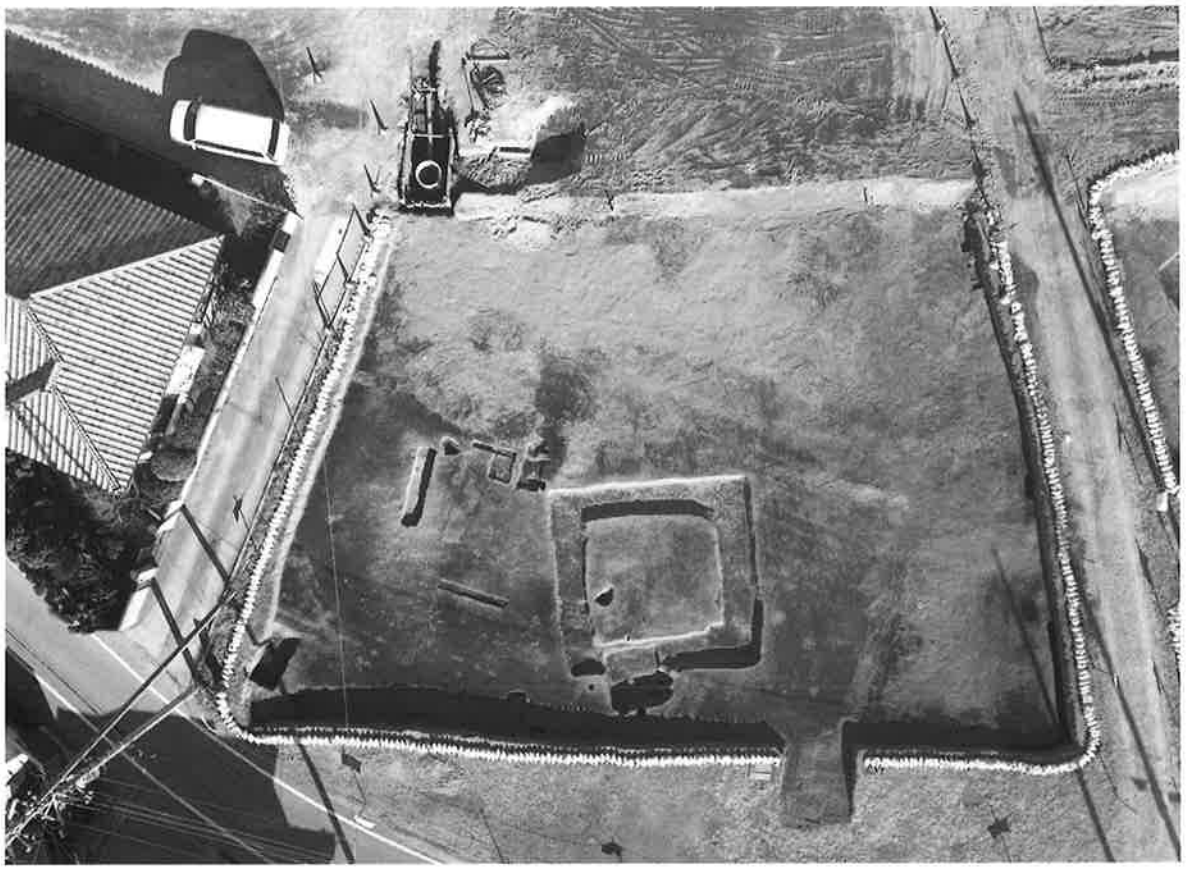
１号周溝状遺構全景（南から）

W－１号溝跡遺物出土状況（東から）

W－４号溝跡東辺全景（南から）

D－４号土坑全景（東から）

D－27号土坑全景（東から）



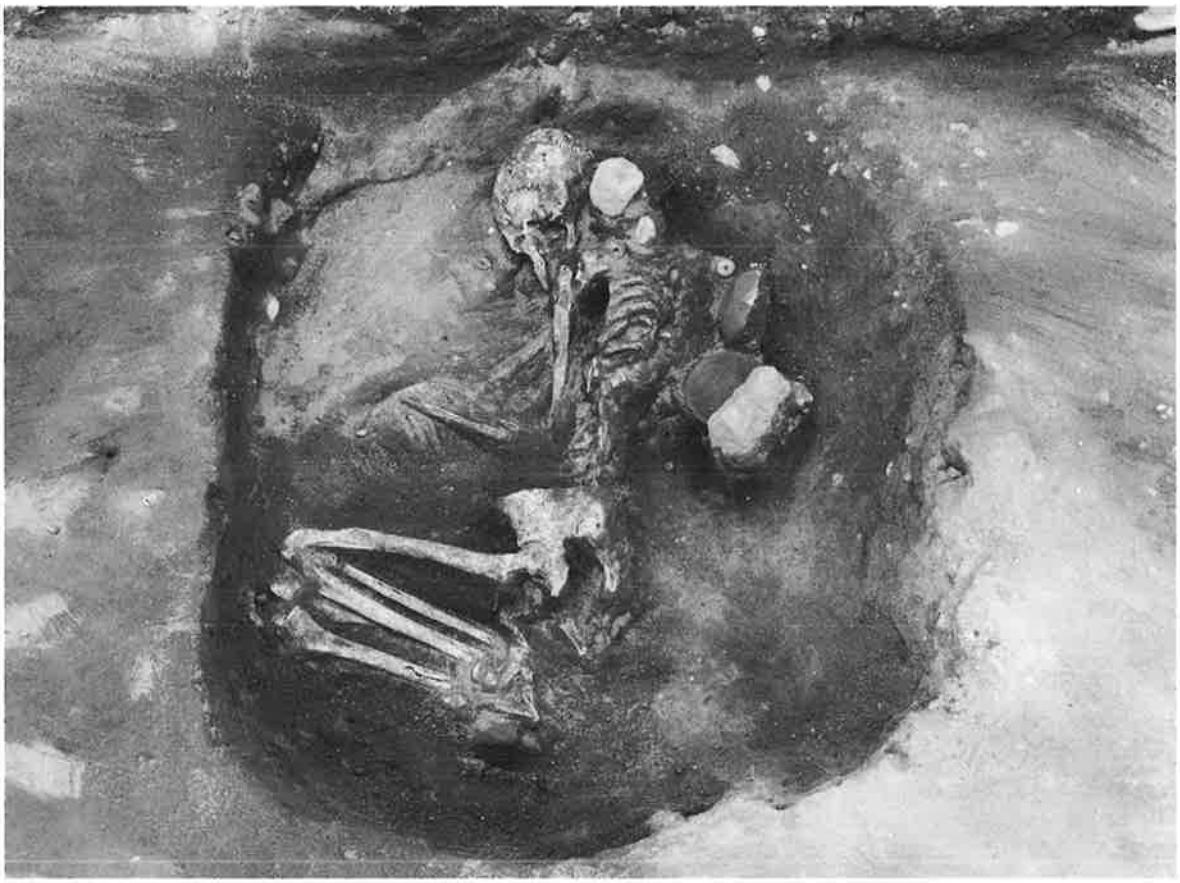
西区全景（南から）

墓域全景（北から）

ＤＢ－14号土壙墓全景（南から）

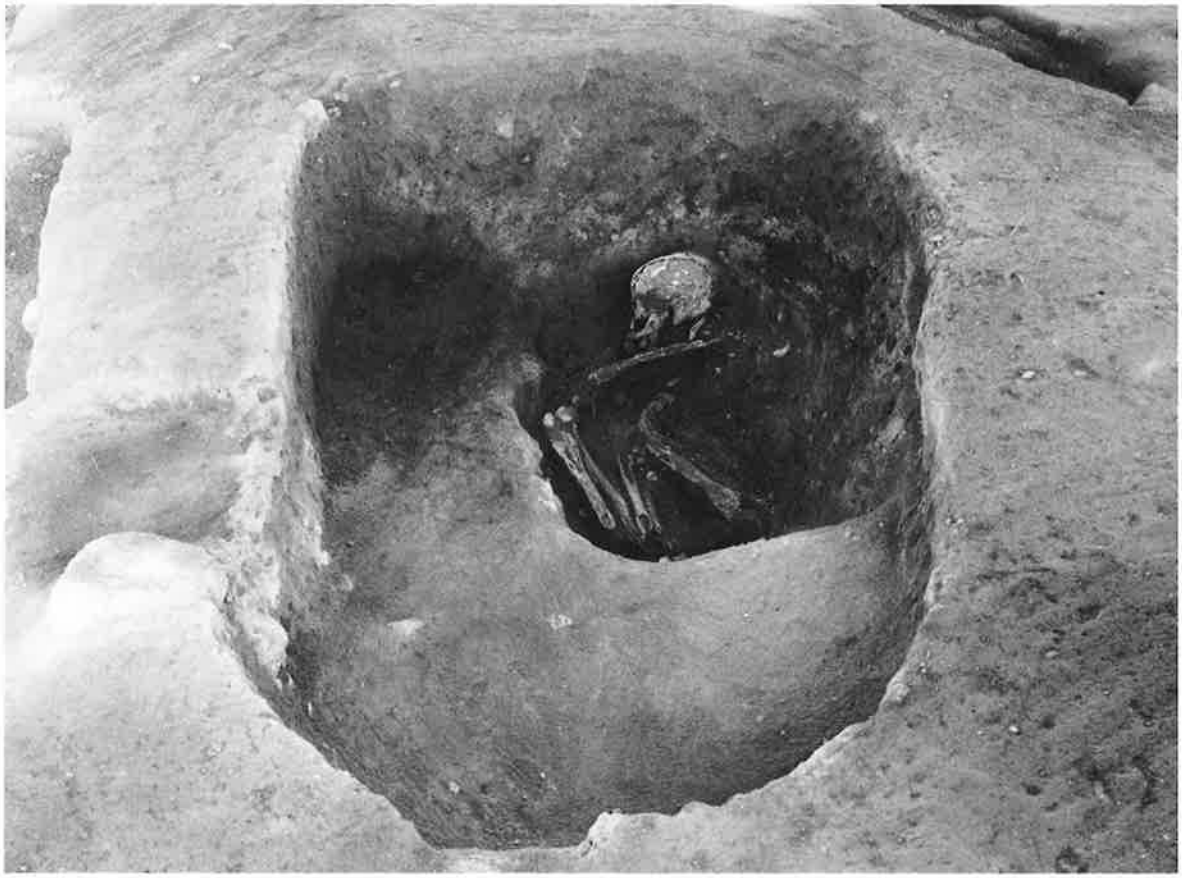
ＤＢ－９号土壙墓遺物出土状況（南から）

ＤＢ－９号土壙墓全景（南から）



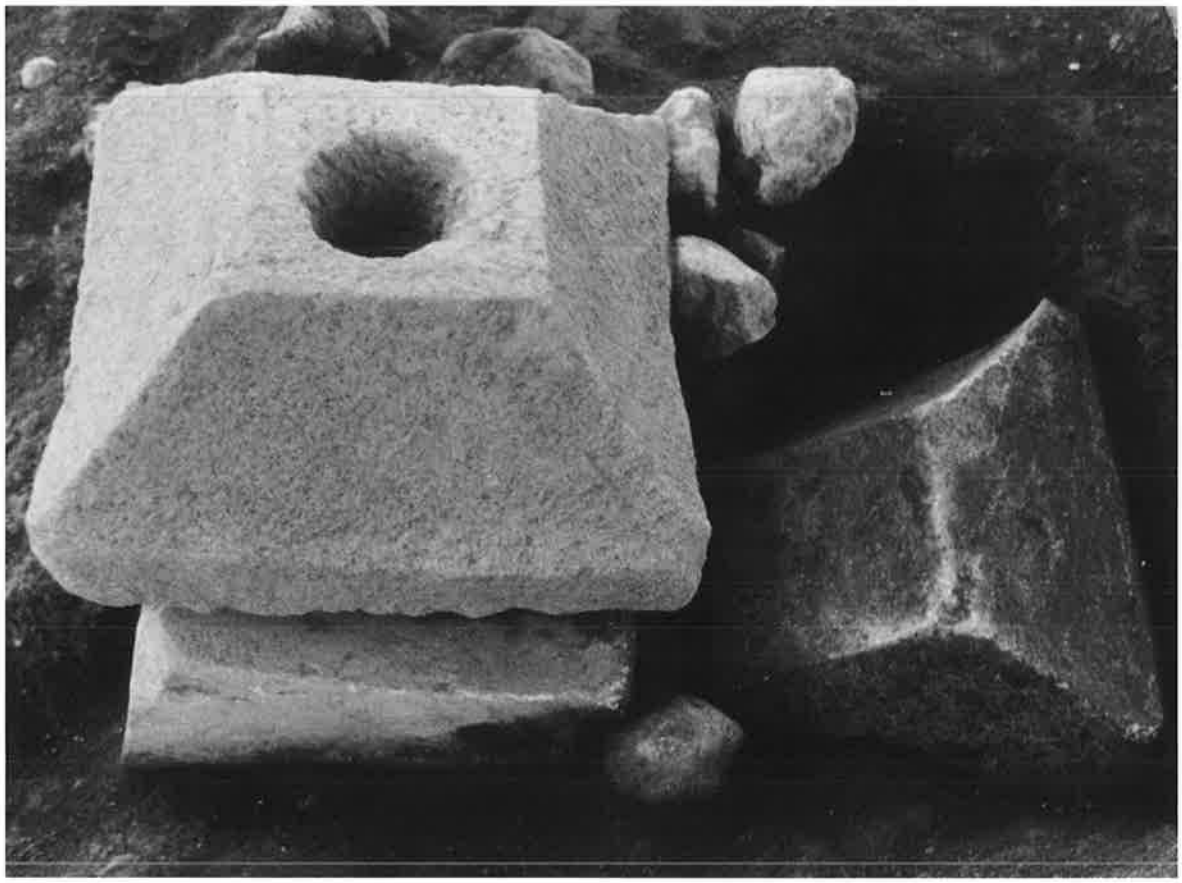
ＤＢ－23号土壙墓全景（南から）

ＤＢ－30号土壙墓全景（南から）



ＤＢ－34号土壙墓全景（南から）

ＤＢ－37号土壙墓全景（南から）



ＤＢ－55号土壙墓五輪塔出土状況（東から）

ＤＢ－55号土壙墓全景（南から）

ＦＢ－１号火葬墓全景（南から）

ＦＢ－２号火葬墓全景（南から）

PL.12

1 (H−2)

2 (H−2)

3 (H−2)

4 (H−2)

5 (H−2)

6 (H−2)

8 (H−2)

9 (H−2)

11 (H−3)

12 (H−4)

13 (H−5)

14 (H−5)

15 (H−6)

16 (H−6)

17 (H−6)

18 (H−6)

19 (H−6)

20 (H−6)

21 (H−6)

22 (H−6)

23 (H－6)

24 (H－6)

25 (H－6)

26 (H－6)

27 (H－6)

29 (H－6)

28 (H－6)

31 (H－7)

32 (H－8)

30 (H－7)

34 (H－8)

33 (H－7)

36 (H－9)

37 (H－10)

38 (H－12)

39 (H－13)

40 (H－13)

41 (H－13)

42 (H－13)

43 (H－13)

44 (H－13)

45 (H－13)

46 (H－14)

47 (H－14)

54 (H－20)

48 (H－14)

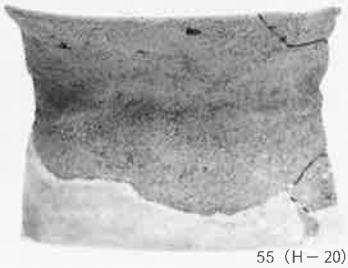
51 (H－16)

49 (H－14)

52 (H－16)

56 (H－14)

53 (H－18)



55 (H－20)

56 (H－20)

60 (W－1)

62 (W－2)

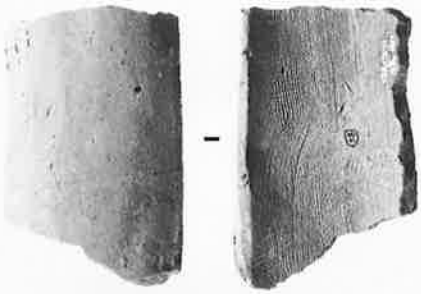
63 (W－2)

64 (W－4)

57 (H－21)

65 (W－4)

66 (W－6)



58 (H－24)

67 (W－8)

68 (D－16)

69 (D－16)

70 (D－16)

59 (H－24)

71 (D－17)

72 (D－30)

73 (D－33)

74 (DB－8)

PL.16

75 (DB－11)

76 (DB－12)

78 (DB－16)

79 (DB－19)

80 (DB－21)

81 (DB－21)

82 (DB－21)

83 (DB－23)

84 (DB－23)

85 (DB－25)

86 (DB－32)

87 (DB－32)

88 (DB－32)

89 (DB－38)

90 (DB－38)

91 (DB－38)

92 (DB－41)

93 (DB－44)

94 (DB－50)

95 (DB－53)

96 (DB－53)

97（DB－54）

98（DB－54）

99（DB－57）

100（DB－57）

101（DB－57）

102（DB－57）

103（DB－57）

104（B 24）

105（B 24′）

106（B 45）

107（B 45）

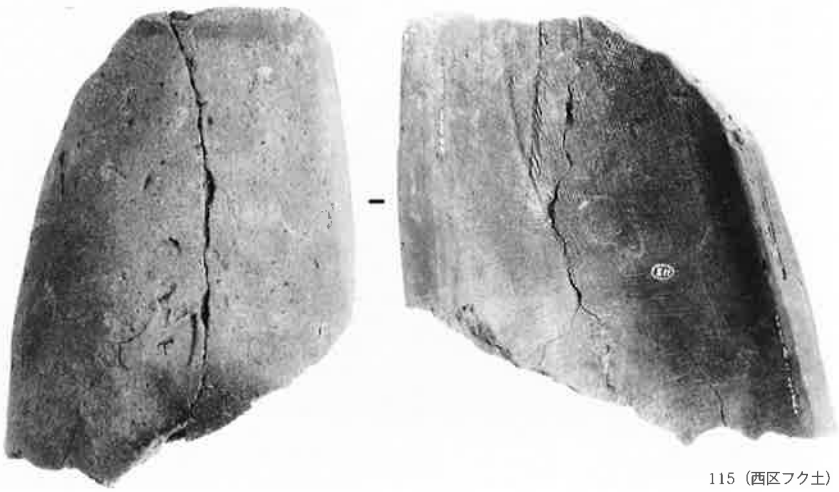
108（B 47）

109（B 47）

110（B 87）

111（東区フク土）

112（東区フク土）



115（西区フク土）

113（東区フク土）

石1（H－2）

石2（H－2）

石3（H－2）

114（西区フク土）

石4（H－6）

石5（H－10）

五1（D－20）

五2（D－31）

五3（DB－28）

五4（DB－28）

五5（DB－32）

五6（DB－44）

五7（DB－44）

五8（DB－55）

五9（DB－55）

五11（DB－55）

五11（東区フク土）

五14（東区フク土）

五12（東区フク土）

五13（東区フク土）

板1（DB－9）

板2（DB－25）

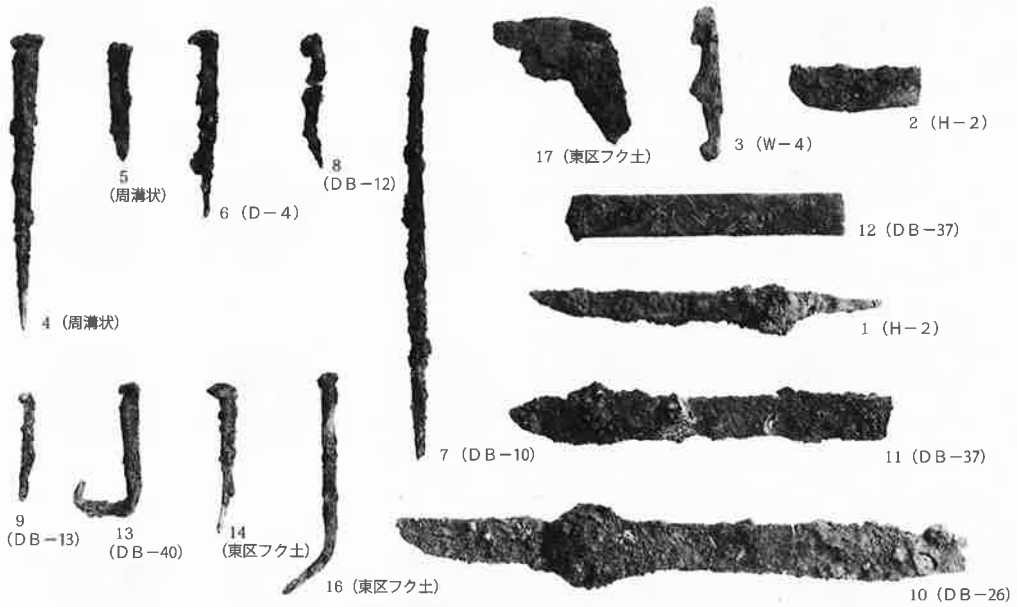
板3（DB－28）

板4（DB－32）

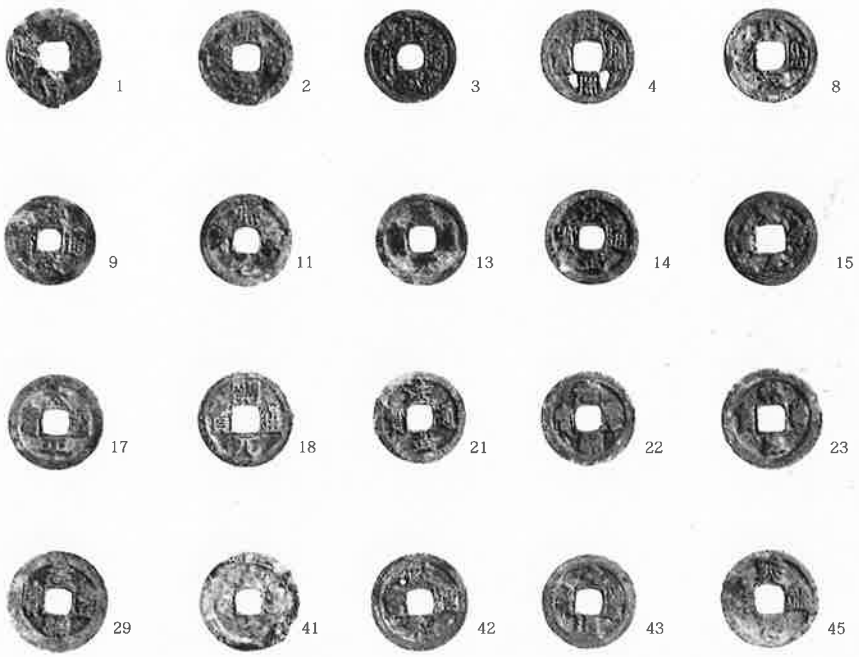
板5（DB－40）

板6（DB－41）

板7（DB－57）

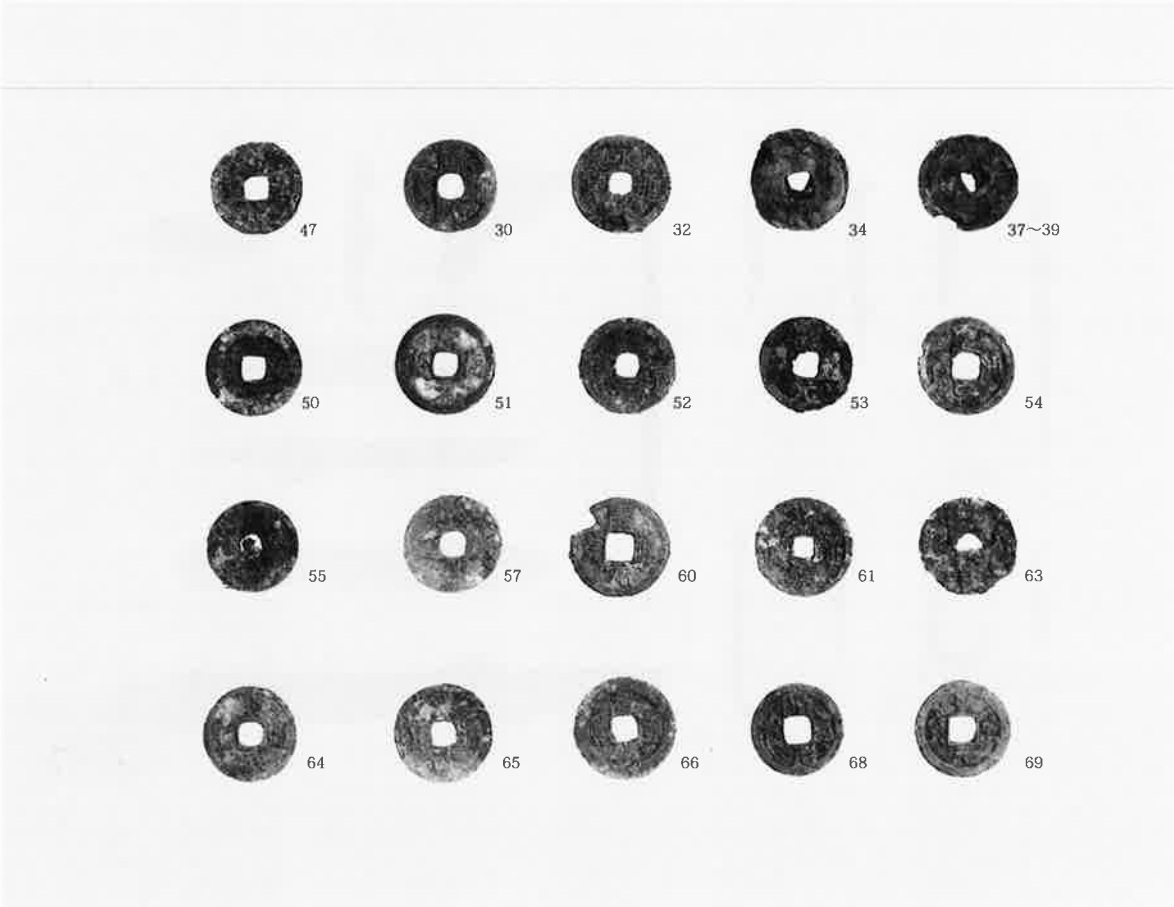

5
(周溝状)
6 (D－4)
8
(DB－12)
17 (東区フク土)
3 (W－4)
2 (H－2)
12 (DB－37)
4 (周溝状)
1 (H－2)
7 (DB－10)
11 (DB－37)
9
(DB－13)
13
(DB－40)
14
(東区フク土)
16 (東区フク土)
10 (DB－26)

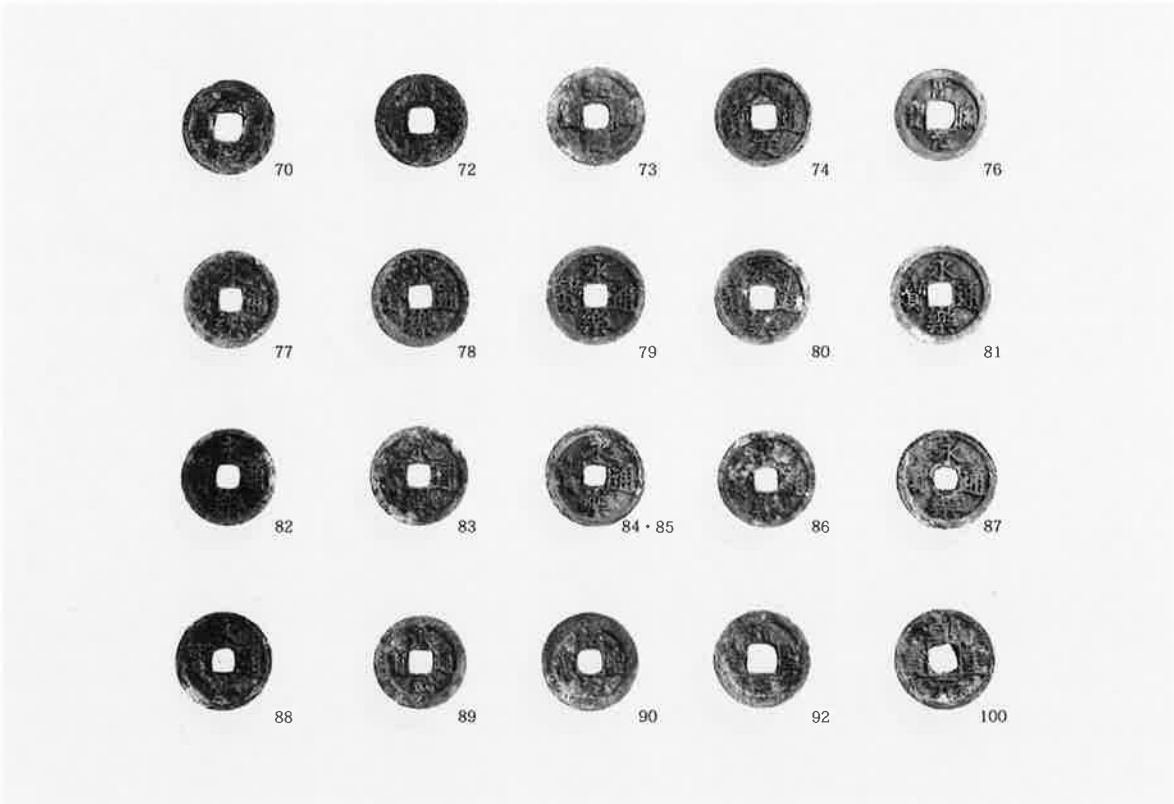
鉄 製 品

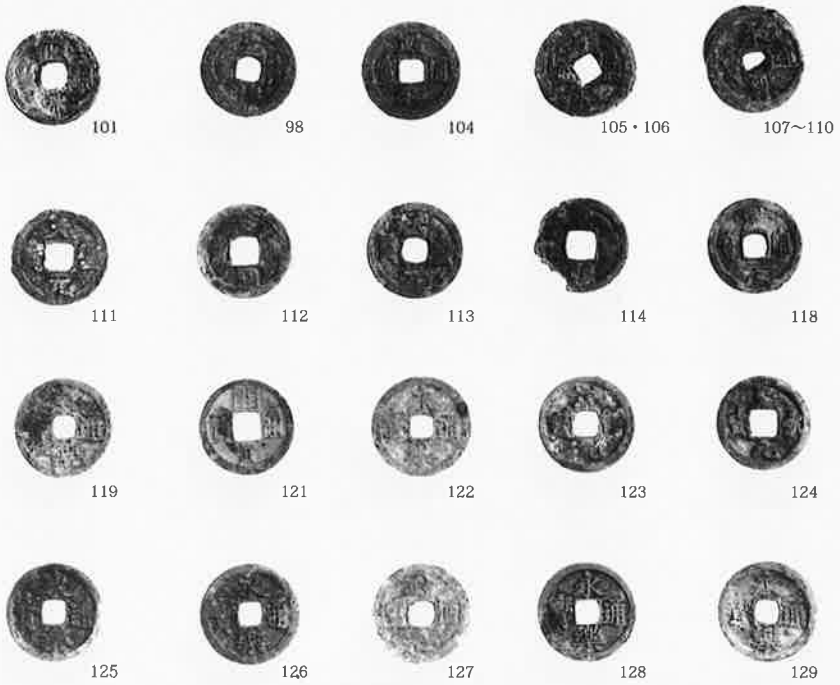

1
2
3
4
8
9
11
13
14
15
17
18
21
22
23
29
41
42
43
45

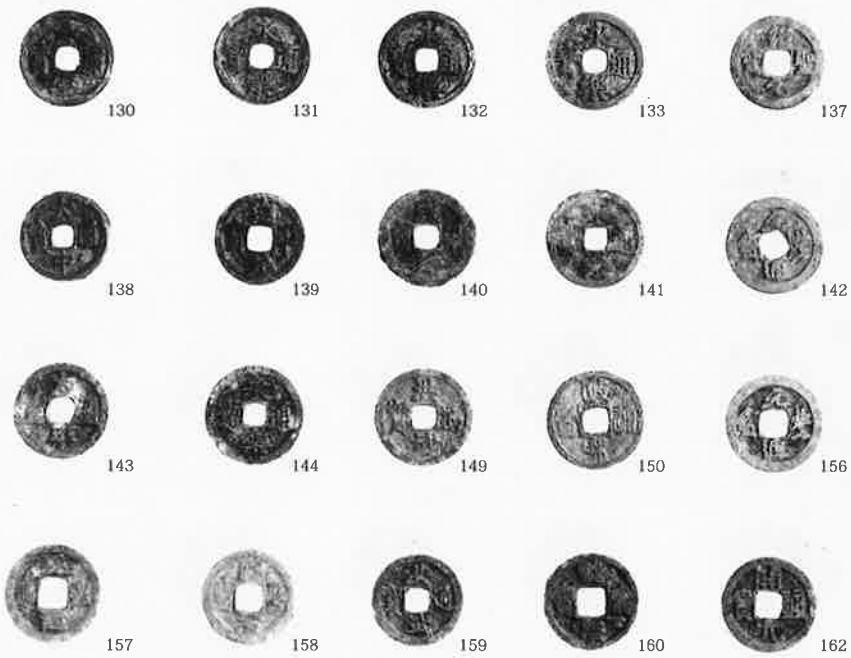
銅 銭

PL.22

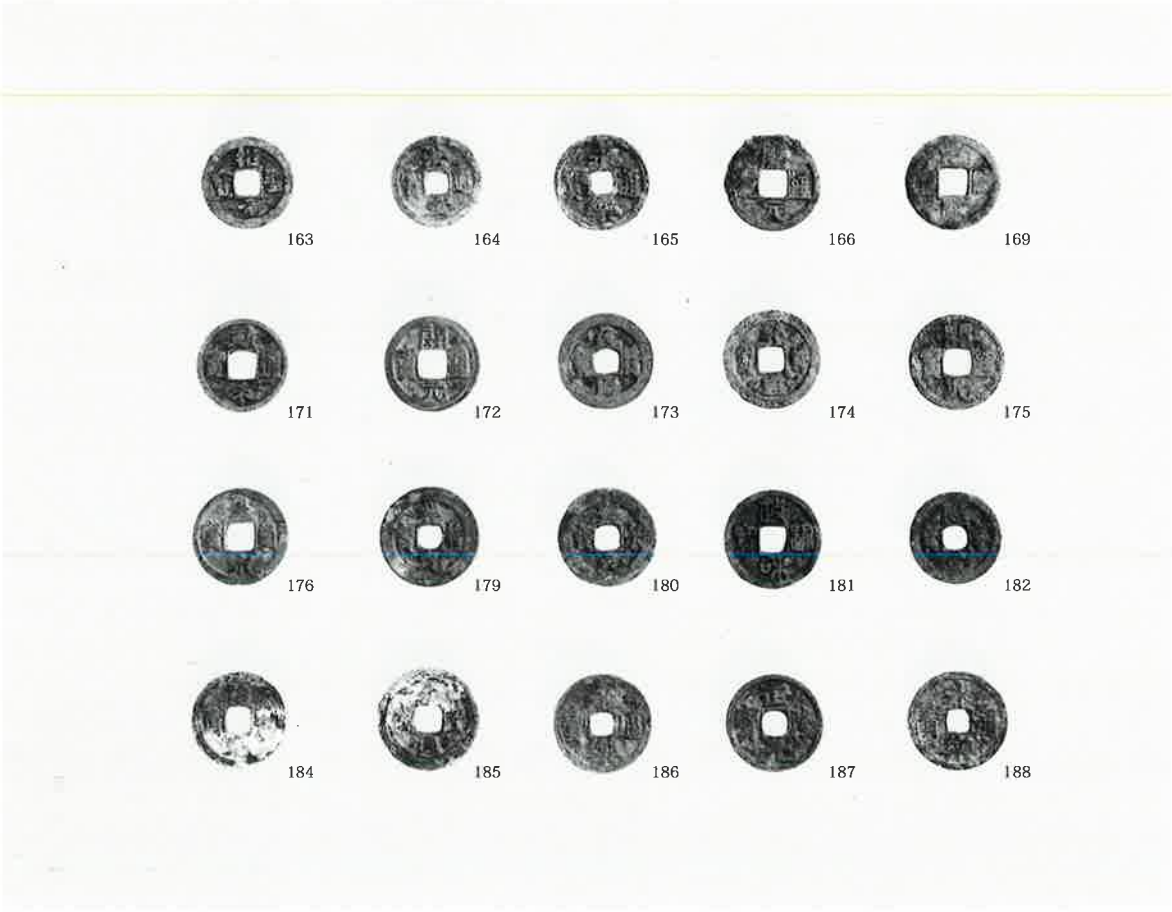

47
30
32
34
37~39
50
51
52
53
54
55
57
60
61
63
64
65
66
68
69

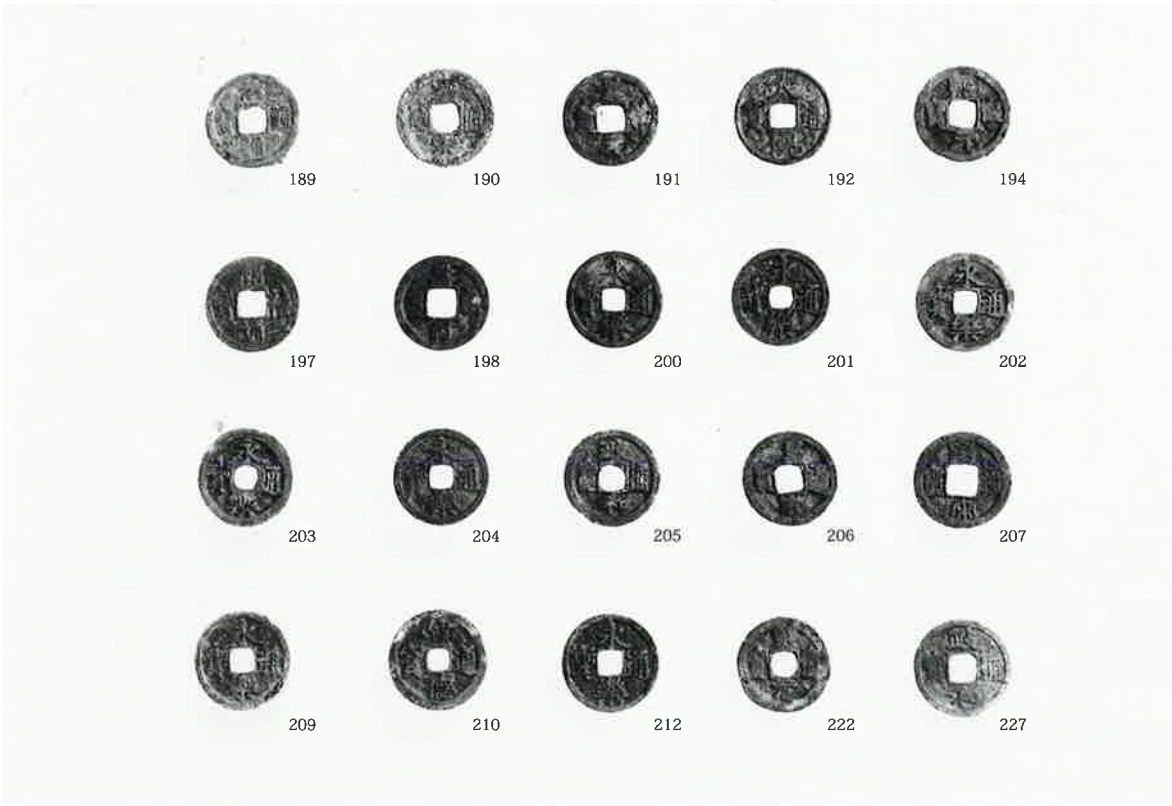

70
72
73
74
76
77
78
79
80
81
82
83
84・85
86
87
88
89
90
92
100


101
98
104
105・106
107～110
111
112
113
114
118
119
121
122
123
124
125
126
127
128
129


130
131
132
133
137
138
139
140
141
142
143
144
149
150
156
157
158
159
160
162

PL.24


163
164
165
166
169
171
172
173
174
175
176
179
180
181
182
184
185
186
187
188


189
190
191
192
194
197
198
200
201
202
203
204
205
206
207
209
210
212
222
227

抄　　録

フ リ ガ ナ	ﾓﾄｿｳｼﾞｬｵｳﾐｲｾｷｸﾞﾝ５
書　　名	元総社蒼海遺跡群(5)
副　書　名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編 著 書 名	髙橋　亨　・　高坂　麻子
編 集 機 関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－2
発 行 年 月 日	西暦2006年３月３日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所　在　地	コ ー ド 市町村	 遺跡番号	位　　置 北　緯	 東　緯	調査機関	調査面積	調 査 原 因
ﾓﾄｿｳｼﾞｬｵｳﾐｲｾｷｸﾞﾝ(5) 元総社蒼海遺跡群(5)	ﾏｴﾊﾞｼｼﾓﾄｿｳｼﾞｬﾏﾁ 1829-1 ﾎｶ 前橋市元総社町 1829-1 ほか	10201	17A130-11	36° 23' 23"	139° 02' 01"	20050925 20051221	約1,739㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群(5)	集落跡 集落跡 墓跡 その他	古墳 奈良・平安 中世	竪穴住居跡１軒 竪穴住居跡22軒、溝跡１条 溝跡４条、周溝状遺構１基、土壙墓58基、火葬墓２基 溝跡４条、土坑40基、ピット２基	土師器、須恵器　他 土師器、須恵器　他 カワラケ、板碑、五輪塔、銅銭　他	な　し

元総社蒼海遺跡群(5)

2006年2月24日　印　刷
2006年3月 3日　発　行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027－231－9531
印 刷 所　上毎印刷工業株式会社